

令和元年度

病 院 年 報

第 17 号



日本赤十字社

高槻赤十字病院

理 念

私たちは人道・博愛の赤十字精神に基づき、高度で安全な医療を提供し、地域の人々が誇りにする病院となるよう努めます。

方 針

1. 患者さんの人権と意思を尊重し、患者さん中心の医療をおこないます。
2. 一人ひとりの患者さんを全職員が支援する、チーム医療をおこないます。
3. 患者さんのホームドクターと緊密に連携し、地域で完結する医療をおこないます。
4. 常に向上心と研究心をもち、最高最善の医療が実現できるように努めます。
5. 健全な病院経営と地域に貢献できる医療従事者の育成に努めます。
6. 災害救護活動をはじめとする赤十字にかせられた使命を果たします。

患者さんの権利の尊重

1. 患者さんは個人として常にその人格を尊重される権利があります。
2. 患者さんは良質な医療を平等に受ける権利があります。
3. 患者さんは自分が受ける治療や検査の効果や危険性、他の治療法の有無等について、分かりやすい説明を受ける権利があります。
4. 患者さんは自分が受ける治療計画を立てる過程に参加し、自分の意見を表明し、自己決定する権利があります。医療機関を選択し、転院・退院する権利があります。
5. 患者さんは自分が受けている医療について知る権利があります。
6. 患者さんは自分の情報を自分の承諾無くして第三者に開示されない権利があります。

看護部の理念

赤十字の理念に基づき、療養生活支援の専門家として、根拠に基づいた安心・安全な看護を提供し、看護の対象者がその人なりの生活ができるよう支援します。

令和元年度病院年報出版にあたり

令和元年度（2019.4～2020.3）版病院年報がまとまりました。

前々回からは紙媒体は中止してCD版とし、さらに高槻赤十字病院のホームページにアップしています（<http://www.takatsuki.jrc.or.jp>）。

さて、病院年報は、その年度を振り返り、自己検証し、将来への発展的展開を図るものです。今年も振り返ってみると様々な事がありました。

海外救援用の赤十字野外病院「病院緊急対応ユニット（病院ERU）」の実証展開が本院のグラウンドで行われ、全国的に注目されました。院内では、14年ぶり電子カルテシステム更新、8病棟リニューアルオープン、入院時支援スタートに伴う患者支援センターリニューアル・診療費支払機が稼動するなど、診療面での充実が図られました。3カ年改善計画の最終年度でありましたが、残念ながら予想されたような、財政の改善はできませんでした。この原因を、しっかりと精査して、次年度の目標設定を行う予定です。

高槻赤十字病院は、日本赤十字社の一員として、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減し、生命と健康を守り、人間の尊重を確保する赤十字の人道の実践を通じ、地域の人々に誇りにしていただける病院となることを基本としています。特徴ある高槻赤十字病院とするために、皆さんもどんどん意見を寄せてください。

この年報は、これらのことを実行していく上での基盤となります。今後ともこの年報の精度を上げて、広く周知していくようにしたいものです。

令和3年度3月末日

院長 古川 福実

目 次

I 病院の沿革

病院の沿革	1
-------------	---

II 病院の現況

1. 病院の特色	5
2. 施設の概要	6
3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認	6
4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況	7
5. 診療体系	8
6. 配置図	12
7. 付近見取図	13
8. 主な施設・機器	14
9. 年 表（沿革）	17
10. 整備医療器械備品	20

III 組織及び職員

1. 高槻赤十字病院組織図	21
2. 幹部職員	22
3. 職員現況表	23
4. 職種別・年齢別・職員構成表	23
5. 会議及び委員会	24

IV 統 計

1. 令和元年度実績表	25
2. 入院患者数	26
3. 入院稼働額	27
4. 入院単価	28
5. 外来患者数	29
6. 外来稼働額	30
7. 外来単価	31
8. 科別患者構成比	57
9. 診療科年齢別構成表	58
10. 救急患者数	59

11. 剖検件数	60
12. 紹介率・逆紹介率	61
13. 食事別給食数	62
14. 栄養指導件数	63
15. 手術件数	64
16. 分娩件数	64
17. 特定保健指導	65
18. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について	65
19. 病院利益（損失）	66
20. 令和元年度 年間購入雑誌一覧	67
21. 医療社会事業年報（令和元年度）	68

V 退院患者疾病統計

1. 月別退院患者数	69
2. 科別・月別退院患者数	70
3. 科別・転帰別退院患者数	71
4. 疾病大分類別・性別退院患者数	72
5. 疾病大分類別・診療科別退院患者数	73
6. 疾病大分類別・転帰別退院患者数	74
7. 科別死亡数および剖検数	75

VI 診療科・部門別活動実績

糖尿病・内分泌・生活習慣病科	76
緩和ケア科	79
血液腫瘍内科	80
循環器科	81
消化器科・消化器内視鏡センター	82
神経内科	85
呼吸器外科	86
呼吸器科	87
小児科	90
外科	91
脳神経外科	94
整形外科	95
形成外科	97
皮膚科	99

泌尿器科	100
産婦人科	101
眼 科	102
耳鼻咽喉科	103
放射線科 及び 核医学科	104
リハビリテーション科	107
麻酔科	111
救急部	113
健診部	117
医療技術部	118
薬剤部	122
検査部	127
病理診断科部	129
看護部	130
医療社会事業部	141
医療安全推進室	169
教育研修推進室	171
事務部	172

Ⅶ 委員会活動

委員会	174
-----------	-----

Ⅷ 誌上・講演発表

誌 上	218
講 演	224

I 病院の沿革

I. 病院の沿革

当院は、昭和 16 年 11 月 2 日、「日本赤十字社大阪支部病院分院阿武野勝景園」として誕生しました。

日本赤十字社大阪支部は、大正から昭和にかけて蔓延し、「亡国病」とまでいわれた結核の予防と治療という国家的見地に立って、昭和 10 年頃から大規模な結核療養所の建設を計画していました。この計画を知った東洋紡績株式会社からの寄付金を基金とし、各方面からの援助も得て、昭和 15 年 6 月より大規模な建設工事が始まりました。

生駒連峰を望み、北摂平野を見下ろす、林間景勝の地（当時の三島郡阿武野村、土室・奈佐原・塚原の三大字にわたる地域）にちなみ「阿武野勝景園」と命名され、敷地は約 20 万坪、近世式木造平屋建、一部 2 階建 71 棟、134 室、250 床を有し、非常時には 400 床の収容が可能な結核療養所が完成しました。

しかしながら、竣工式の一ヵ月後の 12 月 8 日に太平洋戦争が始まり、当院も時代の大きな渦に飲み込まれて行くこととなりました。

昭和 17 年 5 月 20 日からは「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として、軍患者を収容することとなり、昭和 20 年 6 月 6 日以降は「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍所属となり 475 名の傷病兵を受け入れ救護にあたりました。

終戦後の昭和 20 年 11 月 30 日、軍病院は解除され、12 月 1 日からは「大阪赤十字病院阿武野勝景園」として軍患者以外の一般診療を開始し、昭和 22 年 9 月 1 日には、分院から昇格し「大阪阿武野赤十字病院」と改称し独立しました。

戦後の厳しい状況下にあっても、患者の食糧や燃料の欠乏を補うため、農作業や薪炭作りの勤労奉仕にあたり、また府下の有力大病院が結束して結成した結核病院協会に参画する一方、近接地域に結核相談部を開設して巡回診療を実施するなど、事業進展に最大限の努力を行った時代でもありました。

戦後 20 年を経て高度経済成長の時代の中、千里丘陵での万国博覧会の開催と相まって高槻市、茨木市などは京阪神のベッドタウンとして大きな発展を見せはじめました。病院の周辺においても宅地造成が進み、隣接地域に約 3000 戸の公団住宅が建つなど目ざましいものがありました。住民の地域医療に対する渴望に応えることが求められるようになり、時を同じくして結核患者の急速な減少が見られるようになったことから、一般各科の診療を開始し、総合病院への転換を図ることになりました。

昭和 45 年 1 月 1 日、病院名を現在の「高槻赤十字病院」に改称し、同年 2 月より第一次病院整備事業として外来診療棟を中心とした、一般科患者の入院設備も有する鉄筋コンクリート造り、地下 1 階地上 3 階の新館において診療を開始しました。とはいえ、当院の設立のいきさつもあり、この時点では、一般病床 99 床に対し、結核病床は 559 床でした。

新薬の開発など、結核の予防と治療は飛躍的に進歩しました。結核患者の減少傾向は一層加速し、懸命な経営改善への取り組みにも関わらず財政は悪化の一途をたどることとなり、ますます一般病床への移行が重要な課題となってきました。

昭和 53 年 10 月 31 日、鉄筋コンクリート 6 階建て、延床面積 22,991㎡の新病棟の完成により、二次にわたった病院整備事業は一つの区切りを迎えることができました。この新病棟の完成により同年 11 月 21 日より名実ともに総合病院としての診療業務が開始されました。この時、一般病床 322 床、結核病床 197 床、合計 519 床と一般病床が結核病床を上回ることとなりました。その後も結核患者の

減少と疾病構造の多様化に対応するため、結核病床の削減と一般病床の開設を順次行い、昭和 61 年 2 月には、一般病床 454 床、結核病床 65 床に、そして平成 9 年 3 月末には、この 65 床も廃止し、厚生省（当時）の結核患者収容モデル事業による陰圧室の病床（6 床）を設置することにより、一般病床 446 床、結核病床 0 床の病院となりました。

地域医療への取り組みでは、平成 4 年 4 月の医療法改定を受けて、平成 8 年 7 月には「高槻赤十字訪問看護ステーション」を開設、平成 10 年 10 月には「開放型病院」認定、平成 11 年 8 月には介護保険法の制定により「高槻赤十字病院居宅介護支援事業所」を設置するなど、訪問看護の充実、在宅介護支援、地域診療所との連携を図りつつ、地域住民への医療サービスの提供に努めてきました。

こうした中、がんの増加とそれを受けての終末期医療の充実を求める声の高まりを受けて、平成 14 年 5 月に緩和ケア病棟『Lakeside Home』（20 床）を尾広池の辺に開設しました。豊かな自然環境を生かした癒しの空間が特徴であり、「第 1 回癒しと安らぎの環境賞」の最優秀賞（ホスピス部門）を受賞しました。

また、当院の病院機能等への評価・格付けに関するところでは、平成 11 年 4 月には「臨床研修病院」の指定を受け、研修医の育成に貢献するとともに、平成 14 年 12 月には「地域がん診療拠点病院」に指定され、地域のがん診療の中核を担うこととなり、更に平成 16 年 2 月には第三者による医療機関の評価である「病院機能評価（Ver.3.1 一般病院 B）」の認定を受けました。

また、医療の I T 化が叫ばれる中、平成 17 年 11 月に電子カルテシステムを稼働することができました。

医療機器の高度化・医療の I T 化に伴い、安定した電力供給は必要不可欠なものとなり、環境保全・省エネルギー・省コストとともに、商用電力との併用による電力の二重化により、万一の際にも一定の電力が確保できるように、自家発電装置以外の発電設備としてガスコージェネレーションシステムを平成 18 年 6 月から稼働させました。

更に平成 17 年度にはこれらと並行し、老朽化・狭隘化という問題を抱えていた手術室を新たに外来正面玄関前に新築移転することになり、2 階部分にバイオクリーンルーム 2 室を含む計 7 室の手術室、1 階部分には生理機能検査室と外科の外来診察室、更には緩和ケア病棟や高槻市街が眼下に広がる場所に『外来化学療法室』を持つ新手術棟・外来棟が平成 18 年 3 月に竣工しました。

続いて平成 18 年 10 月には、旧手術室を内視鏡室・血液浄化療法室などに改修するとともに、眼科・整形外科を中心に外来部門も整備改修し、診療機能の整備とアメニティの向上にも努めました。併せて病院建物全体の耐震補強工事を行い、万一の際にも赤十字病院としての医療機能を保持できるようにしました。

この病棟改修、手術棟・内視鏡室の新設・改修、外来部門の整備にあわせ、診療機能・管理体制の充実にも努めました。平成 16 年 4 月には、それまで皮膚科の中に含まれていた形成外科部門を独立した診療科として標榜するとともに、呼吸器科についても呼吸器科（呼吸器アレルギー内科）と呼吸器外科に分科し、それぞれの専門性を発揮できる体制としました。続いて平成 18 年 7 月には、「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」「緩和ケア科部」「血液・腫瘍内科部」「消化器外科部」「乳腺外科部」「がん統合治療科部」を院内標榜し、患者により分かりやすい診療体制をめざしました。同時に、院長直属の機関として「医療安全推進室」を設置、専任リスクマネージャーを配置し、複雑化する医療への安全

管理と患者への安心の提供のために専門に取り組む体制を強化しました。平成 19 年 2 月には、患者・家族のがんに関する不安や悩みの相談に応え、各種の要望に迅速かつ適切に対応するために、『がん相談支援センター』を設置しました。

この目まぐるしい病院運営の中にありながら、平成 18 年 11 月には、全国の赤十字病院が集う『第 42 回日本赤十字社医学会総会』を「地域の人々が感動し、誇りにする病院」をメインテーマに、当院の主催で国立京都国際会館にて開催し、全国から様々な職種が集い、1,000 名余りの参加を得て大成功を収めることができました。

近年急性期病院としての必須の機能であり、長年の懸案であった ICU について、施設基準としての特定集中治療室管理料は届出しないものの、その機能を十分に持った 6 床を平成 19 年 10 月に 3 病棟の一画に開設することができました。

また、看護師確保対策として“看護職員が働きやすい職場を作り上げる”を主軸とした、院内保育所（高槻市赤十字保育園『すくすく』）と病児保育室を院内に開設するなどの対策を施し、看護師の採用を積極的に行うことで平成 20 年 2 月には念願の 7 対 1 入院基本料を算定できるようになりました。

更に同年 7 月には D P C 対象病院として承認されました。厚生労働省では平成 15 年 4 月より大学病院などを中心とした「特定機能病院」で診断群分類別包括支払（D P C）と呼ばれる診療報酬の包括評価制度を導入し、以後徐々にその対象を広げ、当院でも導入の必要性を認めたことから、平成 17 年 1 月、事務部内に「診療情報管理課」を設置し、平成 18 年より“D P C 準備病院”として調査データの提出を厚生労働省に対して行っていました。

平成 20 年度より導入を進めてきた「放射線治療装置リニアック」も平成 22 年度 4 月には文部科学省の認可が下り、同年 10 月には厚生労働省“高エネルギー放射線治療”の稼働が許可され放射線治療を開始。翌年 2 月には正式に施設基準として認可され、大阪府がん診療拠点病院として癌治療に対する近代医療を提供することが可能となりました。

平成 23 年 11 月 25 日、医療機能の役割分担と連携、自院の役割の明確化と地域医療への貢献を主旨とし、予ねてより計画していた「地域医療支援病院」を取得。救急、紹介、特殊な技術を要する高機能外来など、急性期を中心とした医療提供体制を構築することができました。

平成 24 年 2 月には、より高度な内視鏡検査・治療に対応するため、消化器内視鏡センターを開設。また平成 24 年 8 月には緩和ケア診療科を開設し、緩和サポートチームが入院・外来を問わず患者のさまざまな苦痛の緩和、ご家族の抱える負担や気がかりへの関わり、治療方針や治療の場の選択にかかる意思決定などの支援を行い、ホスピスを提供する緩和ケア病棟と合わせ、緩和ケアにおける診療機能を充実させました。

平成 26 年 1 月 26 日には高槻市制 70 周年記念事業高槻市全域大防災訓練が開催され、当院から救護班として 25 名が参加、消防や各機関と連携して災害救護活動を実施し、赤十字病院としての使命を果たしました。

病院機能評価としては平成 16 年において病院機能評価 Ver.3.1 の認定、平成 21 年において病院機能評価 Ver.5.0 の認定を受けてから 5 年が経過し、平成 26 年 3 月に機能種別版評価項目 3rd G:Ver.1.0 の医療機関として改めて認定されました。

平成 26 年度から新たに「医療の質の評価を継続的に向上させる事業」Q I プロジェクトに参加を開始し、他の参加病院から医療の質改善の事例やノウハウを学ぶなど、病院経営や運営管理に生かす動きを行っています。

平成 26 年 7 月から患者支援センターを開設し、地域医療の中核病院としてかかりつけ医である開業医の先生方や回復期医療・福祉関連施設との連携を図り、地域における良質な医療を提供できる体制を確保し、紹介患者増加に努めています。

平成 26 年 7 月 26 日には医療の現場を知ってもらうことを目的として地域の中学生・高校生を対象にブラックジャックセミナー（手術体験セミナー）を開催し、地域社会への医療教育の貢献を行いました。

平成 26 年 8 月にはフェイスブック (SNS) を開設、11 月には病院診療科案内の冊子を初めて発行するなど様々な病院情報を発信し、広報戦略を展開させました。

平成 27 年 3 月から新たに眼科二次救急当直を毎週木曜日に開始し、医業収益の増収を図るとともに、地域に必要とされる医療提供を行っています。

平成 29 年 9 月に J R 摂津富田～病院間にてシャトルバスの運行を開始、また平成 30 年 6 月には JR 総持寺駅へ運行エリアを拡大し、病院へのアクセス改善を行っています。

平成 30 年 12 月には無菌治療室を 9 床（個室 1 室、4 人部屋 2 室）増床、これまでの個室 3 室を合わせ合計 12 床とし、免疫機能が低下した造血幹細胞移植やがん化学療法の患者さんの入院受入体制を充実させました。

平成 31 年 4 月に電子カルテシステムを更新し、業務の効率化、迅速化を図りました。

令和元年 5 月には老朽化及び大阪府北部地震による損傷のため使用が困難な 2 病棟を 8 病棟に移動し、新たにレディース病棟としてリニューアルオープンし、新入院患者の増加を図りました。

今後も赤十字の使命として災害救護活動をもとに、災害医療対応も地域と共同して推進し「人道・博愛」の精神に基づいた、安全・安心な医療を提供するとともに、さらなる急性期医療提供体制の強化と“継続と変革”を高いレベルで補完し、永続的な発展を行える医療機関として日々邁進していきます。

Ⅱ 病院の現況

1. 病院の特色

医療機能

- ◎ 大阪府より『地域医療支援病院』に承認され、地域医療連携室を通じ、登録医の先生方との連携を密にし、地域に根差した病院として尽力しています。また、地域の登録医からの入院用に『開放病床』を49床設置しています。
- ◎ 大阪府より『がん診療拠点病院』の指定を受けており、地域のがん診療の中心的役割を担っています。また、『がん相談支援センター』の設置、平成22年10月には『放射線治療装置リニアック』の導入を行い、医療機能充実に努めています。
- ◎ 『2次救急告示病院』として地域の救急医療に貢献しています。
- ◎ 三島地区における『大阪府災害医療協力病院』として災害発生時の医療体制の提供を担っており、大規模災害時や救急時に対応できるように、ヘリコプターが離発着できるヘリポート用グラウンドを有しています。
- ◎ DPC対象病院として、平成20年7月より包括請求を実施しています。
- ◎ 看護体制を整備し、『急性期一般入院料1』を取得しています。
- ◎ 『光・水・緑』豊かな環境を生かした『緩和ケア病棟』を開設し、がん患者のケア施設として、身体的苦痛だけでなく、孤独感や不安を軽減し、患者さんがその人らしく尊厳を持って生きることのできる環境を提供しています。
- ◎ HCUを設置し、さらなる急性期医療の充実に努めています。
- ◎ 院長直属の組織として『医療安全推進室』を設置し、専任リスクマネージャーのもと、医療安全の推進に取り組んでいます。
- ◎ 一部の診療科はセンター化を行っており、より専門的な臓器別診療科や特殊外来の充実に努めています。
- ◎ 患者さんやそのご家族が住み慣れた地域で療養生活が継続できるよう他職種による協同支援体制を目的とした患者支援センターを開設しています。

その他

- ◎ 厚生労働省の臨床研修病院『基幹型臨床研修病院』として、また京都大学や大阪医科大学の臨床研修協力病院（施設）として、医師の初期研修の場として貢献しています。
- ◎ 電子カルテシステムを運用しており、診療情報の共有、医療の質の向上に努めています。
- ◎ 看護職員等の労働環境改善のために、『院内保育所』や『病児保育所』を開設しています。
- ◎ 医師職員の労働環境改善のため『医師事務補助職員』の導入を行っています。

2. 施設の概要

病 院

所 在 地	高槻市阿武野一丁目1番1号
敷 地	58,841.39㎡
建物建築面積	11,242.47㎡
建物延床面積	30,154.96㎡

付属施設

訪問看護ステーション	
所 在 地	高槻市阿武野一丁目1番1号

3. 各種法律に基づく医療制度指定・承認

保険医療取扱機関	臨床研修指定病院
国民健康保険療養取扱機関	大阪府災害医療協力病院
労災保険指定病院	母体保護法指定病院
人間ドック指定病院	生活保護法指定病院
救急告示病院	第二種感染症指定医療機関
大阪府肝炎専門医療機関	公害健康被害補償法公害医療機関
児童福祉法医療給付指定医療機関	原子爆弾被爆者医療指定機関
大阪府がん診療拠点病院	地域医療支援病院
難病指定医療機関	小児慢性特定疾病指定医療機関

4. 各学会認定の認定医・専門医教育指定等状況

担 当 診 療 科	名 称
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
内 科	日本内科学会認定医制度教育病院
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	日本糖尿病学会認定教育施設
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	日本内分泌学会認定教育施設
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	日本老年医学会認定施設
緩和ケア科 緩和ケア診療科	日本緩和医療学会認定研修施設
血液・腫瘍内科	日本血液学会認定血液研修施設
循環器科	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
消化器科	日本消化器病学会専門医制度認定施設
消化器科	日本消化器内視鏡学会専門医指導施設
呼吸器外科	呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医制度基幹施設
呼吸器外科	日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設
呼吸器外科 呼吸器科	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
呼吸器科	日本呼吸器学会認定施設
呼吸器科	日本アレルギー学会認定教育施設
外科	日本外科学会外科専門医制度修練施設
外科	National Clinical Database 施設会員
消化器外科	日本食道学会全国登録認定施設
乳腺外科	日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
乳腺外科 放射線科	日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設
整形外科	日本整形外科学会専門医制度研修施設
整形外科	日本リウマチ学会教育施設
整形外科	日本手外科学会研修施設
形成外科	日本形成外科学会教育関連施設
皮膚科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
皮膚科	日本アレルギー学会認定教育研修施設
泌尿器科	日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設
産婦人科	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
産婦人科	日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度暫定研修施設 (補完研修施設)
眼科	日本眼科学会専門医制度研修施設
耳鼻咽喉科	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
麻酔科	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
病理診断科	日本病理学会研修認定施設 B
病理診断科	日本臨床細胞学会教育研修施設
病理診断科	日本臨床細胞学会認定施設
健診部	優良短期人間ドック施設
健診部	優良人間ドック・健診施設
健診部	人間ドック健診専門医研修施設
薬剤部	日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
薬剤部	日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
薬剤部	日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
栄養	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設

5. 診療体系

診療科目 25 科

内 科 （内科、緩和ケア科）

糖尿病・内分泌・代謝内科（糖尿病・内分泌・生活習慣病科）

血 液 内 科 （血液・腫瘍内科）

脳 神 経 内 科 消 化 器 内 科 循 環 器 内 科 呼 吸 器 内 科 呼 吸 器 外 科

外 科 （血 管 外 科 ） 消 化 器 外 科 脳 神 経 外 科 整 形 外 科

産 婦 人 科 小 児 科 眼 科 皮 膚 科 形 成 外 科

耳 鼻 咽 喉 科 リハビリテーション科 泌 尿 器 科 放 射 線 科 麻 酔 科

病 理 診 断 科 乳 腺 外 科 美 容 皮 膚 科

専門外来

内 科 リウマチ・膠原病外来、緩和ケア

糖尿病・内分泌・代謝内科 糖尿病・内分泌外来、フットケア外来

血 液 内 科 血液外来、移植後外来（造血幹）

脳 神 経 内 科 神経内科外来

消 化 器 内 科 消化器外来

循 環 器 内 科 循環器外来

呼 吸 器 内 科 睡眠時無呼吸外来、禁煙外来、ほっとひといき看護外来

呼 吸 器 外 科

外 科 消化器外来、乳腺外来、ストマ外来

脳 神 経 外 科

整 形 外 科 脊椎外来、肩外来、リウマチ外来

産 婦 人 科 子宮癌検診

小 児 科 心臓外来、ダウン症候群・神経外来、乳児健診、1 カ月健診、
小児アトピー性皮膚炎外来

眼 科 緑内障外来、ロービジョン外来、網膜外来、眼形成外来

皮 膚 科 美容皮膚科外来、褥瘡外来

形 成 外 科 レーザー外来

耳 鼻 咽 喉 科 めまい外来

リハビリテーション科 身障診断

泌 尿 器 科 排尿ケア外来

病棟

	許可病床	
2 病棟	46 床	(2 病棟休床中)
3 病棟	36 床	
4 病棟	58 床	(4 病棟休床中)
5 病棟	58 床	
6 病棟	58 床	
7 病棟	49 床	
8 病棟	52 床	
9 病棟	56 床	
緩和ケア病棟	20 床	
HCU	6 床	
計	439 床	

施設基準

基本診療科

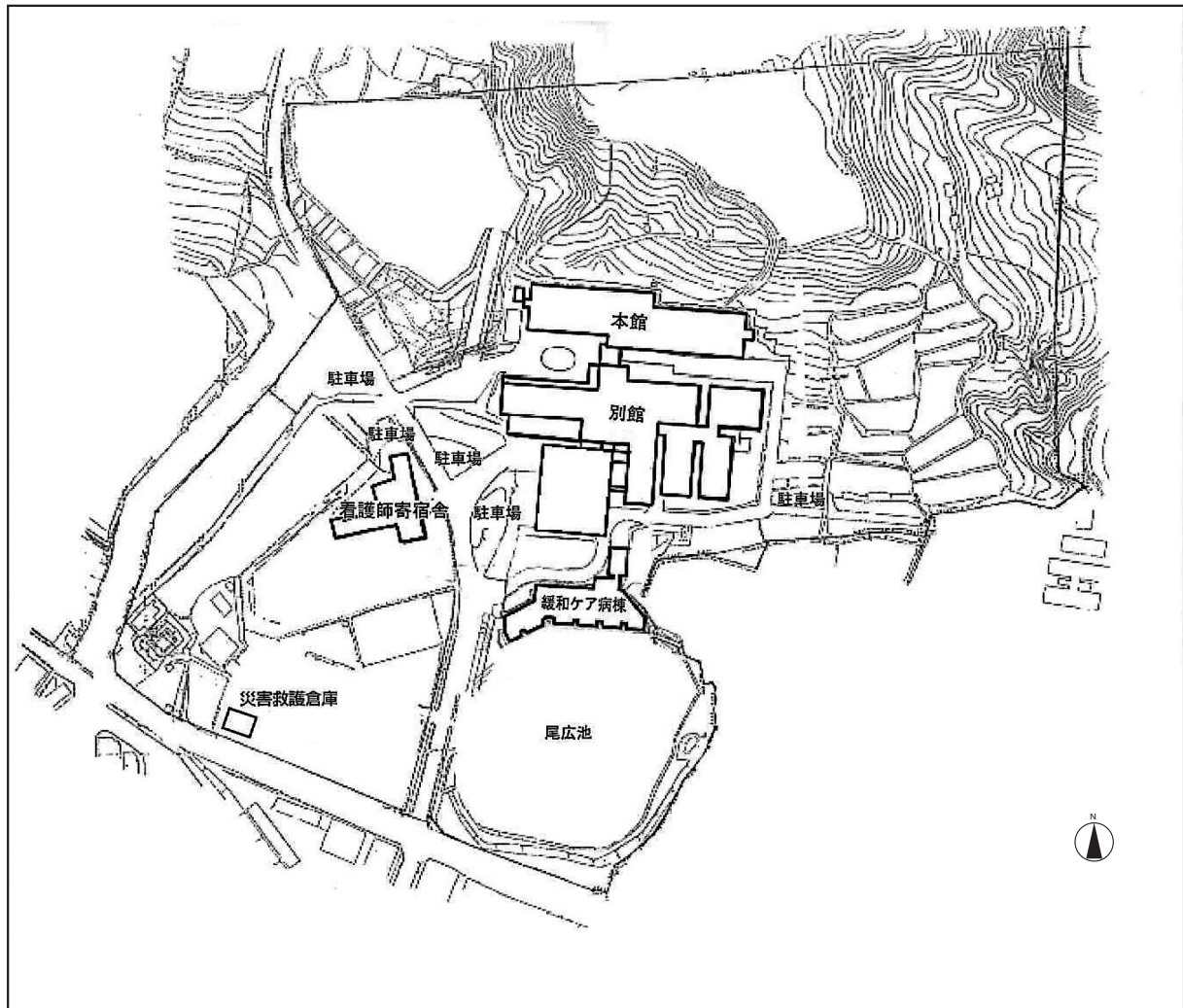
一般病棟入院基本料（急性期一般入院料 1）
 総合入院体制加算 3
 診療録管理体制加算 1
 医師事務作業補助体制加算 2（20 対 1）
 急性期看護補助体制加算 (50 対 1)
 重症者等療養環境特別加算
 無菌治療室管理加算 1
 無菌治療室管理加算 2
 栄養サポートチーム加算
 医療安全対策加算 1
 感染防止対策加算 1
 患者サポート体制充実加算
 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
 ハイリスク妊娠管理加算
 総合評価加算
 後発医薬品使用体制加算 1
 病棟薬剤業務実施加算
 データ提出加算 2 イ
 入退院支援加算 1
 認知症ケア加算 1
 精神疾患診療体制加算
 ハイケアユニット入院医療管理料 1
 小児入院医療管理料 4
 緩和ケア病棟入院料 1

特掲診療料

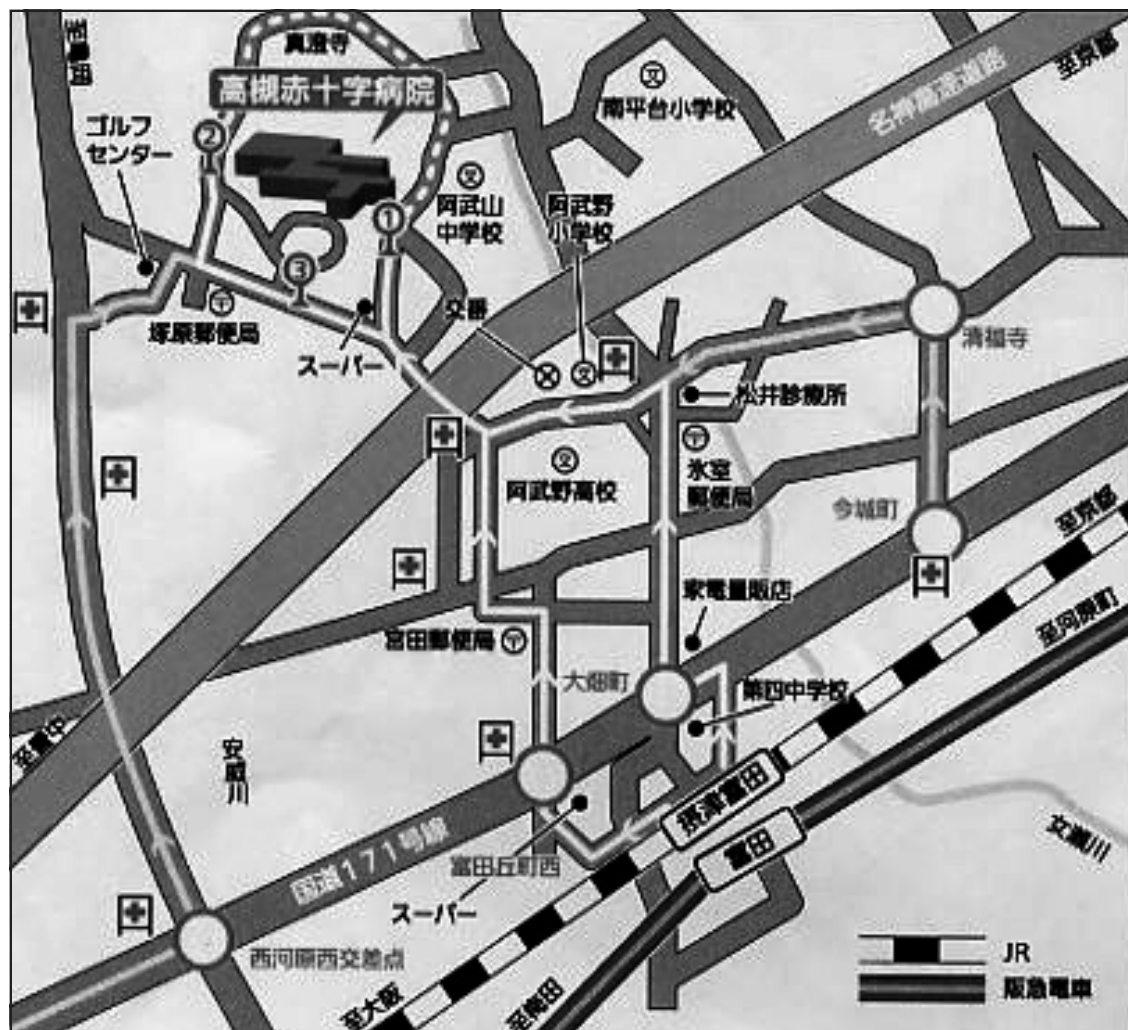
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ・ロ・ハ
移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）
糖尿病透析予防指導管理料
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料の注３に揚げる救急搬送看護体制加算
外来放射線照射診療料
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料 1
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注２に掲げる遠隔モニタリング加算
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
骨髓微小残存病変量測定
H P V 核酸検出及びH P V 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算（Ⅰ）
検体検査管理加算（Ⅳ）
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ヘッドアップティルト試験
小児食物アレルギー負荷検査
画像診断管理加算 2
C T 撮影及びMR I 撮影
冠動脈C T 撮影加算
心臓MR I 撮影加算
乳房MR I 撮影加算
小児鎮静下 MRI 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）

がん患者リハビリテーション料
 集団コミュニケーション療法料
 人工腎臓（慢性維持透析を行った場合 1）
 導入期加算 1
 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
 緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
 乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）
 乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）
 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
 体外衝撃波胆石破碎術
 腹腔鏡下肝切除術
 腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
 腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
 人工尿道括約筋植込・置換術
 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
 胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）（医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術）
 輸血管理料 I
 輸血適正使用加算
 自己生体組織接着剤作成術
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 胃瘻増設時嚥下機能評価加算
 麻酔管理料（I）
 高エネルギー放射線治療
 病理診断管理加算 1
 悪性腫瘍病理組織標本加算
 （令和 2 年 3 月 31 日現在）

6. 配置図



7. 付近見取図



印は当院の看板
 は病院への市バス路線

印は当院の看板
 は病院への自動車道路

8. 主な施設・機器

医療用リニアック Clinac iX
東芝 マルチスライス CT Aquilion64&8
X線アンギオグラフィシステム Infinix Celeve-i
吸収補正用 CT 付き 核医学診断撮影装置 (RI)
ICU にかかる医療用機器
GE 超音波診断装置 Vivid E9
多目的デジタル X 線 TV システム
泌尿器科用 X 線テレビ装置 UROVISION II
眼科用手術顕微鏡
超音波診断装置
据置型デジタル式汎用 X 線透視診断装置 EXAVISTA 一式
ユヤマ 注射薬自動払出機
網膜硝子体手術器械コンステレーションビジョンシステム
東芝フルデジタル超音波診断装置 Xario
デジタル超音波診断装置 HI VISION Preirus
内視鏡ビデオシステム EVIS LUCERA SPECTRUM
内視鏡ファイリングシステム SolemioEndo
山田医療照明 スカイルックス ゼニス A 型
臨床用ポリグラフ
マルチカラスキャンレーザー光凝固装置 MC-500Vixi
東芝 外科用 X 線装置
ホルタ心電図解析システム
外科用 X 線装置
サクラ精器 高圧蒸気滅菌装置
PillCam カプセル内視鏡画像診断システム・
富士フィルムメディカル ダブルバルーン内視鏡
AutoVue
ベッドサイドモニタ 6 台
ハイビジョンカメラシステム
瑞穂医科 分離式電動手術台
シラス HD-OCT
超音波診断装置 ARIETTA70
バーサパルスセレクト 30W(ホルミウムレーザー)
ミズホ 分離式電動手術台 整形用
体外衝撃波結石波砕装置 (ESWL)
患者監視装置 WEP-5208
全身麻酔器 Apollo
ドレーゲル 全身麻酔装置
Q スイッチルビーレーザー IB101
オリンパス内視鏡外科手術システム
診断用 X 線撮影システム RADIOTEX
CUSA EXcel
白内障手術装置インフィニティビジョンシステム
ICG 付眼底カメラ + 無散瞳システム
VIO3 5 ソケットモデル (超音波切開装置)
移動型手術台 MEERA
山田医療照明 スペースラブリブラ TV カメラシステム
ウォッシャーディスインフェクター ダブル
患者監視装置
532 レーザー眼科光凝固装置 ピュアポイント
電動油圧手術台
ミズホ マイクロサージャリ-手術台
内視鏡システム VISERA PRO
電動油圧手術台
単票式薬袋プリンター
超音波診断装置 Nemio XG
補助循環装置システム バイオコンソール等
レスピロニクス 終夜睡眠ポリグラフ検査装置
超音波診断装置 X300 Premium Edition
超音波画像診断装置 SonoSite M-Turbo
リトクラスト 2
眼底カメラ接続取込端末一式
フィリップス 経食道用オムニプレーンⅢセクター型トランスデューサー
核医学ワークステーション
患者監視装置
血液浄化装置
感染防止機能付 クリオスタット
眼科用 ヤグレーザー手術装置 YC-1800
喘息診断測定システム
輸液ポンプ・シリンジポンプ
超音波診断装置 Prosound α 6
医用テレメーター (送信機 4 台付)
携帯型超音波診断装置
電子スパイロメータ
SonoSite MicroMaxx(携帯型超音波診断装置)
CV5030 カバーガラス自動封入装置
IABP 駆動装置 corart
大腸細径ビデオスコープ
インフィニティモニタリングシステム デルタ XL
モニタリングシステム
トレッドミル一式
セントラルモニター MU-960R
超音波診断装置 PROSOUND-6
産婦人科外来ビデオシステム

IABP 駆動装置 コラート BP
回診用 X 線撮影装置 MobleArt Lumina
眼底観察システム Resight700
ニプロ 個人用 HDF 装置
超音波診断装置 SONOVISTA FX premium edition
超音波画像診断装置 SonoSite M-Turbo
炭酸ガスレーザー手術装置 レーザリー
気管支ビデオスコープ
大研 ステリキープ手洗いユニット
ステリキープ手洗いユニット
内臓脂肪測定装置 DualScan
人工呼吸器 ハミルトン C1
回診用 X 線撮影装置
CD/DVD/BD ディスク発行システム
気管支ビデオスコープ
エアウェイマネジメントモバイルスコープビデオスコープ 2 台
回診用 X 線撮影装置 MobileArt Evolution MX7 version
眼科用冷凍手術システム
オートレンズメーター LM1800PD
角膜形状屈折力解析装置 OPD-Scan III (中古品)
ハンフリーフィールドアナライザー
スリットランプ カメラ監視装置システム
スペキュラーマイクロスコープ
光学式眼軸長測定装置
外科用 X 線テレビシステム
診察台
VIO3 5 ソケットモデル (超音波切開装置)
治療用電気手術器 Valleylab FT10
リューザブルエンドスコープショート
生物顕微鏡
超音波診断装置
ビーライン BeeFiles for HFA(800 シリーズ)
血液保冷库
フラットパネル デジタルラジオグラフィー AeroDR 一式
フラットパネル画像ワークステーション 一式
フラットパネル大林製長尺用撮影台
フラットパネル島津製立位撮影台
クリンパーティション
感染対策空気清浄ユニット NRC-601D
気管支ビデオスコープ
そのサージジェネレーター (超音波切開装置)
小林メディカル 電気メス 5000

パワープロ・システムスモールハンドピース等
体成分分析装置 InBody
フクダ 呼吸凝縮液採取装置 エコスクリーン
インバータ式コードレス移動型 X 線装置
心電計 (解析機能付)
トンプソン リトラクタ (開創器)
視覚誘発反応測定装置 (ERG)
超低温フリーザー
オリンパス システム生物顕微鏡
人工呼吸器 Infinity EvitaV500
人工呼吸器 HAMILTON-C2
ドレーゲル 人工呼吸器 Savina
フィリップス成人用人工呼吸器 V60 ベンチレータ Auto-Track+
ビジランスヘモダイナミックモニター (心拍出量測定装置)
除細動器
ハイスピードドリルプリマド 2 一式
ビデオ縦隔鏡セット
ドレーゲル 人工呼吸器 Savina
パワープロエアーミニドライバー
骨塩量測定装置ダイクロマस्क্যান Dichroma Scan
電動マイクロドリルシステム
超音波画像診断装置
キュリーメータ
睡眠評価装置 ソムノスクリーン BT-plus
メラ高頻度ジェットベンチレータ
個人用透析装置 NCU-12
セントラルモニター WEP-5204
ソニー製 ZEISS 眼科手術顕微鏡用カメラ装置一式
心電計
電動診察イス
自動浸透圧測定装置オズモステーション
自動血球洗浄遠心機 MC450
ジンマー HALL50 シングルトリガーハンドピース一式
グライドスコープビデオ咽頭鏡システム
血液ガス分析装置 ラピッドポイント 500
日本光電 解析機能付心電計
ステリルガードⅢ
デフィブリレータ (除細動器) TEC-5631
ジンマー ATS2000 タニケットシステム
メディサームⅢ (高・低体温維持装置)
ディブリレーター (除細動器) TEC-5631
システム生物顕微鏡

ウレトロレノスコープセット 6FR 841-420
タカラベルモント 外科用手術台
トーイツ アクトカルディオグラフ
テルモ 無菌接合装置 TSCD
個人用透析装置 NCU-12
ポータブル気管支ファイバースコープ
フロア型冷却遠心機
メドトロニック XPS マイクロシステム
レッグ CPM L4KD-100
ベッドサイドモニタ
ヘモクロン レスpons (血液凝固計)
ベッドサイドモニター
OES ヒステロファイバースコープ
イソメディカル 脊椎外科用手術フレーム
集細胞遠心装置 サイトスピン 4
ジンマー パワープロエアーオシレーター
喉頭ファイバースコープ
クボタ ユニバーサル冷却遠心機
ライカ 滑走式マイクロトーム
ベットサイドモニタ PVM-2701
バイオメディカルペースメーカーテスト
ジンマー M パワー 2 スターナムソーハンドピース一式
MRI 室用パルスオキシメータ
ガンプロ 個人用逆浸透精製水システム
CPM ユニット レッグ用
KS メジャー
ベッドサイドモニタ
ケイセイ メッシュダーマートーム (形成外科)
日本光電 生体情報モニタ
東機質 サーティファイアー FA テストシステム
ヒラタニ 器械展開台
平山製作所 新高圧滅菌器
ベッドサイドモニタ
フィリップス自動体外式徐細動器 ハートスタート
自己血回収装置セルセーバー 5+(中古品)
ヘッドライトシステム (呼吸器外科)
ストレートショット M4 ハンドピース
デスフルラン用気化器 Drager D-Vapor-desflurane
タンゴ M2 ECG ボード付システム
運動負荷血圧計 TangoM2
エルマン サージトロン EMC (フットスイッチ付) 付属品除く
生体情報モニタ Vital Sensor S

光学視管 12° Φ 4mm
フジレスピロニクス 簡易睡眠検査装置 スターダスト II
黄疸計
サカセ オーダーリングカート
レビテーター
NIOX MINO (一酸化窒素ガス分析装置)
ミニメド 620G インスリンポンプキット
一酸化窒素ガス分析装置ナイオックス NIOX VERO
ヒラサワ テーハー式ウィークリー恒温器
体外式ペースメーカー
薬用冷蔵ショーケース
ニコン 顕微鏡用デジタルカメラ
シャワーストレッチャー
流量計付ブレンダー
アイケア手持眼圧計
全自動錠剤分包機
散薬監査システム
全自動散薬分包機 (2 枚円盤タイプ)
抗がん薬調製支援システム
病院版ピッキングサポートシステム
一包化錠剤仕分け装置
注射薬自動払出装置
スーチャーカッター
デジタルマンモグラフィ CAD
ドレーゲル人工呼吸器 Savina300
作業台
メラ改良モース開胸器 0452008500
Synergy Resection シェーバーコンソール 一式
Synergy RF コンソール 一式
超音波診断装置 Aplio a Verfia
ベッドサイドモニタ PVM-4761 一式
自動染色装置 AUTOSTAINER XL
ベッドサイドモニタ BSM-3562-Q21 一式 (BIS モニタ付)
カラービデオプリンター
レビテーター I-LHPAMUR 623-003-01 他一式

9. 年 表（沿革）

昭和15年	6月	8日	療養所起工式並びに地鎮祭。
昭和16年	11月	2日	日本赤十字社大阪支部病院分院「阿武野勝景園」竣工。
昭和17年	5月	20日	「大阪陸軍病院阿武野赤十字病院」として軍患者を収容。
昭和18年	1月	1日	日本赤十字社支部病院管理規則により「大阪赤十字病院阿武野分院」に改称。
昭和20年	6月	6日	「大阪第二陸軍病院阿武野赤十字病院」として中部軍属となる。
	11月	30日	軍病院を解除。
	12月	1日	大阪赤十字病院分院阿武野勝景園として一般診療開始。
昭和22年	9月	1日	分院より昇格（独立）大阪阿武野赤十字病院と称す。
昭和23年	6月	9日	大阪阿武山赤十字病院と改称。
昭和26年	11月	1日	完全看護制度実施。
昭和27年	5月	6日	医療社会事業部を新設。
	10月	15日	勝景園神社を阿武山神社と改称。
	11月	20日	中央材料室開設。
昭和34年	4月	10日	病院機関紙として「阿武山ニュース」（現：日赤たかつき）創刊号発行。
	11月	5日	手術棟（鉄筋コンクリート平屋建）竣工。
昭和35年	1月	18日	北朝鮮帰還列車添乗派遣を開始。
昭和44年	12月	5日	病院第一次増改築工事竣工式。
昭和45年	1月	1日	高槻赤十字病院と改称。
	2月	2日	新館開設、一般外来及び入院診療開始。 （一般99床、結核559床）
昭和45年	9月	1日	大阪府労災指定病院に承認。
	11月	3日	大阪府救急指定病院に指定。
昭和47年	2月	1日	一般病棟（新館）「特類看護」の承認。
昭和49年	12月	3日	看護婦寄宿舎（鉄筋コンクリート4階建）竣工式。
昭和52年	7月	1日	耳鼻咽喉科の診療開始、総合病院となる。
	10月	31日	病院第二次増改築工事竣工式。医療法による許可病床を 421床とする。（一般224床、結核197床）
	12月	1日	理学診療科部（現：リハビリテーション科部）新設。
昭和54年	1月		放射線科部にR I検査を新設。
昭和55年	4月	16日	1病棟開設、定床37床。医療法による許可病床458床。 （一般261床、結核197床）
	4月	16日	全身用東芝CT-60A型スキャナー導入。
昭和58年	8月	17日	障害等級2・3級の小児転地療養事業（健康回復キャンプ）実施。
昭和61年	2月	24日	8病棟（結核病棟）を閉鎖、一般科病棟に転換、実働病床 375床（一般310床、結核65床）。
昭和62年	5月	11日	上の池（溜池）を埋立て、駐車場用地とする。
昭和63年	4月	1日	理学診療科（現：リハビリテーション科）に作業療法室を開設。
平成3年	11月	5日	創立50周年記念祝賀会開催。
平成4年	10月	1日	麻酔科部の設置。
	12月	18日	外来増改築工事完成。
平成5年	9月	1日	総合リハビリテーション承認施設。
平成6年	10月	21日	許可病床数、519床より511床へ変更。

平成 7 年	1 月 1 7 日	兵庫県南部地震（阪神・淡路大地震）による被災者救護活動開始。
	8 月 1 日	高槻赤十字訪問看護ステーション開所式。
平成 8 年	9 月 2 日	「MR I 棟」増改築工事完成。病院構造設備使用許可。
平成 9 年	3 月 3 1 日	結核病棟廃止。（一般病床 4 4 6 床、結核 0 床）
平成 1 0 年	1 0 月 1 日	開放型病院の指定。（1 2 床） （平成 1 1 年 6 月～ 4 0 床、平成 1 3 年 1 0 月～ 4 9 床）
	1 1 月 2 6 日	剖検慰霊祭を以後毎年実施。
平成 1 1 年	4 月 1 日	厚生省臨床研修病院の指定。
	8 月 3 1 日	指定居宅介護支援事業者となる。
平成 1 2 年	1 月 1 日	院外処方箋の実施。
	8 月 2 1 日	アレルギー科の診療を開始する。
	1 0 月 1 日	病診連携係（現：地域医療連携課）設置。
平成 1 3 年	3 月 1 日	産婦人科病棟全面改修。
	4 月 1 日	脳神経外科開設。
	7 月 9 日	7 病棟全面改修。4 8 床（血液内科、透析、外科、化学療法）運用開始。
平成 1 4 年	5 月 7 日	緩和ケア病棟開設。（全室 2 0 床）
	1 0 月 1 日	業務委託による診療材料の定数管理（SPD）実施。
	1 0 月 1 5 日	駐車ゲートシステム導入、外来患者以外の駐車有料化実施。
	1 2 月 9 日	地域がん診療拠点病院の指定を得る。
平成 1 5 年	1 月	業務委託による検査室共同運営（FMS）実施。
	7 月 1 日	一般病棟 1 群入院基本料 1 許可。（2 対 1 看護）
平成 1 6 年	2 月 1 6 日	病院機能評価 Ver.3.1（一般病院種別 B）認定。
	4 月 1 日	形成外科、呼吸器外科の開設。（アレルギー科の廃止）
	1 2 月 7 日	4・5・6・8・9 病棟の改修終了 MR I 装置入れ替え実施。
平成 1 7 年	1 月 1 日	診療情報管理課設置。 事務部総務課に医療安全係設置。
	1 月 4 日	亜急性期病床開設（2 0 床）
	3 月 1 日	救急部設置。
	1 0 月 2 7 日	NST 運用開始。
	1 1 月 1 日	電子カルテ稼動。
平成 1 8 年	3 月 2 7 日	新手術棟完成 竣工式。 （1 階外科外来・生理検査部門／2 階手術室・中央材料室）
平成 1 8 年	6 月 1 日	ガスコージェネレーションシステム運用開始
平成 1 8 年	7 月 1 日	「医療安全推進室」設置、「癌統合治療科部」設置。 「第一内科」を「糖尿病・内分泌・生活習慣病科部」と「緩和ケア科部」に分科。「第二内科部」を「血液・腫瘍内科部」に名称変更、「第一外科部」を「消化器外科部」に名称変更、「第二外科部」を「乳腺外科部」に名称変更。
平成 1 8 年	1 0 月	全手術部門及び外来改造工事、病院建物（本館・別館）の耐震工事、並びに 3 病棟改修工事完了。
平成 1 8 年	1 0 月 2 0 日	マルチスライス CT 6 4 列の導入。
平成 1 8 年	1 1 月 1 6 日	第 4 2 回日本赤十字社医学会総会主催（於国立京都国際会館）。
平成 1 8 年	1 2 月 1 6 日	日本人間ドック学会「人間ドック健診施設機能評価」認定。
平成 1 9 年	1 月 4 日	院内保育所高槻日赤保育園『すくすく』開園。

平成19年	2月	1日	がん相談支援センター室設置。 病児保育室を委託開設。
平成19年	4月	1日	「医療技術部」を新設（臨床工学技術課、栄養課を設置）。 医療社会事業部地域医療連携課内に「がん相談支援センター室係」を 新設。
平成19年	7月	1日	教育研修推進室設置。
平成19年10月	1日		I C U（院内基準）開設。
平成20年	2月	1日	一般病棟7対1入院基本料施設基準届出受理。
平成20年	2月	8日	地域がん診療連携拠点病院の指定更新。
平成20年	6月	1日	週休二日制実施。
平成20年	7月	1日	D P C対象病院として請求開始。 放射線画像等フィルムレス運用開始。
平成21年	2月	16日	病院機能評価 Ver.5.0 認定
平成21年	8月	15日	兵庫県佐用町の台風9号水害による被災者救援活動のため、 医療救援班を派遣。
平成22年	3月	15日	X線アンギオ装置（血管造影装置）の入れ替え実施。
平成22年	3月		災害救護倉庫の整備。
平成22年	4月	1日	事務部医療安全課設置。
平成22年	6月		エコロジーガーデン設置。
平成22年10月			患者・家族向け図書コーナー設置。
平成22年10月	1日		放射線治療システム「リニアック」導入完了・治療開始。
平成23年	3月	15日	東日本大震災により、宮城県庁前・岩手県山田町へ医療救援班を派遣 (3/15～5/26)。
平成23年	3月	30日	震災により石巻赤十字病院支援派遣（3/30～4/4・5/9～5/14）。
平成23年	4月	1日	神経内科開設。
平成23年11月	25日		地域医療支援病院に承認される。
平成24年	2月	1日	消化器内視鏡センター開設。
平成24年	8月	1日	緩和ケア診療科開設。
平成24年12月	1日		医療社会事業部地域連携推進課設置。
平成25年	4月	1日	事務部研修課設置。
平成26年	3月	7日	機能種別版日評価項目3rdG: V er.1.0 認定。
平成26年	7月		患者支援センター開設。
平成26年	9月		病理診断科標榜。
平成28年	3月		消化器外科標榜。
平成29年	9月	1日	病院～JR 摂津富田駅間でシャトルバス運行開始。
平成30年	1月		糖尿病・内分泌内科、血液内科標榜。
平成30年	4月		事務部人事課設置。
平成30年	6月		シャトルバスの運行をJR 総持寺駅へ拡大。
平成30年12月			無菌治療室を9床増設（合計12床）。
平成31年	4月		電子カルテシステムの更新
令和元年	5月		病棟の再編成実施。2病棟を8病棟に移動し、レディース病棟として 運用。
令和元年11月			乳腺外科、美容皮膚科標榜。
令和元年	2月		駐車場リニューアル。（駐車スペース増加、一般駐車場全面舗装）

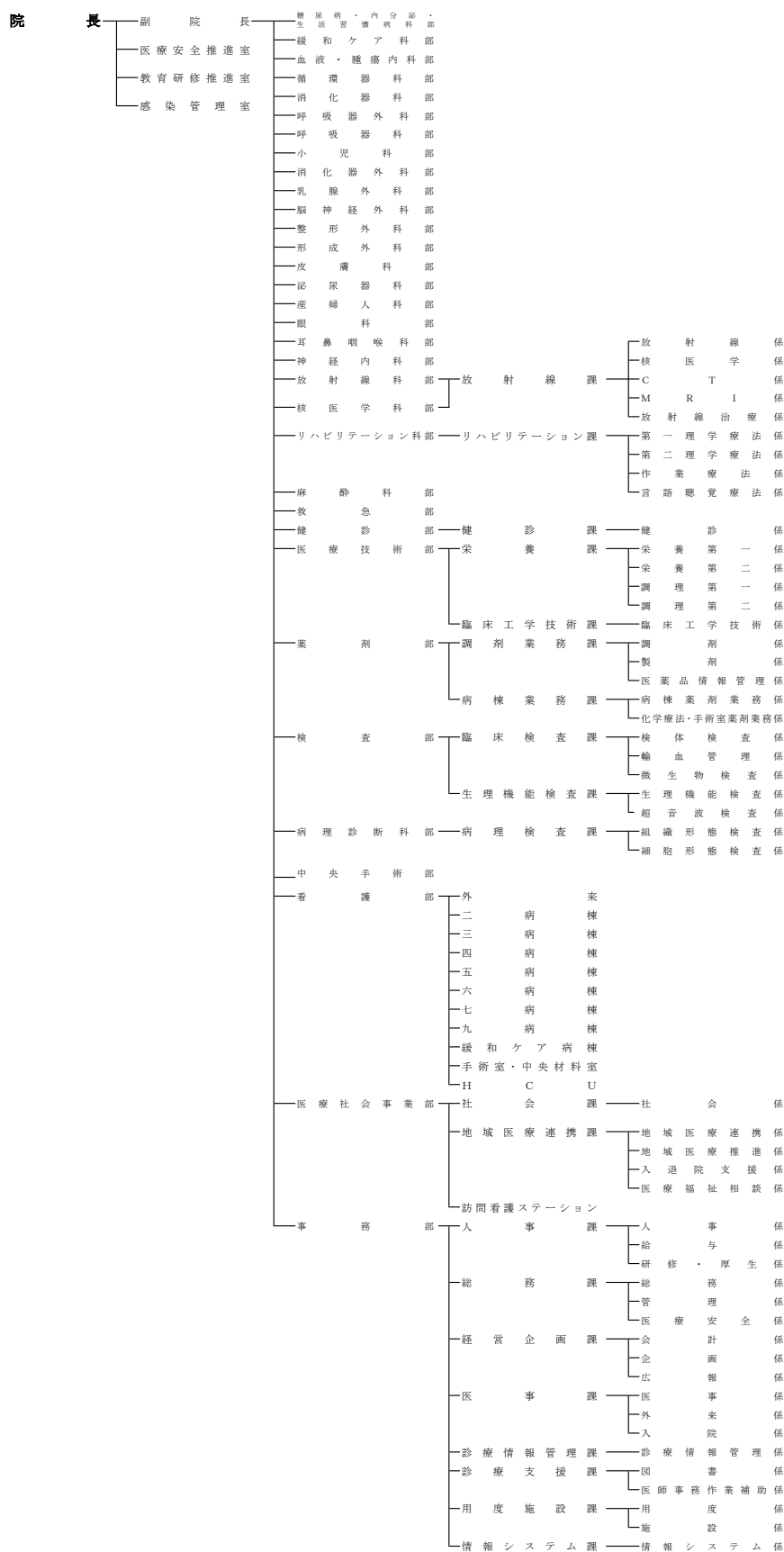
10. 整備医療器械備品

メーカー名	固定資産名	規格型式
ニデック	オートレンズメーター LM1800PD	LM1800PD
ニデック	角膜形状屈折力解析装置OPD - ScanⅢ (中古品)	OPD-Scan Ⅲ
カールツアイス	ハンフリーフィールドアナライザー	HFA Ⅲ 840
ニコン	スリットランプ カメラ監視装置システム	R08000
ニデック	スペキュラーマイクロスコープ	CEM530
トーマコーポレーション	光学式眼軸長測定装置	OA-2000
(株)島津製作所	外科用X線テレビシステム	OPESCOPE ACTEND
タカラベルモント	診察台	EX-CS7 CG52
アムコ	VIO3 5ソケットモデル (超音波切開装置)	E12-3300
コヴィディエン	治療用電気手術器 Valleylab FT10	
ソファモア ダネック	リューザブルエンドスコープショート	9560100
オリンパス	生物顕微鏡	BX43-33
キヤノンメディカルシステムズ(株) (旧東芝メディカルシステムズ)	超音波診断装置	Aplio a450
その他	ビーライン BeeFiles for HFA (800シリーズ)	
Panasonic	血液保冷库	MBR-506T4
ユヤマ	全自動錠剤分包機	
ユヤマ	散薬監査システム	
ユヤマ	全自動散薬分包機 (2枚円盤タイプ)	
ユヤマ	抗がん薬調製支援システム	
ユヤマ	病院版ピッキングサポートシステム	
ユヤマ	一包化錠剤仕分け装置	
ユヤマ	注射薬自動払出装置	
その他	スーチャーカッター	AR-12250
富士フィルム	デジタルマンモグラフィ CAD	デジタルマンモグラフィ CAD
ドレーゲル	ドレーゲル 人工呼吸器 Savina 300	savina300
サカセ	作業台	WT-1818B-2-TSM
泉工医科工業	メラ 改良モース開胸器 0452008500	452008500
その他	Synergy Resection シェーバーコンソール 一式	AR-8305
その他	Synergy RF コンソール 一式	AR-9800
キヤノンメディカルシステムズ(株) (旧東芝メディカルシステムズ)	超音波診断装置 Aplio a Verfia	Aplio a Verfia
日本光電工業	ベッドサイドモニタ PVM-4761 一式	PVM-4761
ライカ	自動染色装置 AUTOSTAINER XL	AUTOSTAINER XL
日本光電工業	ベッドサイドモニタ BSM-3562-Q21 一式 (BIS モニタ付)	BSM-3562-Q21
オリンパス	カラービデオプリンター	UP-25MD
村中	レビテーター I-LHPAMUR 623-003-01 他一式	I-LHPAMUR 623-003-01
コニカミノルタ	フラットパネル デジタルラジオグラフィー AeroDR 一式	AeroDR
コニカミノルタ	フラットパネル 画像ワークステーション 一式	CS-7・CS-7P・KINOSIS・ Mp-IDS・ID680RM)
コニカミノルタ	フラットパネル 大林製長尺用撮影台	ROCKET EVOLUTION2
コニカミノルタ	フラットパネル 島津製立位撮影台	
日本エアーテック	クリンパーテーション	ACP-897AH
日本医化器械製作所	感染対策空気清浄ユニット NRC-601D	NRC-601D
日本エアーテック	クリンパーテーション	ACP-897CH

Ⅲ 組織及び職員

1. 高槻赤十字病院組織図

2019.4.1



2. 幹部職員

(令和元年度末現在)

[illegible]

3. 職員現況表

会計決算書より（令和2年3月31日現在）

区 分	① 病 院																	
	医	薬	放	検	理	作	言	臨	視	管	助	看	准	看	医	事	そ	小
		劑	射	査	学	業	語	床	能	理			看	護	療	務	の	
	師	師	線	技	療	療	聴	工	訓	栄	産	護	護	助	術	職	他	計
常 勤	77.0	24.0	18.0	21.0	14.0	4.0	2.0	9.0	2.0	8.0	9.0	286.0	0.0	28.0	0.0	65.0	16.0	583.0
非常勤	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	1.8	19.4	0.3	3.9	0.0	3.5	5.1	43.4
計	86.1	24.0	18.0	21.0	14.0	4.0	2.0	9.0	2.3	8.0	10.8	305.4	0.3	31.9	0.0	68.5	21.1	626.4

② 病院（医療社会事業）					
区 分	看 護 師	管 理 栄 養 士	事 務 職 員	医 療 社 会 事 業 司	小 計
常 勤	2.0	0.0	10.0	5.0	17.0
非 常 勤	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9
計	2.0	0.0	10.9	5.0	17.9

③ 訪問看護ステーション			
区 分	事 務 職 員	看 護 師	小 計
常 勤	1.0	4.0	5.0
非 常 勤	0.0	1.1	1.1
計	1.0	5.1	6.1

総合計	
区 分	① + ② + ③
常 勤	605.0
非 常 勤	45.4
計	650.4

4. 職種別・年齢別・職員構成表

		30才未満	30才～ 40才未満	40才～ 50才未満	50才～ 55才未満	55才～ 60才未満	60才～ 62才未満	62才～ 65才未満	65才以上	計
一 般 職 (一)	男	2	8	11	1	8	0	0	0	30
	女	10	12	25	4	3	2	0	0	56
一 般 職 (二)	男	0	1	4	1	4	1	1	0	12
	女	1	0	17	8	10	3	2	1	42
医 療 職 (一)	男	8	21	12	5	8	1	3	4	62
	女	2	5	4	2	0	1	1	0	15
医 療 職 (二)	男	14	17	14	1	3	1	0	0	50
	女	16	23	9	3	3	0	0	0	54
医 療 職 (三)	男	6	4	3	2	1	0	0	0	16
	女	57	75	107	46	26	4	4	1	320
計	男	30	51	44	10	24	3	4	4	170
	女	86	115	162	63	42	10	7	2	487
										657

5. 会議及び委員会

(令和2年3月31日現在)

◎ 会 議

4 役会議

病院連絡会議

◎ 委 員 会

D P C 診療記録管理委員会

I C T 委員会

S P D ・ 診療材料購入審査委員会

キャンサーボード委員会

ハラスメント防止委員会

医事紛争処理委員会

医療安全管理委員会

院内感染防止対策委員会

救急委員会

健診事業運用委員会

研修管理委員会

広報委員会

治験審査委員会

図書委員会

地域医療連携運営委員会

A S T 委員会

保険委員会

防火防災・災害対策委員会

輸血療法委員会

臨床検査適正化委員会

褥瘡委員会

患者サービス向上委員会

新病院新築移転構想検討委員会

H C U 運営委員会

N S T 委員会

がん診療関連機能充実委員会

クリニカルパス委員会

業務改善委員会

医療ガス安全管理委員会

医療事故調査委員会

化学療法委員会

給食委員会

研修運営委員会

個人情報保護委員会

購買委員会

手術室運営委員会

地域医療支援病院運営委員会

認知症ケアサポート委員会

病床管理運営委員会

放射線安全委員会

薬事委員会

倫理委員会

労働安全衛生委員会

電子カルテ委員会

血液浄化療法委員会

臨床倫理委員会

IV 統 計

1. 令和元年度実績表

	入				院				外				来		合 計	
	患者延数	1 日平均	在院日数	診療稼働額	診療単価	患者延数	1 日平均	通院日数	診療稼働額	診療単価	診療稼働額	診療単価	診療稼働額			
内科	873	2.4	8.3	23,226,076	26,604.9	2,582	10.7	4.5	83,100,930	32,184.7			106,327,006			
糖・内・代	3,744	10.2	11.9	152,679,087	40,779.7	9,853	40.7	113.3	140,020,010	14,210.9			292,699,097			
血液内科	12,187	33.3	28.3	1,105,504,278	90,711.8	5,072	21.0	69.5	436,399,893	86,041.0			1,541,904,171			
腎臓内科	0	0.0	0.0	0	0.0	2,430	10.0	270.0	60,612,830	24,943.6			60,612,830			
消化器内科	18,474	50.5	8.7	860,000,742	46,552.0	17,081	70.6	14.5	290,443,373	17,003.9			1,150,444,115			
循環器内科	13,498	36.9	15.1	787,255,750	58,323.9	12,519	51.7	27.5	126,188,147	10,079.7			913,443,897			
神経内科	0	0.0	0.0	0	0.0	2,245	9.3	31.2	12,494,850	5,565.6			12,494,850			
呼吸器内科	18,256	49.9	14.7	827,012,444	45,300.9	15,469	63.9	19.5	549,062,280	35,494.4			1,376,074,724			
呼吸器外科	3,237	8.8	16.0	255,368,886	78,890.6	3,248	13.4	324.8	156,234,018	48,101.6			411,602,904			
外科	7,574	20.7	12.7	530,113,505	69,991.2	9,888	40.9	25.2	252,384,273	25,524.3			782,497,778			
脳神経外科	0	0.0	0.0	0	0.0	996	4.1	10.4	10,138,954	10,179.7			10,138,954			
整形外科	12,182	33.3	20.9	667,667,646	54,807.7	13,033	53.9	13.8	155,279,101	11,914.3			822,946,747			
産婦人科	681	1.9	5.6	46,636,550	68,482.5	2,712	11.2	19.4	21,006,662	7,745.8			67,643,212			
小児科	361	1.0	3.3	19,030,121	52,715.0	1,544	6.4	5.8	9,540,155	6,178.9			28,570,276			
眼科	1,308	3.6	1.4	134,421,566	102,768.8	10,348	42.8	16.8	127,823,976	12,352.5			262,245,542			
皮膚科	810	2.2	7.5	35,626,379	43,983.2	8,355	34.5	20.1	49,295,129	5,900.1			84,921,508			
形成外科	2,315	6.3	20.3	114,778,953	49,580.5	3,050	12.6	8.9	24,999,542	8,196.6			139,778,495			
耳鼻咽喉科	1	0.0	2.0	0	0.0	2,874	11.9	12.3	16,345,351	5,687.3			16,345,351			
リハビリテーション科	0	0.0	0.0	0	0.0	4,919	20.3		24,766,089	5,034.8			24,766,089			
泌尿器科	3,154	8.6	8.2	193,323,851	61,294.8	8,578	35.4	24.6	122,782,186	14,313.6			316,106,037			
緩和ケア	4,753	13.0	22.2	306,874,811	64,564.4	132	0.5	1.9	1,630,619	12,353.2			308,505,430			
放射線	0	0.0	0.0	0	0.0	1,232	5.1	1.4	9,535,167	7,739.6			9,535,167			
その他	23	0.1	3.0	626,924	27,257.6	2,960	12.2	33.6	16,823,805	5,683.7			17,450,729			
合計	103,431	282.6	12.8	6,060,147,569	58,591.2	141,120	583.1	17.6	2,696,907,340	19,110.7			8,757,054,909			
前年度	104,112	285.2	12.3	6,031,246,281	57,930.4	146,330	599.7	18.1	2,529,160,112	17,283.9			8,560,406,393			
増減率	-0.7%	-0.9%	3.8%	0.5%	1.1%	-3.6%	-2.8%	-2.8%	6.6%	10.6%			2.3%			

2. 入院患者数

	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	873	39	59	138	56	110	86	54	43	62	83	73	70
糖 ・ 内 ・ 代	3,744	400	382	286	373	207	198	444	270	228	272	410	274
血 液 内 科	12,187	1,081	1,047	952	1,052	845	873	853	904	1,189	1,119	1,066	1,206
腎 臓 内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消 化 器 内 科	18,474	1,621	1,703	1,589	1,700	1,562	1,712	1,679	1,676	1,309	1,377	1,159	1,387
循 環 器 内 科	13,498	1,085	1,294	1,179	1,116	1,040	938	882	966	1,139	1,233	1,385	1,241
神 経 内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼 吸 器 内 科	18,256	1,446	1,427	1,332	1,595	1,977	1,624	1,481	1,382	1,545	1,695	1,467	1,285
呼 吸 器 外 科	3,237	285	220	310	308	245	284	332	251	285	268	276	173
外 科	7,574	626	605	672	524	631	553	576	645	635	708	667	732
脳 神 経 外 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整 形 外 科	12,182	907	909	1,006	1,365	1,125	992	861	895	1,210	984	1,060	868
産 婦 人 科	681	96	23	62	90	81	60	41	43	41	51	28	65
小 児 科	361	23	40	40	19	18	26	49	36	27	30	21	32
眼 科	1,308	147	148	144	130	164	109	33	97	51	73	64	148
皮 膚 科	810	36	79	71	114	87	72	75	53	69	33	34	87
形 成 外 科	2,315	275	155	188	157	199	187	238	248	213	130	172	153
耳 鼻 咽 喉 科	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌 尿 器 科	3,154	243	266	255	205	190	240	317	368	278	246	256	290
緩 和 ケ ア	4,753	417	379	326	278	415	422	398	405	464	397	417	435
放 射 線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	23	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	103,431	8,750	8,736	8,550	9,083	8,896	8,376	8,313	8,282	8,745	8,699	8,555	8,446
1 日 平 均	282.6	291.7	281.8	285.0	293.0	287.0	279.2	268.2	276.1	282.1	280.6	295.0	272.5

前 年 度	104,112	8,925	8,299	8,512	9,317	9,373	8,212	8,171	7,975	8,088	8,785	8,921	9,534
1 日 平 均	285.2	297.5	267.7	283.7	300.5	302.4	273.7	263.6	265.8	260.9	283.4	318.6	307.5
増 減 率	-0.7%	-2.0%	5.3%	0.4%	-2.5%	-5.1%	2.0%	1.7%	3.8%	8.1%	-1.0%	-4.1%	-11.4%

3. 入院稼働額

	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	23,226,076	2,164,795	1,839,422	3,671,008	1,089,688	2,869,273	2,515,949	1,344,845	947,030	2,022,526	1,554,690	1,498,375	1,708,475
糖・内・代	152,679,087	15,836,722	13,885,394	11,130,086	13,457,192	10,670,725	9,591,532	16,425,762	10,733,236	11,572,746	12,472,283	16,482,579	10,420,830
血液内科	1,105,504,278	85,655,768	86,887,708	85,442,603	93,784,528	71,118,796	74,693,815	82,732,185	91,796,844	124,212,143	97,971,788	95,814,521	115,393,579
腎臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器内科	860,000,742	72,218,412	69,250,043	71,647,995	75,947,025	79,061,546	78,023,211	80,044,481	80,864,317	61,734,756	66,656,336	56,845,749	67,706,871
循環器内科	787,255,750	63,626,161	77,674,250	71,531,328	64,734,863	60,159,020	54,538,334	58,907,946	59,333,798	65,347,043	69,348,162	73,608,541	68,446,304
神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器内科	827,012,444	65,333,697	63,732,102	59,874,628	76,745,265	84,780,267	69,012,168	66,216,540	65,869,451	77,769,652	77,093,573	64,187,100	56,398,001
呼吸器外科	255,368,886	21,212,105	19,553,756	23,871,144	26,342,664	16,817,736	21,979,066	26,246,812	15,539,660	24,723,184	26,013,250	21,258,128	11,811,381
外科	530,113,505	38,148,797	44,638,030	45,813,073	41,338,883	43,359,198	42,886,909	42,977,417	45,106,650	42,219,932	47,786,405	47,332,778	48,505,433
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	667,667,646	43,870,322	48,625,572	57,685,475	71,895,928	62,646,934	53,546,404	51,108,028	56,548,872	64,546,069	52,717,874	57,682,397	46,793,771
産婦人科	46,636,550	4,731,316	419,160	4,357,055	5,234,695	5,175,628	3,641,873	2,866,610	3,062,945	3,677,219	5,060,158	2,365,138	6,044,753
小児科	19,030,121	1,183,992	1,974,402	2,049,952	1,147,828	859,875	1,333,422	2,647,440	1,981,450	1,283,650	1,888,990	1,143,530	1,535,590
眼科	134,421,566	13,774,192	13,727,944	14,313,178	12,567,938	16,722,180	9,165,344	4,804,574	11,159,758	6,004,590	8,595,072	6,850,236	16,736,560
皮膚科	35,626,379	2,639,415	3,212,986	3,512,808	6,065,559	3,455,364	2,611,640	2,960,456	2,430,820	2,504,941	1,162,838	1,525,160	3,544,392
形成外科	114,778,953	13,829,392	7,864,374	14,569,946	7,610,359	9,225,647	8,363,634	11,152,399	11,563,418	9,331,855	6,437,739	8,744,818	6,085,372
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	193,323,851	14,631,921	16,881,312	15,059,790	14,571,122	12,196,404	13,655,852	20,818,644	21,638,470	15,317,776	15,798,754	14,226,344	18,527,462
緩和ケア	306,874,811	27,299,806	25,264,676	20,570,450	17,470,179	26,372,958	25,319,948	25,400,783	26,882,170	28,878,460	26,244,575	26,268,511	30,902,295
放射線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	626,924	527,440	0	0	0	99,484	0	0	0	0	0	0	0
合 計	6,060,147,569	486,684,253	495,431,131	505,100,519	530,003,716	505,591,035	470,879,101	496,654,922	505,458,889	541,146,542	516,802,487	495,833,905	510,561,069

前 年 度	6,031,246,281	494,105,449	468,831,819	495,256,043	541,608,247	535,515,751	470,004,279	491,343,261	499,151,796	483,123,974	506,123,046	505,051,468	541,131,148
増 減 率	0.5%	-1.5%	5.7%	2.0%	-2.1%	-5.6%	0.2%	1.1%	1.3%	12.0%	2.1%	-1.8%	-5.6%

4. 入院単価

	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	26,604.9	55,507.6	31,176.6	26,601.5	19,458.7	26,084.3	29,255.2	24,904.5	22,024.0	32,621.4	18,731.2	20,525.7	24,406.8
糖・内・代	40,779.7	39,591.8	36,349.2	38,916.4	36,078.3	51,549.4	48,442.1	36,995.0	39,752.7	50,757.7	45,854.0	40,201.4	38,032.2
血液内科	90,711.8	79,237.5	82,987.3	89,750.6	89,148.8	84,164.3	85,559.9	96,989.7	101,545.2	104,467.7	87,553.0	89,882.3	95,682.9
腎臓内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
消化器内科	46,552.0	44,551.8	40,663.6	45,090.0	44,674.7	50,615.6	45,574.3	47,673.9	48,248.4	47,161.8	48,406.9	49,047.2	48,815.3
循環器内科	58,323.9	58,641.6	60,026.5	60,671.2	58,006.1	57,845.2	58,143.2	66,789.1	61,422.2	57,372.3	56,243.4	53,147.0	55,154.2
神経内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
呼吸器内科	45,300.9	45,182.4	44,661.6	44,950.9	48,116.2	42,883.3	42,495.2	44,710.7	47,662.4	50,336.3	45,482.9	43,754.0	43,889.5
呼吸器外科	78,890.6	74,428.4	88,880.7	77,003.7	85,528.1	68,643.8	77,391.1	79,056.7	61,911.0	86,748.0	97,064.4	77,022.2	68,273.9
外科	69,991.2	60,940.6	73,781.9	68,174.2	78,891.0	68,715.1	77,553.2	74,613.6	69,932.8	66,488.1	67,494.9	70,963.7	66,264.3
脳神経外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
整形外科	54,807.7	48,368.6	53,493.5	57,341.4	52,671.0	55,686.2	53,978.2	59,358.9	63,183.1	53,343.9	53,575.1	54,417.4	53,909.9
産婦人科	68,482.5	49,284.5	18,224.3	70,275.1	58,163.3	63,896.6	60,697.9	69,917.3	71,231.3	89,688.3	99,218.8	84,469.2	92,996.2
小児科	52,715.0	51,477.9	49,360.1	51,248.8	60,412.0	47,770.8	51,285.5	54,029.4	55,040.3	47,542.6	62,966.3	54,453.8	47,987.2
眼科	102,768.8	93,702.0	92,756.4	99,397.1	96,676.4	101,964.5	84,085.7	145,593.2	115,049.1	117,737.1	117,740.7	107,034.9	113,084.9
皮膚科	43,983.2	73,317.1	40,670.7	49,476.2	53,206.7	39,716.8	36,272.8	39,472.7	45,864.5	36,303.5	35,237.5	44,857.6	40,740.1
形成外科	49,580.5	50,288.7	50,737.9	77,499.7	48,473.6	46,360.0	44,725.3	46,858.8	46,626.7	43,811.5	49,521.1	50,842.0	39,773.7
耳鼻咽喉科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
リハビリテーション科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	61,294.8	60,213.7	63,463.6	59,058.0	71,078.6	64,191.6	56,899.4	65,674.0	58,800.2	55,099.9	64,222.6	55,571.7	63,887.8
緩和ケア	64,564.4	65,467.2	66,661.4	63,099.5	62,842.4	63,549.3	59,999.9	63,821.1	66,375.7	62,238.1	66,107.2	62,994.0	71,039.8
放射線	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	27,257.6	22,932.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合 計	58,591.2	55,621.1	56,711.4	59,076.1	58,351.2	56,833.5	56,217.7	59,744.4	61,031.0	61,880.7	59,409.4	57,958.4	60,450.0

前 年 度	57,930.4	56,469.2	53,666.6	57,924.7	59,628.8	60,197.4	56,113.2	59,105.4	60,269.5	55,245.7	58,181.8	59,035.8	64,069.5
増 減 率	1.1%	-1.5%	5.7%	2.0%	-2.1%	-5.6%	0.2%	1.1%	1.3%	12.0%	2.1%	-1.8%	-5.6%

5. 外来患者数

	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	2,582	644	359	225	191	192	155	115	107	159	227	102	106
糖 ・ 内 ・ 代	9,853	723	795	673	887	812	790	924	843	960	855	827	764
血 液 内 科	5,072	181	302	373	466	442	441	546	447	454	486	447	487
腎 臓 内 科	2,430	187	224	200	250	214	231	229	213	184	157	158	183
消 化 器 内 科	17,081	1,435	1,424	1,475	1,627	1,383	1,442	1,565	1,448	1,448	1,306	1,228	1,300
循 環 器 内 科	12,519	1,110	990	1,007	1,094	936	996	1,106	1,059	1,107	1,051	951	1,112
神 経 内 科	2,245	194	179	184	199	190	179	209	193	188	185	180	165
呼 吸 器 内 科	15,469	1,339	1,363	1,276	1,451	1,290	1,302	1,411	1,316	1,260	1,302	1,092	1,067
呼 吸 器 外 科	3,248	309	295	257	267	282	269	270	267	270	307	203	252
外 科	9,888	944	834	771	857	917	854	836	801	757	757	725	835
脳 神 経 外 科	996	100	85	86	81	70	92	80	90	104	60	62	86
整 形 外 科	13,033	1,044	1,064	1,088	1,091	1,129	1,139	1,182	1,075	1,146	1,063	932	1,080
産 婦 人 科	2,712	243	227	231	237	200	222	201	229	280	186	218	238
小 児 科	1,544	106	127	133	148	146	104	138	131	132	151	137	91
眼 科	10,348	898	839	785	897	907	803	866	871	923	872	770	917
皮 膚 科	8,355	652	644	699	791	767	713	787	609	761	655	596	681
形 成 外 科	3,050	228	252	257	310	261	303	233	258	255	234	236	223
耳 鼻 咽 喉 科	2,874	320	265	246	276	242	225	215	222	234	239	224	166
リハビリテーション科	4,919	301	328	355	435	403	403	470	469	485	422	419	429
泌 尿 器 科	8,578	665	622	699	767	685	754	729	741	748	728	715	725
緩 和 ケ ア	132	13	11	12	9	10	13	11	7	13	10	12	11
放 射 線	1,232	102	101	114	100	109	88	112	111	109	79	94	113
そ の 他	2,960	85	166	826	213	149	164	195	193	183	466	158	162
合 計	141,120	11,823	11,496	11,972	12,644	11,736	11,682	12,430	11,700	12,160	11,798	10,486	11,193
1 日 平 均	583.1	563.0	574.8	598.6	574.7	558.9	614.8	591.9	585.0	608.0	620.9	582.6	533.0

前 年 度	146,330	11,690	12,495	11,936	12,426	12,731	11,338	13,254	12,404	12,149	11,866	11,549	12,492
1 日 平 均	599.7	584.5	595.0	568.4	591.7	553.5	629.9	602.5	590.7	639.4	624.5	607.8	624.6
増 減 率	-3.6%	1.1%	-8.0%	0.3%	1.8%	-7.8%	3.0%	-6.2%	-5.7%	0.1%	-0.6%	-9.2%	-10.4%

6. 外来稼働額

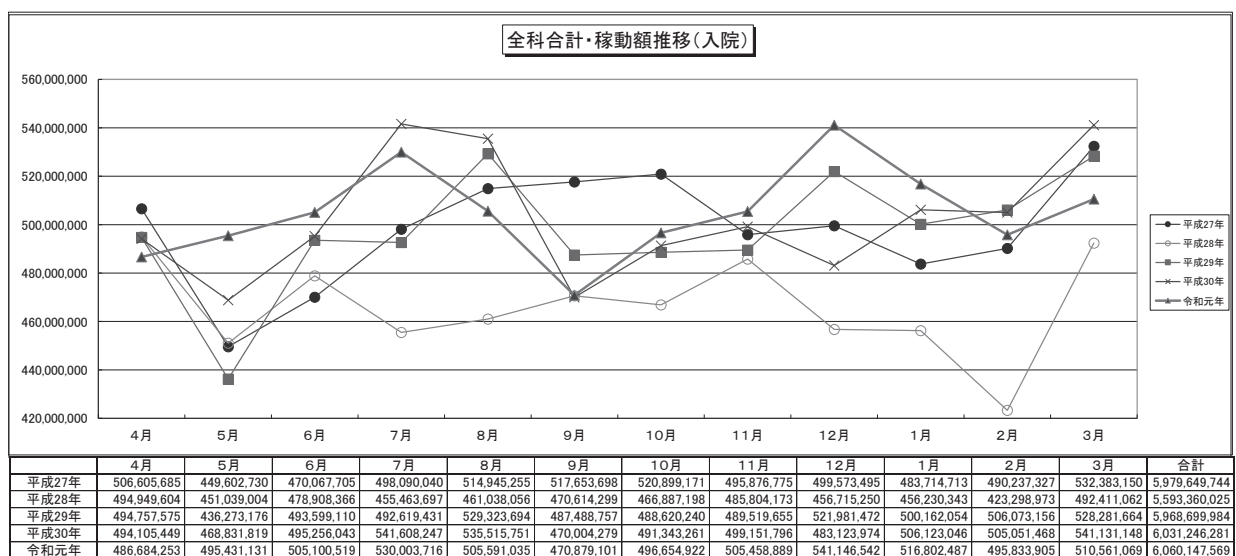
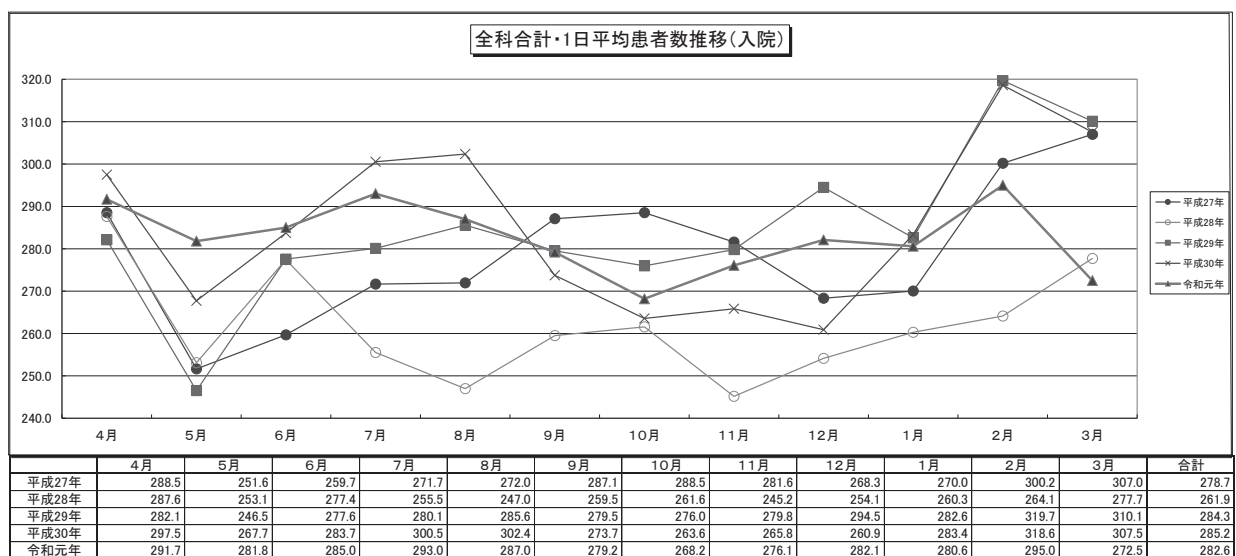
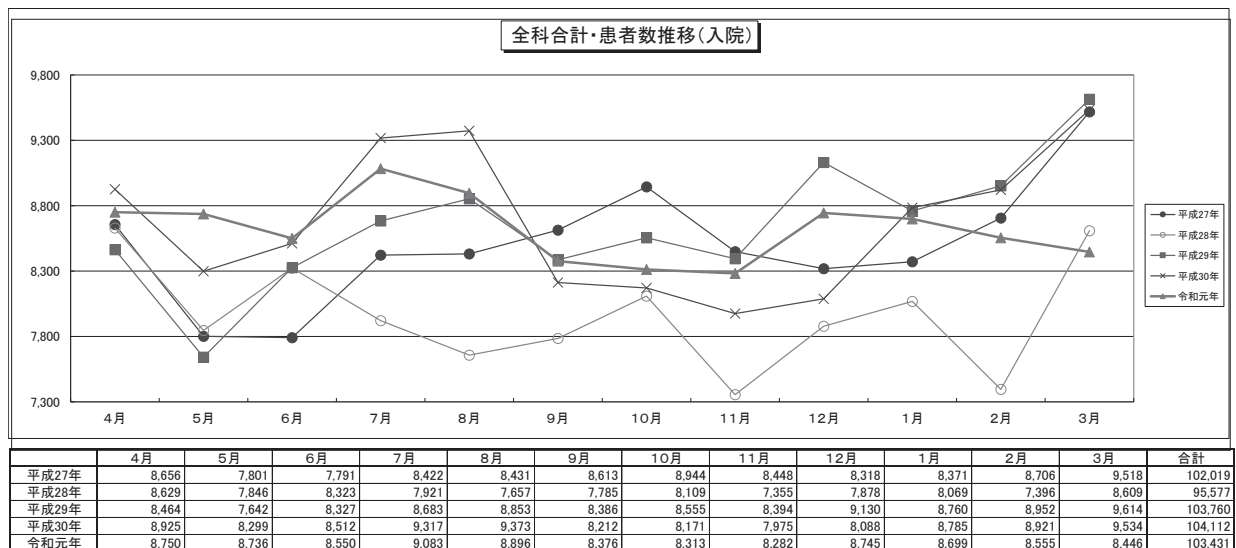
	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	83,100,930	17,261,641	6,081,614	5,845,040	8,291,247	8,162,497	5,002,051	5,457,850	5,193,150	5,861,860	5,747,201	4,775,415	5,421,364
糖・内・代	140,020,010	11,388,364	11,375,820	10,202,164	12,632,972	11,410,604	11,044,958	13,236,933	10,952,870	13,708,225	12,397,270	11,085,434	10,584,396
血液内科	436,399,893	16,209,930	24,477,650	27,474,540	32,358,116	37,243,740	35,874,400	46,470,655	37,455,043	37,666,407	50,415,695	43,850,634	46,903,083
腎臓内科	60,612,830	4,933,600	5,327,130	5,088,530	6,643,730	5,567,930	6,031,300	5,606,620	5,382,310	4,612,400	3,709,430	3,583,610	4,126,240
消化器内科	290,443,373	22,334,011	24,336,098	25,174,599	27,864,455	23,656,280	27,469,982	25,687,706	24,348,818	23,083,307	22,063,428	21,385,367	23,039,322
循環器科	126,188,147	11,468,721	10,161,990	9,969,646	11,255,653	9,207,842	10,238,456	11,341,186	11,772,281	10,157,340	10,340,761	9,571,602	10,702,669
神経内科	12,494,850	1,056,300	843,420	1,016,498	1,288,800	904,620	1,201,540	1,221,710	1,216,610	1,133,600	846,920	1,189,500	575,332
呼吸器内科	549,062,280	49,062,977	44,895,522	46,585,299	49,194,158	52,002,049	47,768,780	48,202,895	44,609,190	41,887,558	49,693,281	37,621,985	37,538,586
呼吸器外科	156,234,018	16,289,644	14,458,820	11,486,456	13,138,250	9,648,030	13,680,918	11,556,440	14,262,348	11,113,562	17,666,750	9,443,820	13,488,980
外科	252,384,273	21,460,171	19,910,818	21,687,020	24,590,255	25,120,181	22,583,834	22,973,585	20,678,850	18,104,944	19,271,101	17,062,142	18,941,372
脳神経外科	10,138,954	1,042,540	808,760	823,795	682,590	621,363	983,792	1,007,958	991,551	1,261,651	654,600	622,064	638,290
整形外科	155,279,101	12,788,427	14,174,984	14,919,711	13,802,934	15,220,489	13,807,632	15,697,498	12,784,266	12,296,379	11,006,793	8,463,388	10,316,600
産婦人科	21,006,662	1,878,554	1,632,158	1,879,872	1,824,174	1,486,968	1,753,122	1,431,496	1,848,233	2,294,552	1,390,699	1,645,644	1,941,190
小児科	9,540,155	548,510	703,712	674,742	965,830	1,025,927	636,244	747,398	647,970	885,366	957,475	965,943	781,038
眼科	127,823,976	10,811,346	10,452,384	9,163,684	11,361,219	10,648,841	8,583,202	11,095,335	12,226,732	10,258,667	11,167,347	10,155,982	11,899,237
皮膚科	49,295,129	3,693,950	4,336,944	3,808,345	4,345,872	4,699,209	3,650,749	5,667,781	3,570,232	3,521,320	5,679,816	3,086,831	3,234,080
形成外科	24,999,542	1,498,332	1,686,336	2,357,953	2,553,449	2,380,928	2,624,181	1,982,578	2,170,621	2,137,189	1,596,478	2,192,304	1,819,193
耳鼻咽喉科	16,345,351	1,713,588	1,677,840	1,353,946	1,676,050	1,161,220	1,251,746	1,051,777	1,224,407	1,603,860	1,383,868	1,377,863	869,186
リハビリテーション科	24,766,089	1,540,180	1,161,610	1,808,966	2,295,979	2,038,022	2,027,829	2,462,080	2,370,700	2,424,635	2,204,607	2,253,864	2,177,617
泌尿器科	122,782,186	8,179,273	7,203,960	10,856,688	11,064,116	10,029,109	11,530,200	10,735,858	11,106,047	10,406,468	10,112,490	10,789,960	10,768,017
緩和ケア	1,630,619	99,970	137,990	188,460	125,787	147,424	208,454	123,560	94,400	93,700	108,400	145,214	157,260
放射線	9,535,167	2,660,200	2,917,170	3,957,797	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	16,823,805	57,730	1,331,550	1,442,500	2,141,316	1,420,590	1,279,440	1,545,402	1,484,075	1,741,081	1,200,958	1,609,810	1,569,353
合 計	2,696,907,340	217,977,959	210,094,280	217,766,251	240,096,952	233,803,863	229,232,810	245,304,301	226,390,704	216,254,071	239,615,368	202,878,376	217,492,405

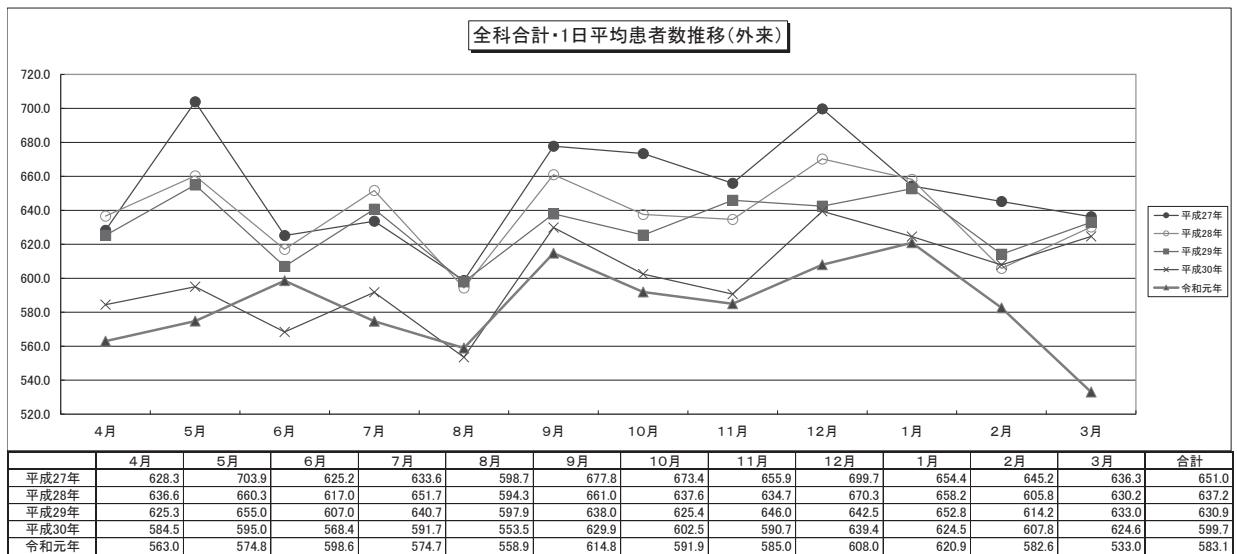
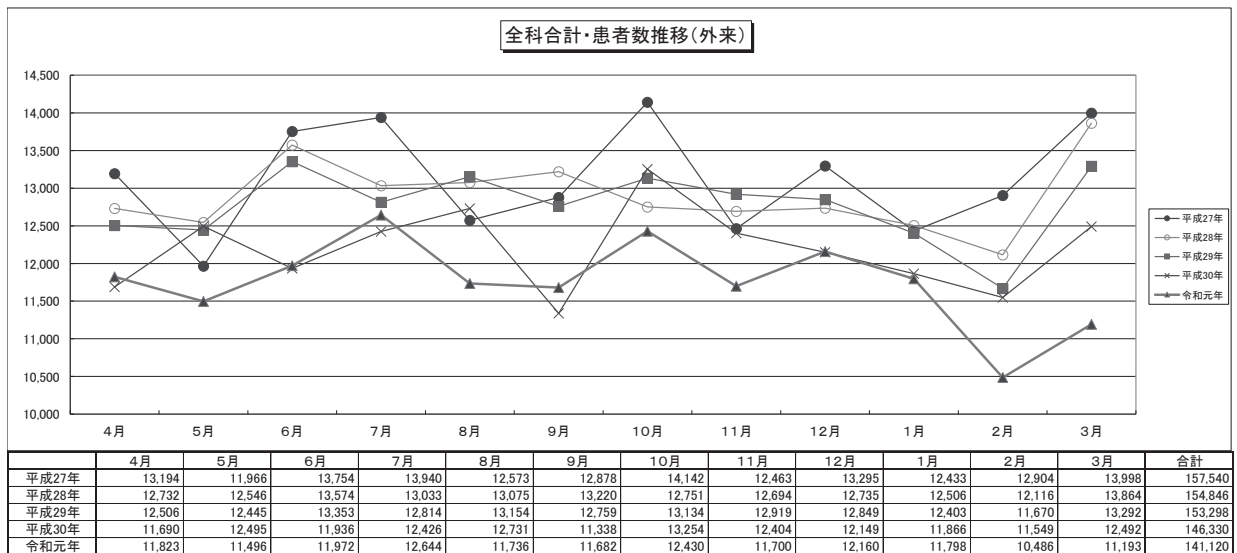
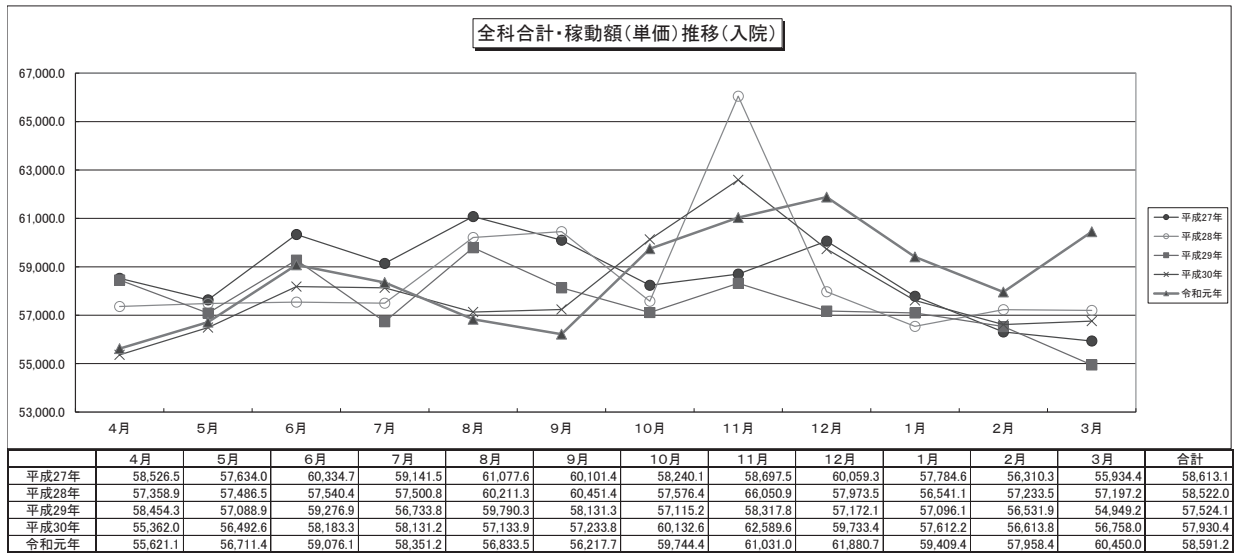
前 年 度	2,529,160,112	200,040,891	214,354,901	201,473,457	200,796,858	221,635,178	199,176,481	232,263,036	213,876,242	206,043,979	215,690,276	206,704,209	217,104,604
増 減 率	6.6%	9.0%	-2.0%	8.1%	19.6%	5.5%	15.1%	5.6%	5.9%	5.0%	11.1%	-1.9%	0.2%

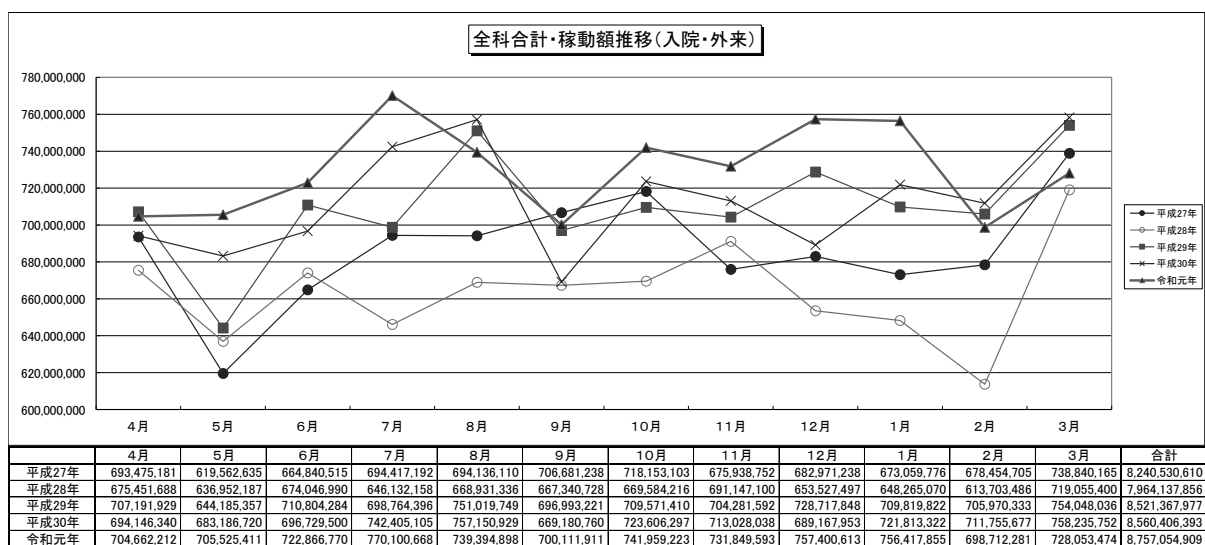
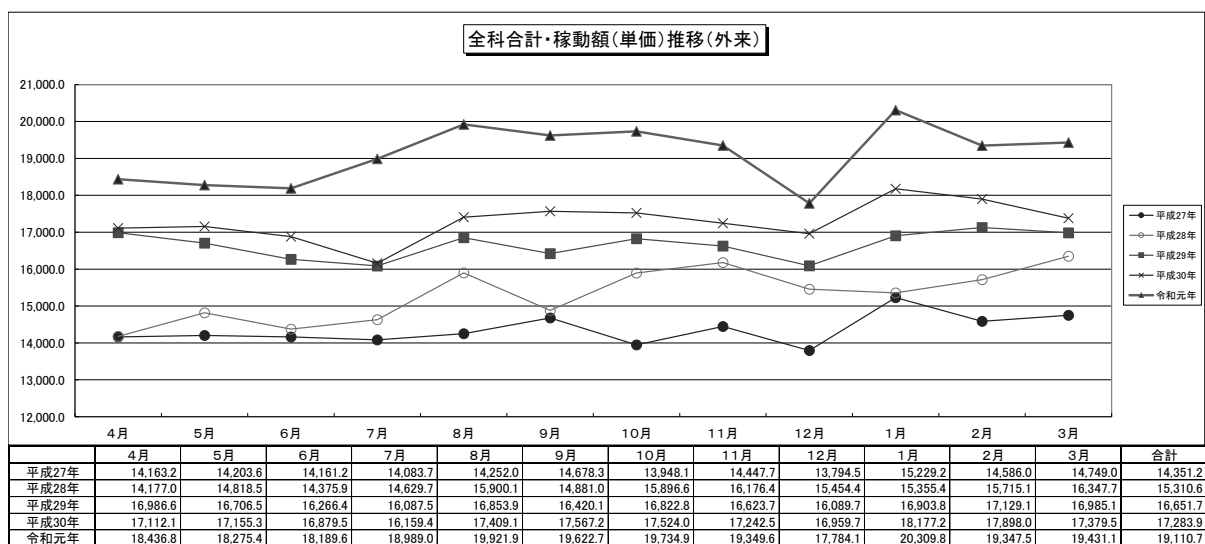
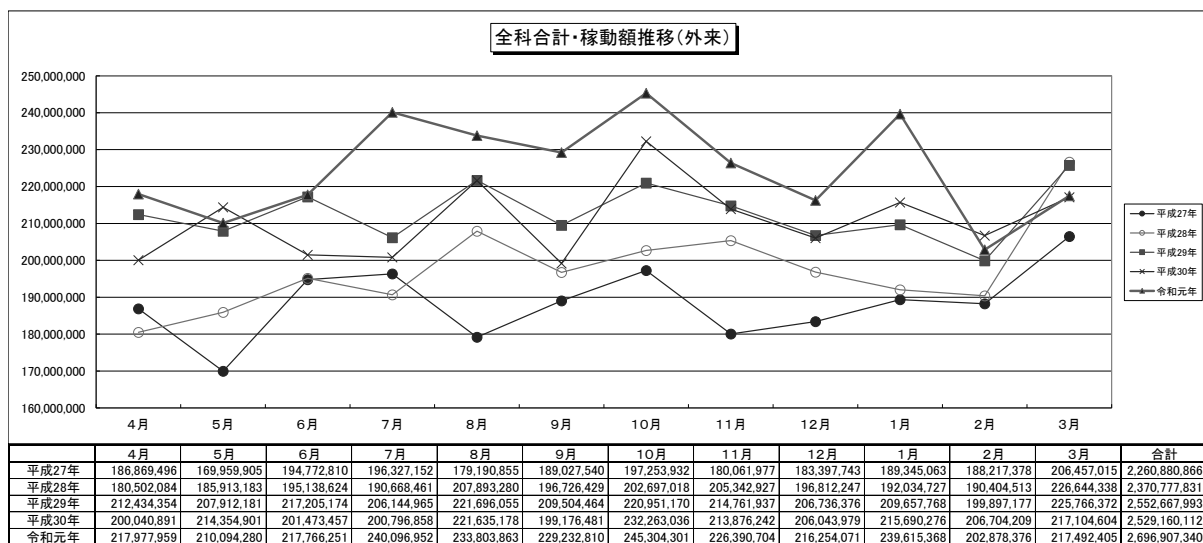
7. 外来単価

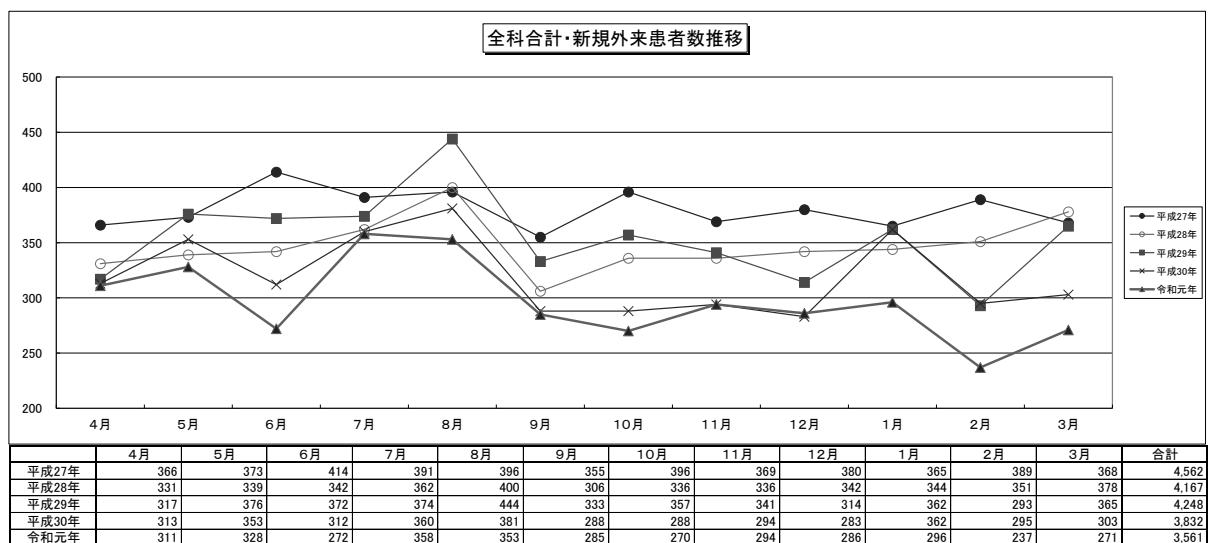
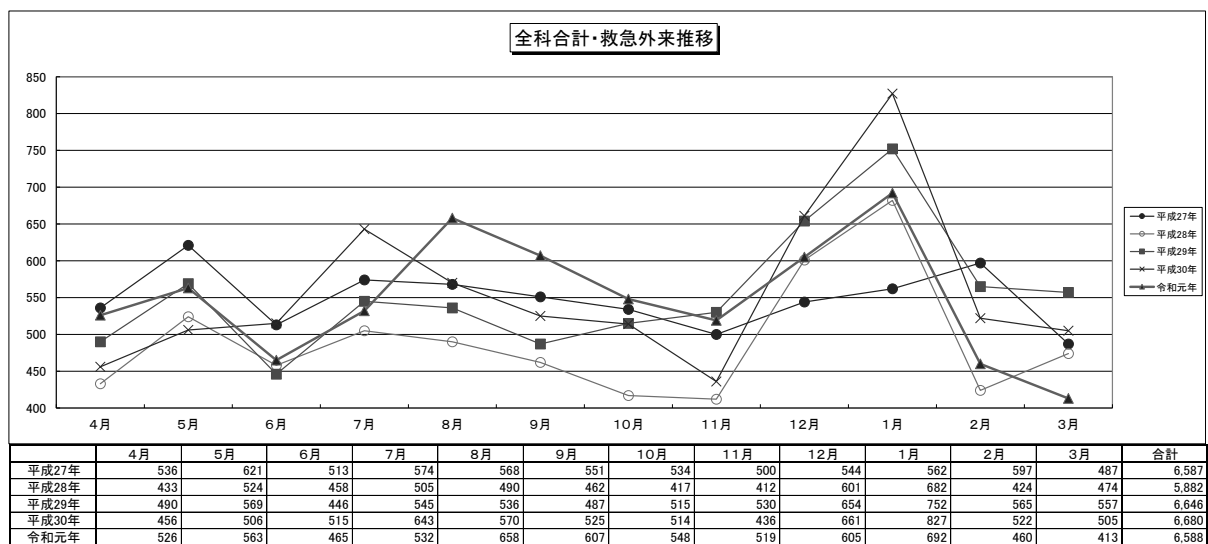
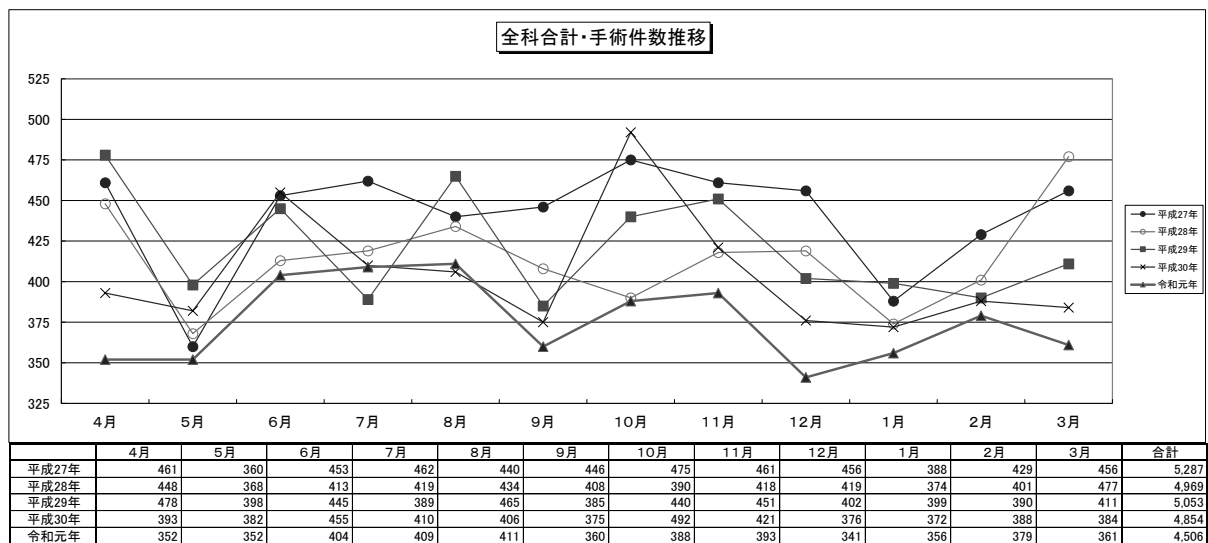
	合 計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
内 科	32,184.7	26,803.8	16,940.4	25,978.0	43,409.7	42,513.0	32,271.3	47,459.6	48,534.1	36,867.0	25,318.1	46,817.8	51,144.9
糖・内・代	14,210.9	15,751.5	14,309.2	15,159.2	14,242.4	14,052.5	13,981.0	14,325.7	12,992.7	14,279.4	14,499.7	13,404.4	13,853.9
血液内科	86,041.0	89,557.6	81,051.8	73,658.3	69,438.0	84,261.9	81,347.8	85,111.1	83,792.0	82,965.7	103,736.0	98,099.9	96,310.2
腎臓内科	24,943.6	26,382.9	23,781.8	25,442.7	26,574.9	26,018.4	26,109.5	24,483.1	25,269.1	25,067.4	23,626.9	22,681.1	22,547.8
消化器内科	17,003.9	15,563.8	17,090.0	17,067.5	17,126.3	17,105.0	19,049.9	16,413.9	16,815.5	15,941.5	16,893.9	17,414.8	17,722.6
循環器科	10,079.7	10,332.2	10,264.6	9,900.3	10,288.5	9,837.4	10,279.6	10,254.2	11,116.4	9,175.6	9,839.0	10,064.8	9,624.7
神経内科	5,565.6	5,444.8	4,711.8	5,524.4	6,476.4	4,761.2	6,712.5	5,845.5	6,303.7	6,029.8	4,577.9	6,608.3	3,486.9
呼吸器内科	35,494.4	36,641.5	32,938.8	36,508.9	33,903.6	40,311.7	36,688.8	34,162.2	33,897.6	33,244.1	38,166.9	34,452.4	35,181.4
呼吸器外科	48,101.6	52,717.3	49,012.9	44,694.4	49,206.9	34,212.9	50,858.4	42,801.6	53,417.0	41,161.3	57,546.4	46,521.3	53,527.7
外科	25,524.3	22,733.2	23,873.9	28,128.4	28,693.4	27,393.9	26,444.8	27,480.4	25,816.3	23,916.7	25,457.2	23,534.0	22,684.3
脳神経外科	10,179.7	10,425.4	9,514.8	9,579.0	8,427.0	8,876.6	10,693.4	12,599.5	11,017.2	12,131.3	10,910.0	10,033.3	7,422.0
整形外科	11,914.3	12,249.5	13,322.4	13,713.0	12,651.6	13,481.4	12,122.6	13,280.5	11,892.3	10,729.8	10,354.5	9,080.9	9,552.4
産婦人科	7,745.8	7,730.7	7,190.1	8,138.0	7,696.9	7,434.8	7,896.9	7,121.9	8,070.9	8,194.8	7,476.9	7,548.8	8,156.3
小児科	6,178.9	5,174.6	5,541.0	5,073.2	6,525.9	7,026.9	6,117.7	5,415.9	4,946.3	6,707.3	6,340.9	7,050.7	8,582.8
眼科	12,352.5	12,039.4	12,458.1	11,673.5	12,665.8	11,740.7	10,688.9	12,812.2	14,037.6	11,114.5	12,806.6	13,189.6	12,976.3
皮膚科	5,900.1	5,665.6	6,734.4	5,448.3	5,494.1	6,126.7	5,120.3	7,201.8	5,862.4	4,627.2	8,671.5	5,179.2	4,749.0
形成外科	8,196.6	6,571.6	6,691.8	9,174.9	8,236.9	9,122.3	8,660.7	8,508.9	8,413.3	8,381.1	6,822.6	9,289.4	8,157.8
耳鼻咽喉科	5,687.3	5,355.0	6,331.5	5,503.8	6,072.6	4,798.4	5,563.3	4,892.0	5,515.3	6,854.1	5,790.2	6,151.2	5,236.1
小児リハビリ科	5,034.8	5,116.9	3,541.5	5,095.7	5,278.1	5,057.1	5,031.8	5,238.5	5,054.8	4,999.2	5,224.2	5,379.2	5,076.0
泌尿器科	14,313.6	12,299.7	11,581.9	15,531.7	14,425.2	14,641.0	15,292.0	14,726.8	14,987.9	13,912.4	13,890.8	15,090.9	14,852.4
緩和ケア	12,353.2	7,690.0	12,544.5	15,705.0	13,976.3	14,742.4	16,034.9	11,232.7	13,485.7	7,207.7	10,840.0	12,101.2	14,296.4
放射線	7,739.6	26,080.4	28,882.9	34,717.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	5,683.7	679.2	8,021.4	1,746.4	10,053.1	9,534.2	7,801.5	7,925.1	7,689.5	9,514.1	2,577.2	10,188.7	9,687.4
合 計	19,110.7	18,436.8	18,275.4	18,189.6	18,989.0	19,921.9	19,622.7	19,734.9	19,349.6	17,784.1	20,309.8	19,347.5	19,431.1

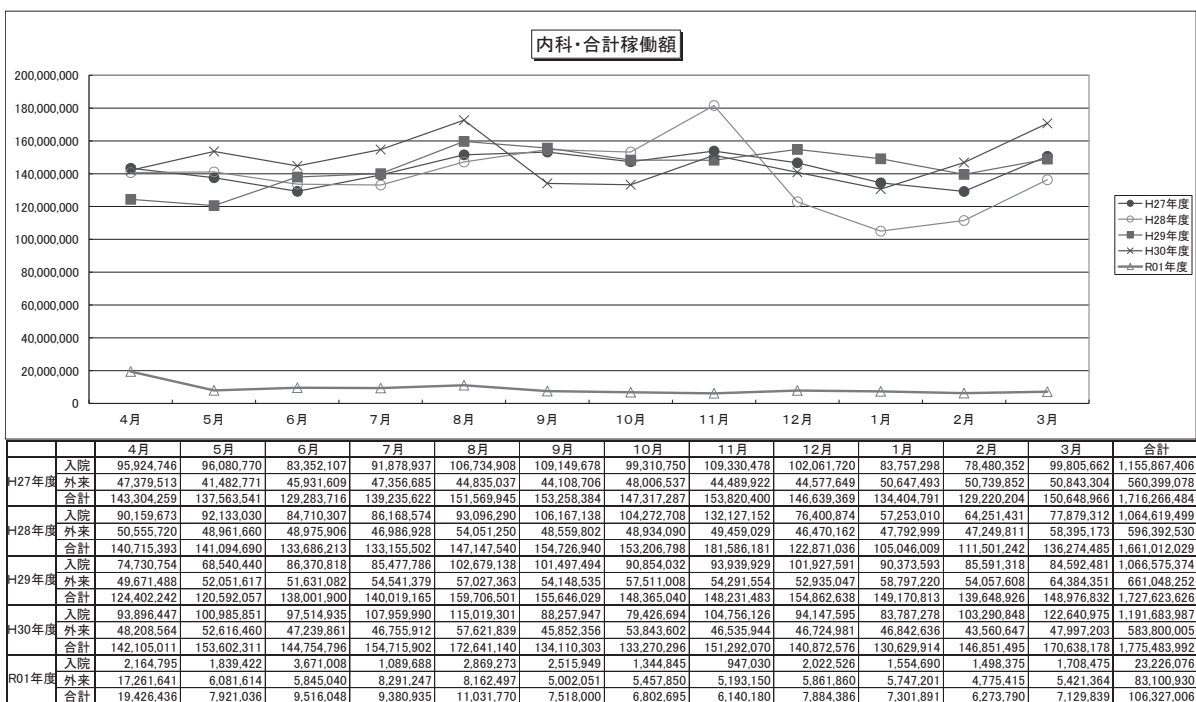
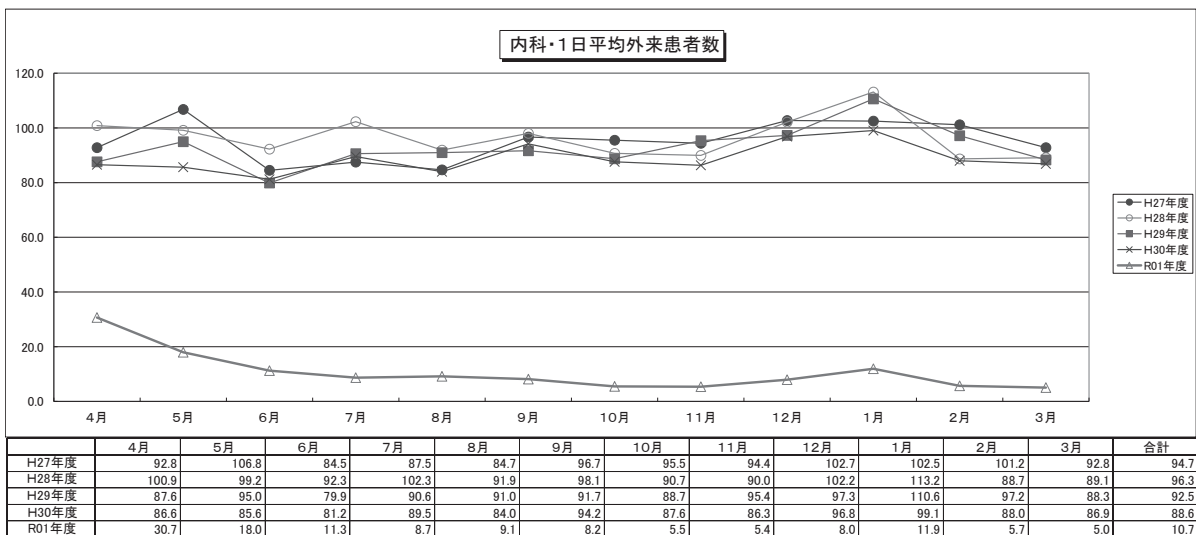
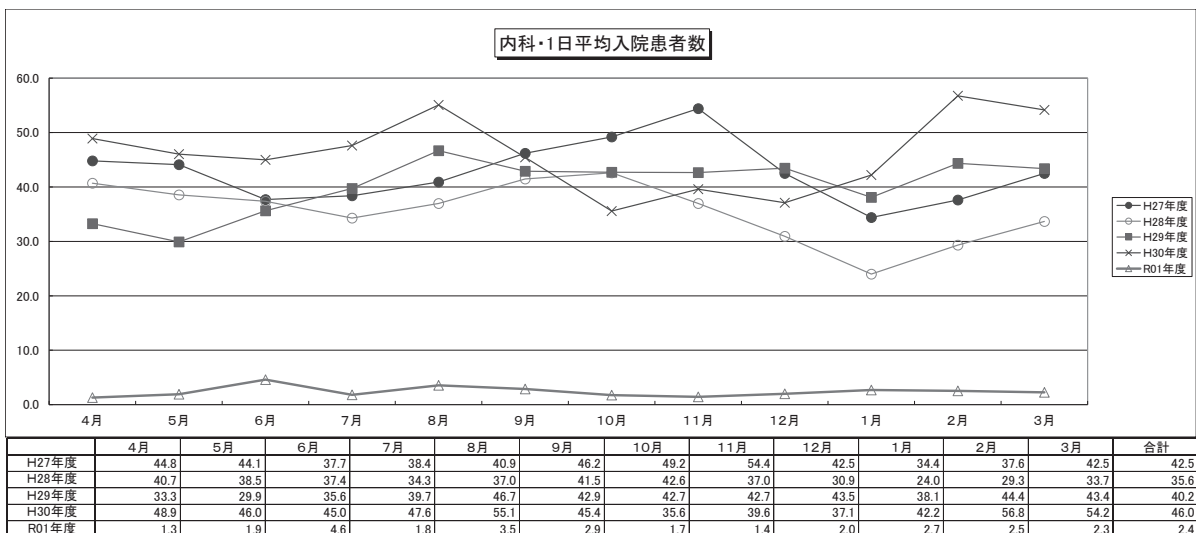
前 年 度	17,283.9	17,112.1	17,155.3	16,879.5	16,159.4	17,409.1	17,567.2	17,524.0	17,242.5	16,959.7	18,177.2	17,898.0	17,379.5
増 減 率	10.6%	7.7%	6.5%	7.8%	17.5%	14.4%	11.7%	12.6%	12.2%	4.9%	11.7%	8.1%	11.8%

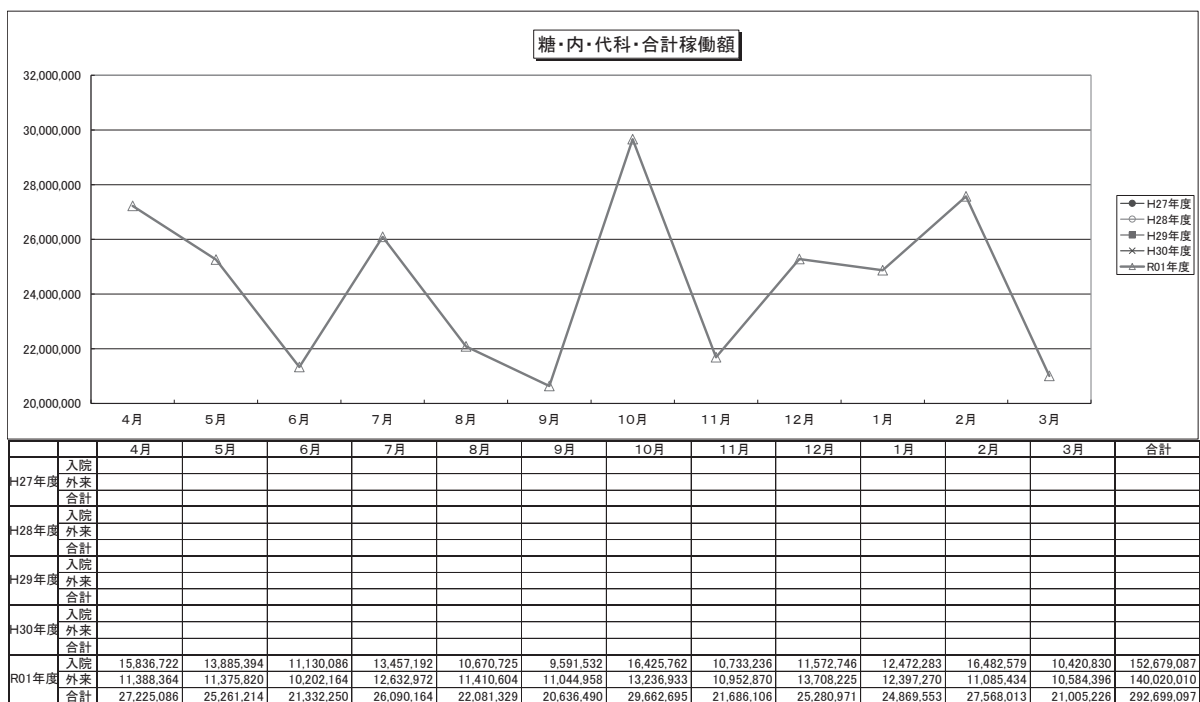
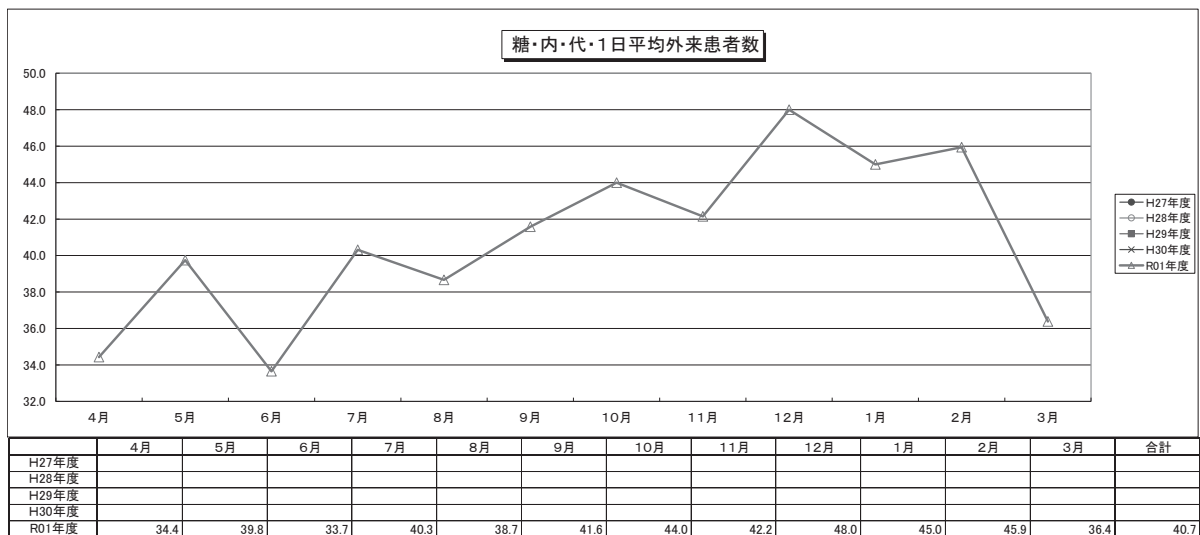
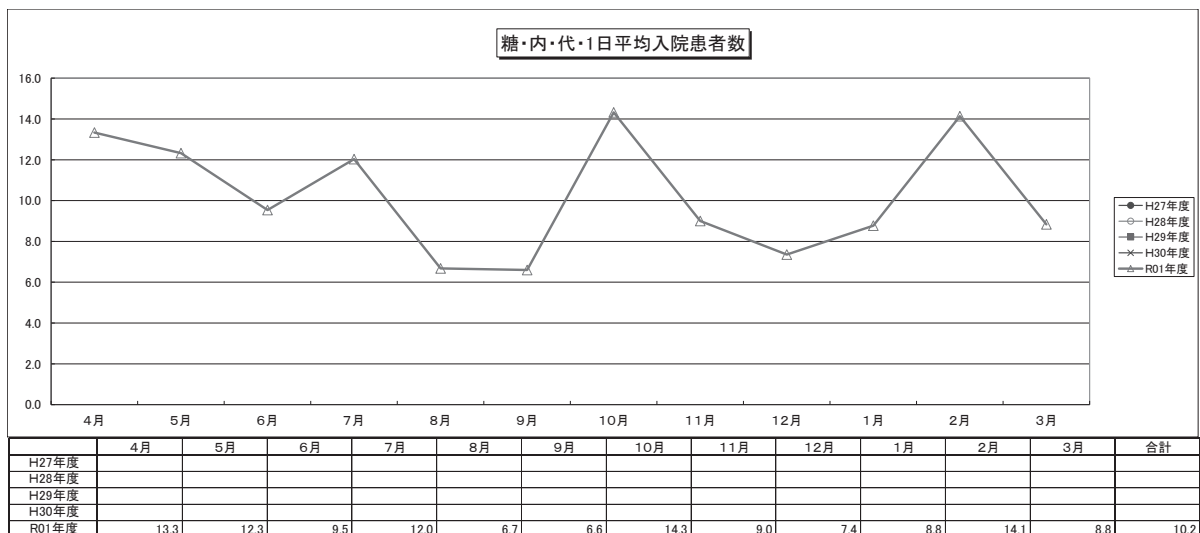


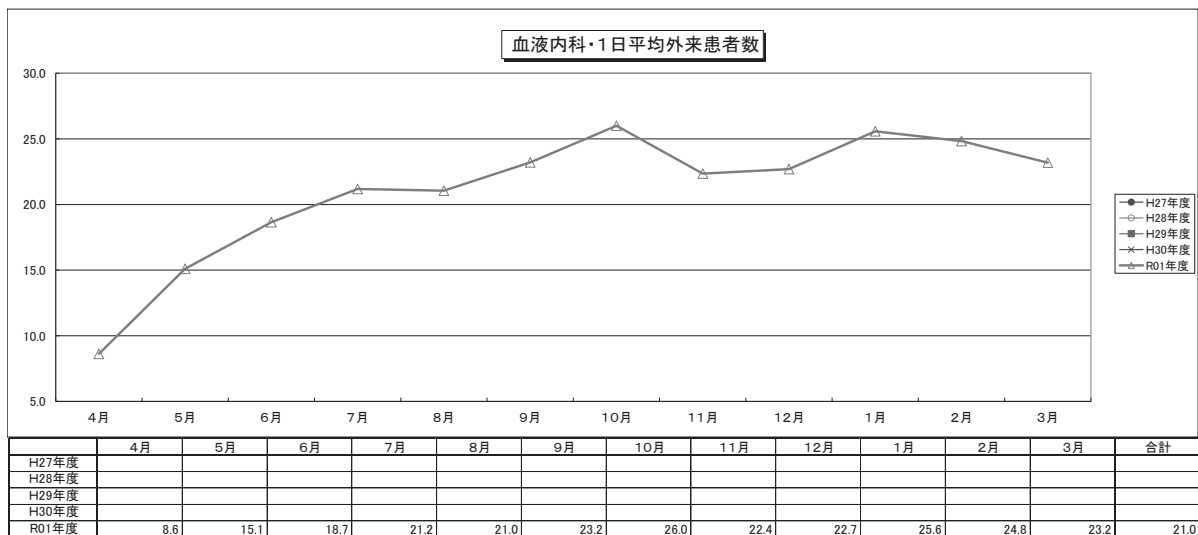
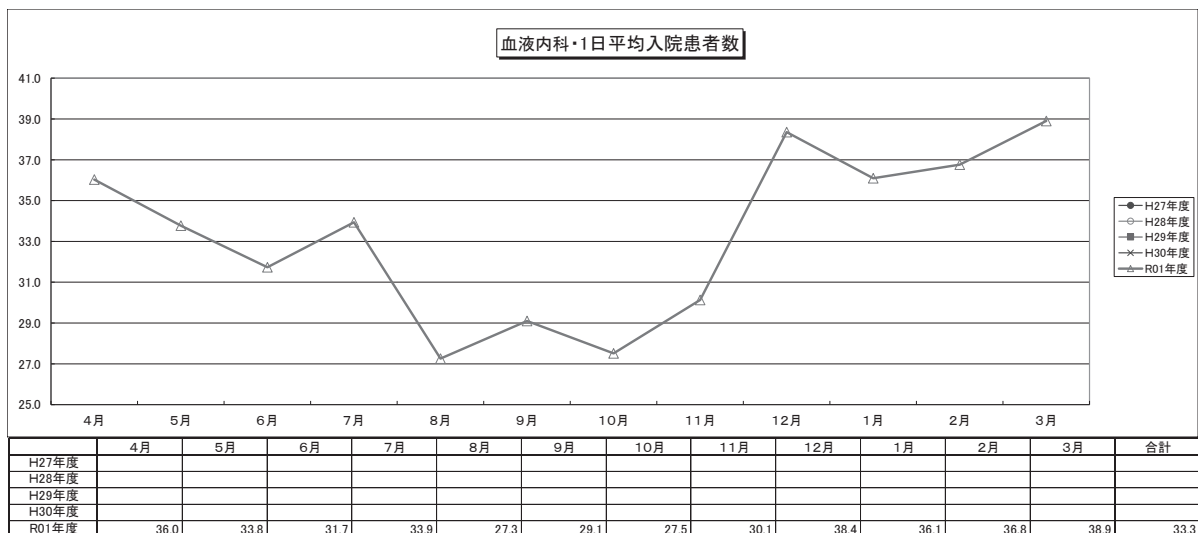


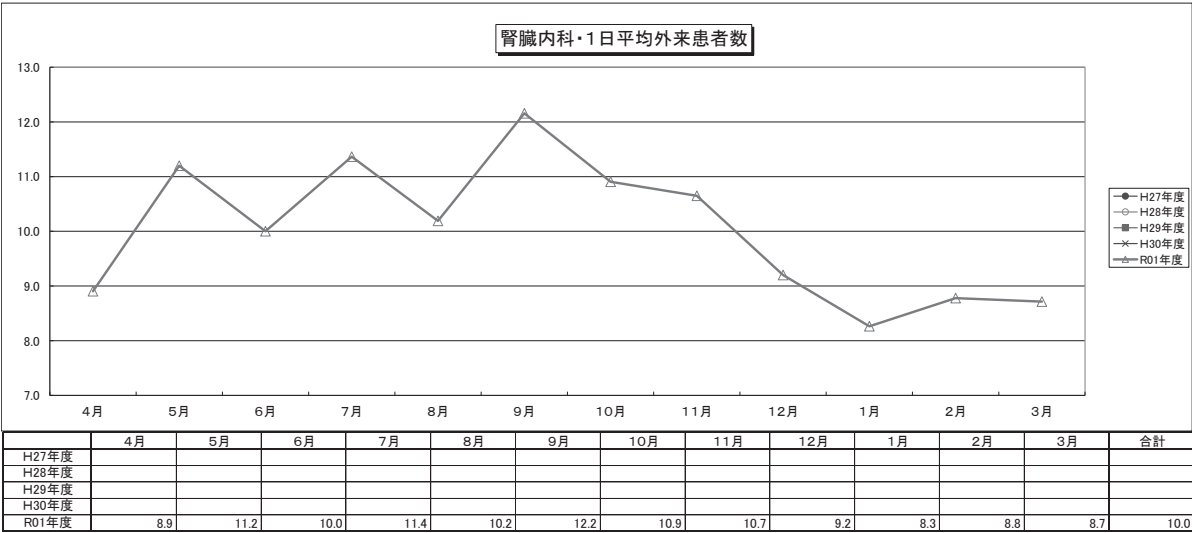
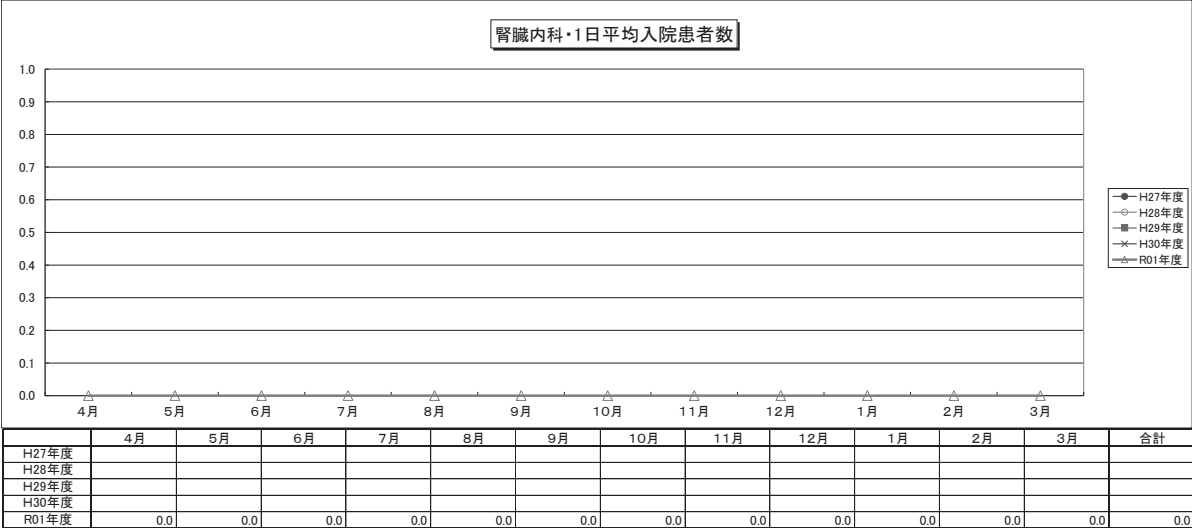


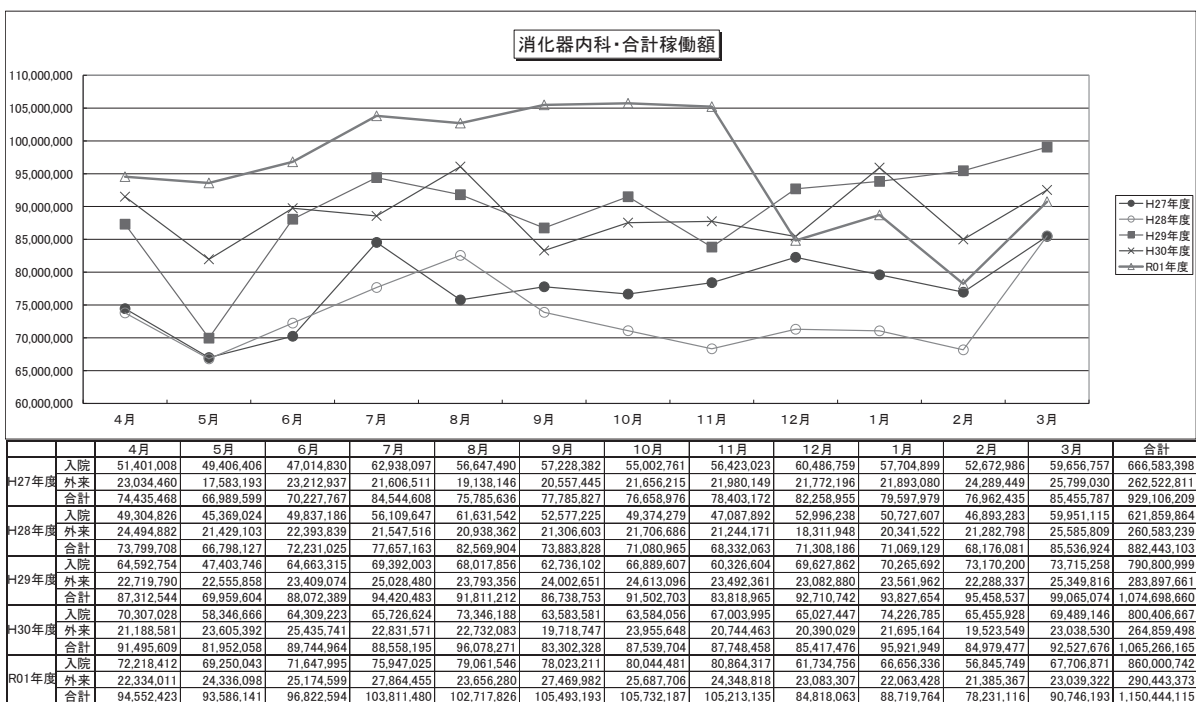
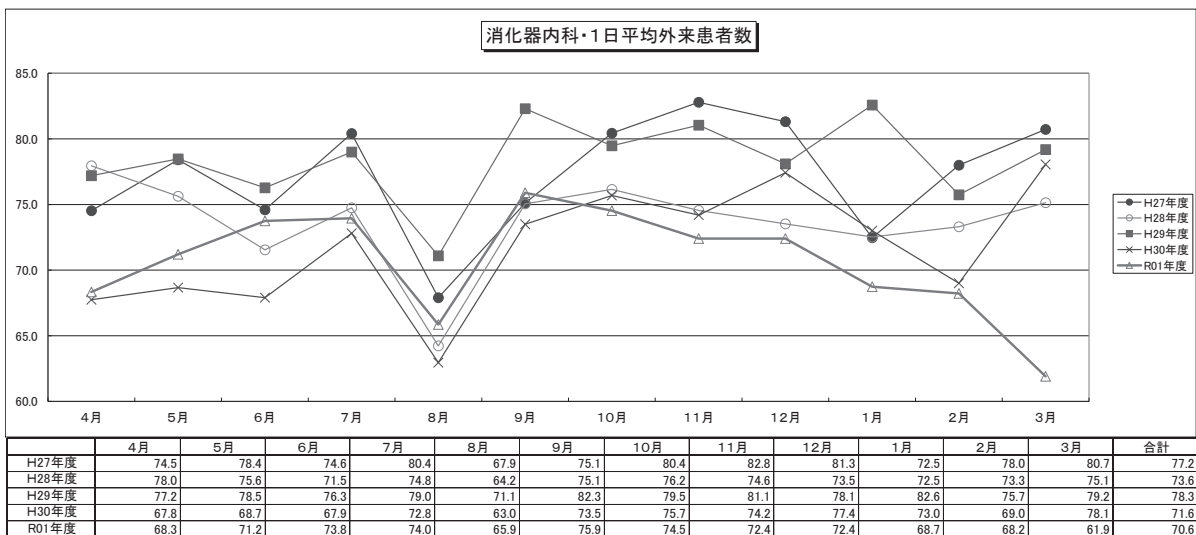
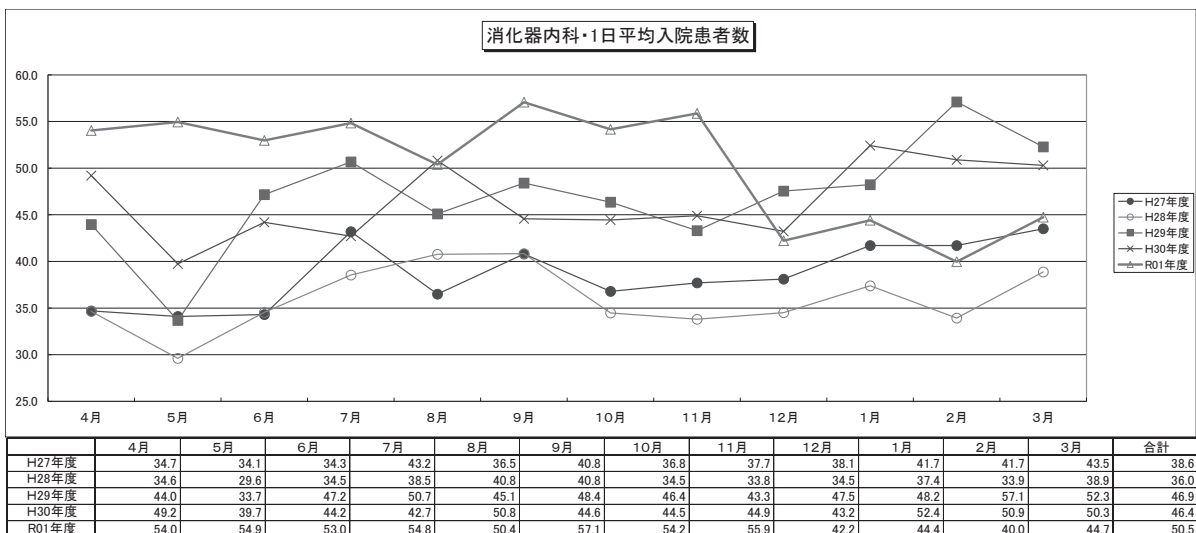


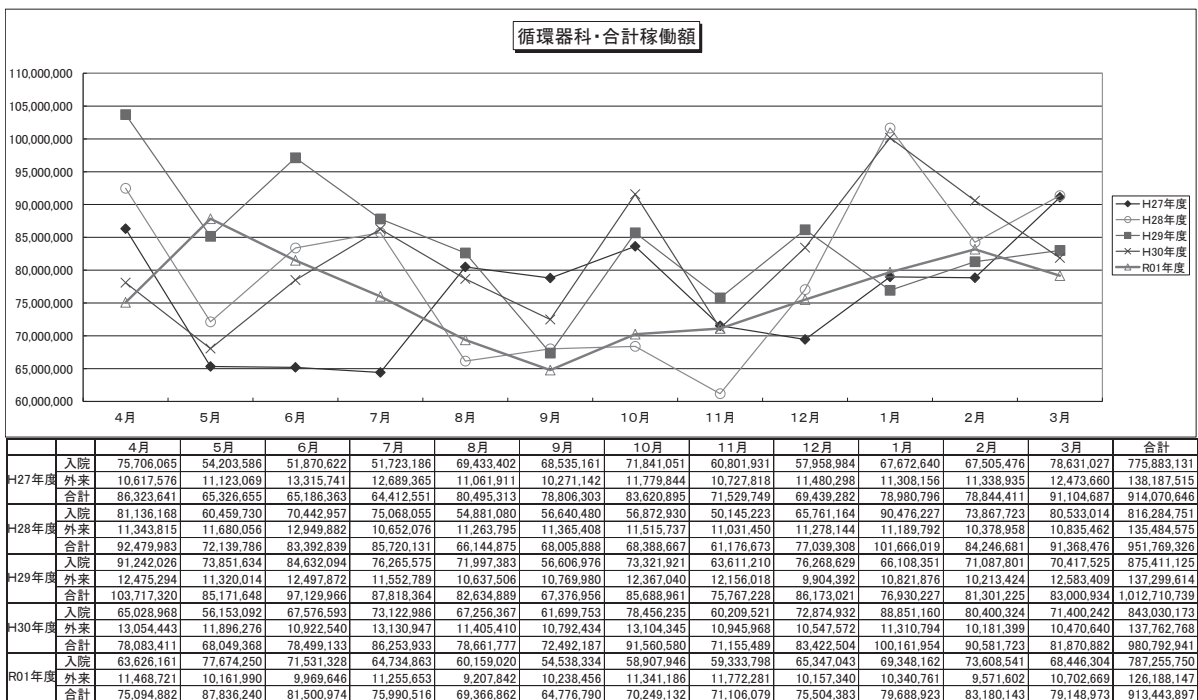
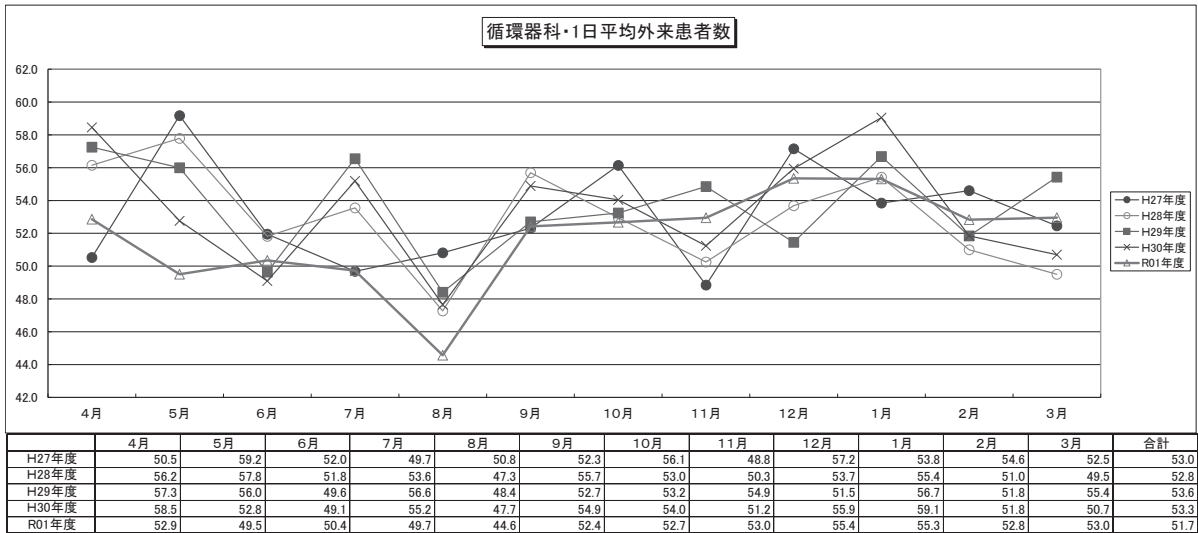
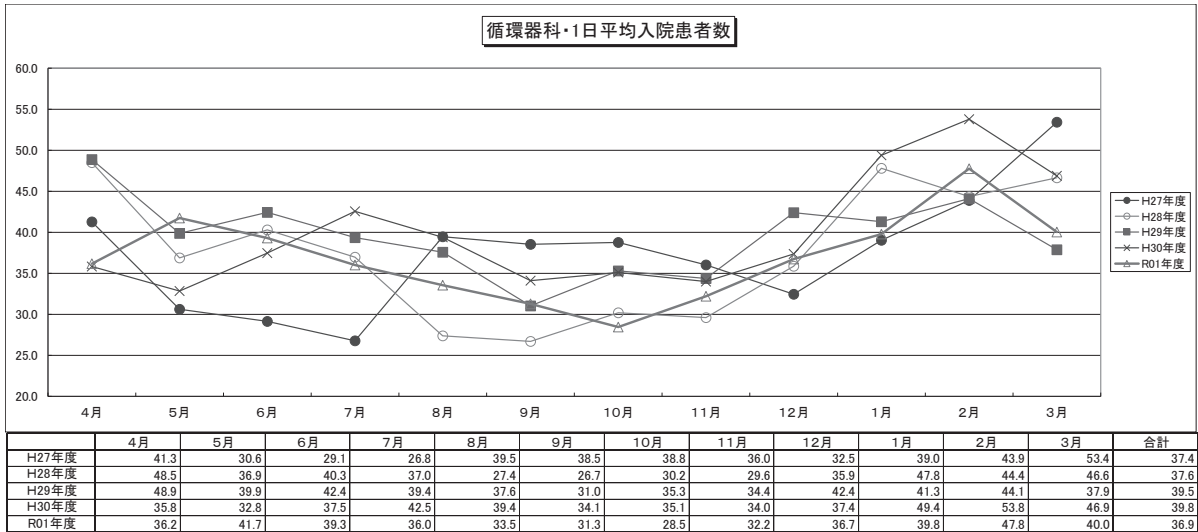


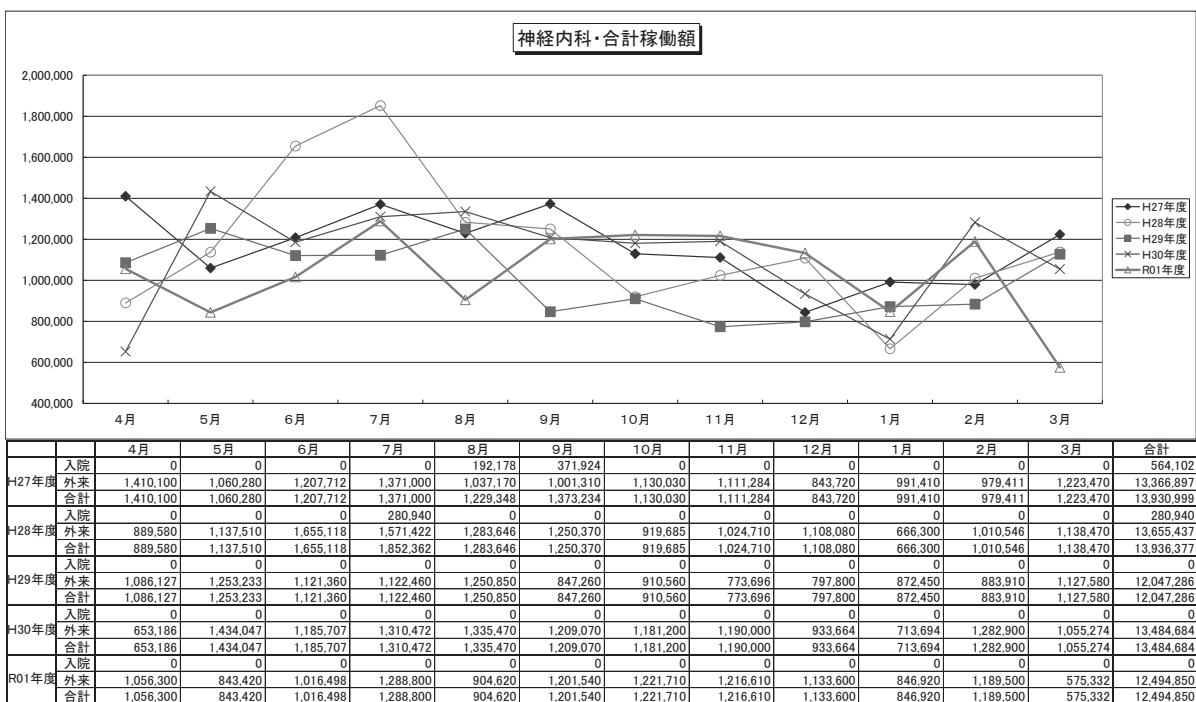
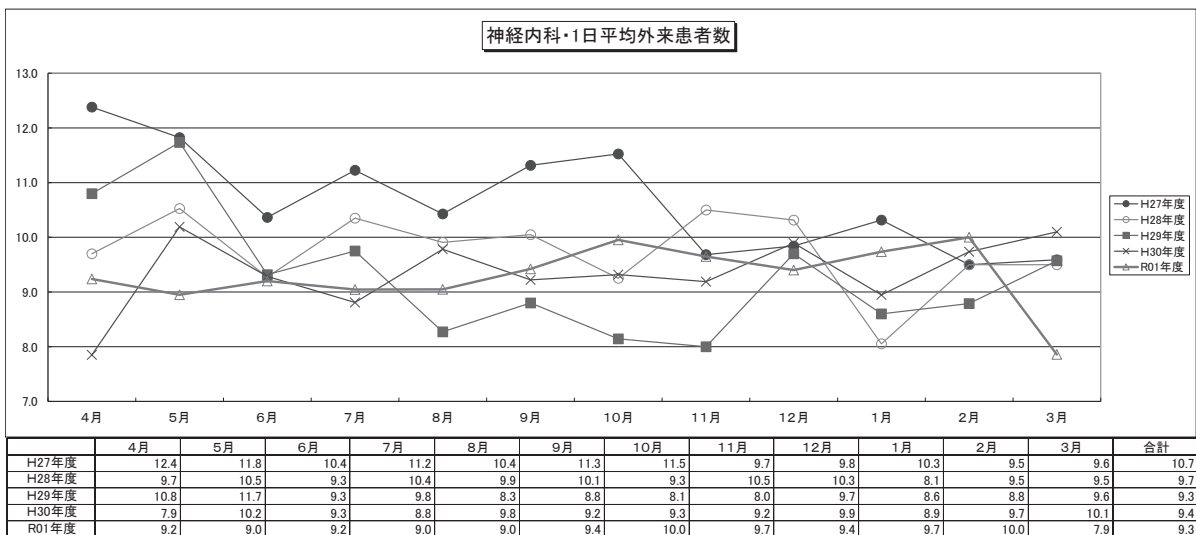
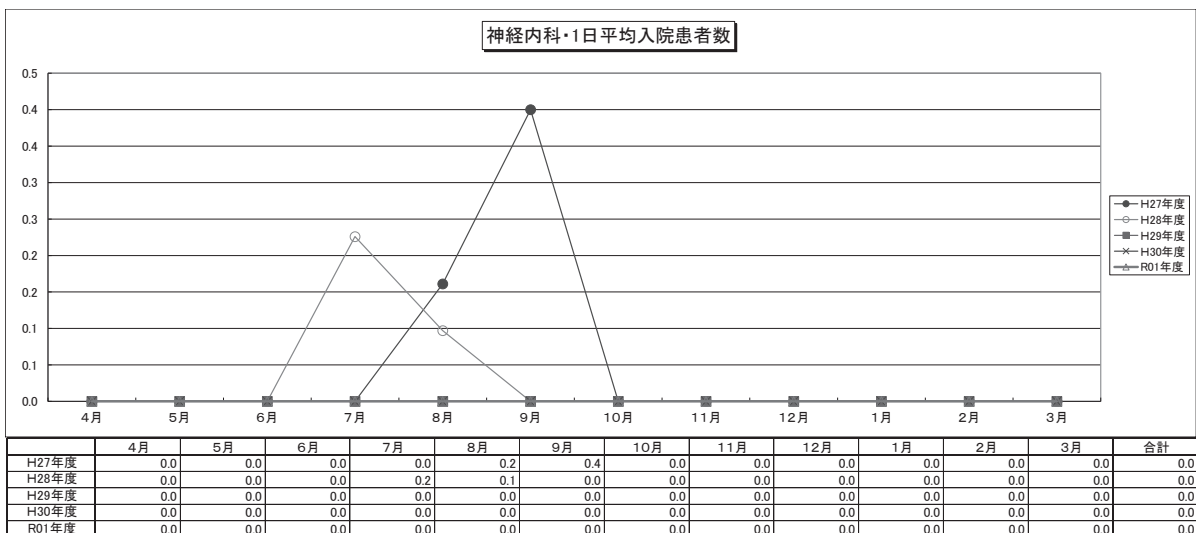


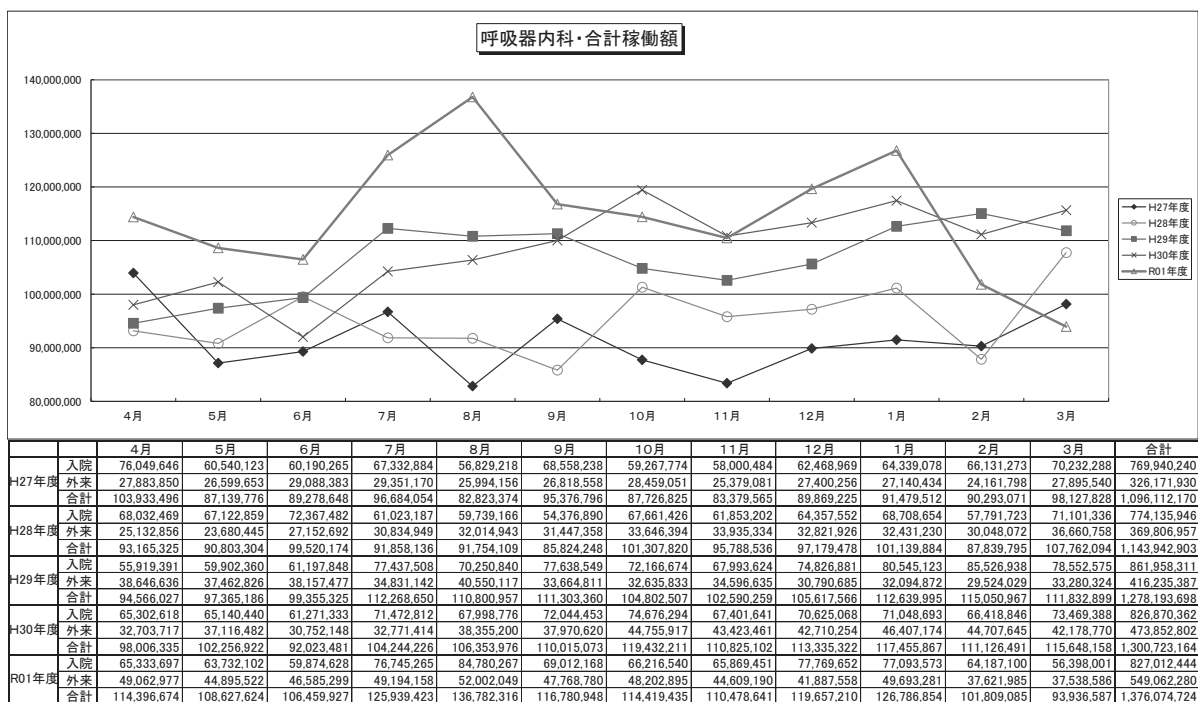
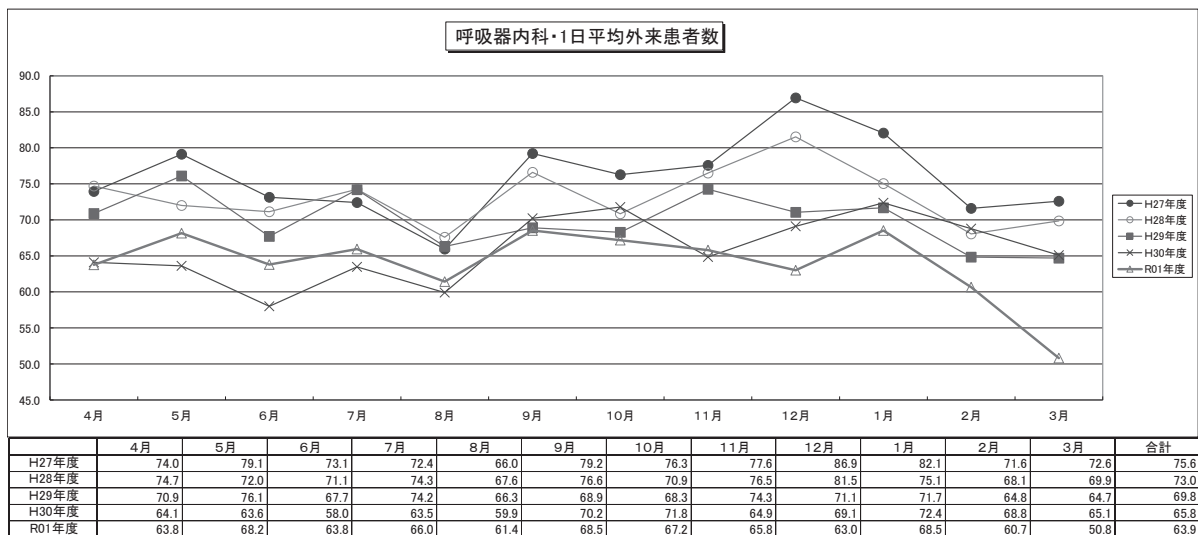
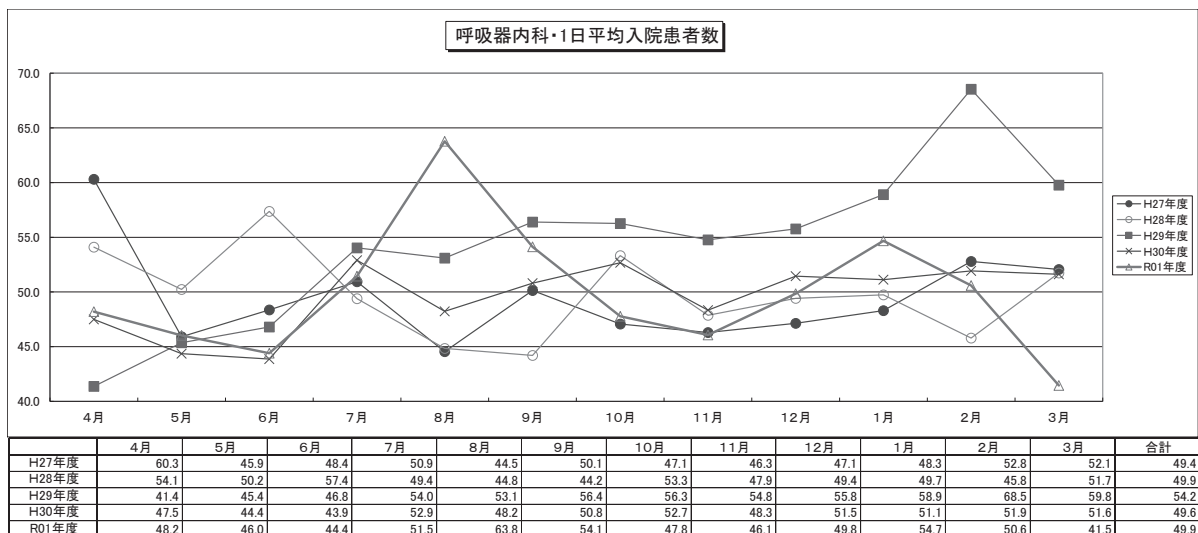


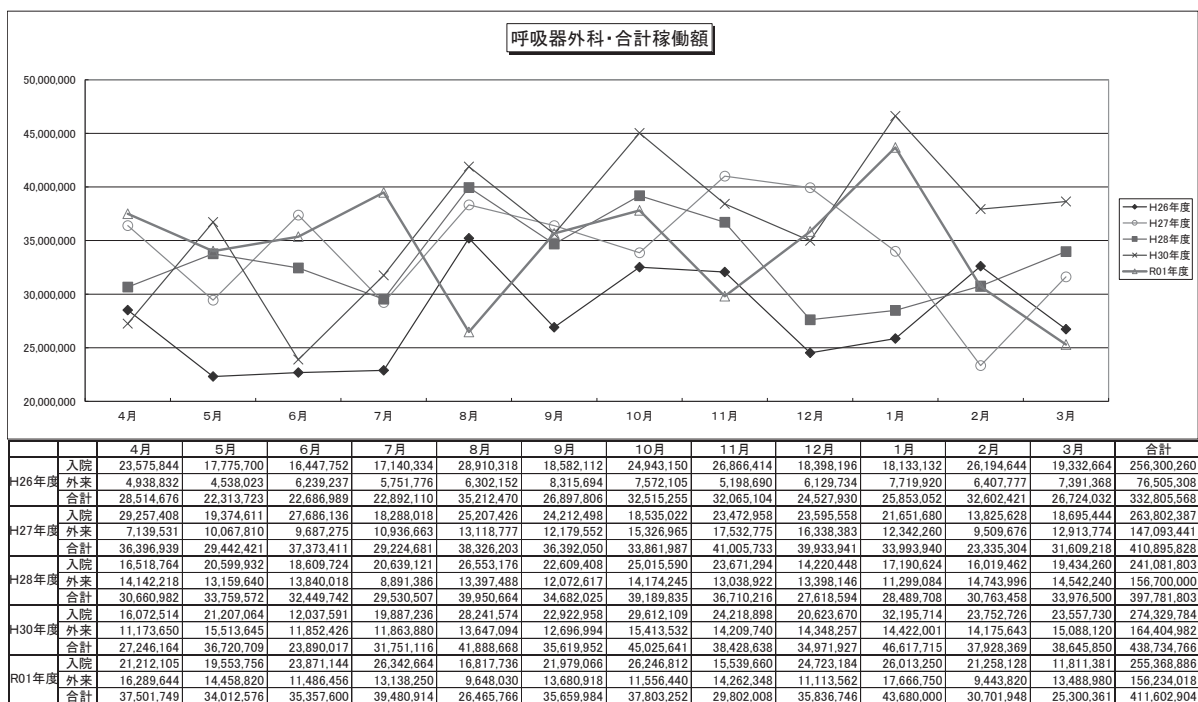
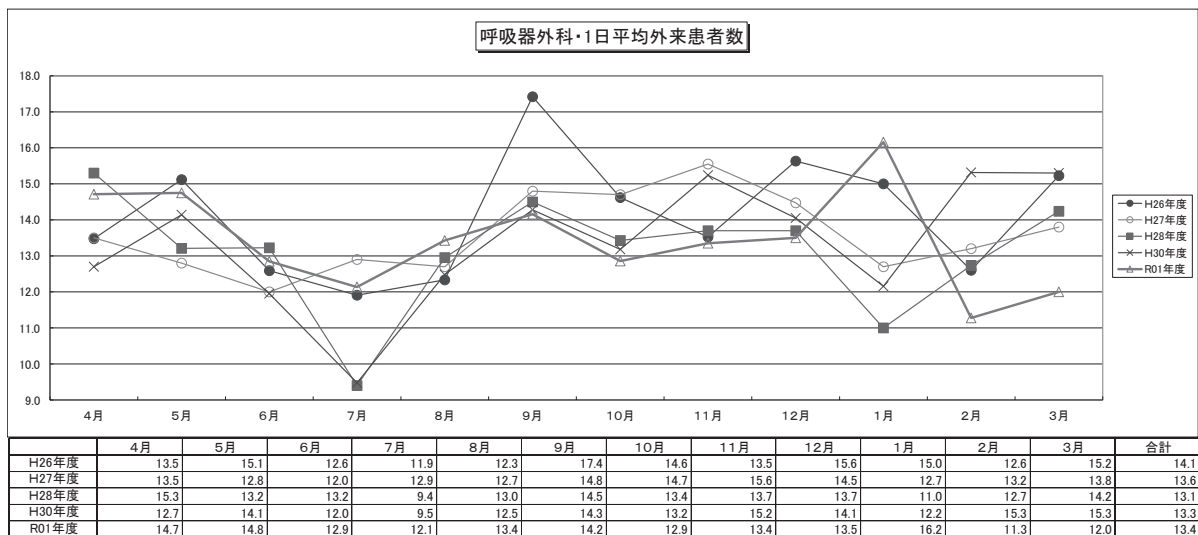
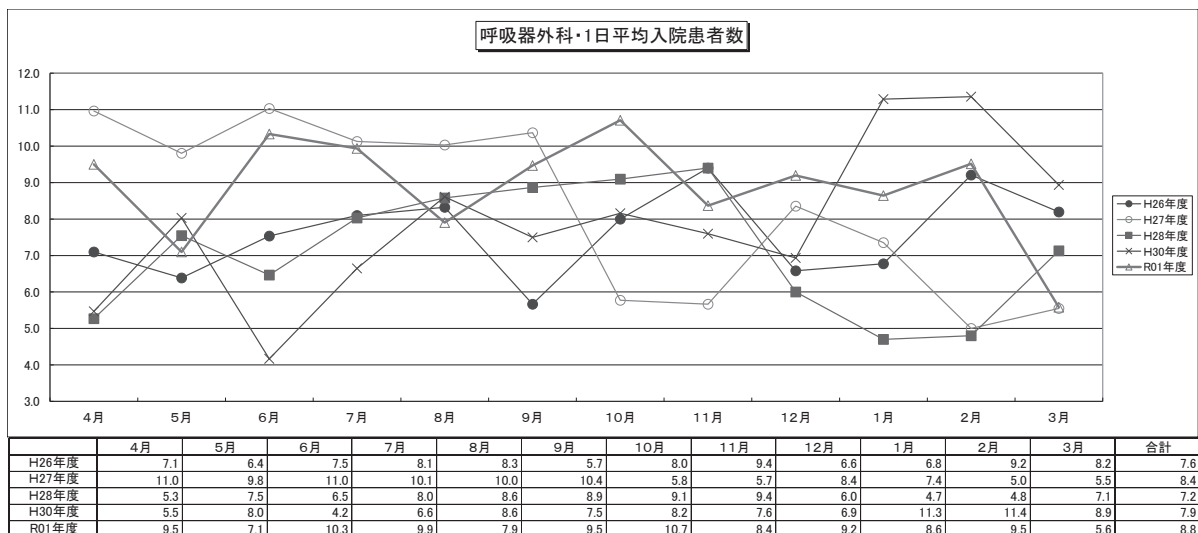


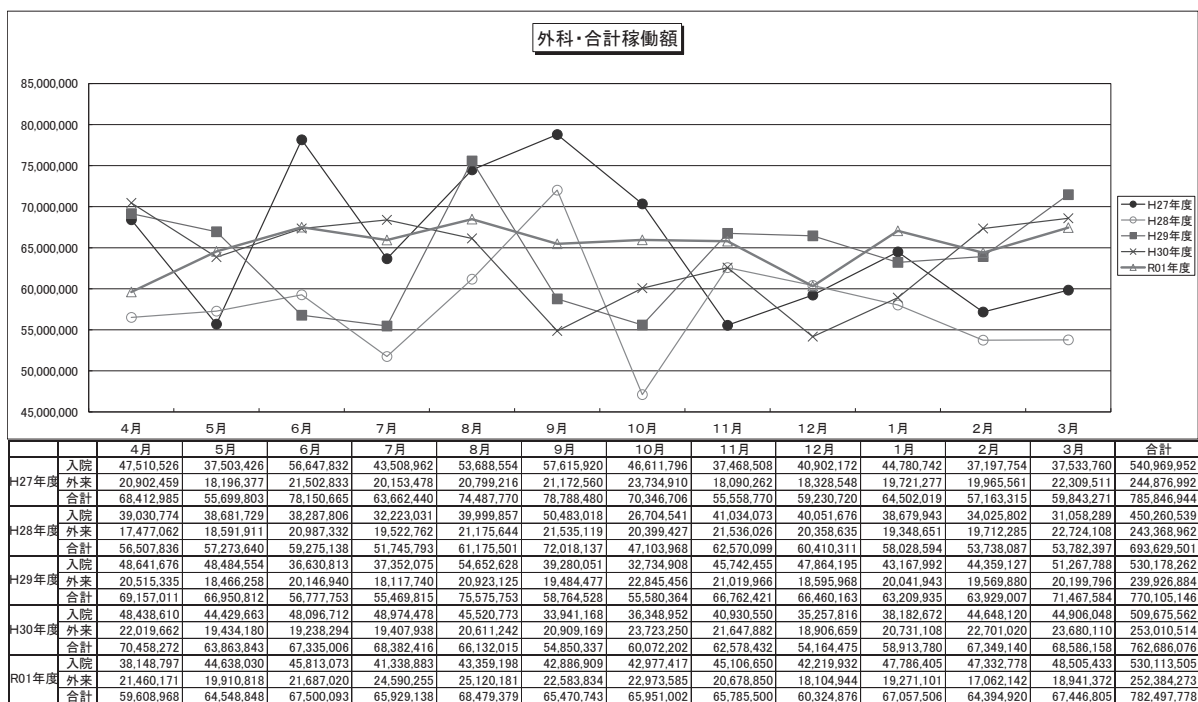
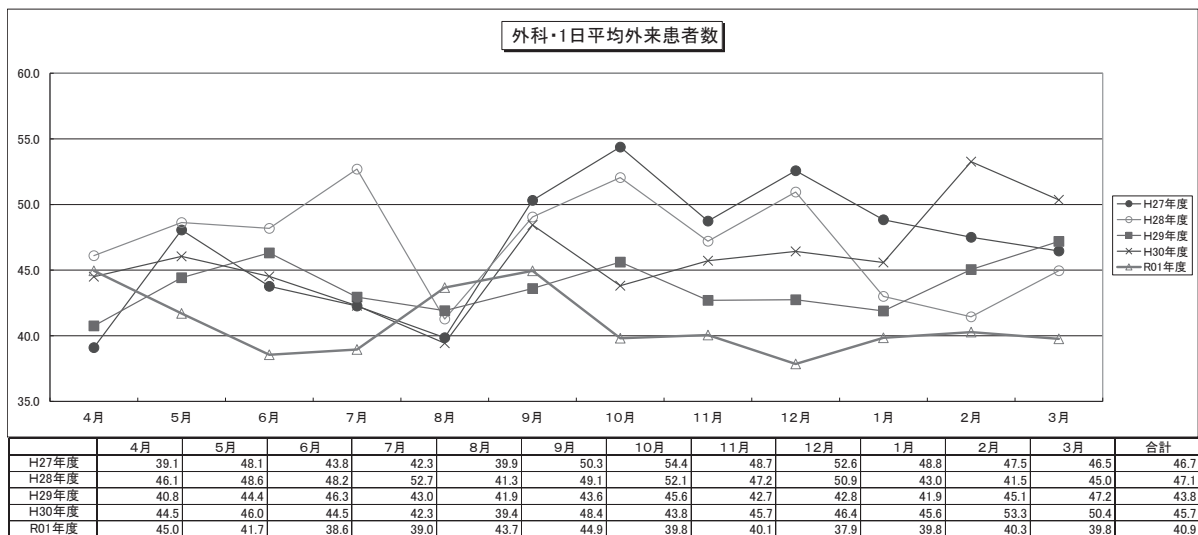
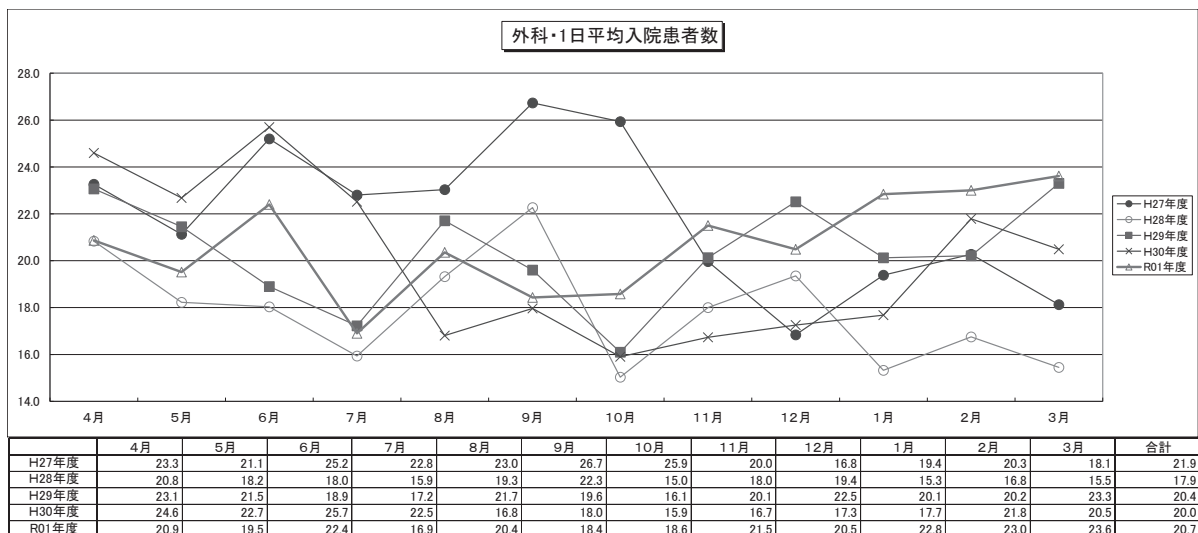


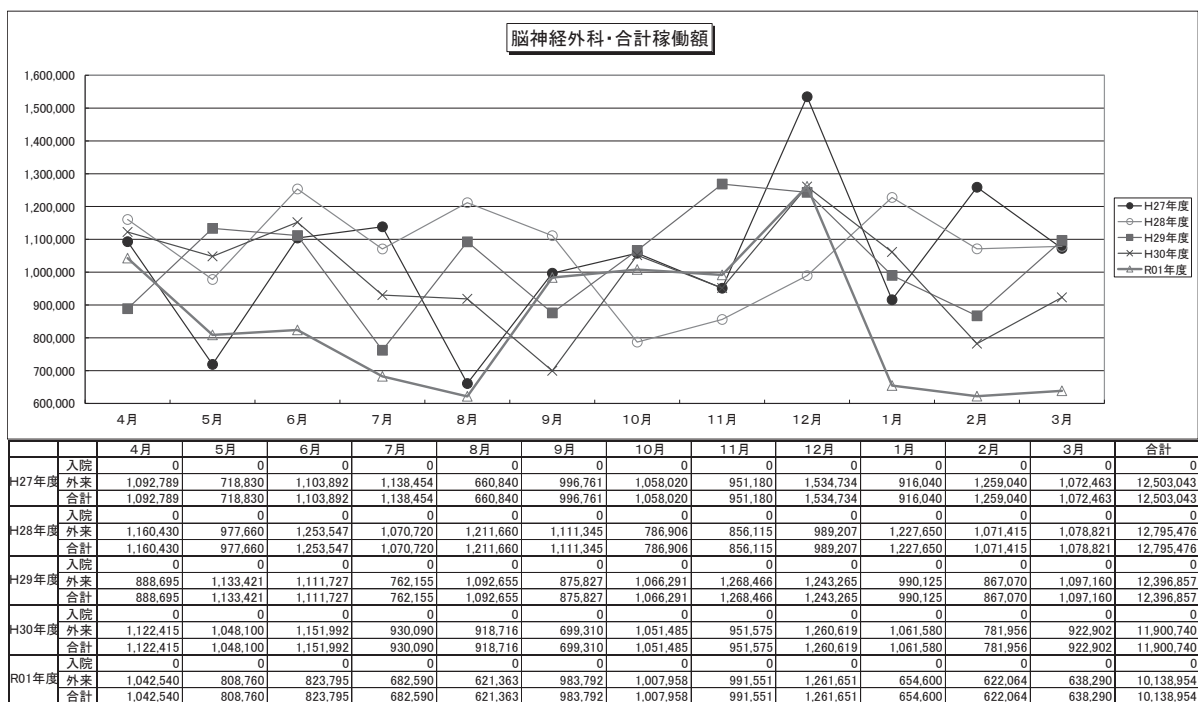
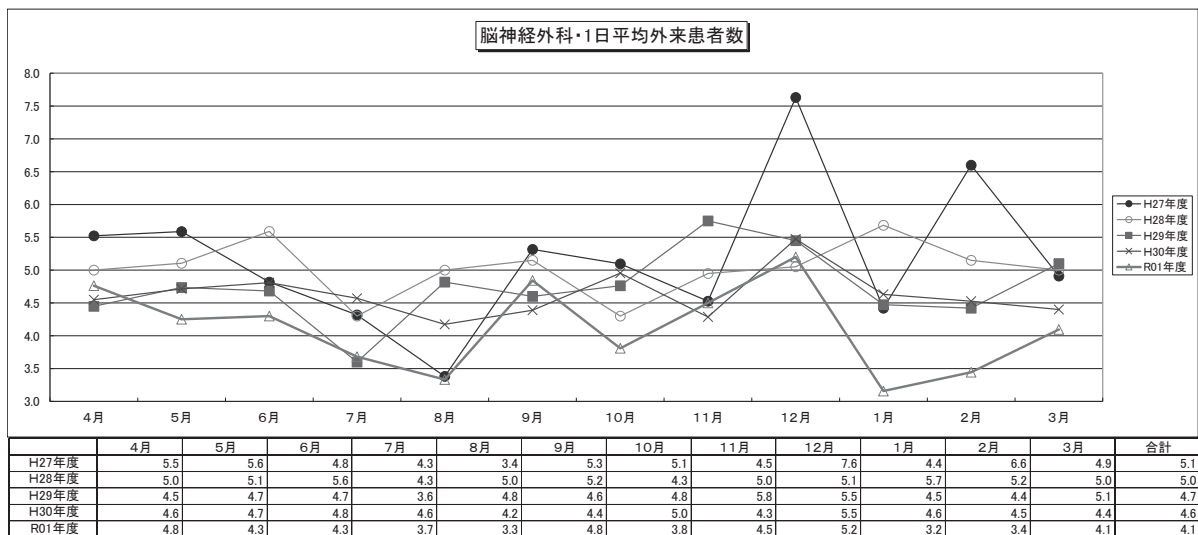
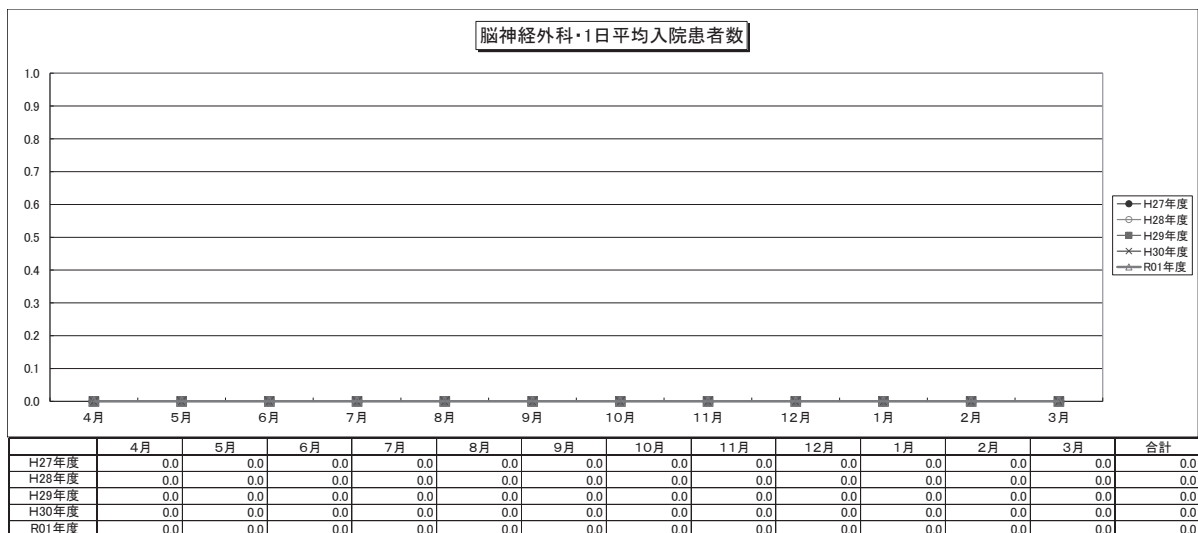


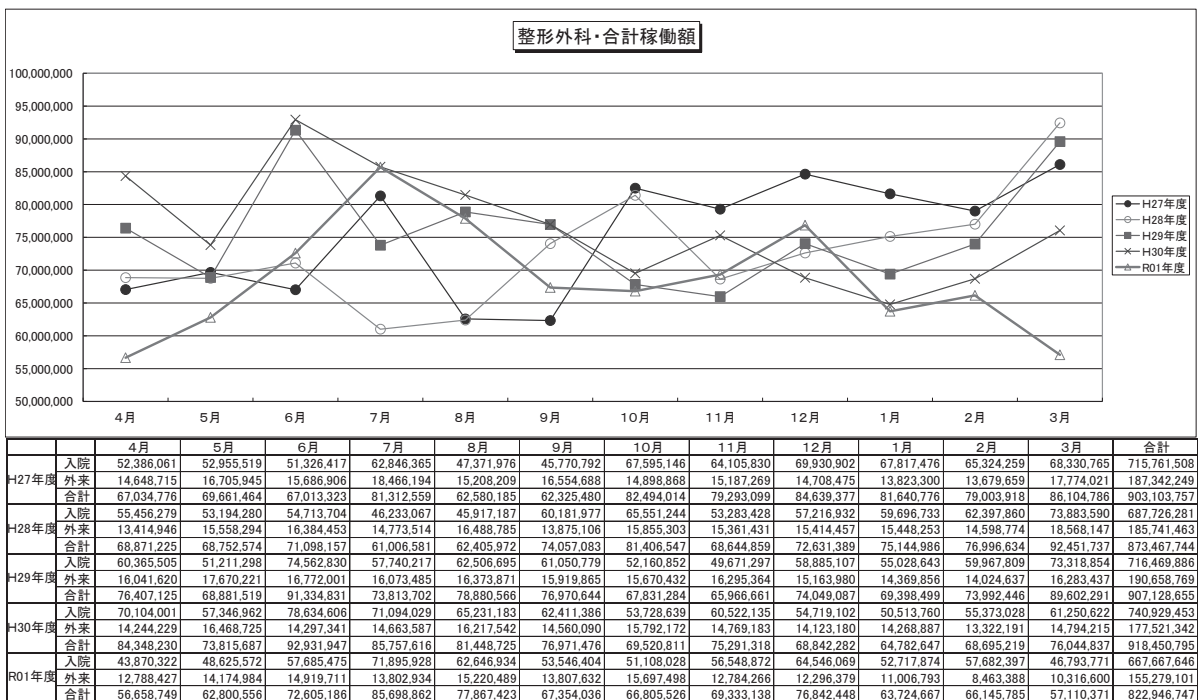
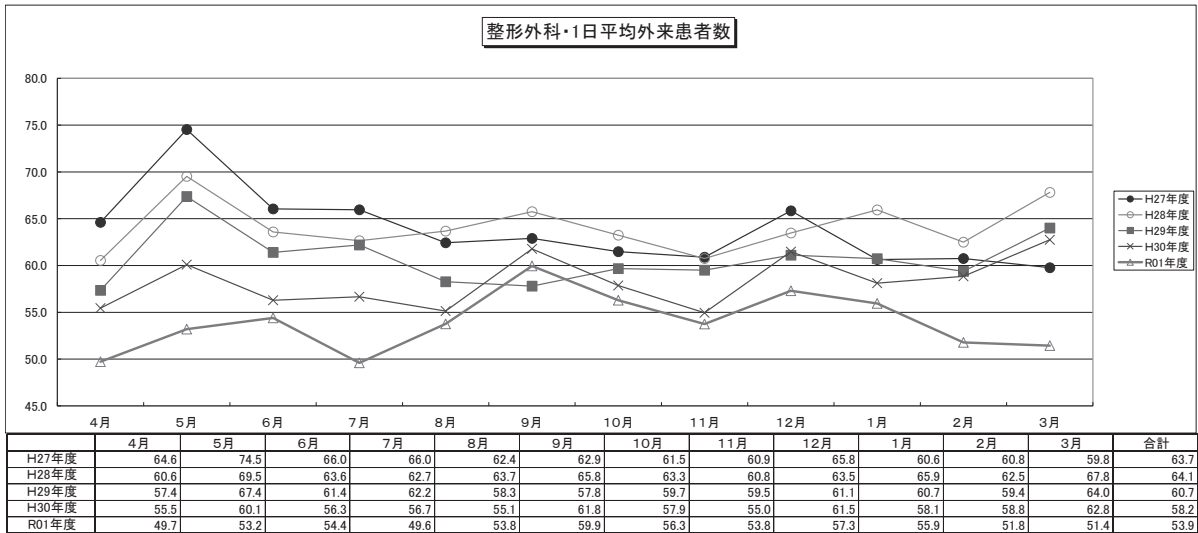
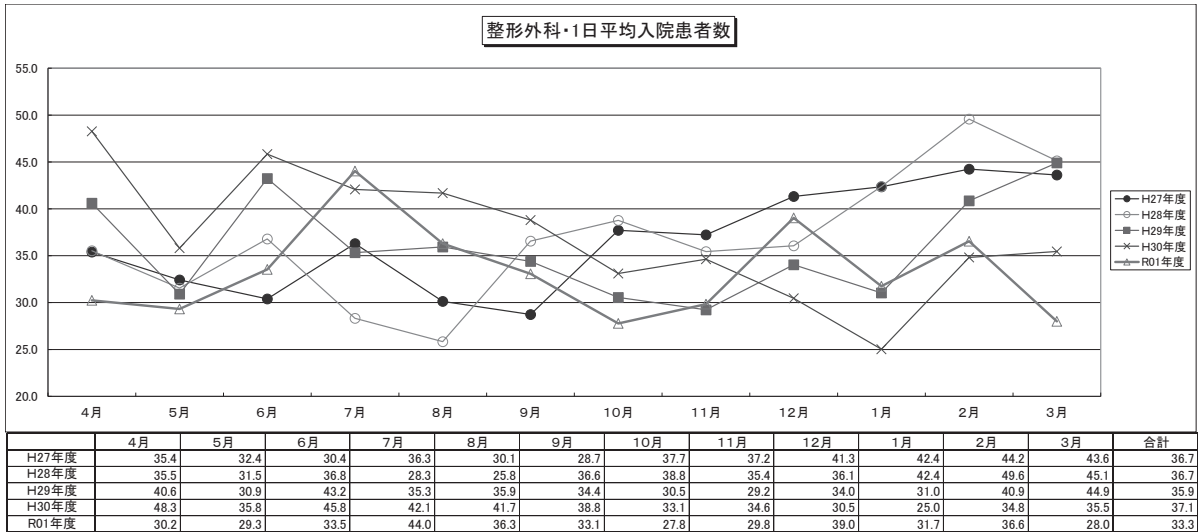


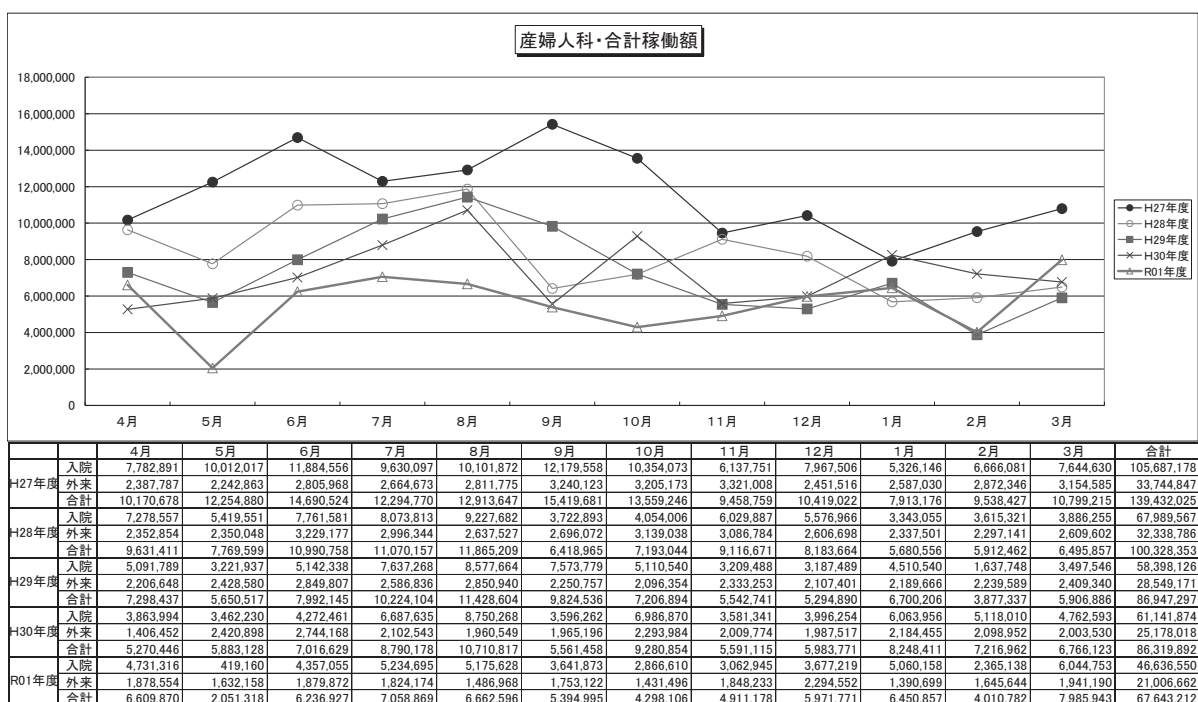
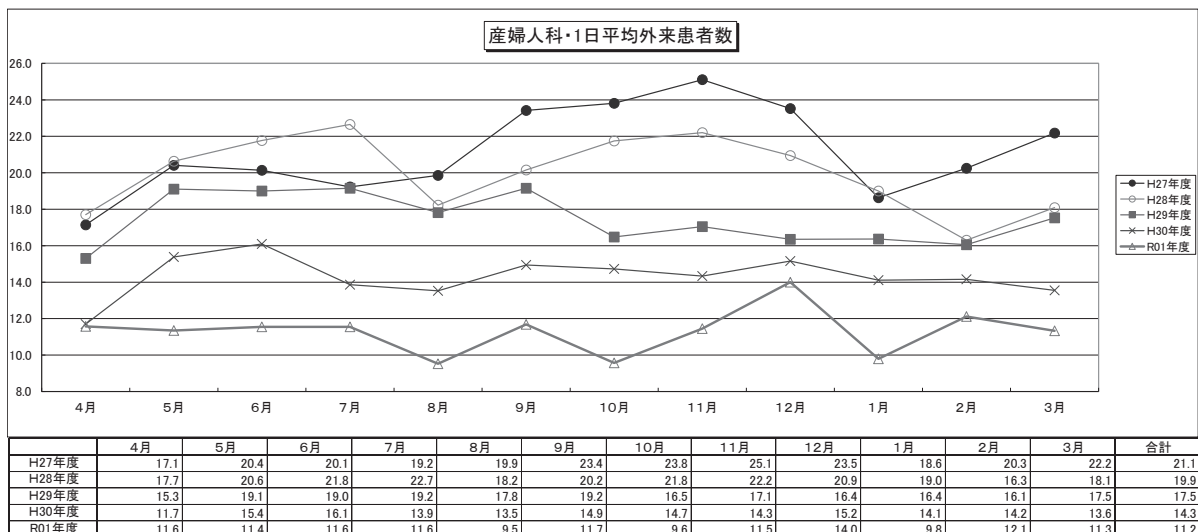
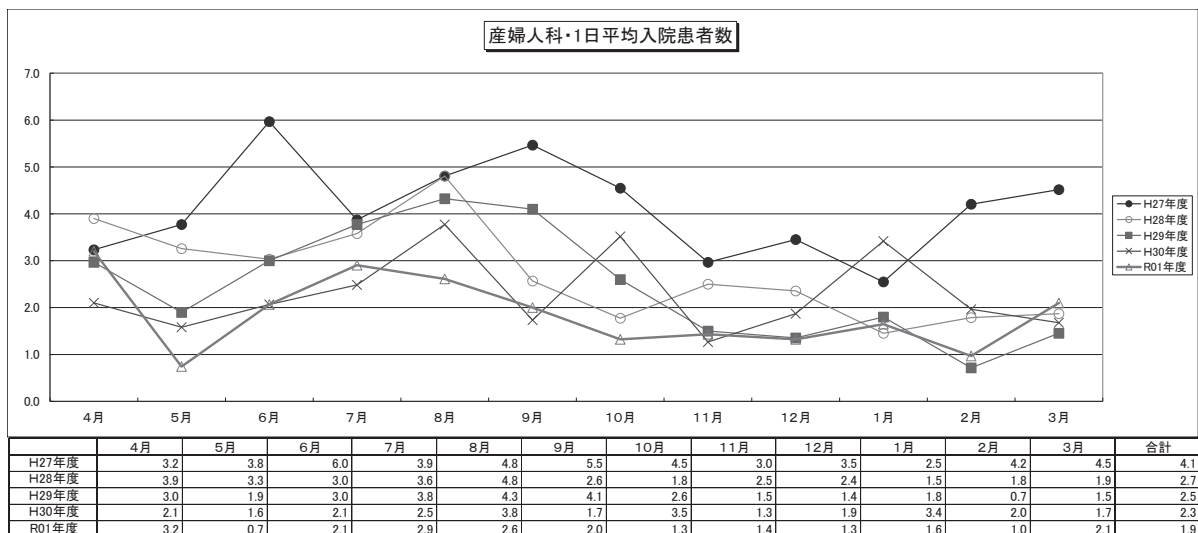


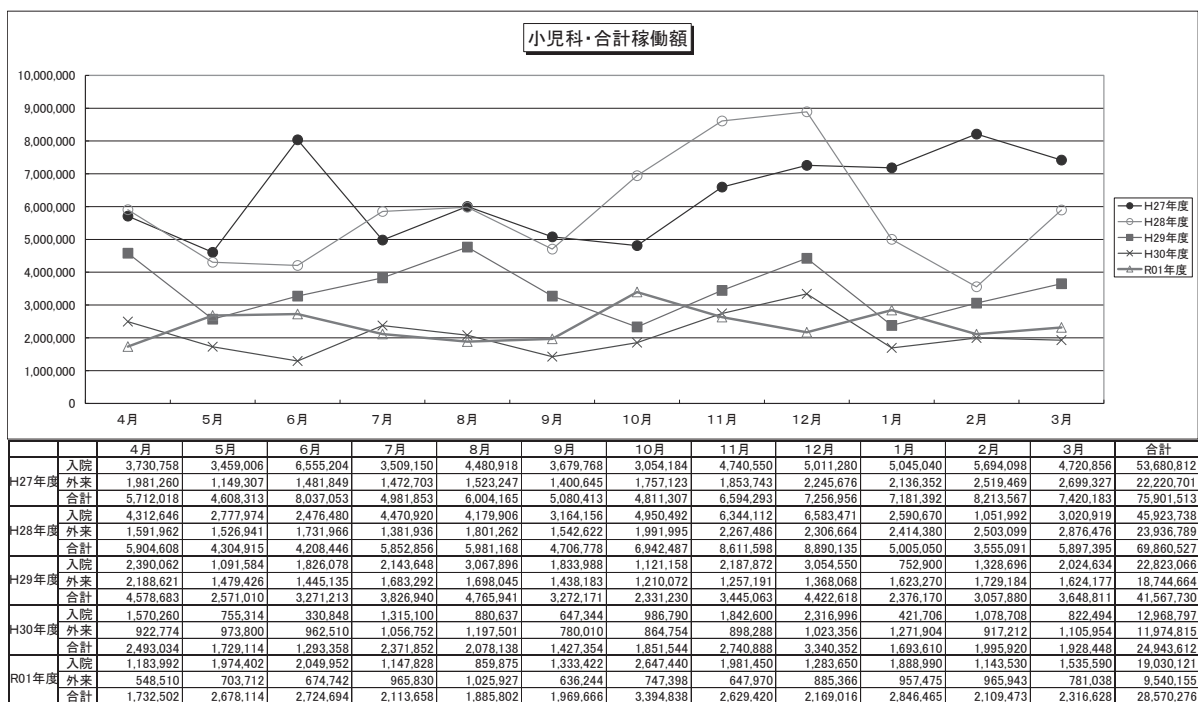
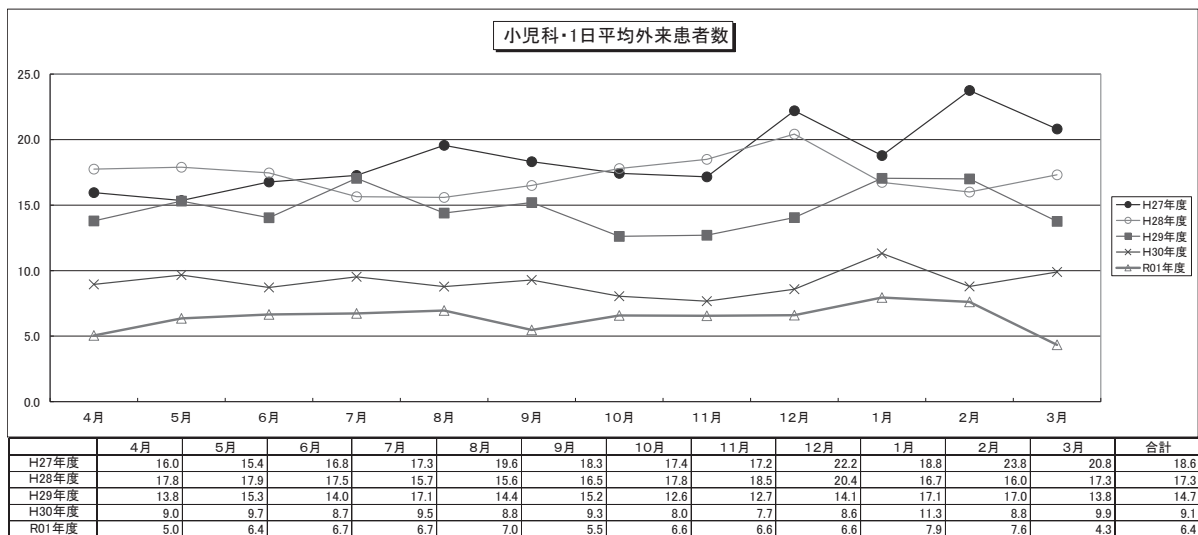
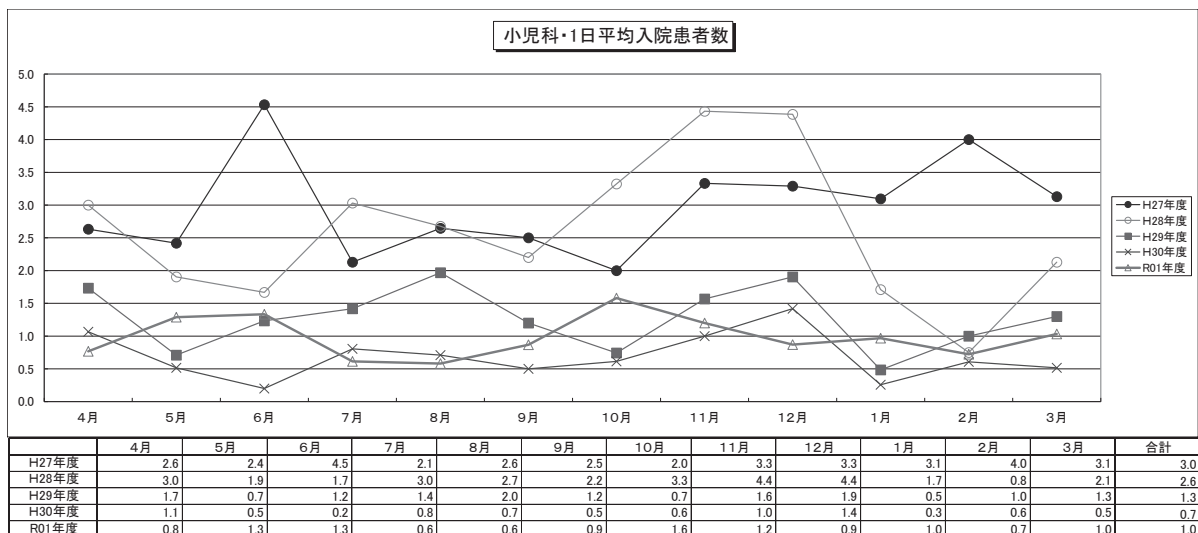


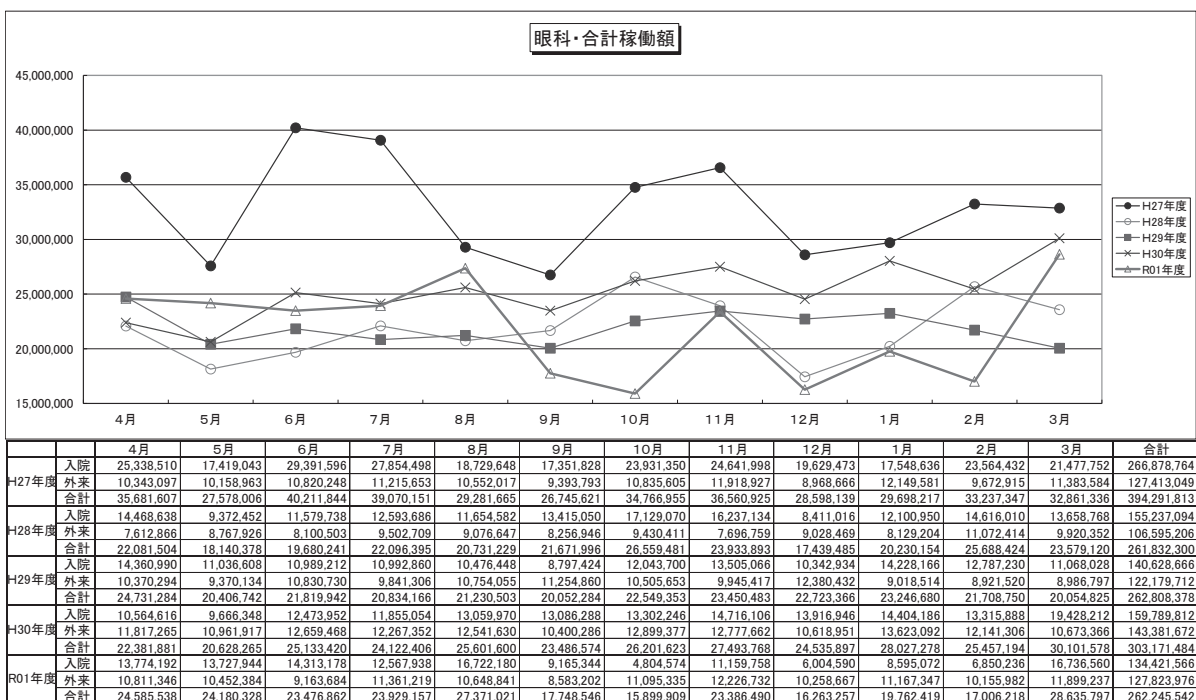
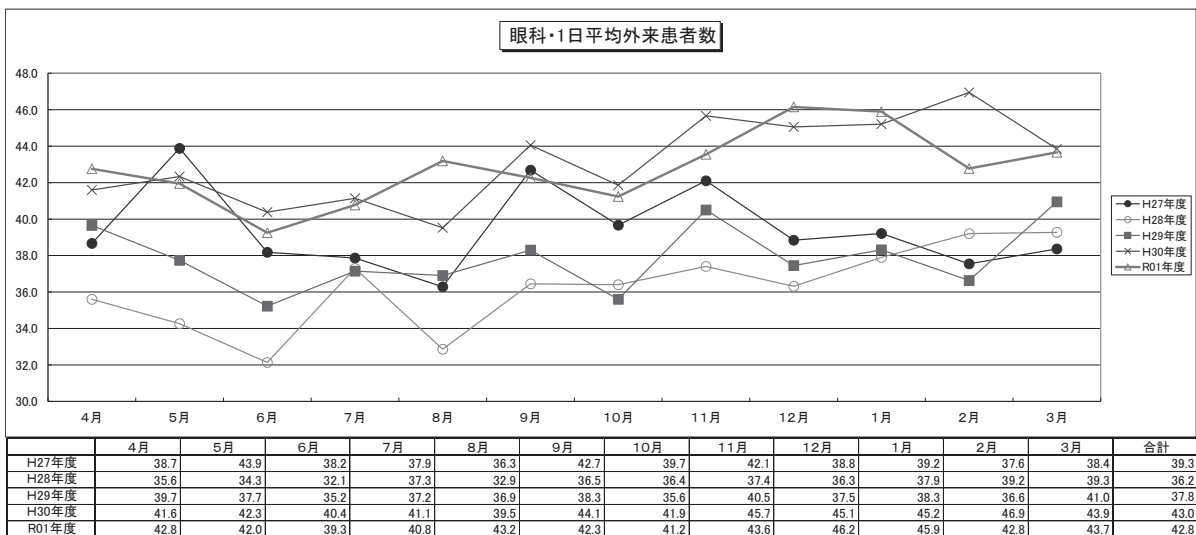
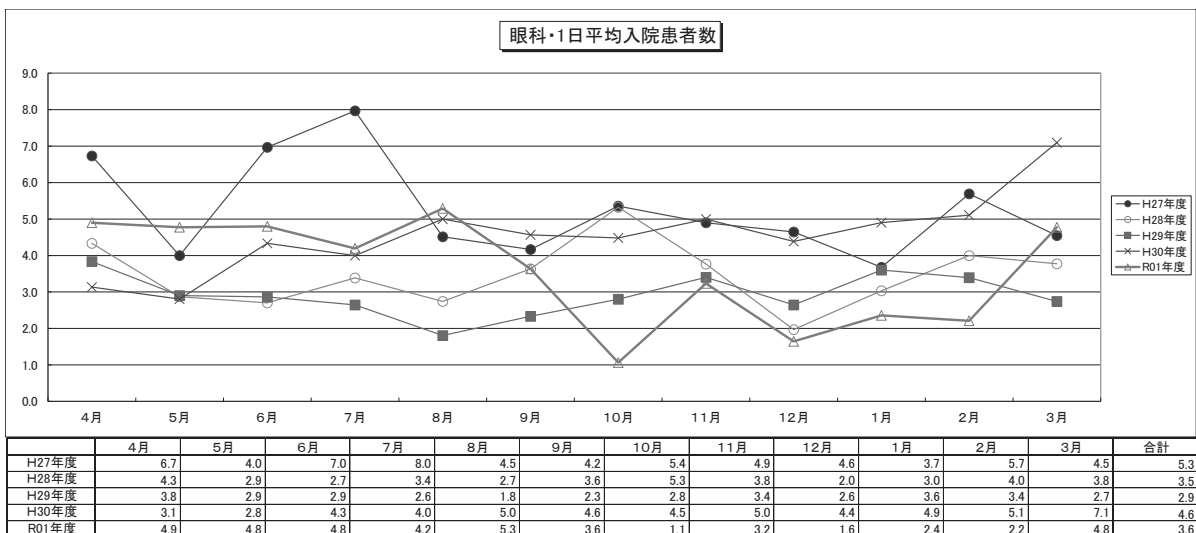


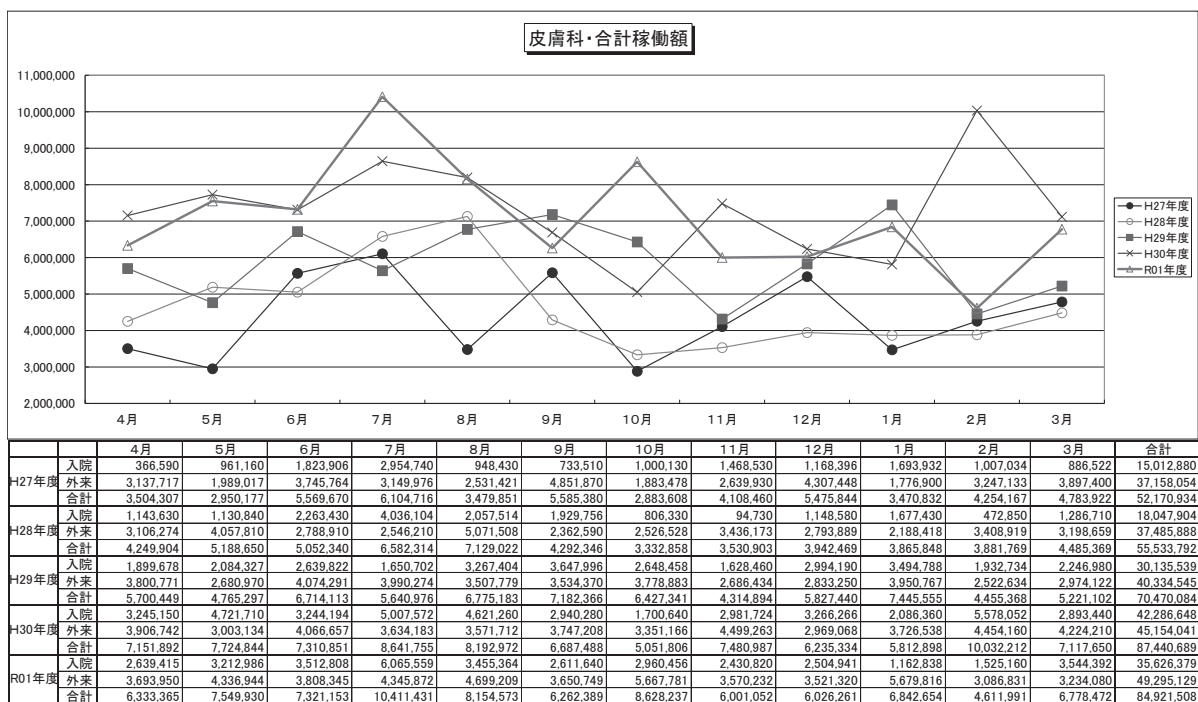
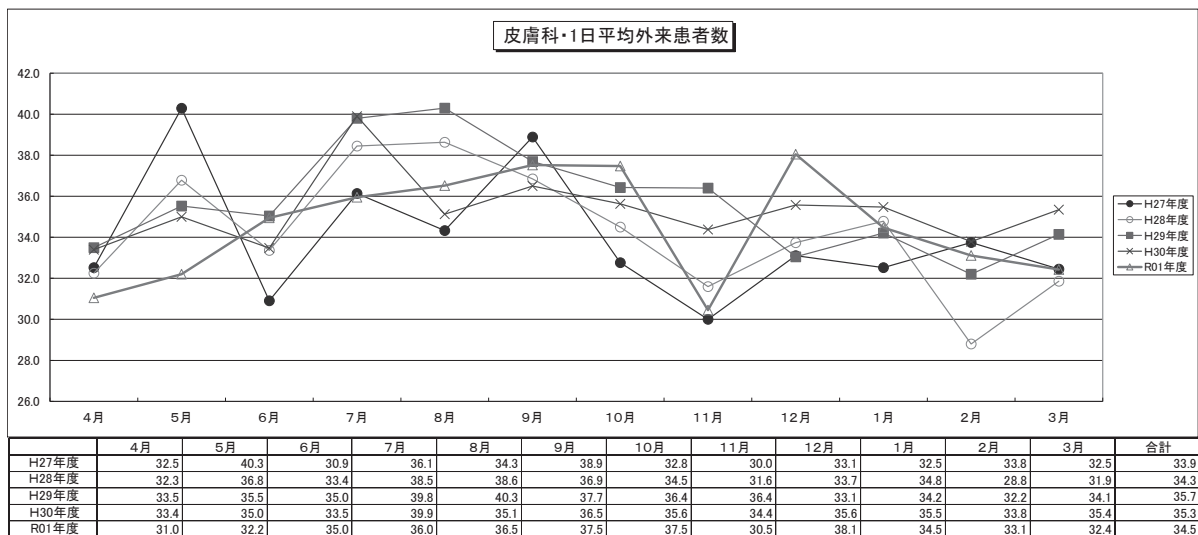
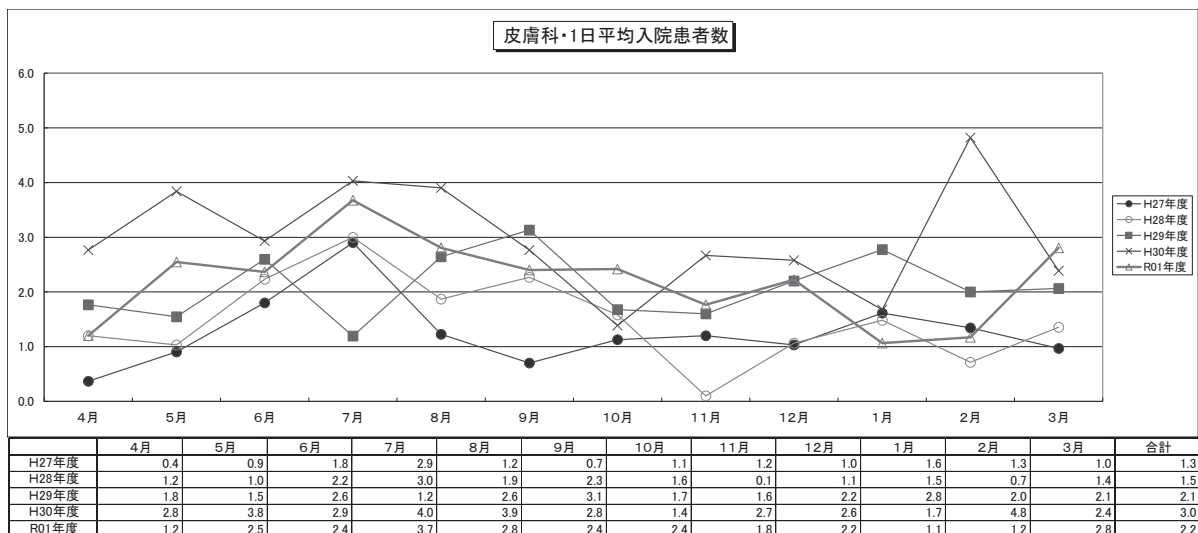


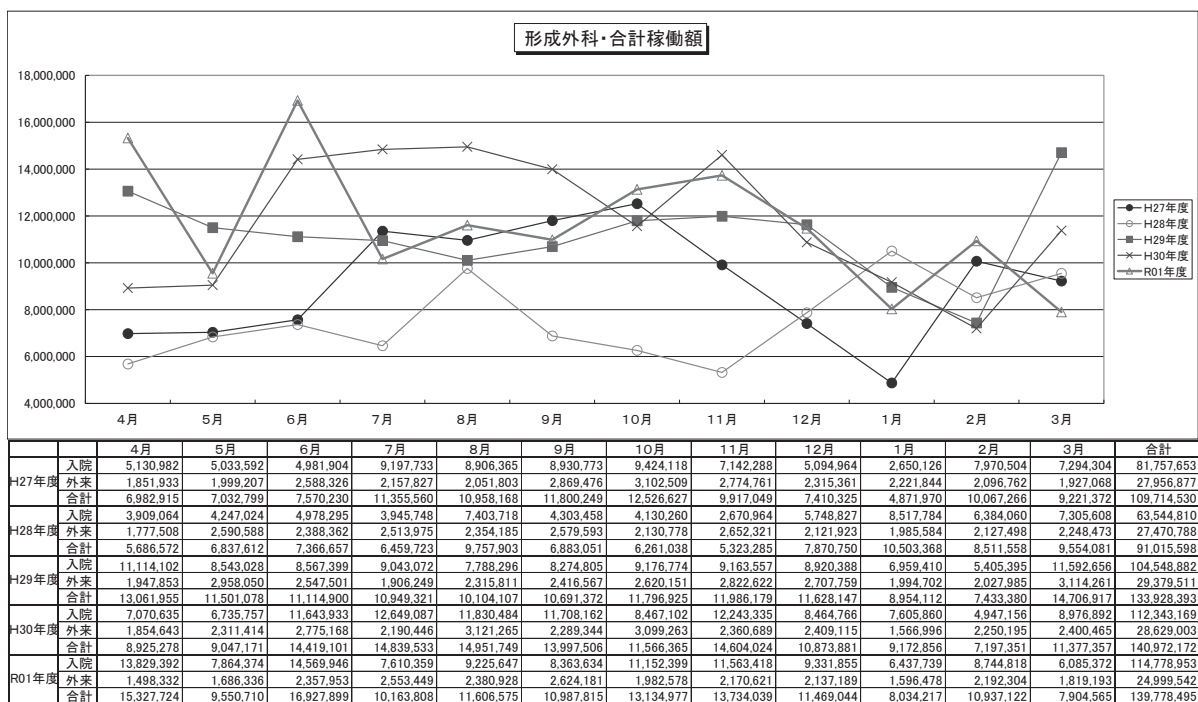
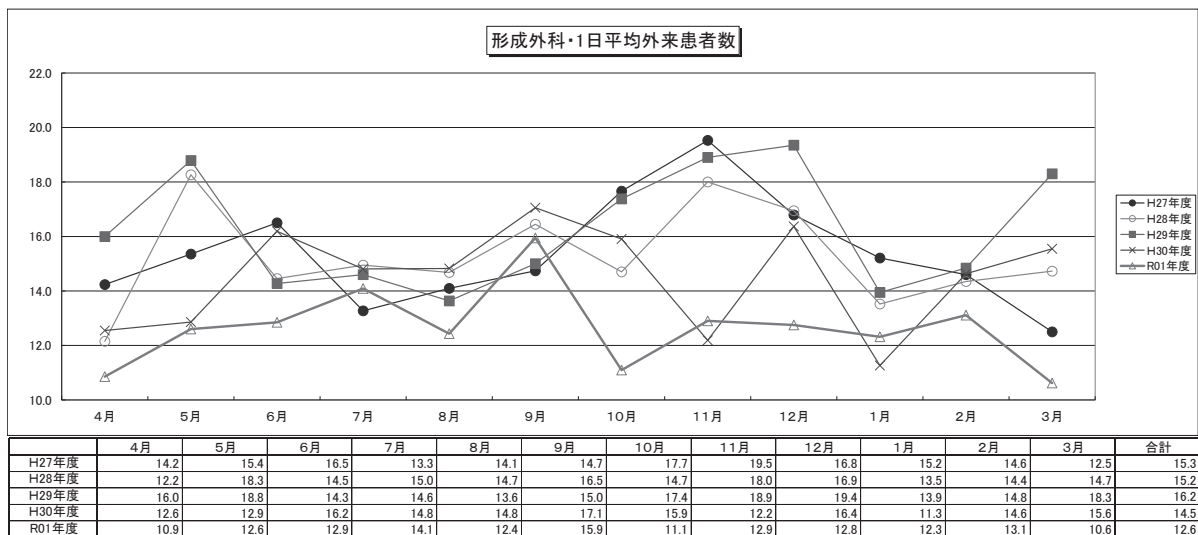
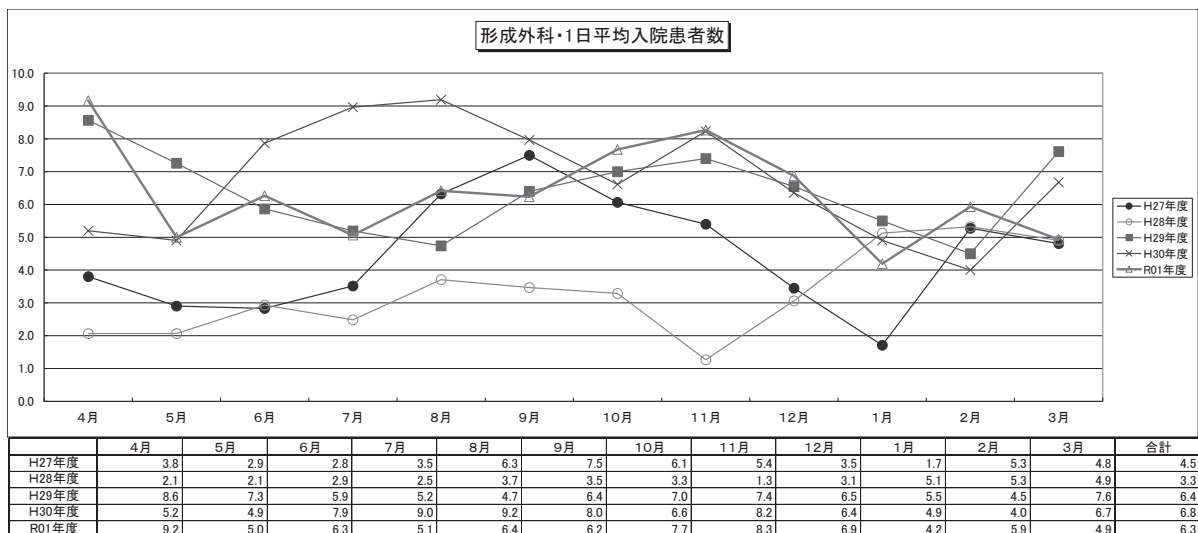


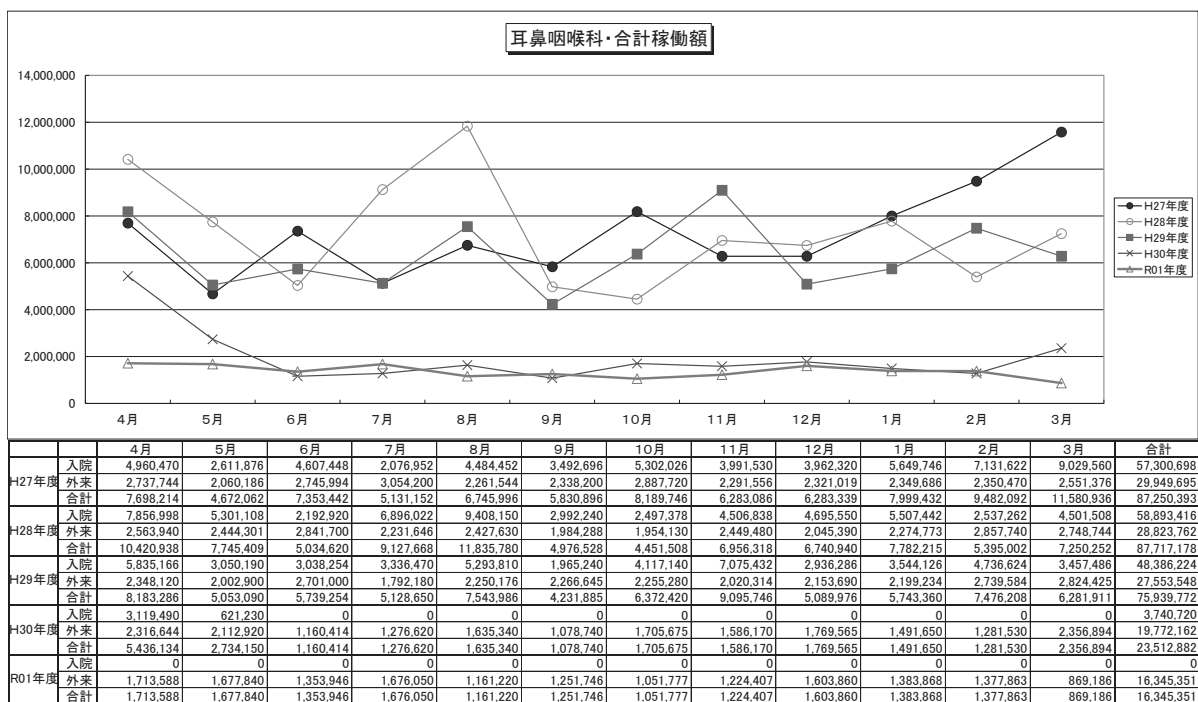
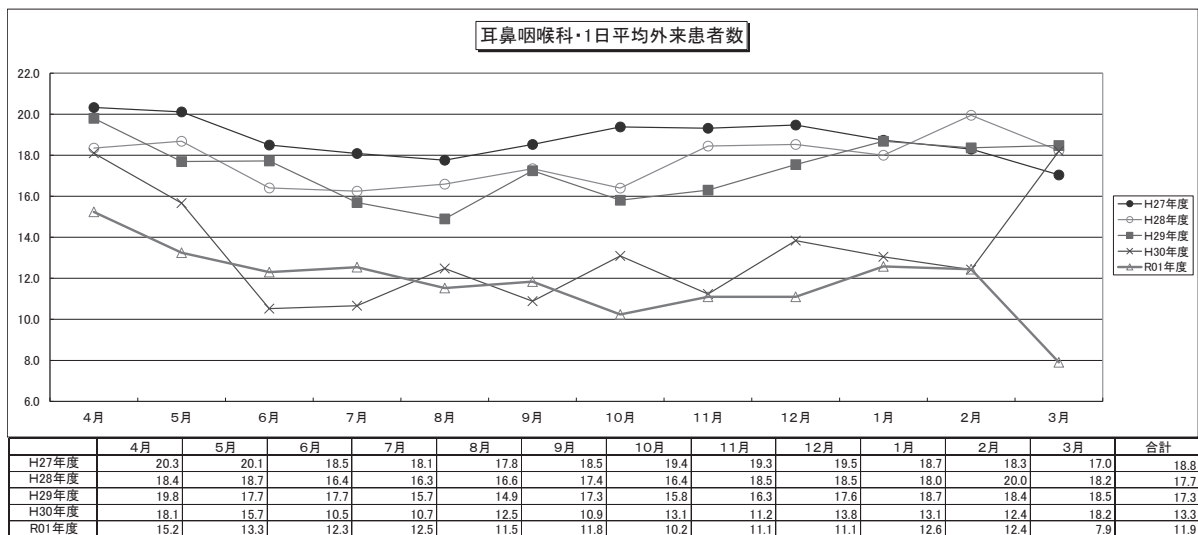
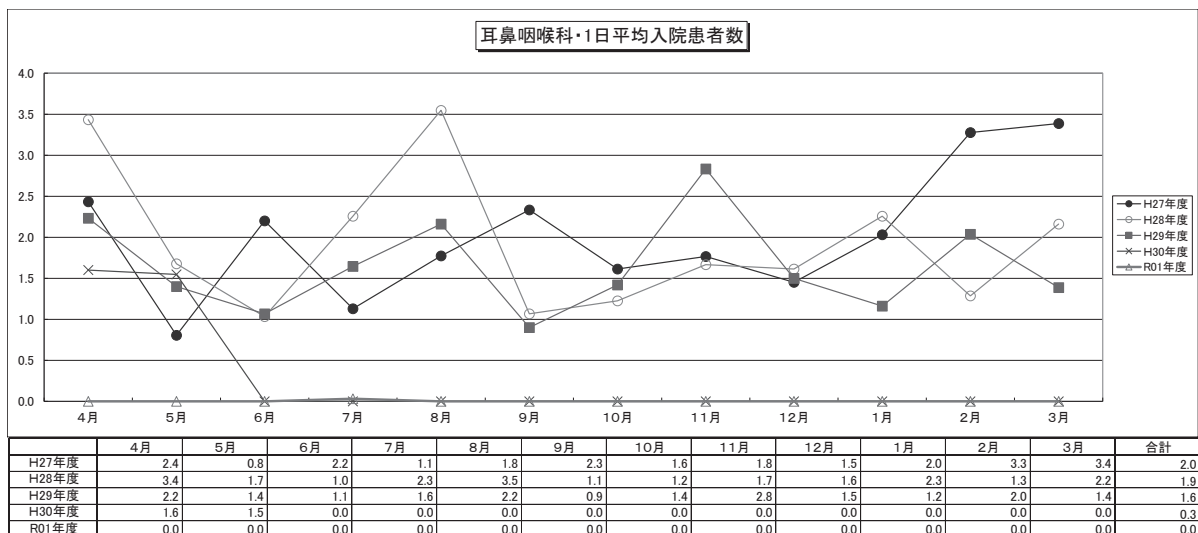


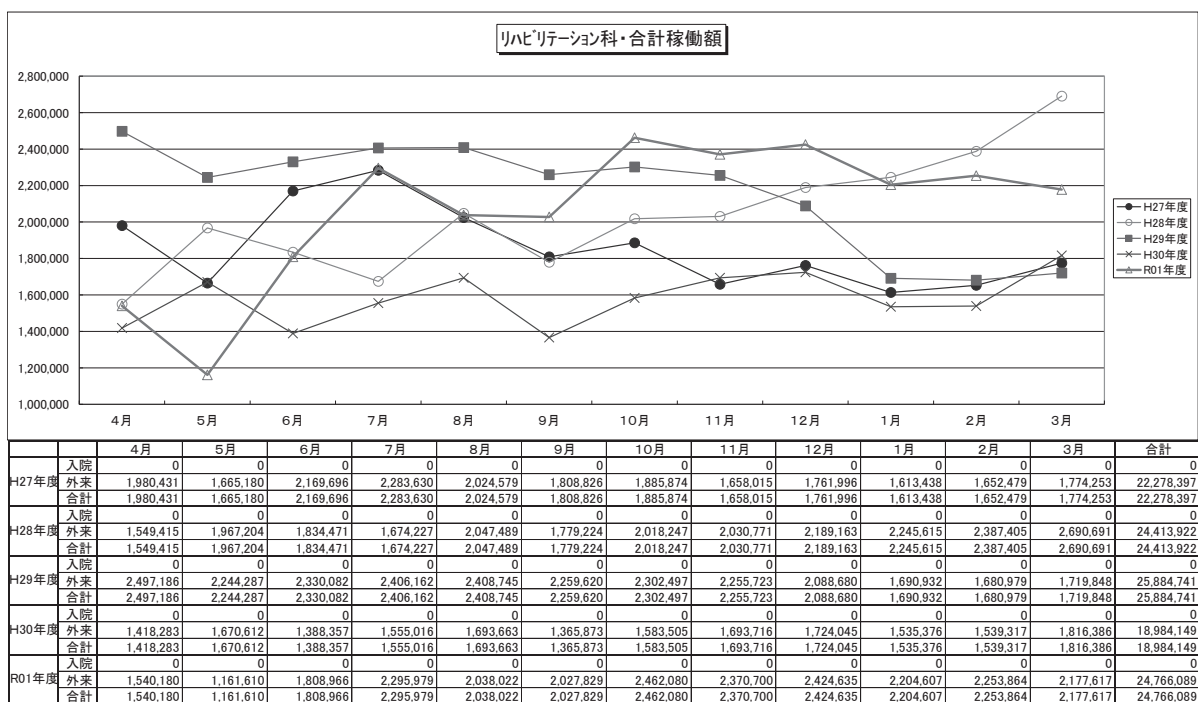
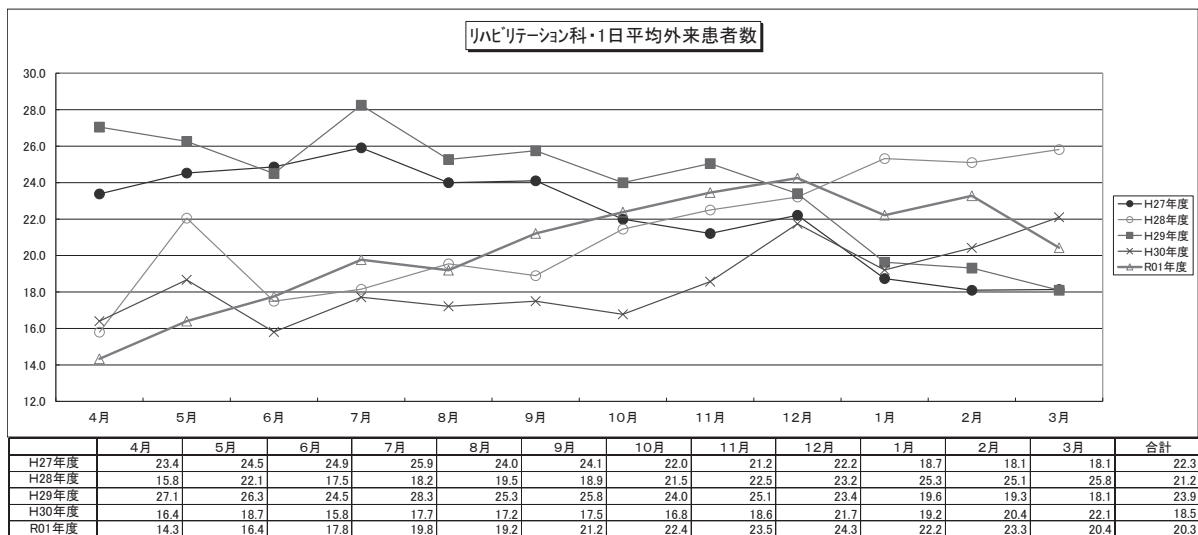
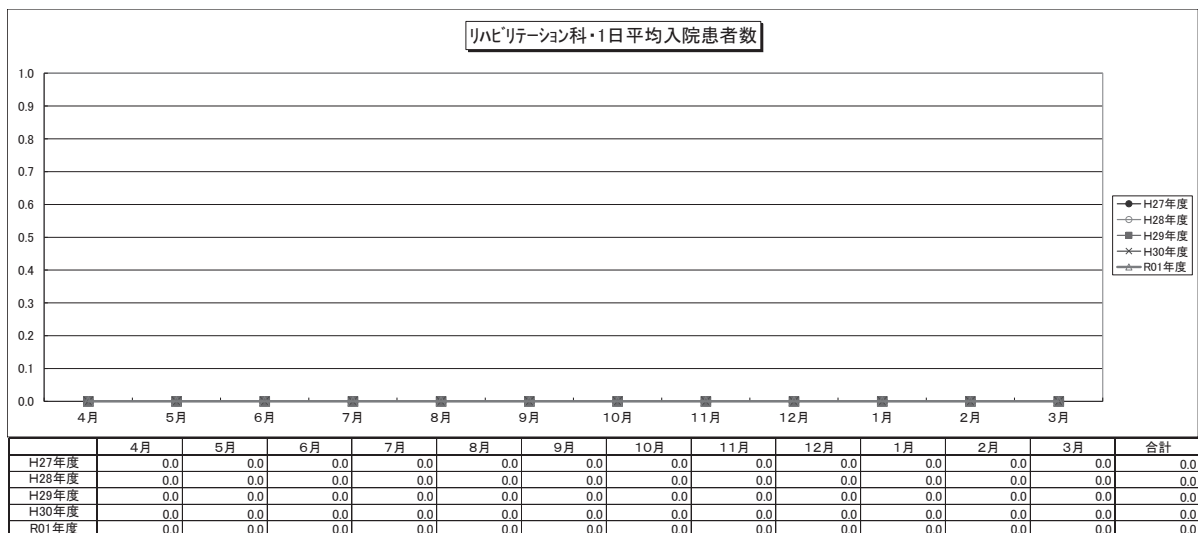


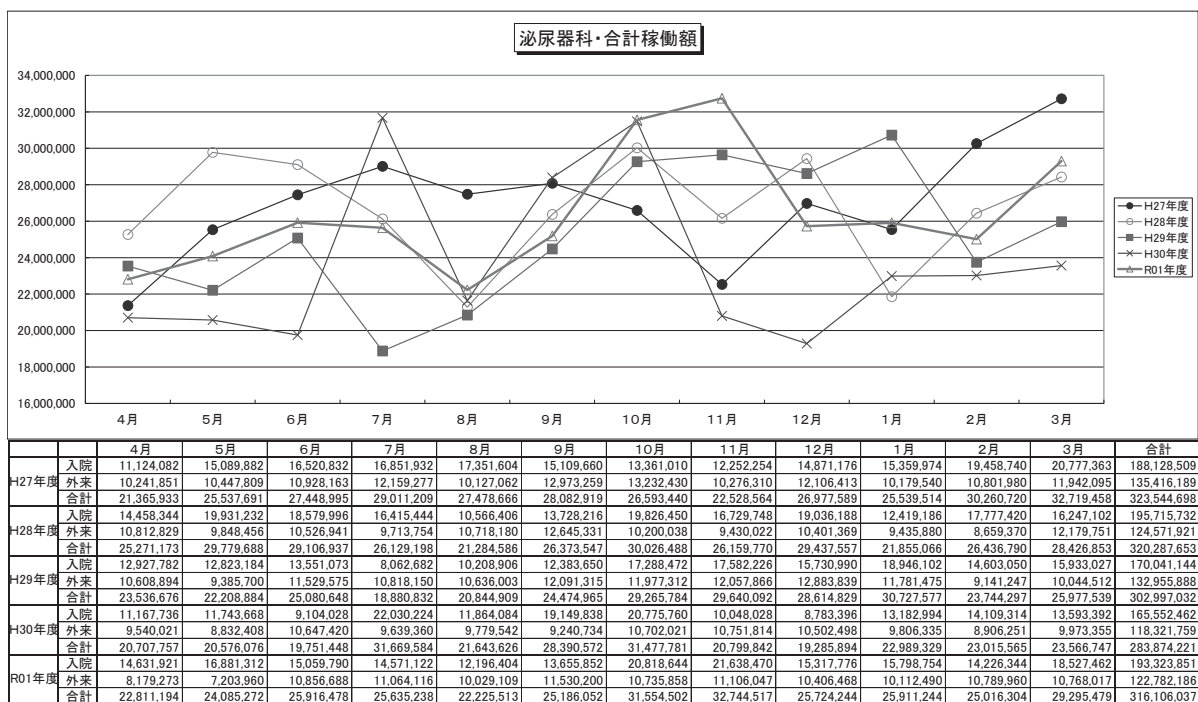
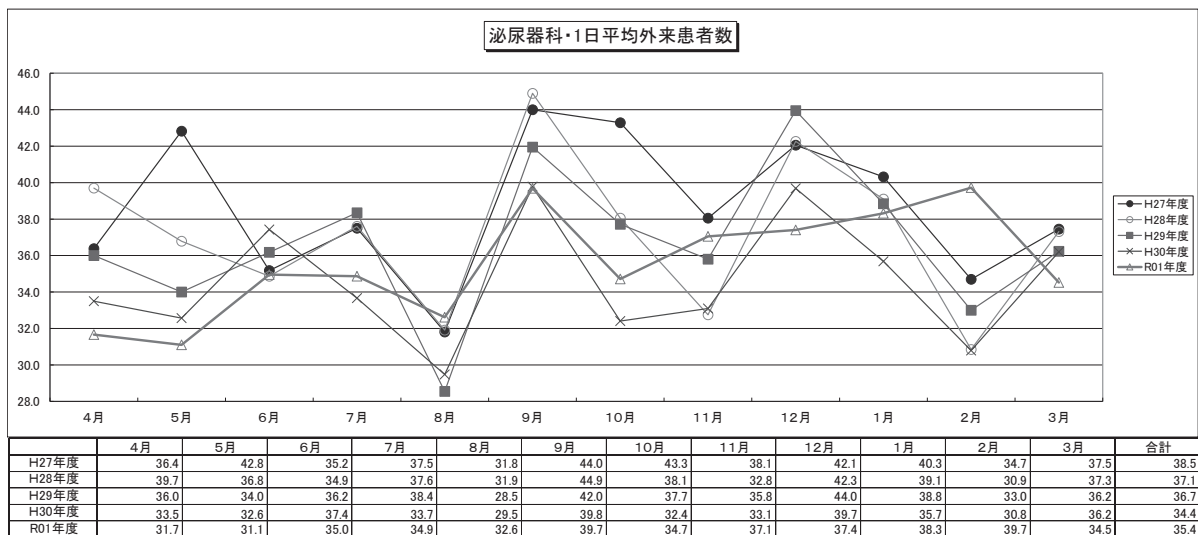
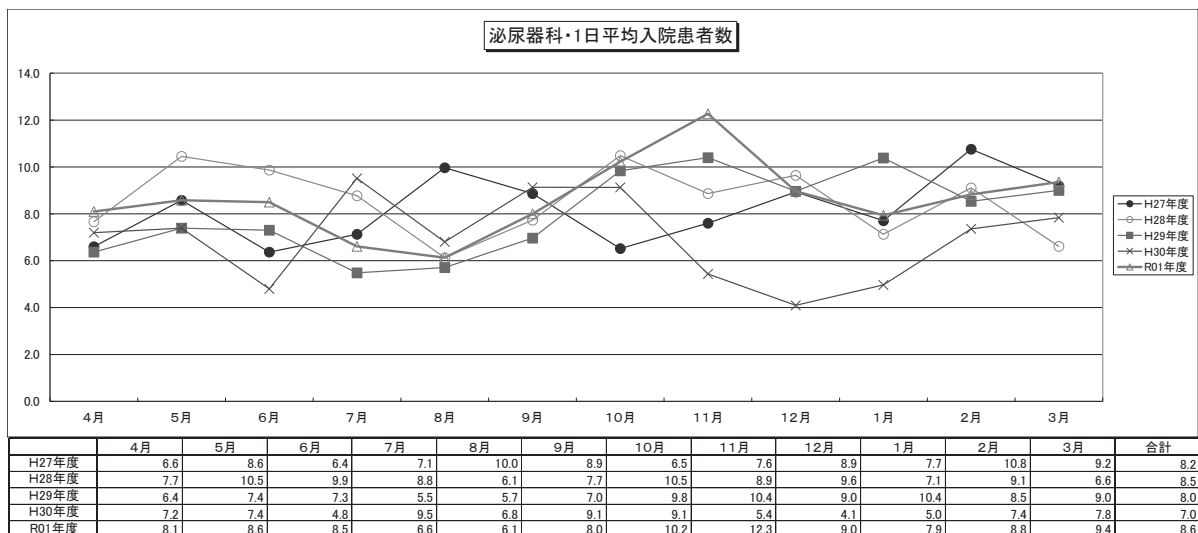


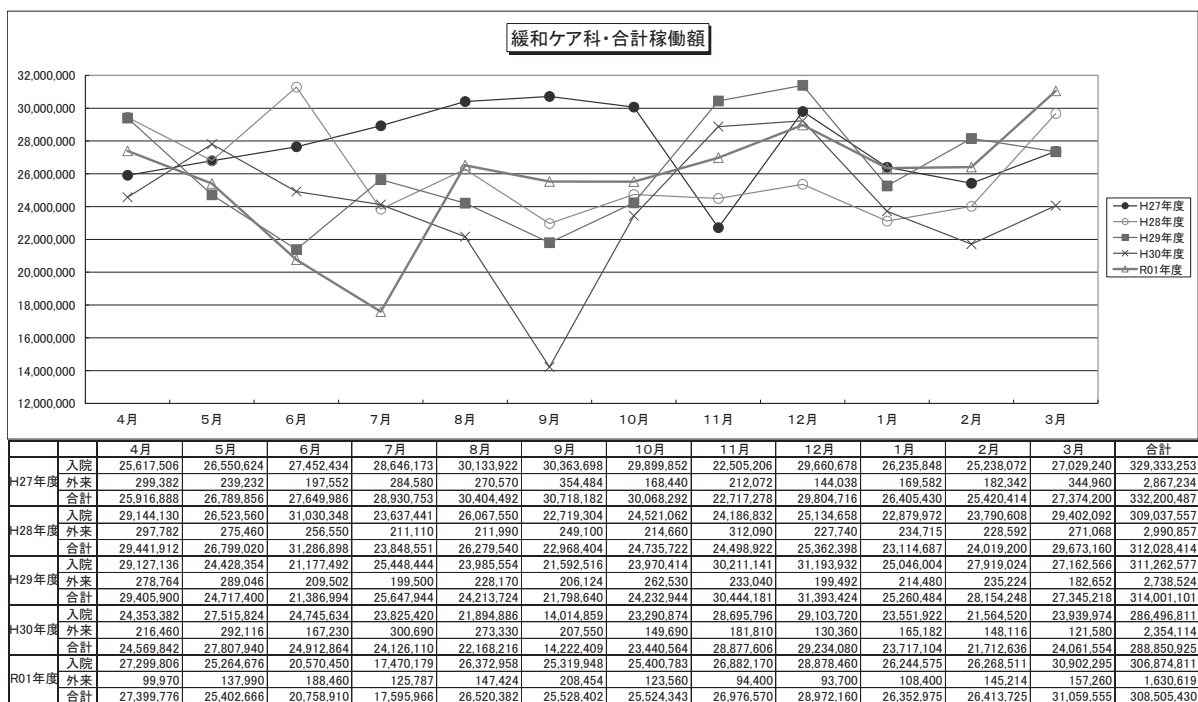
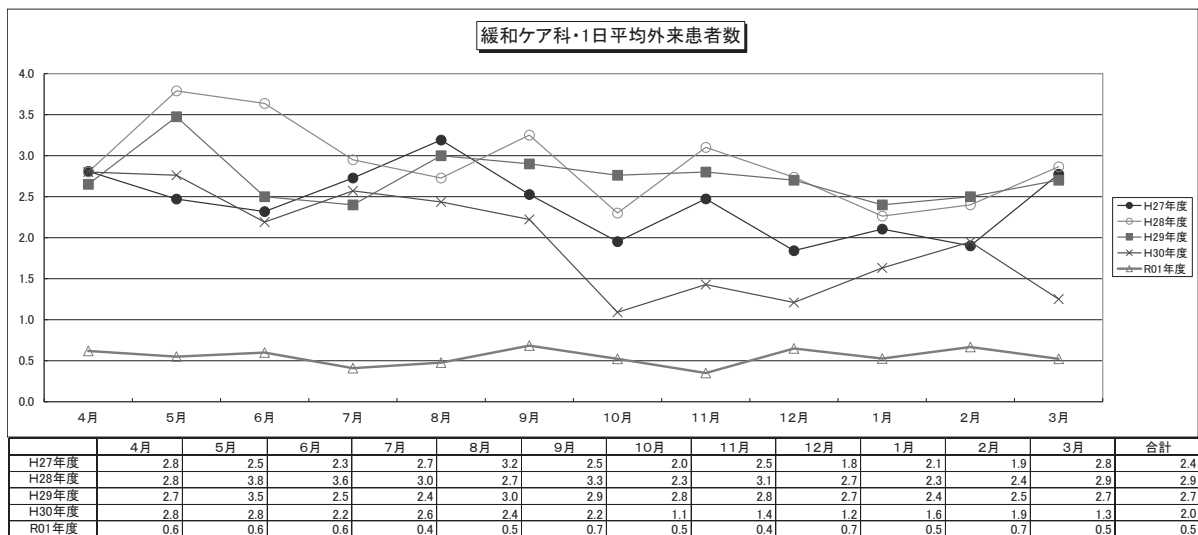
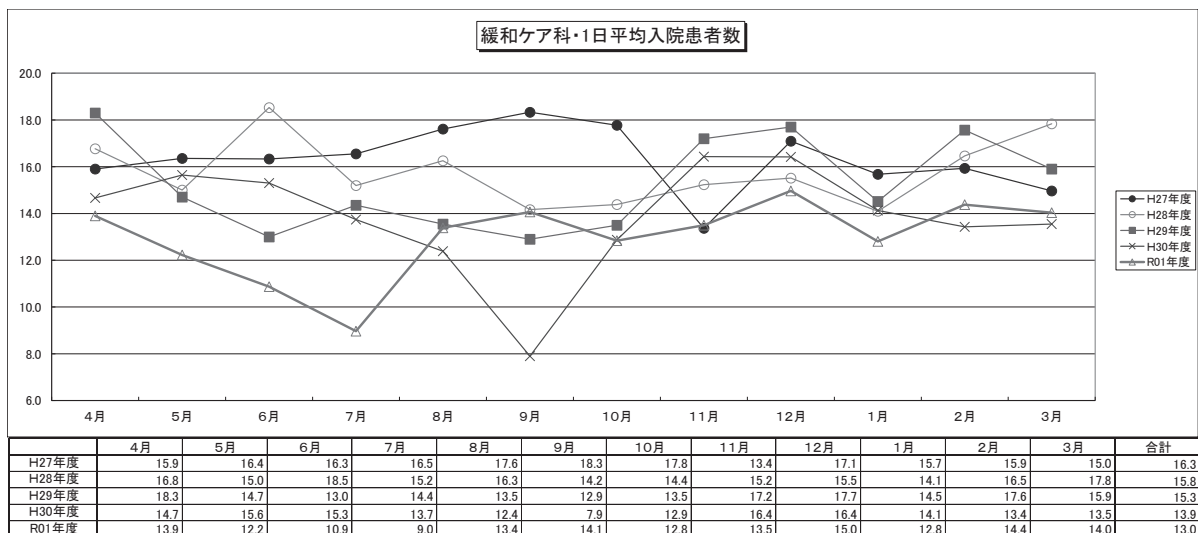






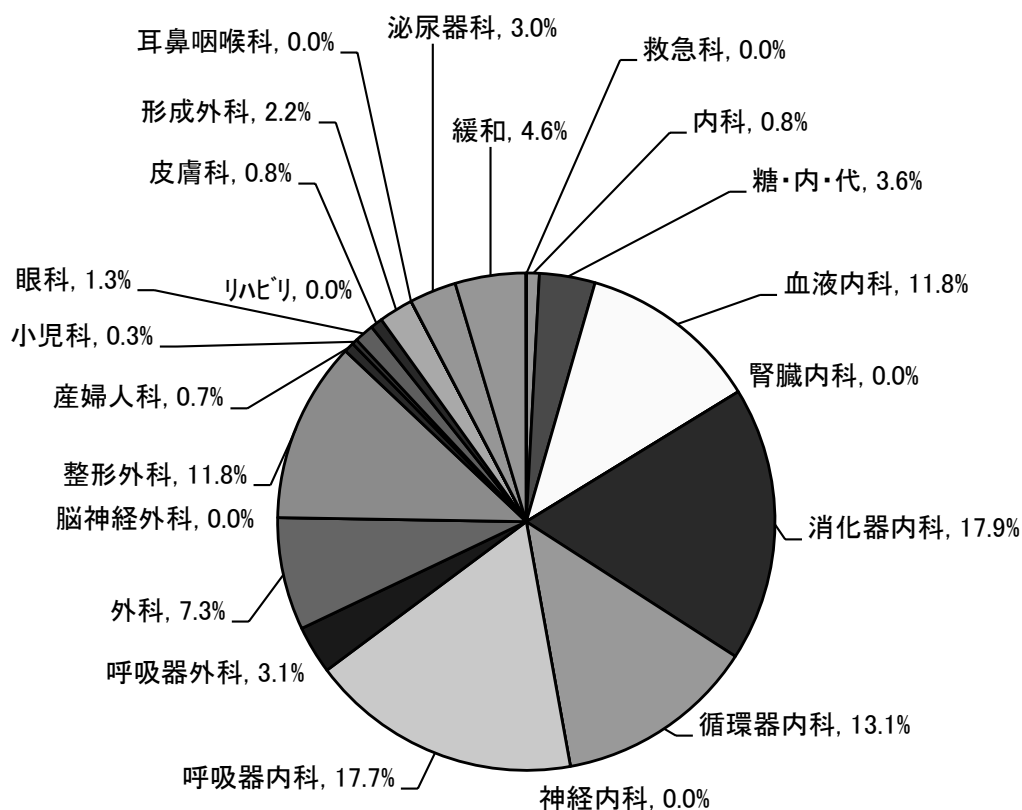




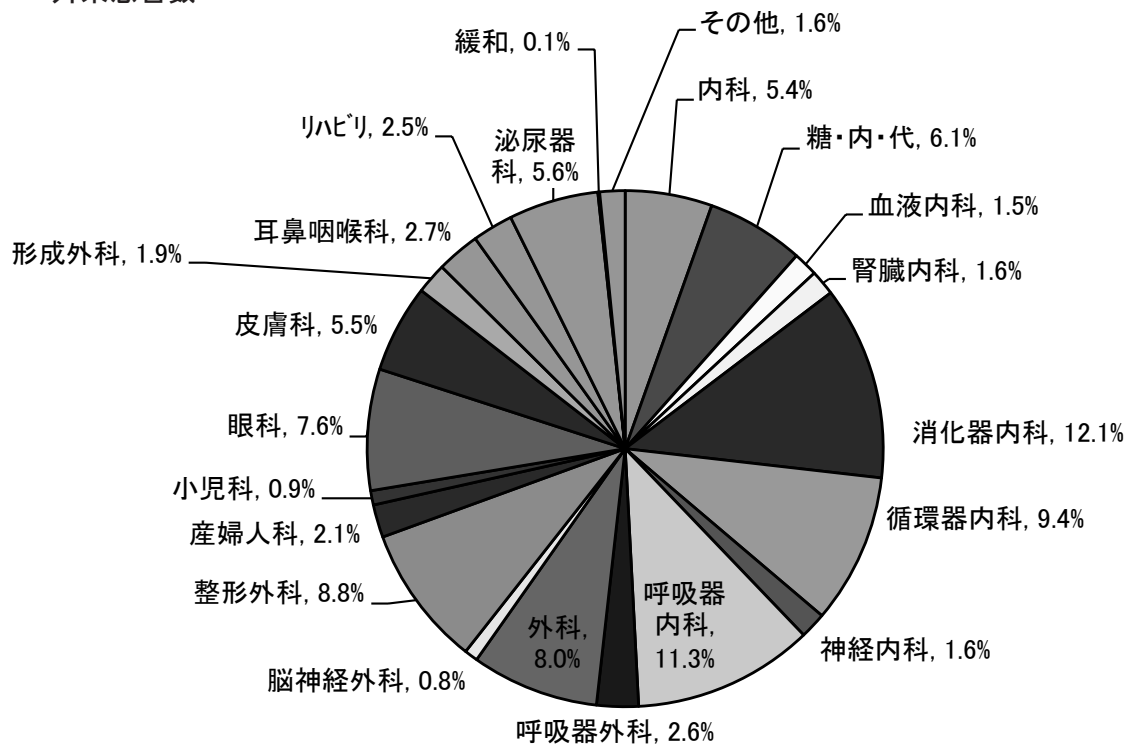


8. 科別患者構成比

入院患者数



外来患者数



※その他は、放射線科と救急科とリウマチ・膠原病とドック・健診を足したものです。

9. 診療科年齡別構成表

診療科	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90-99	100-	合計
小兒科	331	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	361
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
眼科	3	0	6	3	93	71	230	596	291	15	0	1,308
整形外科	18	115	52	198	365	773	1,511	3,623	4,473	1,056	0	12,184
外科	13	55	34	94	520	497	1,517	2,749	1,696	397	0	7,572
糖尿病・内分泌・代謝内科	0	0	92	126	258	368	731	1,527	590	33	18	3,743
血液内科	0	47	303	188	399	758	2,061	5,092	3,285	77	0	12,210
消化器内科	0	90	128	251	407	859	2,180	6,846	5,816	1,886	19	18,482
循環器内科	0	2	0	30	182	378	1,135	4,881	5,178	1,570	140	13,496
内科	0	0	6	107	210	4	33	121	143	206	0	830
呼吸器内科	0	95	149	359	360	1,052	2,525	5,663	6,320	1,521	227	18,271
呼吸器外科	0	19	27	8	66	164	586	1,559	681	127	0	3,237
泌尿器科	0	10	12	5	87	242	411	1,433	732	194	28	3,154
皮膚科	3	8	8	24	52	64	129	180	190	134	18	810
形成外科	16	20	30	38	282	165	254	997	488	25	0	2,315
産婦人科	22	0	150	224	118	45	4	106	12	0	0	681
緩和ケア科	0	0	0	46	9	163	663	1,506	1,965	401	0	4,753
救急科	0	0	1	0	0	0	1	10	8	3	0	23
合計	406	491	998	1,701	3,408	5,603	13,971	36,890	31,868	7,645	450	103,431
構成率	0.4%	0.5%	1.0%	1.6%	3.3%	5.4%	13.5%	35.7%	30.8%	7.4%	0.4%	100.0%

10. 救急患者数

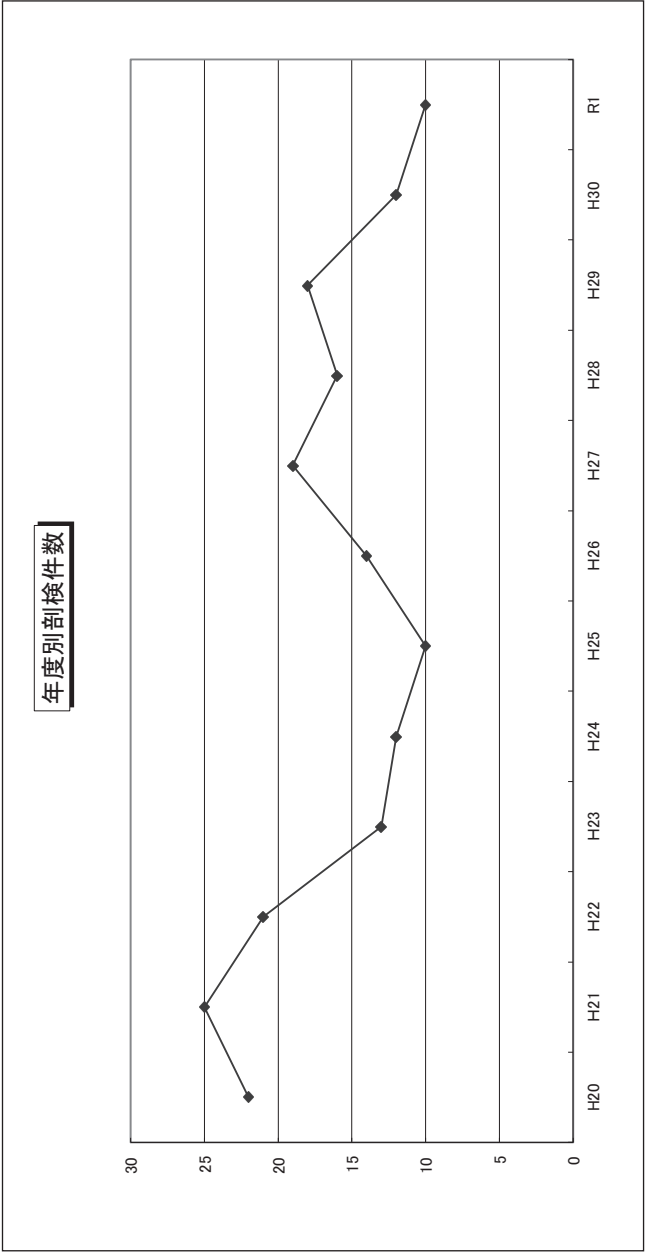
令和元年度月別件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間内	H30年度	144	101	176	197	187	120	158	122	153	176	135	1,904
	R01年度	210	140	155	188	219	186	162	172	162	151	159	2,061
時間外	H30年度	242	331	273	358	285	333	285	243	428	491	270	3,830
	R01年度	247	371	243	285	356	349	322	291	372	446	243	3,725
深夜	H30年度	70	74	66	88	98	72	71	71	80	101	76	946
	R01年度	69	52	67	59	83	72	64	56	71	95	58	802
合計	H30年度	456	506	515	643	570	525	514	436	661	827	522	6,680
	R01年度	526	563	465	532	658	607	548	519	605	692	460	6,588
1日平均	H30年度	15.2	16.3	17.2	20.7	18.4	17.5	16.6	14.5	21.3	26.7	18.0	18.3
	R01年度	17.5	18.2	15.5	17.2	21.2	20.2	17.7	17.3	19.5	22.3	16.4	18.0

令和元年度診療科別件数

	内科	糖・内・ 代	血液 内科	腎臓 内科	消化器 内科	循環器 内科	神経 内科	呼吸器 内科	呼吸器 外科	脳神経 外科	整形	産婦人 科	小児科	眼科	皮膚科	形成	耳鼻科	リハ ビリ	泌尿器	緩和	放射線	救急	合計
時間内	H30年度	602			337	227	6	207	13	47	40	269	13	38	8	16	37	18	0	23	3		1,904
	R01年度	498	5	25	0	453	243	13	243	9	51	302	3	39	6	26	30	18	0	59	11	2	2,061
時間外	H30年度	1,173			906	194	9	280	17	200	29	467	31	68	69	104	68	84	0	130	1		3,830
	R01年度	902	8	32	0	829	205	16	367	12	253	27	496	17	63	151	57	57	0	155	5	1	3,725
深夜	H30年度	338			149	75	2	65	2	42	1	83	14	26	67	23	9	3	0	47	0		946
	R01年度	229	2	5	0	153	84	2	75	1	35	4	61	5	14	24	6	11	0	58	0	0	802
合計	H30年度	2,113			1,392	496	17	552	32	289	70	819	58	132	144	143	114	105	0	200	4		6,680
	R01年度	1,629	15	62	0	1,435	532	31	685	22	339	54	859	25	116	201	93	86	0	272	16	3	6,588
1日平均	H30年度	5.8			3.8	1.4	0.0	1.5	0.1	0.8	0.2	2.2	0.2	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.0	0.5	0.0		18.3
	R01年度	4.5	0.0	0.2	0.0	3.9	1.5	1.9	0.1	0.9	0.1	2.4	0.1	0.3	0.3	0.6	0.3	0.2	0.0	0.7	0.0	0.0	18.0

11. 剖検件数



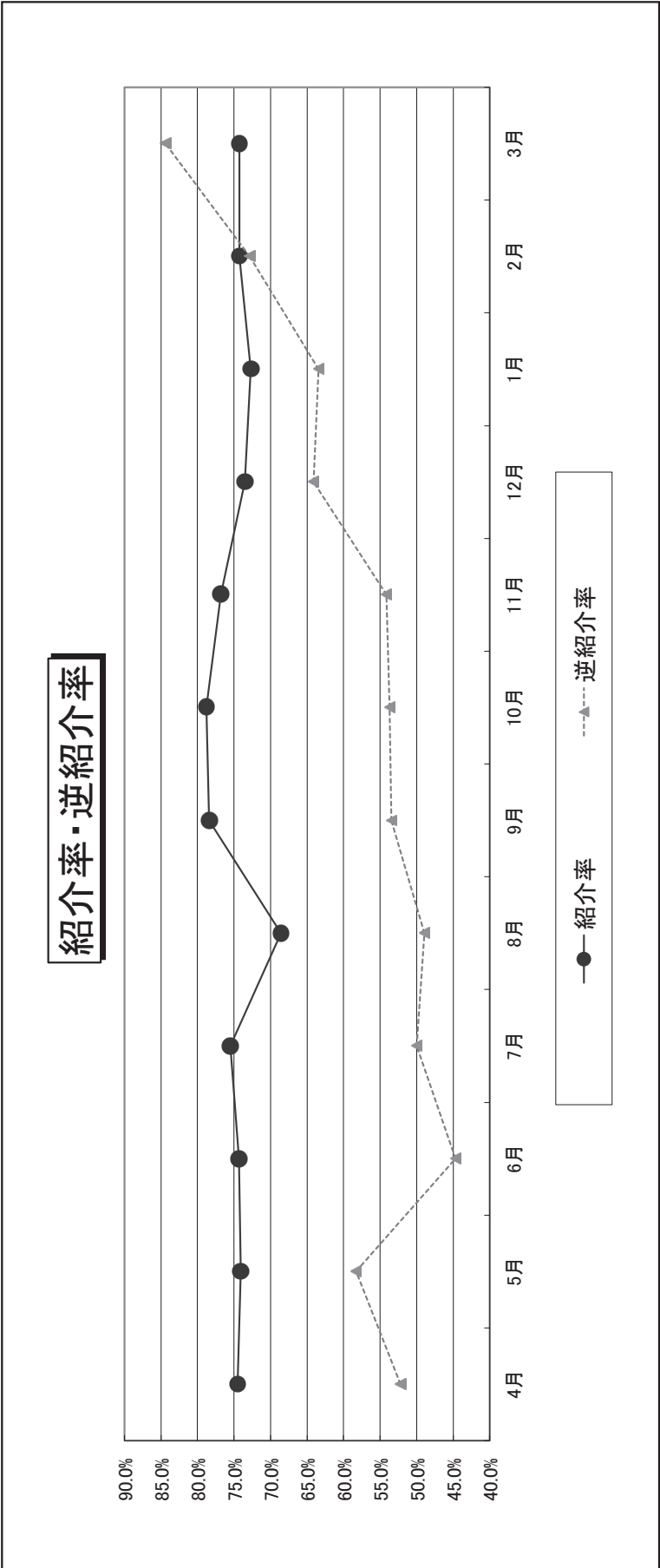
年度	H20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H30	R1
件数	22	25	21	13	12	10	14	19	16	18	12	10

令和元年度科別剖検数

	内科	糖・内・ 代	血内	消化器	循環器	神経内	呼吸内	呼吸外	外科	脳神経	整形	産婦	小児	眼	皮膚	形成	耳鼻	リハビリ テーション科	泌尿器	緩和	救急	合計
剖 検 数			6	2	1																1	10
死 亡 数	2	1	32	53	46	0	79	5	17	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	154	14	409
剖 検 率	0.0%	0.0%	18.8%	3.8%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	2.4%

12. 紹介率・逆紹介率

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診患者数	601	559	611	674	627	509	566	600	532	539	497	493	6,808
紹介患者数	448	414	454	509	430	399	446	461	391	392	369	366	5,079
逆紹介患者	314	326	273	337	307	272	304	325	341	342	362	416	3,919
紹介率	74.5%	74.1%	74.3%	75.5%	68.6%	78.4%	78.8%	76.8%	73.5%	72.7%	74.2%	74.2%	74.6%
逆紹介率	52.2%	58.3%	44.7%	50.0%	49.0%	53.4%	53.7%	54.2%	64.1%	63.5%	72.8%	84.4%	57.6%



13. 食事別給食数

食事別給食数

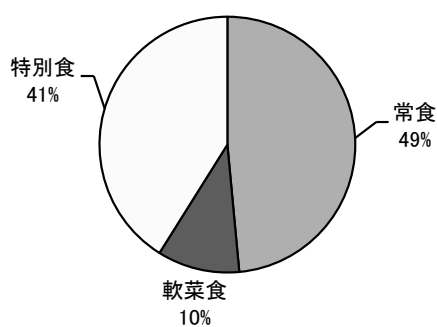
	常食	軟菜食	特別食	濃厚流動食	合 計
延食数	106,640	22,855	90,313	8,100	227,908
一日平均	292	63	247	22	624

特別食内訳

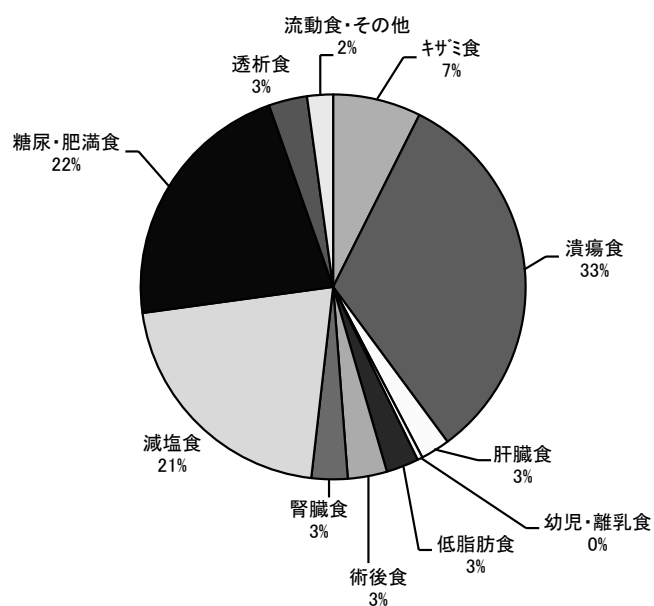
	キザミ食	潰瘍食	肝臓食	幼児・離乳食	低脂肪食	術後食	腎臓食	減塩食
延食数	8,506	37,323	2,821	501	3,133	3,783	3,488	24,156
一日平均	23	102	8	1	9	10	10	66

	糖尿・肥満食	透析食	濃厚流動食	その他	合計
延食数	25,023	3,703	2,168	330	90,313
一日平均	69	10	6	1	247

食事別給食数



特別食内訳

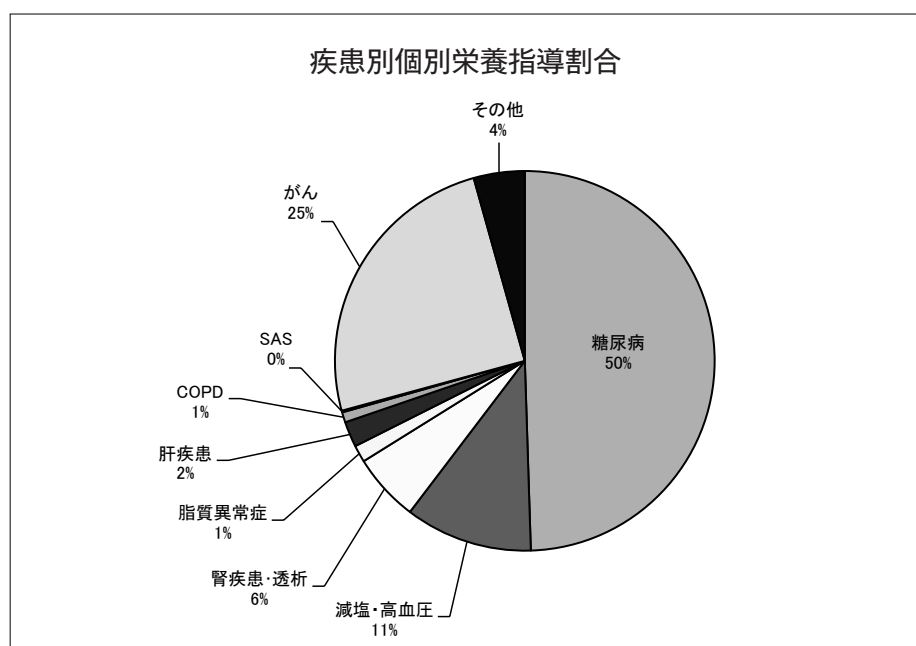


14. 栄養指導件数（令和元年度）

	入院				外来				指導	
	指導		カンファレンス		個別		集団		合計	
指導月	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	41	41	37	37	23	23	1	17	102	64
5月	39	39	27	27	19	19	1	17	86	58
6月	43	43	26	26	17	17	1	16	87	60
7月	33	33	34	34	25	25	1	21	93	58
8月	32	32	14	14	15	15	1	13	62	47
9月	38	38	20	20	22	22	1	16	81	60
10月	49	49	34	34	18	18	1	16	102	67
11月	40	40	22	22	20	20	1	20	83	60
12月	37	37	28	28	11	11	1	13	77	48
1月	43	43	25	25	14	14	1	19	83	57
2月	36	36	34	34	13	13	1	12	84	49
3月	51	51	31	31	12	12	0	0	94	63
合計	482	482	332	332	209	209	11	180	1,034	691
月平均	40.2	40.2	27.7	27.7	17.4	17.4	0.9	15.0	86.2	57.6

疾患別個別栄養指導件数（複数の制限の指示は主指示事項をカウントする）

	糖尿病	減塩・ 高血圧	腎疾患・ 透析	脂質異 常症	肝疾患	COPD	SAS	がん	その他	合計
延数	342	75	40	10	15	6	1	172	30	691
月平均	28.5	6.25	3.3	0.8	1.2	0.5	0.08	14.3	2.5	57.6



15. 手術件数

	内科	糖・内・ 代	血液 内科	腎臓 内科	消化器 内科	循環器 内科	呼吸器 内科	呼吸器 外科	外科	脳神経 外科	整形 外科	産婦人 科	小児科	眼科	皮膚科	形成 外科	耳鼻 咽喉科	泌尿器 科	その他	合計
平成 27 年度	70				774	344	9	149	622	7	681	183		1193	31	571	325	301	27	5,287
平成 28 年度	76				786	396	4	113	567	9	690	173		872	61	602	303	295	22	4,969
平成 29 年度	58				964	336	3	121	592	16	690	130		923	39	617	273	265	26	5,053
平成 30 年度	50				932	315	2	122	540	12	639	128		1130	41	584	61	273	25	4,854
令和元年度	2	4	5	25	972	268	2	102	570	10	576	93	2	923	23	542	33	309	45	4,506

※その他は、リハビリテーション科と救急科を足したものです。

16. 分娩件数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
分娩件数	2	4	3	6	5	1	3	0	1	4	0	5	34

17. 特定保健指導

令和元年度

特定保健指導 実施報告

年度内指導回数 44 回

(平成 24 年度 56 回、25 年度 140 回、26 年度 196 回)

(平成 27 年度 100 回、28 年度 131 回、29 年度 88 回、30 年度 46 回)

動機付け支援 指導回数 23 回

積極的支援 指導回数 21 回

※平成 30 年度より動機付け支援 (機関) : 6 ヶ月→3 ヶ月変更

※病院の諸事情により特定健診受診枠縮小 : 15 名→6 名 / 日

※病院の諸事情により令和元年度で特定保健指導休止

高槻国保

動機付け支援 結果説明 3 名

利用券持参 1 名

積極的支援 結果説明 2 名

利用券持参 0 名

高槻国保以外

動機付け支援 利用券持参 0 名

積極的支援 利用券持参 0 名

合計 6 名

2 日ドック栄養相談始動 実施報告

平成 30 年度指導人数 0 名

※病院の諸事情により平成 31 年 1 月末で人間ドック休止

18. 医業収益・費用及び医業外収益・費用の構成について

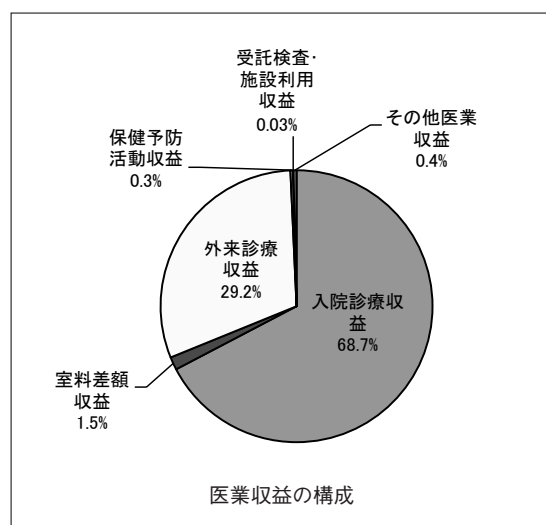
(令和元年度医療施設特別会計決算額より)

医業収益の構成

損益計算書収益の部より、医業収益科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
入院診療収益	5,931,068,753	67.6%
室料差額収益	134,769,820	1.5%
外来診療収益	2,680,390,816	30.5%
保健予防活動収益	28,635,157	0.3%
受託検査・施設利用収益	2,481,480	0.03%
その他の医業収益	32,586,579	0.4%
保険等査定減 (※入院 + 外来診療収益比)	-35,042,680	(-0.4%)
合計	8,774,889,925	

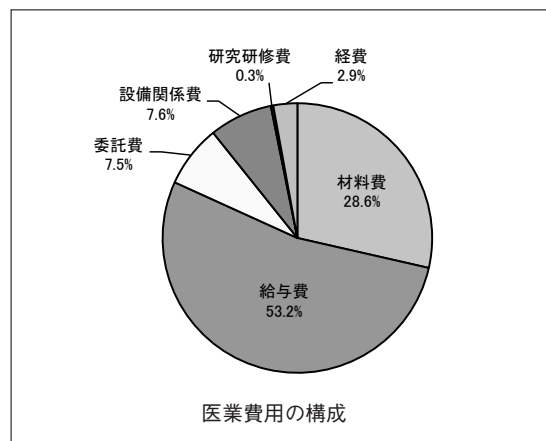


医業費用の構成

損益計算書費用の部より、医業費用科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
材料費	2,792,180,075	28.6%
給与費	5,201,812,675	53.2%
委託費	730,641,491	7.5%
設備関係費	740,296,106	7.6%
研究研修費	28,849,434	0.3%
経費	281,064,693	2.9%
合計	9,774,844,474	

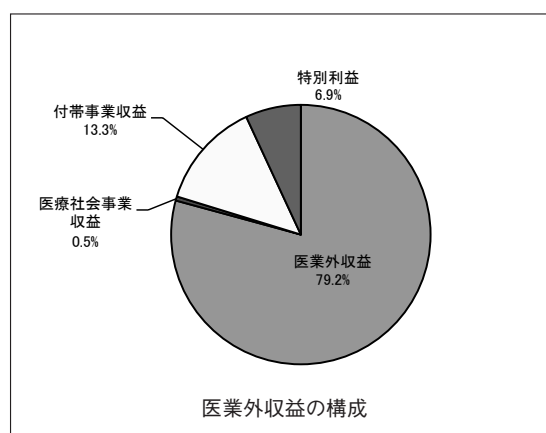


医業外収益の構成

損益計算書収益の部より、医業外収益科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
医業外収益	276,707,005	79.2%
医療社会事業収益	1,819,915	0.5%
付帯事業収益	46,567,175	13.3%
特別利益	24,148,540	6.9%
合計	349,242,635	

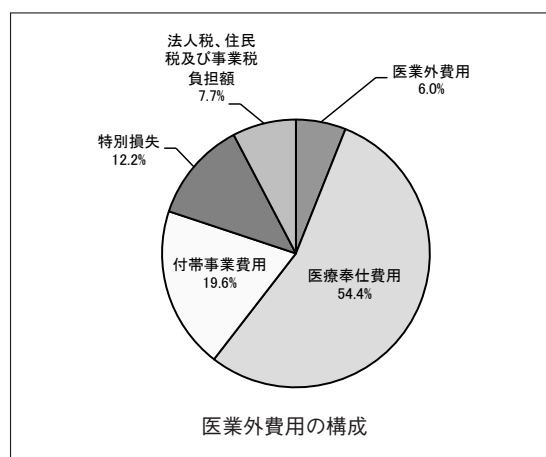


医業外費用の構成

損益計算書費用の部より、医業外費用科目の構成比率

(単位：円)

項目	金額	構成比率
医業外費用	14,898,389	6.0%
医療奉仕費用	134,373,121	54.4%
付帯事業費用	48,409,158	19.6%
特別損失	30,135,356	12.2%
法人税、住民税及び事業税負担額	18,983,440	7.7%
合計	246,799,464	



19. 病院利益（損失）

(単位：円)

総利益	9,124,132,560
総費用	10,021,643,938
病院利益（損失）	-897,511,378

20. 令和元年度 年間購入雑誌一覧

洋 雑 誌	
(冊子)	
1	Emergency Medicine Report
2	Journal of Orthopaedic Science
3	LARYNGOSCOPE
(電子ジャーナル)	
4	Advances in anatomic pathology
5	Anesthesiology
6	Annals of Thoracic Surgery
7	American Journal of Ophthalmology
8	American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine
9	American Journal of Roentgenology
10	American Journal of Surgical Pathology
11	Anesthesia and Analgesia
12	Annals of Surgery
13	CHEST
14	Circulation
15	Critical Care Medicine
16	Diseases of the Colon and Rectum
17	Journal of the American College of Cardiology
18	Journal of Arthroplasty
19	Journal of Bone and Joint Surgery (American Volume)
20	Journal of Bone and Joint Surgery (British Volume)
21	Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery
22	Journal of Urology
23	Medline
24	New England Journal Medicine
25	Ophthalmology
26	RETINA
27	Urology

和 雑 誌	
(冊子)	
1	Clinical Research Professionals
2	JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION
3	Lisa
4	新しい眼科
5	アレルギー・免疫
6	医事業務
7	胃と腸
8	医薬ジャーナル
9	エキスパートナース
10	看護研究
11	看護実践の科学
12	看護展望
13	作業療法ジャーナル
14	呼吸器ジャーナル
15	消化器内視鏡
16	総合リハビリテーション
17	ナーシングビジネス
18	保険診療
19	みんなの呼吸器 Respica
20	薬局
21	理学療法ジャーナル
22	臨床消化器内科

文献検索・データベース

MEDLINE with Full Text (EBSCO)
CINAHL with Full Text (EBSCO)
The Cochrane Library
Dyna Med
医学中央雑誌 web 版
メディカルオンライン

21. 医療社会事業年報（令和元年度）

1. ケース件数

《年度実人数》

	入院 / 外来	人数
年度実人数	入院	1,307 人
	外来	325 人
	計	1,632 人

終了ケース	入院	335 人
	外来	43 人
合計		378 人

2. 延べ人数

延人数	7,597 人
-----	---------

3. 新ケースの紹介経路

区分	件数
医師	352 件
看護職	820 件
リハビリ職	3 件
その他院内職員	12 件
本人	90 件
家族・親戚縁者	119 件
院外関係機関（者）	237 件
近隣者・知人	0 件
ソーシャルワーカー	8 件
その他	3 件
合計	1,644 件

4. 問題

区分	件数
家族関係の問題	30 件
介護・療養生活上の問題	1,152 件
経済に関する問題	86 件
日常生活上の問題	115 件
就労・職場の問題	1 件
教育の問題	0 件
医療の確保に関する問題	565 件
人権に関わる問題	2 件
心理・情緒的問題	9 件
制度活用に関する問題	132 件
その他	22 件
合計	2,114 件

5. 援助方法

方法	回数
面接	本人 1,685 回
	家族 1,803 回
電話	本人 36 回
	家族 1,475 回
訪問	家庭 2 回
	その他 7 回
同行・同伴・代行	8 回
文章・FAX	1,594 回
情報収集	374 回
院内協議・院内カンファレンス	3,979 回
院外協議・院外カンファレンス	5,735 回
合同カンファレンス	111 回
合計	16,809 回

6. 相談援助内容

内容	件数
1、家族関係に関すること	91 件
2、在宅介護・地域生活に関すること	2,255 件
3、療養生活に関すること	816 件
4、経済的問題に関すること	167 件
5、就労・職場環境に関すること	0 件
6、就学・教育環境に関すること	1 件
7、虐待・暴力・人権に関すること	12 件
8、受診・受療に関すること	533 件
9、転院に関すること	3,089 件
10、他施設利用に関すること	1,224 件
11、心理・情緒的問題に関すること	18 件
12、他福祉関係法利用に関すること	445 件
13、その他	34 件
合計	8,685 件

7. 介入の時期

区分	人数
1、受診	15 人
2、外来継続	254 人
3、入院時	50 人
4、入院継続	792 人
5、退院期	722 人
6、その他	49 人
合計	1,882 人

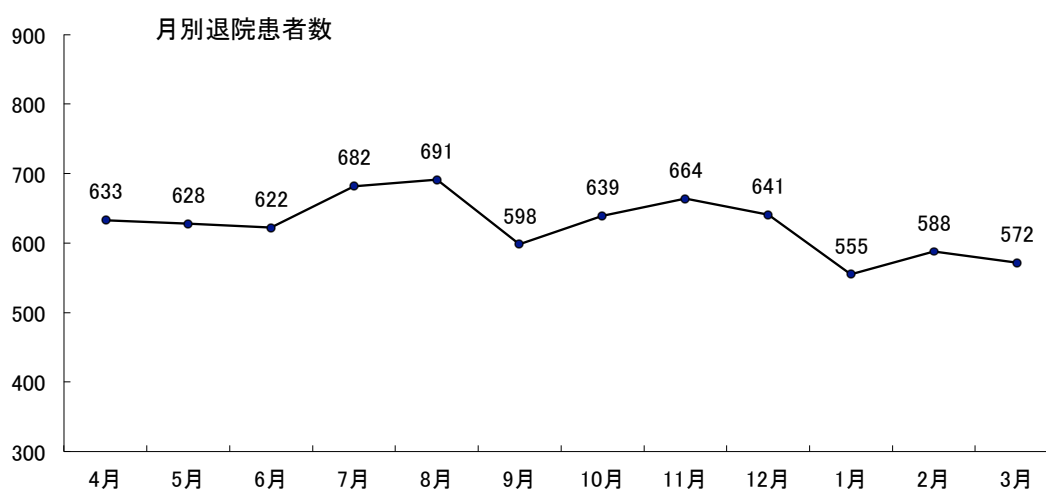
V 退院患者疾病統計

1. 月別退院患者数

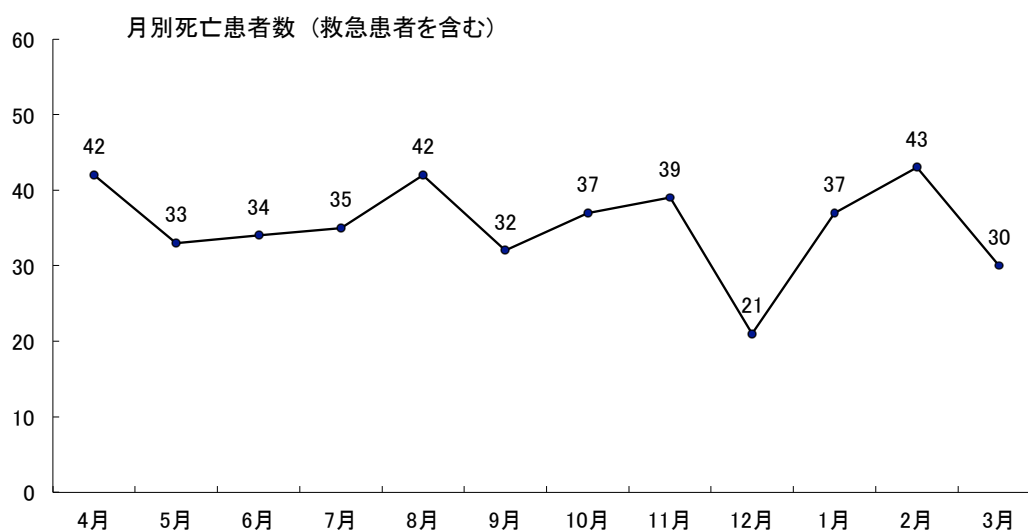
(人)

性別 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	375	348	386	381	398	327	375	369	356	316	330	314	4,275
女	258	280	236	301	293	271	264	295	285	239	258	258	3,238
合 計	633	628	622	682	691	598	639	664	641	555	588	572	7,513

(人)



(人)



2. 科別・月別退院患者数

(人)

診療科名 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	25	38	24	23	28	19	29	22	21	21	23	22	295
血液・腫瘍内科	30	27	31	40	38	39	27	39	52	35	39	36	433
緩和科	27	19	15	21	22	20	19	21	15	17	26	17	239
消化器科	161	163	161	185	168	150	172	178	162	143	133	111	1,887
循環器科	75	75	63	71	77	64	72	63	76	58	91	69	854
呼吸器科	101	97	93	102	122	100	114	109	103	97	82	71	1,191
呼吸器外科	20	15	19	19	18	15	17	19	17	16	15	12	202
外科	41	39	57	43	52	48	46	54	46	45	45	48	564
整形外科	42	46	37	60	46	44	49	44	63	34	51	51	567
産婦人科	10	4	11	9	10	9	5	8	9	9	6	10	100
小児科	6	9	11	7	5	5	12	7	4	7	6	5	84
眼科	54	49	53	54	59	36	18	47	28	42	30	69	539
皮膚科	3	12	4	11	12	10	11	6	8	4	5	8	94
形成外科	13	13	11	11	7	11	10	10	10	4	6	7	113
耳鼻咽喉科													0
泌尿器科	25	22	32	26	27	28	38	37	27	23	30	36	351
合計	633	628	622	682	691	598	639	664	641	555	588	572	7,513

3. 科別・転帰別退院患者数

(人)

診療科名 \ 転帰	治 癒	軽 快	不 変	悪 化	死 亡	検 査	転 医	その他	合計
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	7	261			1	25	1		295
血液・腫瘍内科	1	369	1		34	1	19	8	433
緩和科		62			171		6		239
消化器科	94	1,649	3		54	26	60	1	1,887
循環器科	17	723			46	8	60		854
呼吸器科	40	784			79	214	74		1,191
呼吸器外科		190			5	6	1		202
外科	2	526			17	1	18		564
整形外科	1	399					167		567
産婦人科	1	70					3	26	100
小児科	11	69					4		84
眼科		538	1						539
皮膚科	6	86					2		94
形成外科		105			2		6		113
耳鼻咽喉科									0
泌尿器科	7	285			4	50	5		351
合 計	187	6,116	5	0	413	331	426	35	7,513

4. 疾病大分類別・性別退院患者数

疾病大分類		性別	患 者 数 (人)			比率 (%)	平均在院 日数 (日)
		男	女	合 計			
I	感染症および寄生虫症	130	134	264	3.5%	14.5	
II	新生物	1,541	964	2,505	33.3%	12.7	
III	血液および造血器並びに免疫障害	49	55	104	1.4%	29.8	
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	190	148	338	4.5%	14.0	
V	精神および行動の障害	2	7	9	0.1%	5.0	
VI	神経系の疾患	105	40	145	1.9%	4.4	
VII	眼および付属器の疾患	232	302	534	7.1%	2.4	
VIII	耳および乳様突起の疾患	11	32	43	0.6%	4.6	
IX	循環器系の疾患	453	228	681	9.1%	14.5	
X	呼吸器系の疾患	523	346	869	11.6%	19.8	
X I	消化器系の疾患	484	340	824	11.0%	11.3	
X II	皮膚および皮下組織の疾患	53	30	83	1.1%	23.1	
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	104	124	228	3.0%	21.2	
X IV	尿路性器系の疾患	175	145	320	4.3%	13.7	
X V	妊娠、分娩および産褥		46	46	0.6%	7.7	
X VI	周産期に発生した病態	2	2	4	0.1%	3.5	
X VII	先天奇形、変形および染色体異常	4		4	0.1%	6.3	
X VIII	症状、徴候および異常所見	8	4	12	0.2%	12.9	
X IX	損傷および中毒	202	291	493	6.6%	18.8	
X X I	保健サービス	7		7	0.1%	4.0	
合 計		4,275	3,238	7,513	100.0%	13.7	

5. 疾病大分類別・診療科別退院患者数

(人)

疾病大分類	科名	糖内	血内	緩和	消化	循環	呼吸	呼・外	外科	整形	産婦	小児	眼科	皮膚	形成	耳鼻	泌尿	合 計
I	感染症および寄生虫症		15		109	17	47	2	8		2	18		43			3	264
II	新生物	17	298	234	930	1	368	142	253	5	33				40		184	2,505
III	血液および造血器並びに免疫障害		68		13	1	5		5		5			1	1		5	104
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	256	3		23	23	2	1	2		1	16	5		5		1	338
V	精神および行動の障害		1		5	1	1		1									9
VI	神経系の疾患		2		28	13	98			4								145
VII	眼および付属器の疾患												529		5			534
VIII	耳および乳様突起の疾患	3			24	9	4	1	1			1						43
IX	循環器系の疾患	3	4	1	33	628	5	1	2	2				1	1			681
X	呼吸器系の疾患	1	23	3	89	50	618	45	4			35					1	869
XI	消化器系の疾患	3	2	1	530	5	3	2	269	6		1			1		1	824
XII	皮膚および皮下組織の疾患		1		3	2	1	1	4	1		1		44	25			83
XIII	筋骨格系および結合組織の疾患	1			12	2	8	1	3	197		1		1	1		1	228
XIV	尿路性器系の疾患	4	7		47	73	13	1	6	1	13	2		1			152	320
XV	妊娠、分娩および産褥										46							46
XVI	周産期に発生した病態											4						4
XVII	先天奇形、変形および染色体異常				1							1			2			4
XVIII	症状、徴候および異常所見						12											12
IX	損傷および中毒	7	2		40	29	6	5	6	351		4	5	3	32		3	493
XXI	保健サービス		7															7
合 計		295	433	239	1,887	854	1,191	202	564	567	100	84	539	94	113	0	351	7,513

6. 疾病大分類別・転帰別退院患者数

疾病大分類	転帰		治癒		軽快		不変		悪化		死亡		検査		転医		その他		合計
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
I 感染症および寄生虫症	22	8.3%	185	70.1%				0.0%		0.0%	26	9.8%	22	8.3%	9	3.4%		0.0%	264
II 新生物	9	0.4%	2,045	81.6%			3	0.1%		0.0%	240	9.6%	177	7.1%	30	1.2%	1	0.0%	2,505
III 血液および造血器並びに免疫障害	2	1.9%	81	77.9%			1	1.0%		0.0%	9	8.7%	4	3.8%	7	6.7%		0.0%	104
IV 内分泌、栄養および代謝疾患	10	3.0%	303	89.6%				0.0%		0.0%	1	0.3%	19	5.6%	5	1.5%		0.0%	338
V 精神および行動の障害	3	33.3%	6	66.7%				0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	9
VI 神経系の疾患	8	5.5%	62	42.8%				0.0%		0.0%		0.0%	69	47.6%	6	4.1%		0.0%	145
VII 眼および付属器の疾患		0.0%	533	99.8%			1	0.2%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	534
VIII 耳および乳様突起の疾患	11	25.6%	31	72.1%				0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	2.3%		0.0%	43
IX 循環器系の疾患	5	0.7%	592	86.9%				0.0%		0.0%	35	5.1%	7	1.0%	42	6.2%		0.0%	681
X 呼吸器系の疾患	51	5.9%	639	73.5%				0.0%		0.0%	75	8.6%	16	1.8%	88	10.1%		0.0%	869
XI 消化器系の疾患	29	3.5%	737	89.4%				0.0%		0.0%	12	1.5%	10	1.2%	35	4.2%	1	0.1%	824
XII 皮膚および皮下組織の疾患	3	3.6%	69	83.1%				0.0%		0.0%	2	2.4%	1	1.2%	8	9.6%		0.0%	83
XIII 筋骨格系および結合組織の疾患		0.0%	197	86.4%				0.0%		0.0%	1	0.4%		0.0%	30	13.2%		0.0%	228
XIV 泌尿生殖器系の疾患	19	5.9%	277	86.6%				0.0%		0.0%	10	3.1%		0.0%	14	4.4%		0.0%	320
XV 妊娠、分娩および産褥		0.0%	17	37.0%				0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	3	6.5%	26	56.5%	46
XVI 周産期に発生した病態	1	25.0%	2	50.0%				0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	25.0%		0.0%	4
XVII 先天奇形、変形および染色体異常		0.0%	3	75.0%				0.0%		0.0%		0.0%	1	25.0%		0.0%		0.0%	4
XVIII 症状、徴候および異常所見		0.0%	6	50.0%				0.0%		0.0%		0.0%	5	41.7%	1	8.3%		0.0%	12
XIX 損傷および中毒	14	2.8%	331	67.1%				0.0%		0.0%	2	0.4%		0.0%	146	29.6%		0.0%	493
XXI 保健サービス		0.0%		0.0%				0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	7	100.0%	7
合 計	187	2.5%	6,116	81.4%			5	0.1%	0	0.0%	413	5.5%	331	4.4%	426	5.7%	35	0.5%	7,513

7. 科別死亡数および剖検数

科名	死亡数(人)	剖検数(人)	剖検率(%)
糖尿病・内分泌・生活習慣病科	1		0.0
血液・腫瘍内科	33	6	18.2
緩和科	168		0.0
消化器科	55	2	3.6
循環器科	46	1	2.2
呼吸器科	80		0.0
呼吸器外科	5		0.0
外科	19		0.0
整形外科			0.0
産婦人科			0.0
小児科			0.0
眼科			0.0
皮膚科			0.0
形成外科	3		0.0
耳鼻咽喉科			0.0
泌尿器科	4		0.0
救急外来	11	1	9.1
合計	425	10	2.4

* 救急外来患者を含む為、退院患者死亡数（転帰）とは異なる

Ⅵ 診療科・部門別活動実績

糖 尿 病 ・ 内 分 泌 ・ 生 活 習 慣 病 科

<スタッフ>

常 勤 金子至寿佳（部 長）
非 常 勤 田原裕美子（医 師）
植田 洋平（医 師）
大杉 友顕（医 師）
徳本 信介（医 師）

<令和元年度活動実績>

1. 糖尿・代謝疾患

・地域の糖尿病医療の基幹病院

糖尿病患者における心血管病変、脳血管病変、そしてがんのスクリーニングについては20年前から当院の糖尿病診療にメディカルチェックとして盛り込み実績を蓄積、当院循環器科のご理解とご協力あって連携の現実化を先取りできている。

2007年より全国に先駆けて高槻市医師会主導糖尿病地域連携パスが稼働しており、立ち上げ時からパス委員長をつとめる。当院における糖尿病患者のメディカルチェックを地域連携パスの中に盛り込み浸透することに貢献した。当地域での糖尿病パスは全国的にも評価いただき、東京での日本医師会糖尿病対策会議や糖尿病総会シンポジウムで紹介、関係紙に寄稿している。

・一般診療においては、1型糖尿病ではカーボカウント、持続血糖モニタリングそしてインスリンポンプを使用し専門的治療を提供、2型糖尿病、肝性糖尿病、膵性糖尿病、ステロイド性糖尿病や特殊な糖尿病（妊娠糖尿病、MODY、内分泌疾患に伴う2次性糖尿病ミトコンドリア異常症、Werner症候群など）など専門医としてすべてのタイプの糖尿病を網羅しかかりつけ医と連携パスを通じて地域の糖尿病診療を先導する役割を担っている。また教育講演を通じ、地域における糖尿病の知識向上に貢献している。

・糖尿病はがん罹患率も上昇させるため、糖尿病診療を目的に受診する患者さんからがんをスクリーニングして見出し、術前の糖尿病に関わる大小血管症の評価、周術・化学療法の血糖管理に携わる。

・糖尿病患者では骨折率も増えるため、糖尿病を有する場合、救急入院時からの血糖管理にも対応している。

・チーム医療として、病棟における患者を交えたチームカンファレンスも20年が経過している。外来では、専任看護師・専任栄養士による糖尿病腎症透析予防指導、その成果を得ることができている。

・各地域において医師、薬剤師、看護師そして栄養士ほか医療関係者を対象に、糖尿病専門講演の依頼に応じて講演を行っている。

・世界的な治験にも多く参加し、新規糖尿病薬についてオピニオンリーダーして全国的な規模で役割を果たしている。

・2017年より日本糖尿病学会 第4次「対糖尿病5ヵ年計画」作成委員を務める。

治療内容（令和元年度）

・糖尿病患者に対する外来栄養指導	153件
・フットケア外来	55件
・透析予防指導	49件
・糖尿病患者に対する自己注射外来導入	188件（延べ導入件数3,552件）
・教育入院実施件数	181件（およそ13泊14日で施行）
・インスリン等自己注射実施患者数	561人
・インスリンポンプ療法（CSII）使用者	9人

2. 内分泌疾患

地域における内分泌代謝疾患の専門診療を担っている。甲状腺疾患など頻度の多い内分泌疾患に限らず、稀なため見過ごされがちな内分泌疾患を見つけ出し適切に診断し専門的治療を提供している。

・副腎

地域で唯一副腎静脈サンプリングを行い、当院泌尿器科にて腹腔鏡下手術での手術標本については専門的な視点が必要であるため大学病院と提携することで診断の質を維持し、副腎疾患については当地域では重要な役割を担っている。

・甲状腺疾患（バセドウ病・橋本病、甲状腺腫瘍など）、副甲状腺疾患

一般的な甲状腺疾患の以外に、甲状腺眼症のステロイドパルス治療＋球後放射線治療など専門的な治療を行っている。甲状腺腫瘍については耳鼻科と協力してFNAを行い地域の診療所の依頼に対し役割を果たしている。

・脳下垂体疾患についての精査、加療を行っている。

症例内容（令和元年度）

・副腎腫瘍	
・原発性アルドステロン症	
・クッシング症候群	
・副腎静脈サンプリング	9件

3. 治験

- ・世界的に重要な新規薬剤の治験を主に請け負い、世界共同治験に参加を続けている。日本の治験を先導していることから、全国的にもその薬剤についての教育講演を行う機会も多い。
- ・海外ではレジデント時代から治験に参加し、臨床的立場から新薬の開発に携わることを教育するが、当科もこれを習い若手医師からも経験することを勧め薬剤の開発過程についてグローバルな視点と責任意思を育てることを目指している。

教 育：

日本内科学会認定医、日本内科学会認定総合内科専門医・指導医、
日本糖尿病学会認定専門医・指導医、日本内分泌学会認定内分泌代謝専門医・指導医、日本老年病学会認定専門医・指導医、日本人間ドック学会認定医
日本内科学会認定医制度教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本老年医学会認定教育施設

研修医教育では、まず「いかなる時も患者さんに対して正直で誠実であること。」。

そのうえで、日常的に覚えることなく、考える力を身につけることを意識して教育を行っている。一般内科診療を土台に、専門性の教育を行うことを目指す。また1、2年目研修医には学会発表を通じて症例をまとめることと発表の重要性を学んでいただいている。国内だけにとどまることなく積極的に行い当院での臨床を国際学会で報告、情報収集を行い最新の診療を心がけている。

緩和ケア科

<スタッフ>

橋本 典夫（緩和ケア科部長）

金村 誠哲（緩和ケア科副部長）

スタッフに関しては平成 30 年 9 月より 2 名体制となっている。

<令和元年度活動実績>

日本ホスピス緩和ケア協会による「ホスピス緩和ケア病棟における質向上の取り組み認証制度」に認定されており継続的に施設評価されるようになった。また日本緩和医療学会の認定研修施設にも引き続き認定されている。

ここ数年三島医療圏や隣接する医療圏に複数の緩和ケア病棟が新規に稼働した関係で外部からの紹介患者数はかなり減少していたが、複数同日入院など待機日数を減らす努力をした結果、スタッフ減員にもかかわらず入院延患者数は前年度の 210 名に対して 244 名に増加した。

学会・研究会活動としては、地域の緩和ケアネットワークの勉強会として、「緩和ケアを語る会」の世話人として参加し、地域での在宅医との「顔の見える関係づくり」に努めた。また大阪府指定がん診療連携拠点病院として三島圏域がん研究会の幹事としての活動を行った。

当院は大阪府で 2 番目に歴史ある緩和ケア病棟であり、開設以来 16 年間の遺族会のふりかえりを日本緩和医療学会でポスター発表をした。また、大阪府指定のがん診療連携拠点病院の指定要件でもある緩和ケア研修会を 10 月 27 日に院内開催した。

<令和 2 年度活動目標>

できるだけ多くの患者に良質な緩和ケアを提供するため、

1. 緩和ケア病棟の病床稼働率を維持する
2. 待機患者、待機日数を短縮する
3. 地域の医師と連携を図り、バックアップの役割を担う
4. 学会・研究活動の充実
5. 緩和ケア研修会の開催

血液腫瘍内科

<スタッフ>

田嶋 政郎（名誉院長）：血液内科
安齋 尚之（部長）：血液内科
岡田 睦実（副部長）：血液内科
坂本 宗一郎（副部長）：血液内科
恩田 佳幸（非常勤医師）：血液内科

<移動>

なし

<令和元年度活動実績>

病床数	30 床
入院症例数	172 例（新患 96 例）
悪性リンパ腫	52 例（新患 26 例）
急性白血病	40 例（新患 28 例）
多発性骨髄腫	20 例（新患 10 例）
骨髄異形成症候群	27 例（新患 10 例）
再生不良性貧血など	13 件（新患 9 例）
特発性血小板減少性紫斑病	8 例（新患 6 例）
その他	12 件（新患 7 例）

当科では、白血病・リンパ腫・骨髄腫などの造血器腫瘍の他、貧血・血小板減少症などの診療を行っており、血液内科医に加え、がん化学療法認定看護師をはじめとした看護師スタッフ、がん専門薬剤師、臨床工学技士、理学療法士等がチームとなり安心して治療に専念できる環境を整えている。同種造血幹細胞移植は HLA が完全一致した血縁者からの移植がスタンダードですが、血縁に一致ドナーが見つからなければ、非血縁者間移植を行ないます。原疾患のコントロールがうまくいかない場合には、強力な GVL 効果を期待して敢えて HLA が半分だけ一致した血縁の半合致移植を行うことが良くあり、このような HLA の異なった移植は、最近ではかなり安全に行えるようになってきています。当科では、同種移植は血縁と臍帯血を行っています。血縁は一致同胞と病状によっては、半合致移植を選択しています。非血縁に関しては、臍帯血を用いていますが、これは少人数のスタッフでも行いやすいこともありますが、臍帯血は他の移植ソースと比べて少なくとも同等以上の効果が得られ、今後の可能性も大きいと信じて取り組んでいます。当院の血液疾患は、高齢に偏り同種移植に関しても、年齢は 70 代までなら可能性を追求しています。積極的な治療となりにくい患者さんには、個々の症例に基づいて、初期の段階から緩和的治療を含めてきめ細やかな対応を心掛けていきたいと考えています。

循環器科

<スタッフ>

大中 玄彦（部長）：循環器内科（認定内科医、循環器専門医、心臓リハビリ指導士、老年病専門医）
岡本 文雄（医師）：救急部部長（認定内科医、循環器専門医、救急科専門医）
木澤 隼（副部長）：循環器内科（認定内科医、循環器専門医）
土居 裕幸（医師）：循環器内科（認定内科医）
平野 玄起（医師）：循環器内科（認定内科医）
李 剛至（医師）：循環器内科（認定内科医）
森 京子（医師）：循環器内科（認定内科医）
大塚 宏治（非常勤医師）：循環器内科（内科専門医、循環器専門医）
片桐 直子（非常勤医師）：循環器内科（認定内科医）

循環器疾患全体を扱い、高血圧、脂質代謝異常症などの生活習慣病から急性心筋梗塞、急性心不全、致死性不整脈疾患、心筋炎などの急性疾患まで幅広い疾患を診療し、一般的な生理検査機器や造影検査はもちろんのこと非侵襲的に冠動脈疾患や心筋疾患の評価が可能な RI 検査、64 列 CT 検査、MRI 検査機器を揃えている。さらに心筋梗塞や急性心不全などの緊急を要する患者の治療に対してはコメディカルスタッフの協力のもと 24 時間・365 日体制で診療にあたっている。また、当院は心臓リハビリテーション実施施設であり、年間 564 件の心臓リハビリを介入し、病気の再憎悪で再入院の予防に努めている。外科領域においても大阪医科大学心臓血管外科との合同カンファレンスを行い重症患者の治療方針につき検討し、患者さんにとっての最適な治療を提供している。

<令和元年度活動実績>

外来患者延数 12,519 人 入院患者延数 13,498 人

心臓カテーテル検査・処置総数	： 140 件
冠動脈インターベンション治療	： 192 件
ペースメーカー植込み術	： 29 件
末梢血管形成術（含む透析シャント P T A）	： 17 件
I A B P 施行件数	： 8 件
P C P S	： 2 件
心臓リハビリテーション	： 564 件

消化器科・消化器内視鏡センター

<部 長>

神田 直樹（消化器内科部長・消化器内視鏡センター長）

<スタッフ>

玉田 尚（副院長）
山中 雄介（副部長）
吉岡 拓人（副部長）
吉見 宏平（救急部副部長兼任）
池田 宗弘
濱田 達雄
松村 大志郎
中森 翔平
矢倉 伊織
奥野 岳

<異 動>

平成 31 年 4 月 矢倉 伊織（着任）
平成 31 年 4 月 奥野 岳（着任）
令和 2 年 3 月 濱田 達雄（退任）

<元年度活動実績>

当院消化器科は日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会の認定指導施設で、元年度は下記の通りの検査・治療数を施行している。高度な検査・治療に対応するために開設した消化器内視鏡センターでは、指導医 3 人、専門医 4 人（指導医含む）、内視鏡技師資格をもつ看護師 2 人を有し、年間約 5500 件の内視鏡検査を行い、早期癌治療・胆道系処置・止血処置などの治療内視鏡も年間 500 件を越えている。

消化管の内視鏡治療では、早期胃癌の ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）は元年度 59 例、これまでに 714 例を施行、大腸腫瘍に対する ESD も、先進医療の時から施設認可を取得し、元年度 45 例、これまでに 333 例と、いずれも北摂屈指の施行数となっている。これに加え、患者様が苦痛なく検査・処置を受けて頂けるよう最新鋭の経鼻内視鏡 Olympus 290N を導入し、大腸内視鏡では積極的に鎮静下内視鏡を行うことで「痛くない大腸内視鏡」が可能となり、さらに挿入が困難な患者様にはカプセル内視鏡検査も実施可能な体制を整えている。

胆膵系の内視鏡検査・処置では、超音波内視鏡ガイド下穿刺（EUS-FNA）システムを導入し、超音波内視鏡検査だけでなく、EUS-FNA による細胞診が可能となっている。

また、数年来、緊急内視鏡が増加し、元年度には、内視鏡的止血術は 74 例、緊急施行の多い内視鏡的逆行性胆膵管造影（ERCP）も 158 例となっている。

さらに、外科と共同し胃粘膜下腫瘍の低侵襲治療である LECS(Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery= 腹腔鏡・内視鏡合同手術)も施行するなど、最先端の医療に取り組んでいる。

肝臓領域では、TACE(Transcatheter Arterial Chemo-Embolization= 肝動脈化学塞栓術)、RFA(radiofrequency ablation= ラジオ波焼灼術)、抗がん剤治療を症例に応じて適切に施行し、C型肝炎に対するインターフェロンを使わない内服治療も積極的に行っている。

消化器癌の化学療法は、日進月歩で、様々な薬剤、レジメンが開発されており、切除不能消化器癌の平均生存期間も飛躍的に延長している。当科では、消化器癌の化学療法も、外来化学療法室と協力し積極的かつ安全に施行している。

近年増加している消化器疾患として炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）があり、生物学製剤の使用が急増するなど治療法が著しく発展している分野だが、この領域についても専門医が安全かつ効果的に治療を行っている。

また、学会活動も、医師・医療従事者が研鑽するために必要だが、当科では、日本内科学会・日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会の総会や地方会シンポジウム、日本超音波医学会などで積極的に発表を行っている。

< 令和元年度患者数 >

新規入院患者数 1,945 人、入院患者延数 18,474 人、外来患者延数 17,081 人

< 令和元年度検査・処置症例数 >

上部消化管内視鏡検査	2,950
下部消化管内視鏡検査	1,268
胃の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	59 (開始から 714)
大腸の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	45 (開始から 333)
食道の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)	20 (開始から 82)
大腸ポリープ切除 (polypectomy/EMR)	559
内視鏡的逆行性膵胆管造影 (ERCP)/内視鏡的総胆管結石除去 /内視鏡的胆管ドレナージ・ステント留置	93
超音波内視鏡	140 (EUS-FNA 17)
内視鏡的止血術	74
小腸カプセル内視鏡	10
小腸ダブルバルーン内視鏡	11

< 令和2年度活動目標 >

新規入院患者数・検査・処置数・化学療法数の増加を図り、それぞれの領域について質の高い医療を目標とする。当院はESDを積極的に行っており、特に実施施設基準の必要な大腸ESDも施行可能基準を満たしており、ますます症例数の増加を図っていく。また、消化管では、最先端のOlympus Lucera Eliteシリーズ内視鏡により、精緻な診断・治療を行い、胆道系処置についても、超音波内視鏡ガイド下穿刺細胞診(EUS-FNA)が施行可能となり、症例数の増加を図っていく。また、導入が決まった最新の経鼻内視鏡290Nにより「楽にうけられる上部消化管内視鏡」をアピールし、健診など含め上部消化管内視鏡の症例数も増加させるよう努める。一方、最近導入したカプセル内視鏡・バルーン小腸内視鏡の症例数の充実も図っていく。さらに、近年ニーズが高く、下部消化管内視鏡検査のオープン検査を増やしていく予定である。

また、消化器癌の化学療法の分野でも、様々な薬剤、レジメンが開発されており、それらを積極的かつ安全に施行していく。肝臓の分野においても、26年度にはgenotype 1型に対し、C型肝炎のインターフェロンを使わない治療が保険適応になったが、27年度にはgenotype 2型に対する薬剤も保険適応となり、これらも積極的に施行していく。肝臓癌治療においても、TACEだけでなくRFA症例の増加も目標としており、また新規抗癌剤のレンバチニブの使用も開始するなど、放射線科や超音波検査室と連携して肝臓癌の早期発見に努めていく。

神 経 内 科

<スタッフ>

玉田 尚（副院長兼部長）
中村 正孝（非常勤医師）
古川 公嗣（非常勤医師）
小松 研一（非常勤医師）
井上 穰（非常勤医師）
細川 隆史（非常勤医師）
殿村 修一（非常勤医師）
酒巻 春日（非常勤医師）
大井 和起（非常勤医師）

<臨 床>

脳梗塞症例については緊急の血栓溶解療法の適応でない症例について入院加療を行った。また地域連携パスの一環として、脳梗塞パスも行い地域医療にもたずさわり、地域医療に貢献している。

<研 修>

騎馬戦型高齢化社会に向けて、近い将来脳梗塞は神経内科専門医のみならず内科系一般医も診療にあたる必要が出てくるため研修の一環として若手医師に担当としていただくシステムをとっている。

呼 吸 器 外 科

<スタッフ>

菅 理晴（呼吸器外科部長）：呼吸器外科専門医、胸部外科学会指導医
気管支鏡指導医、外科専門医、がん治療暫定教育医、
日本医師会認定産業医、CT 肺癌検診認定医

康 あんよん（医師）：

<特 色>

呼吸器センターとして呼吸器内科と協力しながら診断から治療までを包括的にかつ迅速に行っています。手術症例ではクリニカルパスを導入し、医療安全の向上や業務の効率化を図っています。手術は肺癌症例を含め完全胸腔鏡下手術を基本としています。また手術時の縦隔鏡検査や胸腔洗浄細胞診により、正確な病期診断・適切な治療方針の決定に努めています。術前～術後にはリハビリ科に呼吸リハビリを行って頂き、呼吸機能の改善・術後合併症の予防に努めています。当院は呼吸器外科専門医制度の関連施設、大阪府癌拠点病院であり、肺癌の治療では手術はもとより術前導入化学放射線治療や術後補助化学療法、再発癌に対する集学的治療も積極的に行い、治療成績の向上に努めています。

<令和元年度活動実績>

平成 30 年度は康医師（2 児の育児中）と 2 名体制で手術・病棟・外来業務を行いました。手術は京大から大学院生にスコピストとして応援に来てもらい、全体の 90%以上を完全胸腔鏡下で行うことが出来ました。全手術件数は 123 件、全麻が 115 件で前年度と同様でした。手術の内訳は肺癌 66 件、転移性肺腫瘍 7 件、縦隔腫瘍 4 件、気胸 23 件などで、肺癌症例が増加しました。また化学療法は 260 件施行し昨年より増加しました。内訳は入院化学療法が 63 件、外来化学療法が 197 件で、入院件数はやや減少しましたが外来が年々増加傾向にあります。

<令和 2 年度の目標>

令和 2 年度は引き続き 2 人体制で診療を行っていくことになると思いますが、手術には 3 人必要ですので 3 名体制に戻れるように大学や病院に働きかけていきます。そして地域医療機関との連携を強化し呼吸器内科の協力も得ながら手術症例数を増やすため努力してまいります。手術は引き続き完全胸腔鏡下手術を積極的に行い、より低侵襲で安全な術式を追求します。病院経営状況が厳しい中ではありますが、新しいデバイスの導入や更なる術式の改良に取り組み、質・量ともに地域で一番の診療科を目指したいと思っています。更に包括的診療にあたっては呼吸器内科と常に検討を行い、EBM を基本としながらも最新の知見を速やかに導入し、患者さんに最適な医療を提供していきます。

呼 吸 器 科

<スタッフ>

北 英夫（部 長） S62 卒

京都大学臨床教授。京都大学医学博士
日本内科学会認定内科専門医・指導医・近畿支部評議員
日本呼吸器学会専門医・指導医・代議員
日本アレルギー学会専門医・指導医
日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医
日本癌治療認定機構がん治療認定医・
日本呼吸ケアリハビリテーション学会評議員
日本結核病学会 代議員

中村 保清（副部長） 日本内科学会認定内科専門医 日本呼吸器学会専門医
日本アレルギー学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会指導医 ICD

深田 寛子（副部長） 日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本呼吸器学会専門医
日本癌治療認定機構がん治療認定医、ICD

長谷川浩一（副部長） 京都大学医学博士
日本呼吸器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医

鳳山 綾乃（医 員） 日本呼吸器学会専門医 日本内科学会認定医

<異 動>

村山 恒俊（医 員） 令和 2 年 4 月から公立甲賀病院から当院へ

後藤 健一（副部長） 令和 2 年 4 月から京都市立病院に異動

<令和元年活動実績>

外来は月曜から金曜までで、気管支鏡検査は火曜日、金曜日の午後 2 時から行っており、C T
ガイド下生検も月曜日の午後 3 時から行っている。月に 1 回、火曜日に近隣の医師と合同で公開
カンファレンスを実施している。

・呼吸器科における外来患者数（前年）

1 日当たり平均 63.9 人／日（65.8） ×外来診察日：週 5 日間

・呼吸器科入院病床数・患者数・平均在院日数（前年）

呼吸器科入院病床数（定数） 40 床

実際の入院患者数（平均） 49.9 人／日（49.6）

平均在院日数 14.7 日（13.7）

新入院 1,135 人（1,289）

・気管支鏡検査数（1 ヶ月当りの件数） 20 件

呼吸器外科とともに呼吸器センターとして外科と内科の垣根をなくして診療にあたり、常に呼吸器内科全般の最新の治療を行えるように研鑽を積んでいる。慢性呼吸不全における在宅酸素療法は80例程度、在宅人工呼吸療法26例（NPPVを含む）睡眠時無呼吸症候群の夜間睡眠ポリグラフ検査（PSG）年間100例、鼻CPAP年間46例程度導入しており、気管支喘息クリニカルパス入院18例、慢性呼吸不全患者に対する包括的呼吸トレーニングプログラム入院11例程度となっている。

肺癌診療については、大阪府がん診療拠点病院として他科や他職種と連携しながら治療効果と生活の質（QOL）の両立にも取り組んでいる。近年、PD-1阻害薬、各種分子標的薬などの次々と新規薬剤が上市され、この分野の進歩は著しい。これらの薬剤を確実に安全に使用するため、副作用マネジメントを含めた院内クリニカルパスや薬剤師外来など他職種や他科とも連携して副作用対策にあたっている。また、今年度より保険診療となった遺伝子パネル検査についても、病理との緊密な連携により初診時の気管支鏡検査検体での施行が可能となっており precision medicine を実践している。また、標準治療終了時にも検体採取が可能であれば大阪国際がんセンター等のゲノム外来と連携し、パネル会議を経て、新たな治療に結び付いた症例も経験している。その他、気道閉塞を生じた手術不能の肺がんや食道がんに対して金属ステントの留置により QOL の改善を図っている。また、高槻市の肺がん検診の読影会への参加や多施設共同臨床研究にも積極的に参加をしている。

肺がん治療において早期からの緩和ケアが必須のものとなっている。がん診療に携わる医師のため緩和ケアの教育プログラムは全国で実施され、当科スタッフも全員修得済みである。診断時よりがん相談センター、院内緩和ケアチームと連携し、疼痛管理を中心とした支持療法のみならず、全人的苦痛に対応すべく取り組んでいる。また、患者さんのご希望に応じて、緩和ケア病棟の利用は言うまでもなく、社会ケースワーカーや退院調整看護師、地域医療連携室、訪問看護ステーション等と、地域の診療所と連携した在宅管理も行っており、終末期への体制も整備されてきている。その他の多彩な呼吸器内科疾患についても確立された Up date な治療を心がけている。気管支喘息患者には吸入ステロイドを中心とした治療を行い、入院の必要な例にはクリニカルパスを用いた教育指導を行い、自己管理を目指している。外来では当院独自の外来喘息教育プログラムを作成し、看護師による吸入指導とピークフローメータを用いた自己管理の指導を行い、更に吸入指導については近隣の薬局とも連携して行っている。また、H24年度よりはアレルギー性気道炎症の指標としての呼気NO測定や特殊な肺機能検査であるモストグラフを用いて症状だけに頼らず、客観的指標による喘息コントロール状態の評価に努めている。また、従来の吸入薬でコントロール不良の重症喘息にて対しては積極的に omalizumab や抗 IL5 抗体薬や抗 IL4/13 抗体薬などの分子標的薬を使用している。今後は気管支鏡による温熱療法もすでに全国で臨床導入されており、当院でも導入を検討していきたい。

外来初診で多い遷延性咳そうには診断のアルゴリズムを作成し、咳喘息の他、逆流性食道炎、百日咳などの早期発見に留意している。

COPD を中心とした、慢性呼吸器疾患には肺機能検査や CT による早期発見と禁煙外来との連携による、禁煙指導、気管支拡張薬を中心とした治療を行っている。進展期にはリハビリテーション科、栄養科、薬剤部等とのチーム医療による、包括的リハビリテーションプログラム入院を行い、さらに、地域の診療所との連携による継続を図っている。また、H26年4月より慢性疾患専門看護師による HOT 患者を中心とした看護外来、ほっとひといき外来を開始し、慢性呼吸器疾患患者に対する、より包括的できめ細かな対応が可能になった。睡眠時無呼吸症候群に対しては、個室使用による PSG 検査、簡易睡眠モニターを実施し CPAP 治療、口腔内装具による治療

を行い、耳鼻咽喉科、糖尿病、生活習慣病科、栄養科とも協力し、合併症、肥満に対する治療を行っている。また、循環器科と協力して心不全に伴う睡眠呼吸障害に対し、ASV (assisted-servo ventilation) による最新の呼吸管理を行っている。

そのほか、あらゆる呼吸器感染症について対応している。肺結核についてはモデル病床（3床）により、陰圧隔離をおこなっている。また、近年著増している 非結核性抗酸菌症については従来の薬物治療のみならず、適応のある症例については手術治療も併用している。

また、間質性肺炎については HRCT や気管支鏡検査により、原因検索に努め、膠原病内科とも連携して診断治療にあたっている。肺線維症を中心とした慢性線維性肺臓炎については pirfenidone や nintedanib などの抗線維化薬を積極的に使用している。

急性呼吸不全、急性肺障害、慢性呼吸不全の急性増悪等に対しては、HCU において集中的な呼吸管理を行っており、挿管人工呼吸管理においては肺保護を考慮した低換気量による人工呼吸管理やリクルートメント手技などを行っている。また、問題となっている VAP (人工呼吸関連肺炎) 対策として NPPV (non-invasive positive pressure ventilation) による呼吸管理のみならず、陰圧式の人工呼吸器を用いての管理などを試みている。また、最新の酸素療法である Nasal High Flow therapy もいち早く導入し、QOL に留意した酸素化の改善が可能となった。また、敗血症などにもともなう急性肺障害や肺線維症などの間質性肺炎の急性増悪にたいしては、従来の薬物治療のみならず、血液濾過によるエンドトキシン吸着療法 (PMX-DHP) や ECMO を行い、救命率の向上を目指している。

市中肺炎、院内肺炎については診療ガイドラインを踏まえながらも地域の病院として個々の症例に応じた診療と当院での薬剤感受性を考慮した適切な抗菌剤の使用に努めている。

また、当科は京都大学の学生臨床実習の協力科であり、年間数名の学生実習とその他希望により他大学からの実習を数名受け入れている。

当科は研修医にとっては非常に実践的な環境であると考えられる。豊富な症例に対応していただき、基本的な診療技術と基本的治療を経験してもらい、多彩な呼吸器疾患に対応しなくてはならない呼吸器内科医として成長できる環境を提供できると考えている。また、日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本内科学会、日本呼吸器内視鏡学会の認定施設として総会、地方会での症例報告、研究発表等を行っている。大阪府内、北摂地域を中心とした多くの研究会や講演会での世話人、座長、講演などを務めている。

<令和2年度活動目標>

本年は新型コロナ感染により、入院、外来、および院外の活動もかつてない抑制を受けているが、今後、ウィズコロナ時代、ポストコロナ時代向けに新しい医療の形を模索しつつ、まずはコロナ前の状態まで回復をする事に努めていきたいと考えている。

小児科

<スタッフ>

片山 博視（部長）
江口 英希（副部長 兼集中治療担当副部長）
中村 道子（医師）
古川 福実（兼院長）
玉井 浩（非常勤医師）

<異動>

中村 道子 令和元年 4 月赴任
片山 博視 令和元年 9 月小児科部長に着任
瀧北 彰一 令和元年 10 月退職

<令和元年度活動実績>

子どもたちが健やかな身体と心を保つことの出来る診療をモットーに北摂三島地域の基幹病院として、地域の開業医および他病院と連携を保ちながら小児科領域全般の診療に当たっています。また三島地区広域小児救急医療機関として積極的に救急車の受け入れを行っており、毎週水曜日には二次救急輪番病院として 24 時間小児科医が待機しています。

外来は月曜日から金曜日まで小児科領域の発達、疾病全般を幅広く行っています。
また専門外来は以下の通りです。

心臓外来	第 1, 3, 5 週の木曜日午後、および第 2,4 週の水曜日午後
ダウン症・神経外来	第 4 週の水曜日午後
小児アレルギー外来	毎週金曜日午後
乳幼児健診	毎週月曜日午後
予防接種	毎週火曜日、水曜日、および第 2,4 週の木曜日午後

また救急は原則、全例、積極的に受け入れていきます。

外来患者数 1,544 人（1 日平均 6.4 人）

入院患者数 361 人（新入院：85 人、退院：84 人） 在院日数：3.3 日

◆特殊外来

◇心臓外来（毎月 第 2・4 週 火曜日 午後より）
◇神経外来（毎月 第 1 週 火曜日 午後より）

◆健診等

◇1 ヶ月健診（毎週 月曜日）
◇乳児健診（毎週 月曜日）
◇予防接種（毎週 月曜日：午後 3 時、水曜日・木曜日：午後 2 時より）

◆救急

患者数 116 人（時間内：39 人、時間外：63 人、深夜：14 人）

外 科

消化器外科

<スタッフ>

平松 昌子（副院長）大阪医科大学臨床教育教授・非常勤講師
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医
日本臨床外科学会幹事・評議員
日本消化器内視鏡学会専門医
日本食道学会食道外科専門医・食道科認定医・評議員
日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医
日本腹部救急医学会評議員・暫定教育医 他

小林 稔弘（消化器外科部長・乳腺外科部長）
日本外科学会専門医、日本乳癌学会専門医、日本消化器病専門医
検診マンモグラフィ読影認定医
有馬 純（医師）日本外傷診療研究機構 JATEC 修了
鈴木 悠介（医師）

<異 動>

駕田 修史 平成 31 年 4 月 1 日着任
有馬 純 令和 2 年 3 月 31 日退任
駕田 修史 令和 2 年 3 月 31 日退任

<令和元年度活動実績>

上部・下部消化管の悪性疾患に対してその大半を腹腔鏡下手術によって行い、胆石症や単径ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患では単孔式腹腔鏡下手術を標準術式としている。食道癌に対しては北摂地域で数少ない食道外科専門医による腹臥位による完全胸腔鏡・腹腔鏡下の食道切除再建術を行い、食道胃接合部の癌に対しても低侵襲かつ根治性の高い手術を可能にした。cStage I の胃癌に対しては幽門側胃切除・噴門側胃切除・胃全摘を問わず、切除・郭清から再建までの完全腹腔鏡下手術を行い、高度進行胃癌に対しては積極的な拡大手術や術前補助療法を併用して、根治性の向上を目指す。大腸癌に対してはそのほとんどを腹腔鏡下手術で行い入院期間の短縮につながった。ストマ外来では専門の医師と皮膚・排泄ケア認定看護師がケアに当たっている。肝癌に対しても腹腔鏡下手術を導入し、症例によっては単孔式での手術も行う。胆石症では単孔式腹腔鏡手術と内視鏡治療の併用によりほとんど傷のない治療を可能にした。当院は単孔式手術や 4K 内視鏡のような最新の技術を取り入れることで患者さまに質の高い医療を提供している。また、化学療法の分野においても最新のデータに基づいた治療の提供を外来化学療法室と連携して行っている。

また当院は大阪府がん診療拠点病院であり、治療法の決定に際してはガイドラインに沿った標準的治療法を提示することはもちろんのこと、個々の患者さまの背景やニーズにも配慮したオーダーメイドの治療も提供している。手術後・退院後も、担当医がかかりつけ医と密に連携をとりながらフォローアップを行い、抗癌剤治療はできるだけ外来通院で行えるように専門看護師を配置した外来化学療法室を完備している。さらには緩和ケア科による終末期医療まで、様々な職種がチームとなって、ひとりひとりの心に寄り添った治療を行っていくよう心がけている。

(主な手術件数)

食道切除再建術	4 件 (うち鏡視下手術	3 件)
胃切除	18 件 (うち鏡視下手術	10 件)
胃全摘	6 件 (うち鏡視下手術	2 件)
結腸切除	31 件 (うち鏡視下手術	26 件)
直腸切除	18 件 (うち鏡視下手術	16 件)
肝切除	7 件 (うち鏡視下手術	0 件)
膵切除	4 件 (うち鏡視下手術	0 件)
胆のう摘出術	69 件 (うち鏡視下手術	63 件)
虫垂切除	29 件 (うち鏡視下手術	29 件)
鼠径ヘルニア	76 件 (うち鏡視下手術	57 件)

<令和 2 年度活動目標>

それぞれの患者さまのニーズや病態を理解しながら、これまで導入してきた新しい手技や最新の知見をもって質の高い外科治療を提供していく。また、他科や他職種を含めた勉強会やカンファレンスを通してチーム全体のスキルアップを図っていく。学会や研究会活動も積極的に行い、当院からも新たな情報発信を目指す。

乳 腺 外 科

<スタッフ>

小林 稔弘（部長）：乳腺外科

坂根 純奈 ：乳腺外科

<令和元年度活動実績>

乳房に関する良性（腫瘍、乳腺炎、女性化乳房症など）から悪性（癌、肉腫）までの各種疾患に対して検査、治療を行っている。

乳腺疾患に対応する検査手段は全て備えており MMG、US、CT、MRI などの画像診断を可能としている。特に MMG は高濃度乳腺においても有効性が高いとされるトモシンセシス付きの最新鋭の機材を用いて、通常の画像に加え、デジタル断層像を撮影できる体制を構築し活用している。不明瞭な病変の発見はもちろんだが、不要な追加検査を減らすことも心がけている。

さらに検診発見の多い微小石灰化に対しても、この最新 MMG 利用のデジタルステレオガイド装置を使用した吸引式針生検でさらに精密な検査も可能としてきた。

乳腺手術は 47 例を行い、乳癌症例の 6 割に温存手術を選択し、乳房切除術を選択する場合も、形成外科との乳房再建術のオプションも提示して希望者には提供している。良性疾患の手術も摘出術から血性乳汁分泌に対する乳管腺葉区域切除の様な特殊手術も手掛けている。

化学療法、ホルモン療法、分子標的療法などの薬物治療も、本邦で適応のある薬剤は全て導入している。さらに多施設共同試験などにも参加しての治験も行っている。

当院は外来化学療法室を有し、化学療法専門看護師、専門薬剤師とのチームで患者を支えるよう努力している。薬剤師外来もオープンし、治療前から施行中の副作用対策などを相談、医師への助言も行っている。

温存手術に欠かせない放射線治療も放射線治療専門医や専任放射線技師、看護師とも連携して行うことを可能としている。

常勤病理専門医の協力で、術中迅速病理検査でリンパ節転移の有無、断端診断を素早く行える体制を整え、最終診断での希少例の発見なども、高次医療機関とのコンサルテーションを得たりして行っている。

緩和科医師、看護師との連携により、癌と診断されたその日からでも癌相談、緩和治療などでのサポートが受けられる体制も作っている。

術後フォローも乳癌の場合、長期に及ぶこともあり、地域との連携を重視し、かかりつけ医との間で協力して分担していくことも積極的に行っている。

<令和 2 年度活動目標>

地域がん拠点病院にふさわしい診断、治療体制を維持する。

ゲノム医療の波が本邦にも訪れていることを認識し、当院においても遺伝子関連検査、治療応用に対応できる体制づくりを各科横断的に整えていきたい。

外来化学療法室、薬剤部、放射線科などを含めた多職種が、臨床治療のみならず学会活動や公開講座にも参加し、活動を内外に告知するべく努力していく。

受診者の満足度を追及し、喜ばれ安心してもらえ、地域医療機関の信頼を得られる医療を提供していきたいと考えている。

脳 神 経 外 科

<スタッフ>

平松 昌子（副院長兼脳神経外科部長）

青山 育弘（非常勤医師）

池田 直廉（非常勤医師）

<令和元年度活動実績>

週４回（月・火・水・金曜日）一般外来診療、救急患者受け入れ、入院患者のコンサルトなどを行った。

外来患者延べ数 996 人 / 年

整 形 外 科

＜スタッフ＞ ＊：日本整形外科専門医 #：日本リウマチ学会専門医

小田 幸作＊#（部 長）：関節リウマチ、股・膝関節外科、外傷および整形外科一般

徳山 文人＊（副部長）：脊椎外科、外傷および整形外科一般

日本整形外科学会認定脊椎脊髓病医

伊丹 康夫＊（副部長）：肩・肘関節外科、外傷および整形外科一般

吉川 慶（医 師）：整形外科一般

木本 智子（医 師）：整形外科一般

阿部 宗昭＊（非常勤医師）：大阪医科大学名誉教授、手の外科（日本手外科専門医）

岸本 郁男＊#（非常勤医師）：大阪医科大学非常勤講師、股・膝関節外科、関節リウマチ

＜異 動＞

小田 幸作 令和 2 年 3 月退任

吉川 慶 平成 31 年 4 月着任、令和 2 年 3 月退任

木本 智子 平成 31 年 4 月着任、令和 2 年 3 月退任

阿部 宗昭 令和元年 11 月退任

＜専門外来＞

脊椎外来、肩・肘関節外来、股・膝関節外来、リウマチ外来、エコー外来、

＜令和元年度活動実績＞

元年度入院患者延べ数 13,552 人（1 日平均 37.1 人）

元年度外来患者延べ数 14,195 人（1 日平均 58.2 人）

令和元年度の手術手技件数 計 639 件

当科は三島地区の地域基幹病院としての役割の一翼を担っており、救急外傷などに対する急性期治療、つまりは骨折を中心とする外傷疾患や一般整形外科疾患を多く扱っており、救急搬送要請には 24 時間対応している。スタッフは各症例に応じて高いレベルで非常にきめ細やかな診療を行っている。

Subspecialty としては当科数十年の歴史と伝統を持つ股・膝関節疾患に対する治療を継続しており、また脊椎脊髓病疾患、肩・肘関節を中心とする上肢の変性疾患やスポーツ外傷に対する治療など、専門性に富んだ医療を幅広い領域で行っている。各分野において経験豊富なエキスパートが揃っており、地域基幹病院として開業医の先生方からも多くのご紹介をいただいている。

人工関節外科の手術において膝ではより高い QOL をめざした人工関節の導入、股関節では低侵襲人工股関節置換術（MIS-THA）を適応症例に施行し、筋肉や腱の切離が少ないこと、あるいは全く行わないことで患者の術後の疼痛コントロールや運動回復が早くなり、また術後リハビリ期間の短縮により早期の社会復帰や退院を可能にしている。

膝靱帯、半月板損傷などのスポーツ整形外科治療では、靱帯の解剖学的再建を行い、トッパスリートの膝損傷のスポーツ復帰を可能にしている。

脊椎脊髄病疾患に対しては、頸・胸・腰椎の各疾患による主に神経圧迫病変による疼痛や運動機能障害などを改善させる治療を行っており良好な成績をあげている。腰椎椎間板ヘルニアに対しては小侵襲手術である内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術（MED）を行っており、2cm 弱の小切開で数日～1週間程度の短期間で退院を可能にしており、腰部脊柱管狭窄症に対しても同様に内視鏡下椎弓切除術（MEL）を行っている。脊柱変形や不安定性の強い脊椎変性疾患に対する脊椎固定術も安定した成績を出しており、脊椎悪性腫瘍手術も手掛けている。しかしながら当科ではこれらの疾患に対しては保存治療を第一としており、MRI や造影検査、動態撮影などの検査にて評価を行い、その結果や症状により、また患者のニーズに応じて各種薬物治療、硬膜外ブロック、神経根ブロックなどを行っている。前述の様々な手術療法はこれらの治療が奏功しない場合に行うものであり、患者立脚型の治療を行うということで高い満足度を得ている。

肩関節、肘関節を中心とする上肢疾患については、アメリカ留学での研究で上肢の解剖やバイオメカニクスを熟知した伊丹副部長が担当をしている。こちらでも投薬やブロック療法、リハビリ治療などでの保存治療を第一としているが、それらが奏功しない場合には、腱板断裂に対しては関節鏡視下腱板修復術を行い、断裂のシビアな症例に対しては筋膜移植による関節鏡視下上方関節包再建術やリバース型人工関節置換術も行っている。スポーツ外傷などによる反復性肩関節脱臼に対しては関節鏡視下関節唇修復術を行い、肩関節拘縮に対しては関節鏡視下関節受動術を行っている。さらに肘関節疾患に対しても上腕骨外上顆炎に対する関節鏡視下滑膜切除術を、肘関節拘縮に対して関節鏡視下関節受動術も行っている。いずれも小侵襲手術による高度な技術により良好な手術治療成績を収めている。

関節リウマチに対しては、患者の症状に合わせ様々な治療を行っている。関節リウマチの治療は treat to target (T2T) の概念を取り入れ MTX をアンカードラッグとして biologics を導入し、他科と院内連携および病診連携をはかり、安全で確実な治療を目指している。

骨粗鬆症に対しては骨塩定量や採血検査を行い、その結果により各種薬物療法を行い骨折が生じないための予防治療を積極的に行っている。また度重なる脊椎圧迫骨折などをはじめとする重症骨粗鬆症に対しては強力な薬物治療である PTH 製剤やデノスマブの投与を行うなど、骨粗鬆症治療にも力を入れている。

三島地区は超高齢者の人口比率が高く、救急患者の多くを占める大腿骨近位部骨折の患者に対しては他科との密な院内連携を図り、術後はチーム医療によりクリニカルパスの導入を行っている。

当科は急性期病院として新患患者や救急患者、開業医の先生方からの紹介患者を積極的に受け入れている。諸先生方のご協力のもと地域連携を強化して手術対象になる患者紹介を増やし、また先生方への逆紹介にも力を注いでおり、地域に密着し、より地域の役に立つ病院であるための努力を行っている。

形 成 外 科

<スタッフ・専門分野>

田辺 敦子（部長）：日日本形成外科学会領域指導医、日本形成外科専門医、
日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医、日本美容外科専門医、
日本形成外科学会小児形成外科分野指導医、日本抗加齢医学会専門医、
日本認定産業医、臨床研修指導医
櫛田 哲史（副部長）：日本形成外科専門医、臨床研修指導医、日本創傷外科学会専門医
日本形成外科学会小児形成外科分野指導専門医
鈴木 健司（非常勤）：日本形成外科学会専門医、日本熱傷学会専門医、
日本創傷外科学会専門医、皮膚腫瘍外科指導医専門医
光井 俊人（非常勤）：日本形成外科専門医

<異 動>

令和2年3月31日 光井 俊人 医師 退職

<令和元年度活動実績>

令和元年度 形成外科新患者数 643 名
令和元年度 手術件数 566 件（入院手術件数 204 件）

<学会発表>

演 題：成人臍ヘルニア症例での工夫
筆 頭 者：田辺敦子
発表場所：第61回 KC会
発 表 日：2019年6月1日
場 所：大阪

演 題：ガス壊疽にて判明した重症糖尿病症例の救済の経験
筆 頭 者：田辺敦子
共同研究者：金子至寿佳、櫛田哲史
発表場所：第11回 日本創傷外科学会
発 表 日：2019年7月4日

演 題：形成外科ってなんです科？
筆 頭 者：櫛田哲史
発表場所：高槻現代劇場
発 表 日：2019年7月31日
場 所：大阪

<論文発表>

演 題：ポリコナゾール長期服用によると考えられる顔面・手部多発性有棘細胞癌症例の
治療経験

筆 頭 者：田辺敦子

共同研究者：平川結賀、引網梨奈、櫛田哲史、奥野愛香、古川福実

雑 誌：日本頭蓋顎顔面外科学会誌 第 35 巻 第 4 号 117 頁～ 121 頁

発 行 年： 2019 年 12 月

<令和 2 年度活動目標>

当院形成外科は、日本形成外科学会認定施設であり、近隣施設から多数の患者様のご紹介を頂いております。

手術治療といたしましては、皮膚・皮下腫瘍摘出術、顔面外傷・顔面骨折、眼瞼下垂症、傷跡の手術治療、悪性腫瘍切除後の再建などが多く行われています。また、シミのレーザー治療などの自費診療も行っております。

今年度も地域医療に重点を置き、更に良質な形成外科診療を行うよう努めます。

皮膚科

<スタッフ>

古川 福実（院長兼部長）
奥野 愛香（副部長）
矢野 翔也（常勤嘱託医師）

<令和元年度活動実績>

元年度入院患者延べ数 810 人
元年度外来患者延べ数 8,355 人

- ・アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触皮膚炎、尋常性乾癬、水疱性類天疱瘡、尋常性ざ瘡などの炎症性皮膚疾患、蜂窩織炎、带状疱疹、白癬などの感染性皮膚疾患、円形脱毛症、陥入爪などの皮膚付属器疾患、褥瘡、下腿潰瘍、皮膚腫瘍、化学療法による皮膚障害、薬疹などの診療を行っています。
- ・水曜日には古川院長による院長外来を行っております。他県からの紹介もあり、SLE や強皮症などの膠原病、難治性アトピー性皮膚炎、難治性蕁麻疹の方などの診療をしています。プラケニルの標準化投与に努めております。
- ・2018 年 4 月より美容皮膚科外来を開設し、肌画像カウンセリングシステム「re-Beau2」を使用し、治療前後や経過を比較しながら、治療を行っています。老人性色素斑、母斑などレーザ治療が必要な場合は当院形成外科と連携し治療をしています。
- ・乾癬に対して、生物学的製剤治療の認証施設となっているため、難治症例に対して、レミケード、ステララ、ヒュミラ、コセンティクス、トレムフィア、スキリージなどを使用しています。
- ・重症のアトピー性皮膚炎の適応のある方に、新しい治療薬「デュピクセント®」注射薬を投与しております。
- ・皮膚腫瘍に関しましては、ダーモスコピー、組織検査を併用して、早期に診断し、治療に手術を要する場合は、当院形成外科にお願いしています。
- ・褥瘡に対しては、毎週月曜日午後に病棟の褥瘡回診と褥瘡外来を行っています。在宅かかりつけ医や施設からのご紹介が多く、皮膚・排泄ケア認定看護師と皮膚科医、形成外科医で症例それぞれに合った治療、予防ケアができるように努めています。

泌 尿 器 科

<スタッフ>

六車 光英（部 長）
金谷 勲（副部長）
高安 健太（医 師）平成 31 年 4 月 1 日着任

<令和元年度活動実績>

平成 31 年 4 月から高安が着任して 3 人体制に戻ったため救急対応が行いやすくなり、救急患者数が前年度の 200 人から 272 人に増加し、それに伴って新入院患者数も前年度の 303 人から 335 人に増加した。令和元年度の手術件数は下記の通りで、経尿道的尿路結石除去術や経尿道的前立腺核出術が増えた一方、腹腔鏡下腎摘除術や腹腔鏡下前立腺全摘除術が減少傾向にあった。

後腹膜	後腹膜リンパ節郭清術	1
副腎	腹腔鏡下副腎摘除術	4
腎・尿管	腹腔鏡下腎摘除術	3
	経皮的腎瘻造設・拡張術	10
	経皮的腎嚢胞穿刺術	1
	経皮的針生検	2
	経尿道的尿路結石除去術（TUL）	43
	尿管鏡	1
	経尿道的尿管狭窄拡張術	1
	経尿道的腎盂凝固止血術	1
	尿管ステント留置術	6（手術室施行例のみ）
	経尿道的膀胱腫瘍切除術（TURBT）	64
膀胱	膀胱全摘除術・回腸導管造設術	1
	経尿道的膀胱結石摘出術	13
	経尿道的電気凝固術	4
	膀胱瘻造設術	2
	経尿道的前立腺切除術（TURP）	5
前立腺	経尿道的前立腺核術（TUEB）	17
	腹腔鏡下前立腺全摘除術	9
	前立腺生検	53（他の手術と同時にに行った 5 例除く）
	尿道狭窄内視鏡手術	6
尿道		
陰茎	包皮環状切除術	2
陰囊	高位精巣摘除術	1
	陰嚢水腫根治術	3
	精巣捻転手術	2
	フルニエ壊疽デブリドマン	1
	陰嚢内腫瘍摘除術	1
	計	257

<令和 2 年度活動目標>

令和 2 年度は再び常勤医が 2 人に減る予定であるので、患者数や手術件数が減らないように努力したい。

産 婦 人 科

<スタッフ>

平松 昌子（副院長兼部長）

中村 路彦（副部長）

<異 動>

なし

<特 色>

産婦人科の全般にわたり、総合的に診療を行っている。

<産 科>

妊娠初期から分娩、産褥期まで全妊娠期間に渡り診療を行っている。妊娠経過が順調な妊婦さんには助産師外来での妊婦健診が可能で、何か異常が疑われた場合にはすぐに医師への報告があり、迅速な対応をとっているので安心して妊婦生活を送ってもらっている。また糖尿病、甲状腺疾患、自己免疫疾患を合併している場合は当院の内科医に紹介し、一緒に妊娠・分娩経過を行っている。当科では妊婦さんが安心して分娩できるようにスタッフ一同心がけている。

分娩件数：37 人（令和元年度）

<婦 人 科>

子宮筋腫・卵巣腫瘍等の良性疾患から子宮癌・卵巣癌等の悪性疾患、更年期障害に渡るまで幅広く診療を行っている。手術において良性疾患の場合は術式を患者と相談しながら決定している。希望があれば腹腔鏡での手術も行っている。また子宮鏡検査は外来で行っており日帰りでの処置を可能にしている。

また終末期医療においては当院の緩和医療チームと共同での管理を施行し、一人一人の患者の要望に応じながらの診療を心がけている。

眼 科

<スタッフ>

文 俊貴（副部長）
滝 功一郎（医 師）
奥村 峻大（医 師）

<異 動>

植木 麻理（部 長）：令和元年 9 月退任
文 俊貴（副部長）：令和元年 10 月着任
滝 功一郎（医 師）：平成 31 年 4 月着任

<特 色>

眼科疾患全般の治療に対応しており、白内障や網膜硝子体疾患、眼形成、涙道疾患に対する手術治療に力を入れている。白内障手術に関しては、日帰りから入院まで患者様のニーズに幅広く対応し、乱視矯正眼内レンズや多焦点眼内レンズなどのプレミアムレンズを用いた白内障手術も行っている。硝子体手術については最新の手術機器を用いた小切開硝子体手術を行い、眼瞼下垂の手術や涙道内視鏡を用いた涙道閉塞に対する治療も積極的に行っている。網膜硝子体疾患では加齢黄斑変性や網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫に対する抗 VEGF 薬硝子体注射も行っている。

<専門外来>

黄斑外来、緑内障外来、ロービジョン外来

<令和元年度活動実績>

手術統計 632 件

<令和 2 年度の活動目標>

病診連携を上手く活用し、紹介患者数の増加と手術件数の増加を目標とする。

耳 鼻 咽 喉 科

<スタッフ>

古川 福実（病院長兼部長）

田浦 晶子（藍野大学教授）：めまい

<異 動>

なし

<特 色>

北摂地区の中核病院の一つとして、紹介患者を受け入れている。しかし、ベッタウンが近くにあるため、直接当院を受診する軽症の患者も多く、一次診療、二次診療を併せ持った性格をもっている。

<診療実績>

外来は月、火、水、金。月曜、金曜は京都大学の応援を得て、二診体制である。第一から第三水曜は田浦晶子藍野大学教授がめまい外来をしている。金曜午後には補聴器外来を設け、相談にのっている。他科入院中の院内紹介の患者も多い。血液内科より、悪性リンパ腫のリンパ節生検の依頼が多いことが特徴です。

<令和 2 年度の活動目標>

今年度は外来、入院とも減少しました。これを少しでも回復させることが目標です。

放 射 線 科 及 び 核 医 学 科

<スタッフ>

◆医 師

後藤 公男（部 長）： 画像診断
山室 正樹（部 長）： 核医学診断 + 画像診断
的場 直樹（副部長）： 画像診断
今井 雅夫（非常勤）： 画像診断
坂中 克行（非常勤）： 放射線治療
中村 清直（非常勤）： 放射線治療

◆診療放射線技師

松原 健夫（課長兼核医学係長）
大嶋 浩嗣（MRI 係長）
中村 義隆（放射線係長）
関本 淑徳（CT 係長）
涌田 哲成（放射線治療係長）
西村 大樹、林 恵理子、松山 佳央、渡邊 良彦、石寄 伸也
松下 あゆみ、在津 幸香里、柳田 泰祐、原 祥太郎
木戸口 堯史、村上 慎哉、中村 仁美

◆事務員

植松 恵美子

<施設認定、資格>

◆マンモグラフィ 検診施設画像認定

◆検診マンモグラフィ 撮影技術認定

林 恵理子 ・ 松下 あゆみ ・ 在津 幸香里
中村 仁美

◆第 1 種放射線取扱主任者

西村 大樹 ・ 木戸口 堯史

◆肺がん CT 検診認定技師

関本 淑徳

◆X 線 CT 認定技師

関本 淑徳 ・ 松山 佳央

◆放射線管理士、放射線機器管理士、医療画像情報精度管理士、 放射線治療品質管理士、臨床実習指導教員

渡邊 良彦

◆放射線治療専門放射線技師

涌田 哲成・渡邊 良彦・石寄 伸也

◆放射線治療品質管理士

涌田 哲成・石寄 伸也

◆救急撮影認定技師

松山 佳央・原 祥太郎

<令和元年度活動実績>

◆研究発表、研修会開催実績

【院外】

※日本赤十字社診療放射線技師会学術総会

座長 会員研究発表

松原 健夫

※北大阪画像情報研究会

発表「当直業務から学んだ症例検討」

中村 仁美

※日本赤十字社診療放射線技師会近畿ブロック研修会

発表「放射線がペースメーカーに及ぼす影響」

原 祥太郎

※ ICLS 研修

指導者 ブース長

松山 佳央

【院内】

※医療被ばくについて（医療安全研修）

松原 健夫

◆研修会・講習会・学会等への参加

※ 74 人 / 30 会（診療放射線技師のみ）

◆その他活動

※オープン検査紹介活動 近隣施設訪問

松原 健夫

※高槻祭り 救護所

松山 佳央

※マンモグラフィ 検診施設画像施設認定更新合格

◆機器整備更新

※一般撮影 FPD システム

※手術室移動型透視装置

※ ZIO ワークステーション 2

※動画ネットワークレポーターシステム

◆放射線科部 + 核医学科部 検査件数

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
一般撮影	44,134	43,640	42,011
造影検査	1,156	781	809
マンモ	1,443	1,172	1,266
CT	10,155	10,325	10,728
MRI	3,706	3,802	3,916
RI	890	889	832
血管造影	551	502	418
放射線治療	133	135	153.
骨密度	970	908	464

◆放射線科部 + 核医学科部 紹介検査件数

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年度
CT	191	197	227	306	332
MRI	236	262	360	529	723
RI	82	104	133	170	163

<令和 2 年度活動目標、計画>

◆放射線科部 + 核医学科部

※教育訓練の開催及び内容の改定

※紹介患者の獲得

※品質管理、機器管理、モニタ管理、画像管理、感染管理の強化

※医療安全への意識強化

※医療被ばく管理強化

※職業被ばく管理強化

リハビリテーション科

<スタッフ>

医師：玉田 尚（部長）2019年4月1日付 就任
馬止 裕（常勤）2019年3月31日付 部長解任
服部 智（非常勤）
理学療法士：野村 省二（リハビリテーション科課長）
新地 史章（第一理学療法係長）
倉繁 浩一（第二理学療法係長）
行本 鉄平（2019年4月1日付 訪問看護ステーションへ異動）
下野 公大（2019年5月1日付 新規採用）
吉田 綾梨 産後休暇（2019年9月7日～2020年10月22日）
他8名

作業療法士：八木 紀子（2019年4月1日付 作業療法係長昇任）
山崎 孝子
石塚 威
大下 綾華
言語聴覚士：椎葉 佳子
大路 かほる

<特色>

当科は、1993年9月にリハビリテーション（以後リハと略す）総合承認施設（理学療法Ⅰ・作業療法Ⅰ）を、2002年8月に言語聴覚療法Ⅱの認可を受け、包括的なリハ活動を展開してきた。2016年4月の診療報酬改定に対応して、全ての施設基準（運動器Ⅰ・脳血管疾患等Ⅰ・廃用症候群Ⅰ・呼吸器Ⅰ・心大血管疾患Ⅰ・がんのリハ）の認可を受けた。急性期病院としてのリハ機能を遂行するために、リハ対象疾患患者に対して早期に介入し、早期退院を図っている。さらに終末期における緩和ケア病棟で緩和医療にも力を注いでいる。

理学療法部門において、運動器リハでは人工関節置換術・関節損傷・脊椎外科・大腿骨頸部骨折（地域連携パス使用）等の整形外科疾患、脳血管疾患等リハの件数は少ないが脳血管疾患・パーキンソン病等の中枢神経系疾患、廃用症候群では外科術後の方や多種多様な運動器廃用の方を対象に早期の日常生活動作の自立とQOLの向上を目差したアプローチを進めている。

呼吸器リハでは、1972年に着手した呼吸理学療法を発展させ、今日では呼吸器外科は勿論、一般外科患者に対しHCUから理学療法を行っている。慢性呼吸不全患者に対しても、包括的呼吸リハプロジェクトを組み患者の早期社会復帰への働きかけを行っている。

2014年7月に施設基準を取得した心大血管疾患リハでは、心不全・狭心症・心筋梗塞等の入院患者を中心に多職種による包括的アプローチ実施している。可能な範囲で外来も開始している。がんのリハビリについては、施設基準取得以前からリハ介入しており、がんの診療資格を所有しているスタッフが緩和ケアまで一貫した多職種での取り組みを図っている。

作業療法部門では、理学療法部門と同様に多様な患者様を対象に、入院中より家庭復帰、職場

復帰を想定したアプローチを行っている。手の外科手術後のハンドセラピーには積極的に取り組んでおり、装具も開発している。

言語聴覚療法部門では、NST 専門療法士として NST 委員会メンバーに加わり摂食嚥下障害（栄養障害含む）の治療やケアに効果を上げている。がん患者においても 2017 年 1 月より算定資格を得て緩和まで介入させている。それ以外に失語症・構音障害・言語発達遅延へのアプローチも実施可能である。

また、2017 年 11 月より認知症ケア専門士として認知症ケアサポートチームの活動に加わっている。

<診療実績>

理学療法患者延件数：44,282 件（前年度 + 5,586）

	外 来	入 院
運動器	3,536	8,038
脳血管疾患	65	1,161
廃用症候群	0	5,642
呼吸器	3	7,232
心大血管	0	4,320
が ん		6,022
その他	287	7,976
小 計	3,891：前年度 +1,236	40,391：前年度 +4,350

作業療法患者延件数：13,124 件（前年度 +1,338）

	外 来	入 院
運動器	1,456	1,212
脳血管疾患	0	784
廃用症候群	0	1,756
呼吸器	0	4,129
心大血管	0	333
が ん		969
その他	131	2,354
小 計	1,587：前年度 - 321	11,537：前年度 +1,659

言語聴覚療法患者延件数：5,659 件（前年度 +1,184）

	外 来	入 院
脳血管疾患	0	429
廃用症候群	0	3,154
集団コミュニケーション療法	0	0
が ん		275
その他	0	1,801
小 計	0：前年度 0	5,659：前年度 +1,184

<平成 31 年度（令和元年度）の活動実績・成果>

令和元年度に実施される病床編成、電子カルテ更新、リハ部門システム（TAK）導入によって、当科の診療業務の変更と改善を図った。これにより、前年度の部門別行動計画で未完または遅延した事業を進めた。結果として、重要目標『全てのリハビリ対象者を選出し、リハビリ専門職 1 人あたりの月平均延件数及び延単位数を増加させる。』の達成、かつ、リハビリテーション業務の管理向上を図るために、下記の通り行動目標を上げて遂行した。

- I. リハビリ対象患者数の増加：①病棟カンファレンス・回診の実施効率の向上、内容は正及び新患者の選出強化②リハ実施率（病棟別・診療科別）と対象患者の増加③院内広報：病院の活動を知る会・広報誌の利用は未実施④クリニカルパスへのリハ介入による患者数確保⑤がん及び心リハ対象の患者数確保（増加）⑥摂食機能療法の導入（専任医師と専任看護師の選出が必要）不可。
- II. リハビリ専門職 1 人あたりの月平均単位数を増加：①若年理学療法士（3 年目）の業務効率の向上（担当患者数の均一化）②連休時対応の対象患者数増加に対応③リハ専門職休暇時における代行患者数及び単位数の維持④手の評価セミナー・SW-test 講習会受講（精密知覚機能テスト算定資格）1 名追加。
- III. 時間外勤務時間の削減：①若年理学療法士（3 年目）の教育（業務指導：治療内容含む）が済み患者割り振りの均等化が図られた。②業務内容の見直しによる作業効率向上（業務マニュアル更新含む）は遂行中③リハ管理システム導入（電子カルテ更新含む）によるコストパフォーマンスの是正中（事務員の専門性向上も含む）。算定基準への対応は SSI（電子カルテ）と TAK（新規システム）で実施し、TAK への全面的移行は来年に持ち越す。
- IV. 材料費の削減：医療消耗器具備品費などの節約（老朽した物から順次購入）。購入時は器具備品の購入リストにならって重要な物から選出：サンディングボード更新。
- V. 教育研修及び医療の質向上：①専門職の資格獲得援助（学会大会・研修会）③卒前教育の実習施設として多校の臨床実習生（PT4 名）を受け入れた。また、理学療法士の生涯学習（卒後教育）として三島ブロック大阪理学療法士会呼吸勉強会を年 2 回開催した。
 濱田 敦 認定理学療法士（運動器）：2019 年 4 月 1 認定
 須々木梓 認定理学療法士（運動器）：2019 年 4 月 1 日認定
 大下綾華 呼吸療法認定士：2019 年 11 月 20 日認定
- VI. その他：①作業療法室に開設：2019 年 12 月 19 日旧 2 病棟へ移転②令和 2 年度診療報酬改定に伴う施設基準及び算定基準への対策準備：リハ部門システム（TAK）の講習会受講③救護員の育成及び救護活動の参加（1 名選出）。

<令和 2 年度の活動目標>

令和元年度に導入したリハ部門システム（TAK）の管理機能とその分析により、当科の診療業務の是正を図ります。結果として、最重要目標である『全てのリハビリ対象者を選出し、リハビリ専門職 1 人あたりの月平均延件数及び延単位数を増加させる。』を果たす。ついては、リハビリテーション業務の向上を図るために以下の通り行動目標と実践内容を遂行する。

- I. リハビリ専門職 1 人あたりの月平均単位数を増加：①理学療法士の業務効率の向上（担当患者数の均一化）②連休時対応の対象患者数確保③リハ専門職休暇時における代行患者数及び単位数確保④手の評価セミナー・SW-test 講習会受講（精密知覚機能テスト算定資格 1 名追加）
- II. リハビリ専門職 1 人あたりの月平均単位数を増加：①若年理学療法士（3 年目）の業務効率の向上（担当患者数の均一化）②連休時対応の対象患者数確保③リハ専門職休暇時における代行患者数及び単位数確保④手の評価セミナー・SW-test 講習会受講（精密知覚機能テスト算定資格 1 名追加）

- III. 時間外勤務時間の削減：①業務内容の見直しによる作業効率向上（業務マニュアル更新含む）
②リハ管理システム導入（電子カルテ更新含む）によるコストパフォーマンスの是正（事務員の専門性向上も含む）と算定基準への対応
- IV. 材料費の削減：医療消耗器具備品費などの節約（老朽した物から順次購入）。購入時は器具備品の購入リストにならって重要な物から選出する。
- V. 教育研修及び医療の質向上：①専門職の資格獲得援助（学会大会・研修会・心臓リハビリテーション指導士認定・摂食嚥下リハビリテーション認定士認定）②卒前教育の実習施設として多校の臨床実習生（PT4名）を受け入れ予定。また、理学療法士の生涯学習（卒後教育）として三島ブロック大阪理学療法士会呼吸勉強会を年2回開催予定。
- VI. その他：①作業療法室（旧2病棟）移転に伴うリハビリ設備機器整理②令和2年度診療報酬改定に伴う施設基準及び算定基準への対策③救護員の育成及び救護活動の参加（1名選出）。

以上、関連職種と共同して実務を行えるように進める。

麻 酔 科

<スタッフ>

常勤：宇田るみ子（部長）平成 31 年 4 月から
 澤井 俊幸（麻酔科・手術部長）

<異 動>

杉本 創 平成 31 年 4 月 1 日着任
 令和元年 12 月 31 日退任
 澤井 俊幸 令和 2 年 1 月 1 日着任

<令和元年度手術統計>

【合計】

手術件数	1,093（うち手術室内 1,093、手術室外 0）
------	----------------------------

【性別】

男性	女性	合計
547	546	1,093

【麻酔法】

A. 全身麻酔（吸入）	828
B. 全身麻酔（TIVA）	285
C. 全身麻酔（吸入）＋硬・脊、伝麻	200
D. 全身麻酔（TIVA）＋硬・脊、伝麻	8
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	5
F. 硬膜外麻酔	0
G. 脊髄くも膜下麻酔	9
H. 伝達麻酔	1
X. その他	17
合計	1,093

【ASA PS】

予定 1	157	緊急 1E	26
2	687	2E	45
3	137	3E	38
4	1	4E	2
5	0	5E	0
6 （臓器摘出を受ける脳死患者が対象）	0	6E （臓器摘出を受ける脳死患者が対象）	0
小計	982	小計	111
合計	1,093		

【手術部位】

a. 脳神経・脳血管	0
b. 胸腔・縦隔	95
c. 心臓・血管	0
d. 胸腔＋腹部	4
e. 上腹部内蔵	117
f. 下腹部内蔵	281
g. 帝王切開	7
h. 頭頸部・咽喉部	46
k. 胸壁・腹壁・会陰	115
m. 脊椎	71
n. 股関節・四肢（含：末梢神経）	335
p. 検査	0
x. その他	22
合計	1,093

【体位】

1. 仰臥位	818
2. 腹臥位	16
3. 側臥位	33
4. 切石位	224
5. 坐位	2
6. その他	0
合計	1,093

【年齢構成】

	男性	女性	合計
A. ～ 1 ヶ月	0	0	0
B. ～ 12 ヶ月	0	0	0
C. ～ 5 歳	2	0	2
D. ～ 18 歳	27	12	39
E. ～ 65 歳	174	181	355
F. ～ 85 歳	315	297	612
G. 86 歳～	29	56	85
合計	547	546	1,093

【偶発症例】

A. 危機的偶発症	0
B. 神経系偶発症（脳・脊髄）	0
C. その他の神経系偶発症	0
D. その他	0

救 急 部

H31 年度は、2536 台の救急車受入れ、救急医療管理加算の要件となる年間2000台を上回ることができました。またウォークインを合わせると 6588 件の診療を行っています。重視した項目は昨年同様①(救急)患者確保と②教育研修であり、様々な取り組みを実施しました。前者①に関しては、近隣消防本部への営業回り、救急隊員向けの勉強会や親睦会を継続しました。②については、複数回の院内勉強会、トレーニングなどに取り組みました。また HCU や薬剤部と共同で院内「鎮痛鎮静プロトコル」の作成にも取り組み、完成後は広く使用されています。2019 年度は実災害はありませんでしたが、下記の表のような多数の災害研修や訓練に参加しています。

今後も患者数確保や診療クオリティの底上げを目指して工夫を重ねていきたいと考えています。

<学会発表>

Ⅷ 誌上・講演発表(P??)に掲載

<院内講演会>

- ・救急隊員向け勉強会
平成30年11月2日(金)
講義と症例検討
- ①奥野皮膚科部副部長「皮膚科」
- ②恒松消化器外科部副部長「ICT」
- ③小田整形外科部長「整形外科」

<高槻日赤出前講座>

- ・2019.10.24 特別養護老人ホーム「ラガール」

<災害訓練及び研修>

日程	活動名	会場	参加者
R1 年 5月25日	淀川水防・大阪府地域防災総合演習 (国土交通省主催)	淀川左岸河川敷 (豊里大橋下流)	11名(医師3名、看護師3名、理学療法士1名、臨床検査室技師1名、主事3名)
6月15日	第25回日本赤十字社第4ブロック 合同災害救護訓練	竜王総合運動公園	14名(医師3名、看護師5名、 薬剤師2名、主事4名)
8月3日	高槻まつり(ディズニーパレードが特別参加して多数の人出が予測されたため、高槻市消防本部と共同して医療救護所を設営・活動しました)	高槻市役所	12名(医師5名、看護師3名、 薬剤師1名、主事3名)
8月10日	第14回高槻市総合防災訓練	堤運動公園	主事2名
9月14日	高槻市医師会災害医療訓練	高槻市五領小学校	9名(医師3名、看護師3名、診療放射線技師1名、主事2名)

11月2日	大規模防災総合訓練（近畿地方整備局堺市合同総合防災訓練）	堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点	8名（医師1名、看護師3名、診療放射線技師1名、臨床検査室技師1名、主事2名）
11月7日	新名神消防連絡協議会訓練（茨木市消防本部主催・新名神高速道路訓練）	新名神高速道路高槻インターチェンジ内管理ヤード	5名（医師2名、看護師2名、診療放射線技師1名）
11月14日～11月24日	日本赤十字社・病院ERU実証展開	高槻赤十字病院グラウンド	多数 ※1
11月15日	大阪府・豊能地区3市2町合同防災訓練	能勢町営名月グラウンド	8名（医師2名、看護師3名、診療放射線技師1名、主事2名）
11月17日	防災フェア IN たかつき	高槻市生涯学習センター1階展示ホール	主事2名
11月30日～12月1日	近畿地方DMATブロック訓練	東近江地域	8名（医師2名、看護師3名、薬剤師1名、主事2名）
12月5日	2019年度大阪国際空港航空機事故対策部分訓練	大阪国際（伊丹）空港滑走路	7名（医師2名、看護師3名、主事2名）

<救急委員会実績>

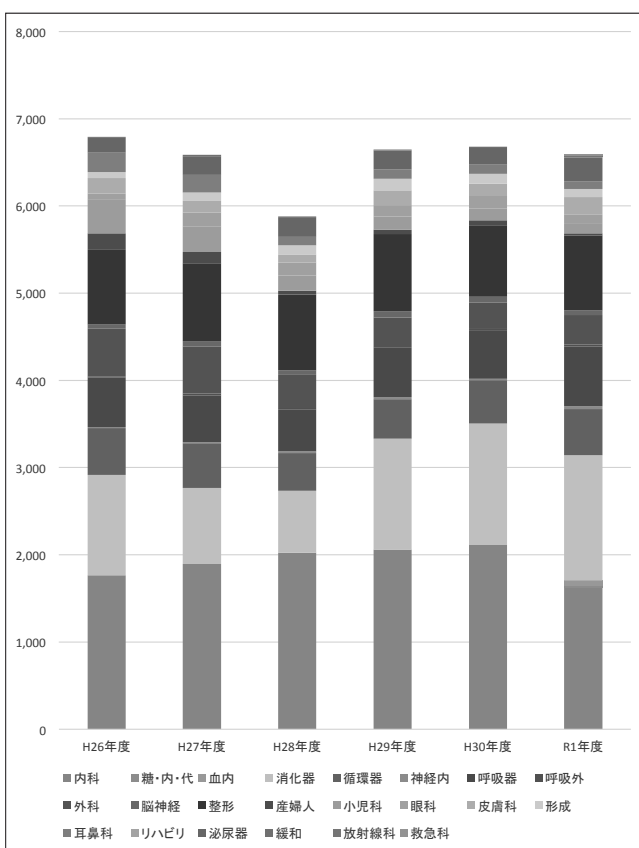
- ・月々の救急搬送件数や内容など統計データの共有や分析
- ・救急診療管理加算データの共有（特に「加算1」算定への取り組み）
- ・受入れ困難症例のデータ共有や分析
- ・救急隊員向けの勉強会や懇親会の企画・実行
- ・出前講座の実施

年度別救急患者数

		H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
救急患者数	時間内	1,651	1,549	1,432	1,444	1,759	1,904
	時間外	4,599	4,354	4,084	3,444	3,858	3,830
	深夜	1,118	890	1,072	994	1,029	946
	合計	7,368	6,793	6,588	5,882	6,646	6,680
（再掲） 救急患者数のうち 入院患者数	時間内	561	598	663	692	854	924
	時間外	969	889	874	787	987	986
	深夜	355	275	308	296	358	333
	合計	1,885	1,762	1,845	1,775	2,199	2,243
（再掲） 救急患者数のうち 救急搬送	時間内	888	909	979	944	1,019	1,121
	時間外	1,067	912	974	954	1,041	980
	深夜	498	388	473	464	477	489
	合計	2,453	2,209	2,426	2,362	2,537	2,590
（再掲②） 救急搬送のうち 入院患者	時間内	431	458	525	496	592	627
	時間外	505	463	408	442	544	531
	深夜	220	175	208	204	248	245
	合計	1,156	1,096	1,141	1,142	1,384	1,403

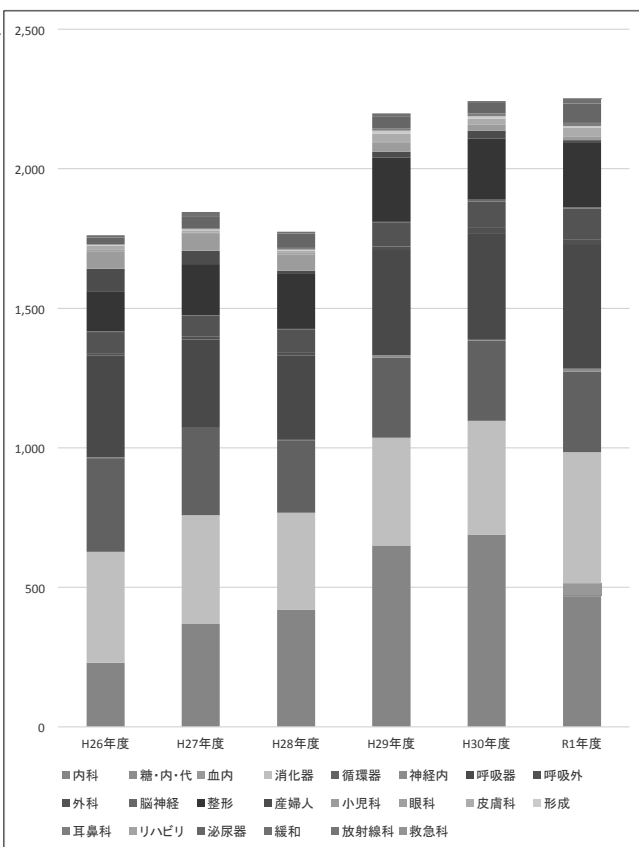
年度別救急患者数

救急患者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
内科	1,765	1,893	2,025	2,061	2,113	1,629
糖・内・代						15
血内						62
消化器	1,153	874	708	1,272	1,392	1,435
循環器	535	515	434	450	496	532
神経内	12	11	20	28	17	31
呼吸器	569	533	476	564	552	685
呼吸外	13	24	22	18	32	22
外科	545	541	378	327	289	339
脳神経	50	62	54	75	70	54
整形	857	892	867	885	819	859
産婦人	187	129	43	48	58	25
小児科	394	295	177	152	132	116
眼科	64	158	148	131	144	99
皮膚科	177	131	94	167	143	201
形成	69	96	102	135	114	93
耳鼻科	220	203	98	108	105	86
リハビリ	0	0	0	0	0	0
泌尿器	171	213	228	215	200	272
緩和	12	18	8	10	4	16
放射線科						3
救急科						14
合計	6,793	6,588	5,882	6,646	6,680	6,588



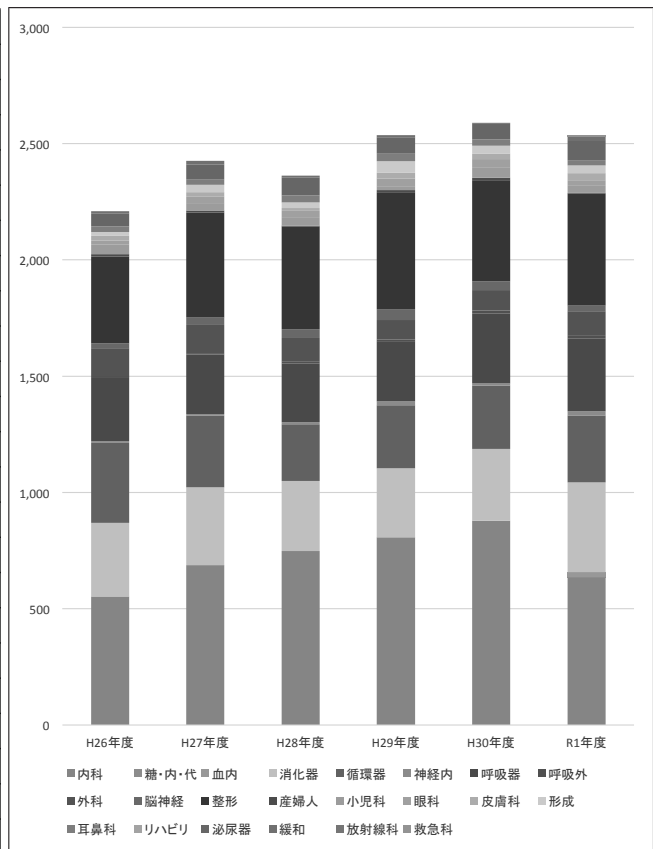
年度別救急患者うち入院数

救急患者入院	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
内科	230	369	419	650	689	468
糖・内・代						5
血内						41
消化器	397	389	348	386	408	471
循環器	336	314	261	287	286	289
神経内	3	0	1	8	4	10
呼吸器	364	316	302	378	383	446
呼吸外	9	12	12	12	21	16
外科	76	73	82	85	92	112
脳神経	2	3	1	4	6	4
整形	144	183	197	231	220	231
産婦人	81	48	11	20	28	10
小児科	61	62	59	34	20	14
眼科	9	2	6	4	2	0
皮膚科	12	6	7	26	21	31
形成	4	7	4	12	8	5
耳鼻科	2	3	6	9	10	11
リハビリ	0	0	0	0	0	0
泌尿器	23	41	52	43	41	70
緩和	9	17	7	10	4	16
放射線科						0
救急科						2
合計	1,762	1,845	1,775	2,199	2,243	2,252



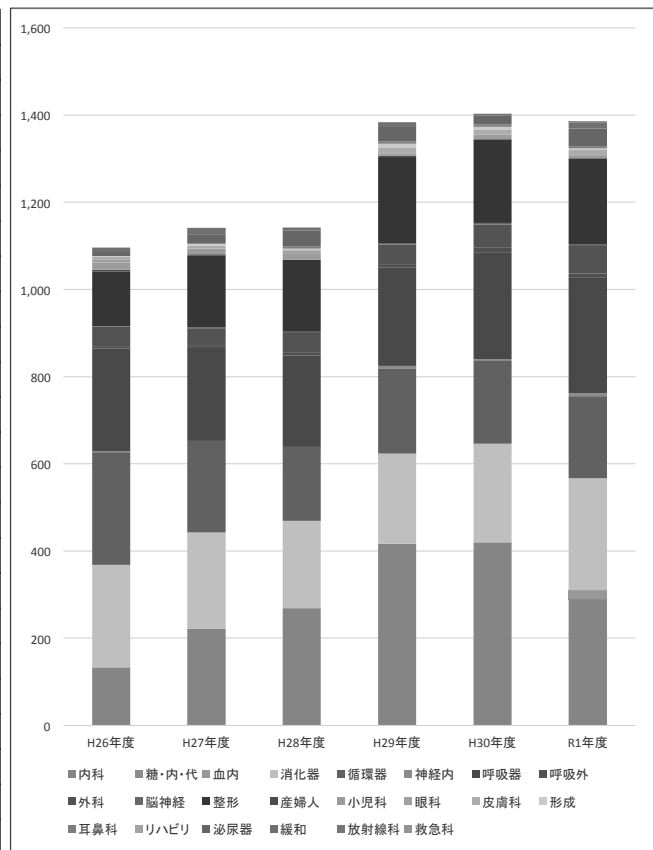
年度別救急搬送患者数（再掲）

救急搬送	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
内科	553	687	748	808	878	633
糖・内・代						4
血内						21
消化器	316	335	301	296	310	385
循環器	344	310	244	271	272	288
神経内	8	6	9	17	9	18
呼吸器	276	256	252	259	300	314
呼吸外	4	6	11	7	13	10
外科	119	120	99	84	89	107
脳神経	22	32	38	47	38	24
整形	372	451	441	500	434	482
産婦人	11	9	5	11	10	2
小児科	42	32	33	17	46	30
眼科	17	28	30	34	35	25
皮膚科	19	19	12	24	22	31
形成	17	32	25	50	35	32
耳鼻科	24	25	30	34	27	23
リハビリ	0	0	0	0	0	0
泌尿器	56	62	76	69	68	87
緩和	9	16	8	9	4	15
放射線科						0
救急科						5
合計	2,209	2,426	2,362	2,537	2,590	2,536



年度別救急搬送患者うち入院数（再掲）

救急搬送入院	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
内科	133	222	269	417	420	289
糖・内・代						2
血内						19
消化器	235	221	200	207	226	257
循環器	259	210	170	195	192	188
神経内	2	0	0	6	2	7
呼吸器	235	213	209	226	244	265
呼吸外	4	6	8	7	13	9
外科	47	39	46	45	52	66
脳神経	1	2	1	4	4	2
整形	125	165	165	197	190	196
産婦人	4	3	1	3	2	1
小児科	17	12	14	5	10	5
眼科	6	1	6	3	1	0
皮膚科	7	6	3	10	10	14
形成	2	5	2	9	7	4
耳鼻科	0	0	5	6	6	5
リハビリ	0	0	0	0	0	0
泌尿器	11	20	36	35	20	40
緩和	8	16	7	9	4	15
放射線科						0
救急科						1
合計	1,096	1,141	1,142	1,384	1,403	1,385



健 診 部

<スタッフ>

河北誠三郎（健診部長）：1 日ドック、2 日ドック

<診療実績>

平成 31 年度（1 月）

1 日ドック	64 名	2 日ドック	0 名	計	64 名
					（平成 30 年度 656 名）
					（平成 29 年度 702 名）
大腸がんドック（大腸カメラ）					2 名
				計	66 名
					（平成 30 年度 666 名）
					（平成 29 年度 715 名）

<平成 31 年度活動実績>

1) 平成 31 年 1 月末日 人間ドック・大腸がんドック休止

<統計報告>

胸部 X - P にて要精査 （肺機能検査含む）	6.3%（精査受診 100%）
上部消化管検査にて要精査 （胃カメラ検査での生検を含む）	11.3%（精査受診 100%）
腹部エコー要精査	3.1%（精査受診 100%）
	平均 100%

人間ドックで発見したがん症例 0 例

（がん発見率 0%）（平成 29 年度 1.4%）（平成 28 年度 1.0%）

医 療 技 術 部

医療技術部は栄養課と臨床工学技術課で構成され、どちらも病院機能を維持するために重要な役割を担っています。栄養課はNSTをはじめとするチーム医療に貢献するとともに栄養管理と調理技術の習得を行っています。臨床工学技術課は血液浄化療法、循環器領域の補助、内視鏡領域の補助、医療機器の管理、手術室での物品管理やメンテナンス、透析やCGMの管理などを行い、質の高い安心安全な医療の提供を目指して技術と知識の向上に努めています。医療技術部は今後も医師や看護師とのチーム医療を実施し、患者様に効率的、効果的な医療技術を提供するとともに、病院経営にも参画していきたいと考えておりますのでご協力をお願いいたします。

院長兼医療技術部長 古川 福実

栄 養 課

<スタッフ>

◆管理栄養士

桑田 由起江（栄養課長・栄養第一係長事務取扱・NST 専従管理栄養士
NST 専門療法士・病態栄養専門管理栄養士・がん病態栄養専門管理栄養士）、
廣田 眞希（栄養第2係長・緩和ケアサポートチーム専任管理栄養士
糖尿病療養指導士・病態栄養専門管理栄養士
がん病態栄養専門管理栄養士）、
南 美保子（糖尿病療養指導士・健康運動指導士
糖尿病透析予防指導専任管理栄養士）、
藤本 智子（糖尿病療養指導士）
西岡 美穂（糖尿病療養指導士）・中村 やすこ・平野 なつみ

◆栄養士

川端 彩加（健康運動指導士）

◆調理師

藤原 崇義（調理第一係長）、小坂 重敏（調理第二係長）
堀 隆二、岡 務、野々下 武志、草地 敦、井上 秀子、
平山 光一、櫻井 葉子、小川 辰夫、下田 剛史

<異 動>

（退職）令和元年12月 栄養士 川端彩加
令和2年3月 調理師 田中智子
令和2年3月 管理栄養士 平野なつみ

<令和元年活動実績>

給食管理においては、地産地消を心掛け安全で美味しい食事の提供を目標にしています。

入院患者さんへの食事の対応として、季節感を感じていただこうと行事食などを献立に取り入れ常食を提供している患者様へは週7回選択メニューを実施。

がん患者さんの食思不振、入院中のストレス軽減目的になごみ食を提供。朝昼夕三食選択メニューを実施しています。

＜統計＞栄養指導件数 691 件／年 給食数 227,908 食／年 糖尿病試食会 11 回／年
糖尿病透析予防指導 90 件／年 NST 新規介入患者数 330 名／年
がん患者サロン 1 回／年
心臓リハビリテーションカンファレンス参加件数 598 件／年

＜令和二年度活動目標＞

時代に応じた栄養管理と調理技術の習得を目指し、患者様の状態に応じた迅速な栄養管理が行えるように職種間の連携を行っていく。

非常時でもスムーズな給食提供ができるよう物資整備、課員の災害対策訓練を行う。

臨床工学技術課

＜スタッフ＞

医 師

古川 福美（医療技術部長）

臨床工学技士

荒木孝一郎（臨床工学技術課担当課長）

吉岡健太郎（医療技術部付係長）

澤井 綾太（臨床工学技術課主任）

吉田 真希

成瀬 大輝

吉村 忠

福谷 伶芳

芦田 昇也

野々村美紅

主 事

兼田 泰子

臨床工学技術課は血液浄化装置、人工呼吸器、人工心肺装置などの『生命維持管理装置』を医師の指示のもと操作として治療のサポートをするほか、院内にある医療機器が安全に正しく使用できるように保守点検を行うなどの業務を担っています。医学的知識はもちろん、医療技術の進歩に伴い、高度化する様々な医療機器の知識、技能を持ち、スムーズな治療や検査が行えるように対応しています。

<平成 31 年度活動実績>

1. 血液浄化療法領域

- ✓ 血液透析…75 症例、2575 回
- ✓ 持続緩徐式血液透析濾過…25 症例、129 回
- ✓ 血漿交換療法…3 症例、52 回
- ✓ エンドトキシン吸着療法…0 回
- ✓ GCAP、LCAP…2 症例、19 回
- ✓ 腹水濾過濃縮再静注法…9 症例、15 回

2. 血液疾患領域

- ✓ 末梢血幹細胞採取…4 症例、8 回
- ✓ 白血球除去療法…3 症例、4 回
- ✓ 顆粒球 / リンパ球採取…1 症例、1 回
- ✓ 骨髓濃縮…1 症例、1 回

3. 循環器領域

- ✓ CAG…130 件
- ✓ PCI…183 件
- ✓ IVUS…152 件
- ✓ FFR…55 件
- ✓ シェント PTA…16 件
- ✓ 下肢 PTA…8 件
- ✓ IVC フィルター…1 件
- ✓ IABP…7 件
- ✓ PCPS…3 件
- ✓ Permanent Pacemaker Implanted…24 件
- ✓ Permanent Pacemaker Exchange…6 件
- ✓ Temporary Pacemaker…2 件
- ✓ Pacemaker Implanted Pt(当院管理数)…270 名
- ✓ Pacemaker clinic(月 2 回)…延 167 回
- ✓ 遠隔モニタリング登録患者数…103 名

4. 腎生検施術補助

- ✓ 2 件

5. 医療機器管理領域

- ✓ 人工呼吸器、輸液・シリンジポンプ、AED、ポータブルエコー、フットポンプなどの
医療機器管理台数…1096 台
- ✓ 医療機器修理業務 院内・院外修理…303 件に対応
- ✓ 医療機器、消耗品に関する研修会の開催…16 件
- ✓ 新規納品機器に関する研修会…3 件

6. 手術室業務

- ✓ 麻酔器の使用前点検及び使用中点検
- ✓ 内視鏡下手術などの立ち会い
- ✓ 医療機器などのトラブル対応

7. 内視鏡関連業務

- ✓ カプセル内視鏡（小腸）…10 件
- ✓ カプセル内視鏡（大腸）… 5 件

8. その他

- ✓ RFA…9 件
- ✓ CGM…11 件
- ✓ SAP…7 件

<令和 2 年度活動目標>

人員異動により当課の体制が目まぐるしく変動する。新規拡大業務は控え、現在の業務を整理し、安全な医療を維持できるよう努める。

薬 剤 部

<スタッフ> (役職・担当・資格は令和2年3月31日現在)

小島 一晃 (薬剤部長): 麻薬管理者・治験薬管理者・医薬品安全管理責任者・薬事委員会副委員長・

治験審査委員会副委員長・化学療法委員会副委員長

- ・日本医療薬学会 医療薬学指導薬剤師
- ・日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本医療薬学会 がん指導薬剤師

美和 孝之 (薬剤副部長・調剤業務課長・医薬品情報管理係長): 医薬品情報管理業務責任者・

調剤業務責任者・治験管理業務責任者・薬事委員会幹事

- ・治験審査委員会幹事
- ・日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
- ・日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士

仲 忠士 (病棟業務課長): 病棟薬剤業務責任者・外来化学療法業務責任者・

実務実習指導責任者

- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士
- ・日本医療情報学会 医療情報技師

松本 弘誠 (調剤係長・製剤係長): 注射業務責任者・実務実習指導担当・ICT/AST 業務・

病棟薬剤業務・調剤業務・薬事委員会書記

- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

中西 輝 (病棟薬剤業務係長): 手術室業務責任者・ICT/AST 業務・NST 業務・

病棟薬剤業務・調剤業務・薬事委員会書記

- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
- ・日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士

小西 史子 (化学療法・手術室薬剤業務係長): 部門リスクマネージャー・調剤業務・

外来化学療法業務・手術室業務・薬事委員会書記

- ・日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師
- ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士
- ・日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト

山村裕佳子（薬剤師）：調剤業務

安達 美里（薬剤師）：調剤業務 【育休中】
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

森川 智子（薬剤師）：調剤業務 【時短勤務】
 ・日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

濱武 清範（薬剤師）：外来化学療法業務・調剤業務
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

岩井真里絵（薬剤師）：病棟薬剤業務・調剤業務・緩和サポートチーム業務
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

奥村 優介（薬剤師）：病棟薬剤業務（9 病棟専従）・ICT/AST 業務
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

足立那々緒（薬剤師）：病棟薬剤業務・調剤業務・手術室業務・ICT/AST 業務
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師

奥村 有香（薬剤師）：病棟薬剤業務（6 病棟専従）
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

松田ちひろ（薬剤師）：外来化学療法業務・調剤業務
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

通山 由香（薬剤師）：病棟薬剤業務（緩和ケア病棟専任）・NST 業務・調剤業務
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 ・日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士

福井 美礼（薬剤師）：病棟薬剤業務（3 病棟専従）
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

後藤 仁美（薬剤師）：病棟薬剤業務（7 病棟専従）
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 ・日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士

宮西 將之（薬剤師）：病棟薬剤業務（8 病棟専従）
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

野間 敏也（薬剤師）：外来化学療法業務・調剤業務
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師
 ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

安田 真理（薬剤師）：調剤業務 【3 月末退職】
 ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師

橋本 浩明（薬剤師）：病棟薬剤業務（5 病棟専従）

林 愛華（薬剤師）：調剤業務・手術室業務

徳田 悦美（主事）：治験管理業務・治験審査委員会幹事補 / 書記

松本 明子（主事）：治験管理業務・治験審査委員会幹事補 / 書記

<薬剤関連施設認定>

日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師研修施設
日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設
日本医療薬学会 薬物療法専門薬剤師研修施設
薬学教育協議会 実習生実務実習受入施設

<令和元年度活動実績>

【調剤室】

下半期は産休・退職と離職者が相次ぎ、人員配置に苦渋した。調剤室周辺業務を委託していたMCH社の薬剤部門撤退が決定したことを機に、調剤室ミーティングを頻回開催しながら業務整理や人員配置の見直しを行い、少人数で調剤室を運営できる体制を整えた。

【病 棟】

継続目標である指導率75%・退院指導100件/月を今年度も達成できた。指導率も安定して80%を超えるようになった。5月の病棟統合後も指導件数を維持することができた。

リスク軽減を目的に2病棟3人体制への準備を進めてきたが、病棟担当者の離職者が相次ぎ、病棟followによる随時支援を行うに止まった。

【外 来】

下半期に外科を対象とした内服抗癌剤の患者指導を開始した。有資格者の増加と併せて、がん患者指導管理料（有資格者による指導のみ算定可）の算定件数が上昇した。

【医薬品情報】

上半期は、電子カルテシステム更新に伴うマスタ整備・不具合等の対応に追われた。一段落した下半期より、新たに美和副部長が医薬品情報担当者に着任。抗菌剤を中心とした医薬品の流通停止が相次ぎ、対応に苦渋した。さらに年度末には、COVID-19感染症に対する抗ウイルス剤の適応外使用や症例登録の準備に追われた。

【薬品管理】

前年度に引き続き、医薬品情報室が中心となり後発品への切替に取り組み、数量ベースで後発品使用割合は90%を超えた。リツキシマブ・トラスツズマブ・ダルベポエチンなど、バイオシミラー導入にも積極的に取り組み、医薬品コストの削減に努めた。

【治験管理】

糖尿病以外の新規治験受託件数が伸び悩んでいる。地域医療支援病院としての役割分担上、一般薬の治験がクリニックに流れる傾向がより強くなった印象。今後、受託件数を伸ばすには、分子標的剤・生物学的製剤・抗癌剤など、難易度の高い治験の受託を検討する必要がある。

【リスク管理】

前年度から継続して、薬剤師の介入により患者の不利益が回避（プレアボイド）できた、もしくは利益に繋がった事例を集積した。報告件数の減少がみられたが、質は全体的に向上した印象。今年度から小西係長が部門リスクマネージャーに任命された。医療安全研修会にて、調剤室のレ

アウト変更を引き合いにリスクマネジメントにおける環境因子の重要性について講演し、職員から多くの共感が得られた。

【学生実習】

1 期（3 ヶ月）3 ～ 4 人× 3 期（年間 10 人）の薬学実習生を受け入れ、全部員総動員で指導に当たった。新コアカリキュラム導入にて、当院を基幹病院とした 8 施設の調剤薬局との連携体制が実施され、事前協議会が数回開催され受入体制の調整や情報共有を行った。課題発表を研究発表から症例発表に変更し、習得必須 8 疾患の習得度を評価できる体制を整えた。

大阪薬科大学体験学習・京都大学体験学習・中学生体験学習など、学校関係の体験学習も積極的に受け入れ、外部に対する病院薬剤師業務の啓蒙活動にも注力した。

【統 計】令和元年度実績／（ ）は平成 30 年度実績

1. 処方箋

<入院処方箋枚数>

入院投薬：通常処方	34,779 枚	(52,143 枚)
退院処方	5,794 枚	(5,738 枚)
異常時処方	21,864 枚	(22,625 枚)
入院注射：通常処方	77,482 枚	(97,925 枚)
化学療法	2,919 枚	(2,734 枚)
T P N 処方	10,841 枚	(18,014 枚)
異常時処方	67,513 枚	(68,270 枚)

<外来処方箋枚数>

外来投薬：院内処方	4,963 枚	(4,851 枚)
院外処方	68,888 枚	(70,464 枚)
院外発行率	93.3%	(93.6%)
外来注射：通常処方	11,566 枚	(12,236 枚)
化学療法	3,611 枚	(4,475 枚)

2. 注射薬無菌調製

<調製本数>

抗癌剤	：	6,674 本	(6,232 本)
TPN・移植・その他	：	3,754 本	(4,741 本)
合 計	：	10,428 本	(10,973 本)

3. 薬剤管理指導業務

訪問件数	：	16,659 件・1,388.3 件／月	(16,120 件・1,350.8 件／月)
本体請求件数	：	9,027 件・752.3 件／月	(8,856 件・738.0 件／月)
退院指導請求件数	：	1,941 件・161.8 件／月	(1,387 件・115.6 件／月)
患者指導率	：	84.3%	(80.7%)

4. 外来化学療法指導業務

訪問件数	：	1,440 件	(1,177 件)
請求件数	：	424 件	(359 件)

5. 持参薬鑑別

取扱件数 : 6,734 件 (7,205 件)

6. 疑義照会・プレアボイド報告

＜化学療法疑義照会＞

疑義照会件数 : 292 件・変更率 81.3% (300 件・変更率 65.7%)

＜プレアボイド報告＞

調剤担当者 : 54 件 (79 件)

病棟担当者 : 31 件 (58 件)

7. 治験業務

＜新規受託件数＞

治 験 : 6 件 (9 件)

製造販売後調査 : 10 件 (13 件)

副作用報告 : 0 件 (1 件)

＜請求額＞

治 験 : 80,622,430 円 (81,790,799 円)

製造販売後調査 : 2,315,560 円 (1,427,400 円)

副作用報告 : 0 円 (28,080 円)

合 計 : 82,937,990 円 (83,246,279 円)

8. 薬品管理

＜採用薬品数＞

投薬・その他 : 577 品目・後発 36.6% (585 品目・後発 36.9%)

注射薬 : 498 品目・後発 29.7% (493 品目・後発 28.4%)

合 計 : 1,075 品目・後発 33.4% (1,078 品目・後発 33.0%)

9. 薬剤関連DPC係数

病棟薬剤業務 : 0.0064 (0.0065)

後発医薬品 : 0.0014 ※ (0.0014 ※) ※最高値

10. 薬学生実務実習

実務実習 (11 週間) : 10 名 (10 名)

外部体験学習 : 14 名 (14 名)

＜令和 2 年度の主な活動目標＞

- ・ 薬剤指導室を活用した薬剤師外来の充実
- ・ 病棟業務 follow 体制の確立
- ・ 感染管理対策の再教育
- ・ 将来目指すべき目標 (専門分野・資格等) に向けた計画の実行

検 査 部

<スタッフ>

医 師

千葉 渉（副院長兼検査部長）

臨床検査技師

荒木 孝一郎（臨床査課長 生理機能検査課長）

大西 美穂子（臨床検査課 検体検査係長）

中村 直実（臨床検査課 輸血管理係長）

佐藤 裕司（生理機能検査課 生理機能検査係長）

吉田 桂（生理機能検査課 超音波検査係長）

扇田 裕允（臨床検査課 微生物検査係長）

土井 美都子 元原 浩子 坂野 絵美 村上 かおり 奥洞 智太 森内 沙紀

亀山 雅貴 平岩 理雅 古川 理奈 今井 翔太郎 駒井 裕子

視能訓練士

岡田 悠（生理機能検査課 主任）

小松 あゆみ 山名 裕子 天田 瞳

採血室看護師

宮地 真奈美 木野 洋子 赤石 美智子 中岡 和代 池本 和美

検査アシスタント、受付 洗淨

田辺 智美 富木 貴子 久保田 孝子

<異 動>

臨床検査技師	扇田 裕允	令和元年 4 月 1 日	微生物検査係長に昇任
視能訓練士	岡田 悠	令和元年 4 月 1 日	生理機能検査課主任に昇任
臨床検査技師	駒井 裕子	令和元年 4 月 1 日	入職
採血室看護師	池本 和美	令和元年 5 月 1 日	入職
臨床検査技師	森内 沙紀	令和元年 9 月 1 日	生理機能検査課から臨床検査課へ異動
視能訓練士	天田 瞳	令和元年 10 月 1 日	入職
視能訓練士	小松 あゆみ	令和元年 10 月 31 日	退職
採血室看護師	池本 和美	令和元年 3 月 31 日	退職

<認定資格>

認定超音波検査士：佐藤 裕司 吉田 桂 元原 浩子 坂野 絵美 村上 かおり
亀山 雅貴 森内 沙紀 駒井 裕子 荒木 孝一郎

認定血液検査技師：大西 美穂子

認定骨髓検査技師：大西 美穂子

認定糖尿病療法指導士：土井 美都子

認定臨床微生物検査技師：扇田 裕允

感染制御認定臨床微生物検査技師（ICMT）：扇田 裕允

認定救急検査技師：今井 翔太郎 奥洞 智太

緊急臨床検査士：奥洞 智太

認定心電図専門士：駒井 裕子

<令和元年度活動実績>

- ・ 令和元年 臨床検査技師 駒井裕子 JHRS 認定心電図専門士試験に合格
- ・ 令和元年 臨床検査技師 今井翔太郎 認定救急検査技師試験に合格
- ・ 令和元年 臨床検査技師 奥洞太智 認定救急検査技師試験に合格
- ・ 令和元年 臨床検査技師 駒井裕子 超音波検査士認定試験循環器領域に合格
- ・ 令和年度 日臨技臨床検査精度管理調査 A+B 評価 100% A 評価 84 個 B 評価 1 個
- ・ 令和年度 日本医師会 臨床検査精度管理調査
評価 98.1 A 評価 114 個 B 評価 9 個 C 評価 1 個 D 評価 0 個

(学会発表・講演)

奥洞 智太 第 55 回 日本赤十字社医学会総会 令和元年 10 月 18 日

「血液培養及びカテーテル培養から検出された Candida 属に関する検討」

<令和 2 年度活動目標>

- ・ 臨床検査技師の適正な人員配置
- ・ 検査の適正化による検査委託費、試薬代の削減
- ・ 採血院内測定項目は採血から 30 分以内に報告
- ・ 超音波検査を行う技師の育成
- ・ 部内ローテーションを行い、個々が検査できる範囲を拡大、部署間のサポート体制を強化
- ・ 各種、認定資格を各自の目標通りに取得
- ・ 勉強会や学会発表への積極的参加 検査部内で年間最低 2 題以上の発表
- ・ 精度管理向上、日臨技、日本医師会の外部サーベイの参加 医師会サーベイは目標オール A 評価
- ・ 各部署マニュアルの更新 整備
- ・ 残業時間は 1 人月 10 時間以内 常勤臨床検査技師平均残業時間 月 5 時間以下
- ・ 年最低 10 日の休暇取得
- ・ インシデントレポート提出率の向上
- ・ 毎月検査部内勉強会開催

病 理 診 断 科 部

<スタッフ>

医 師

渡邊 千尋〔病理診断部長〕：病理専門医、細胞診専門医

山田 義博〔非常勤〕 松城 尚憲〔非常勤〕

白瀬 智之〔非常勤〕 奥野 知子〔非常勤〕

臨床検査技師

荒木 孝一郎〔病理検査課長〕：細胞検査士、国際細胞検査士、
超音波検査士（循環器、消化器）

廣田 智美〔組織形態検査係長〕：細胞検査士

山本 翔：細胞検査士

山田 桂実：細胞検査士

後呂 純平

<異 動>

なし

<令和元年度年度活動実績>

- ・統計：組織診件数 4,415 件 細胞診件数 3102 件 剖検件数 10 件
- ・症例検討会（CPC）を 5 回行う
- ・月 4 回、細胞診症例検討会を行う
- ・日本臨床衛生検査技師会コントロールサーベイに参加

<令和 2 年度活動目標>

- ・学会発表、研修会への参加
- ・病理標本の染色、質的向上
- ・遺伝子検査のマニュアル整備
- ・病理検体固定方法の整備
- ・ホルマリン管理の整備
- ・細胞検査士認定資格取得技師の育成
- ・EUS-FNA、CT ガイド下穿刺施行時、現場での検体適正評価の強化
- ・検査部業務のサポート（検体検査、生理検査、治験業務）

看護部

<スタッフ>

看護部長：松井 和世

看護副部長：花田 季代子・岸 恵美（兼）・原田 かおる（兼）

看護師長：高橋 晶子（3病棟/HCU）・石黒 早苗（5病棟）・門脇 寛子（6病棟）

南波 広美（7病棟）・高田 佳織（8病棟）・西 ひろみ（9病棟）

岸 恵美（緩和ケア病棟）・奥田 唱子（手術室／中央材料室）

松浦 昭子（外来）

川崎 知子（看護部／患者支援センター）

阿部 哲子（看護部／研修課）

依藤 里香（看護部／専任リスクマネジャー／医療安全推進室）

福谷 裕美 西浦 美香

看護係長：病棟 11 名・手術室 2 名・外来 2 名

藤原 和子（看護部／緩和ケア認定看護師／緩和ケアサポートチーム専従）

松下 めぐみ（看護部／感染管理認定看護師／医療安全推進室／医療安全係長）

看護職員：今戸 美奈子（看護部／慢性疾患看護専門看護師）

北田 千世（看護部／皮膚・排泄ケア認定看護師／褥瘡管理者）

佐賀 昭子（看護部／感染管理認定看護師／医療安全推進室）

工藤 ゆかり（看護部／退院調整看護師）

田村 華奈（看護部／退院調整看護師）

安倉 有沙（看護部／入退院支援看護師）

末廣 悦子（看護部／入退院支援看護師）

<令和元年度看護部活動実績>

1. 学会参加

1) 日本看護系学会参加人数：65 名

2) 日本看護協会主催看護学会

3) その他

2. 認定看護管理者教育課程

1) ファーストレベル修了者：橋本 龍 武内 綾香

3. 認定看護師教育研修

1) 集中ケア：里村 裕史

4. 看護学生臨地実習受け入れ

1) 大学

☐ 梅花女子大学看護保健学部看護学科

☐ 大阪医科大学看護学部看護学科

2) 専門学校

- ☐ 高槻市医師会看護専門学校
- ☐ 学校法人大阪慈恵学園 大阪医療看護専門学校
- ☐ 学校法人日本教育財団 大阪医専

令和元年度（2019 年度）看護部・各看護単位の活動

【看護部の活動】

令和元年度は、4 月に電子カルテ更新。更新後の電子カルテ運用について他部門との協議を継続し使いやすいものに作り上げていった。5 月に病床編成を行った。レディース病棟を整え産科と一般科との混合化を図った。しかし様々な問題をクリアする事が難しい 1 年であった。看護師、看護補助者の獲得を積極的に行い急性期補助体制加算 50 対 1 取得する事ができた。高齢者の尊厳と保持、自立生活支援の推進をすすめる認知症高齢者に対するアセスメント力の強化に努めた。

I. 看護部方針

1. 専門職業人として自発的探求心をもち、自律した看護実践ができる。
2. 多職種協働医療チームの中で看護の専門性が発揮できる。
3. 地域の包括的支援における医療サービス提供病院の看護職者として、その役割を果たすことができる。

II. 看護部目標：バランススコアカード（BSC）

1. 活動内容

- ①救急外来受診患者数は微減した。断診内容は救急・重症患者の対応が重なったこと、感染症発生による入院制限や個室・空床調整の制約などであった。夜間の個室を確保する工夫を行った。医師のためのルールの周知により、退院後入院の割合が一部の診療科を除いて増加した。継続して周知徹底をはかる。

病床再編成により、病床稼働率が向上した。各部署の診療科の選定を評価し、安全かつ効率的な病床運営につなげていく。

- ②看護の質保証を考慮した専門外来、看護実践による診療報酬算定をおこなった。

【がん化学療法看護認定看護師】

「抗がん剤取り扱いマニュアル」曝露対策の啓蒙活動を推進する。

【認知症看護認定看護師】

ケアサポートチーム対応件数が昨年度より倍以上になった。

【退院調整看護師】

専従者が 2 名となり、退院支援計画カンファレンスやケースの分担ができた。

入退院支援看護師との協働、リンクナースとの共有をはかり、療養生活者への責任ある対応を行う。

【緩和ケア認定看護師】

がん関連 CNS、CN と協働し苦痛のスクリーニング、ACP 等活動を行った。

顧客の視点

- ・看護実践、看護職の接遇に関する苦情を振り返り看護の質向上に努めた。
- ・レベル 3 b 以上のアクシデントはスクリーニングや転倒前カンファレンス開催などにより回避できた。今後も転倒による骨折を軽減できる関わりを検討していく。

- ・インフルエンザ、MRSA のアウトブレイクに加え COVID-19 の感染症拡大に対して感染管理室との連携を強化し感染防止に努めた。また感染管理認定看護師が院内外の対応に尽力した。
- ・カンファレンスや事例検討を通じて認知症高齢者への対応の周知が図れた。今後も継続していく。

業務プロセスの視点

- ・アウトカム志向クリニカルパス運用をすすめた。
- ・病床ミーティングは、病床調整のみならず、管理上の情報共有の場になっている。個室管理が必要な感染症、高齢者、不穏患者等、要見守り、要観察者の病床調整が課題である。
- ・病院全体の稼働率はあがり、回転率は下がっている。各部署の稼働率・回転率を指標として、個室・空床の効果的・効率的運用を推進していく。

学習と成長の視点

- ・学会・研修会への主体的な参加を促す事が出来た。
- ・ラダー改定に際し、現行ラダーの各レベル申請者を増やすことを推進した。年度末に申請者が重なった。管理者ラダーレベルⅠ申請者がでたことを足掛かりに申請者増加を推進する。
- ・認定看護師のレベルⅣ認定が承認されたことで認定看護師のレベルⅣ申請を促していく。
- ・赤十字看護師登録者数を推進した。

Ⅲ. 総括

病床管理の推進

2019年5月に病棟再編成を実施し、稼働率は平均84.0%と約8%増加した。在院日数は12.7日、新入院患者数は6,938人で減少した。退院後入院を定着させ病床調整を効率的に行えるようにしたが、診療科の調整、患者・家族の希望等課題が残る。病床管理をデータで示し効率的に運用していくコントローラーの配置が必要である。2020年病床管理室開設予定。感染症のアウトブレイク等、対応を強化したが、個室が少なく、多床室（6床）での運用は限界がある。病床再編成の評価し病床数、診療科編成等検討が必要である。

看護職確保

退職者対応、看護職平均年齢の是正を考え、新入職者、中途採用者共に看護職確保に努めてきた。急性期入院基本料1、急性期補助体制加算50対1取得において看護師、看護助手の確保は必要である。特に看護補助者は高齢化による体力低下、雇用形態の違いによる定着の悪さが課題である。今後は看護体制、夜勤体制の見直しの検討が必要である。離職者への対応を対策としてあげたが、様々な要因が重なり看護師、看護助手共に昨年度より退職者数増となった。

高齢者の尊厳保持と自立生活支援の推進

認知症高齢者に理解とアセスメント力を高めるために、認知症ケア対応研修受講者を経年的に増やし、認知症ケアリンクナース活動強化に取り組んだ。認知症看護認定看護師が、認知症ケアサポートメンバーとして現場の状況を把握し、各部署のカンファレンス、相談にタイムリーに参加できた。急性期病院における認知症高齢者の対応は診療報酬改定においても注目されており対応を継続推進していく必要がある。

赤十字キャリア開発ラダー認定取得の推進

赤十字キャリア開発ラダー改訂に伴い、今年度は現行ラダー活用最終年であった。現行ラダーでの認定を推進すると共に、実践者ラダーレベルⅣ、管理者ラダーⅠ取得を促した。その結果、認定会開催ができた。改訂ラダーについても指標の読み合わせ、グローバルヘルスの概念等内容確認の研修会を全スタッフ対象に開催できた。改訂ラダーに必要な支援研修等の構築が必要である。

3 病棟：高橋 晶子

財務の視点では、病床稼働率年間平均は 90.9%と昨年度を上回る結果となった。平均在院日数は 13.9 日であったが、心不全患者など薬剤の調整や転院調整等で時間を要す事が多かった。加速する高齢化に伴い、更なる循環器病棟のフィジカルアセスメント能力の強化と退院後の生活を見据えた情報収集と看護を行う必要がある。

顧客の視点では、インシデントが生じた場合にはチーム内でカンファレンスを行い、レベル 3 b 以上のインシデントについては、病棟全体で SHELL 分析や RCA 分析を行い分析・対策・急変対応の勉強会を行い、再発防止に努めた。

業務の視点では、心臓リハビリ専任看護師が平日 1 名担当となり指導を行っている。繁忙期には対応できるような体制づくりが課題である。また、外来との連携も強化していく必要がある。

学習の視点では、キャリア開発ラダーレベル I（取得 3 人・申請中 1 人）、レベル II（取得 3 人・申請中 2 人）とともに評価会を開催することができた。各種学会・循環器看護実務者研修・家族看護や地域看護等の研修にも積極的に参加し、自己研鑽を行えている。今後は根拠と遣り甲斐のある看護実践が行えるような職場環境を作ることが課題である。

HCU：高橋 晶子

財務の視点では、HCU 専任医師・主治医・HCU 師長と連携し入退室のコントロールし充床率を上昇に努めたが、充床率は 75.0%であった。月曜日・水曜日に入室依頼 HCU の稼働率の上昇が課題である。

顧客の視点では、昨年度作成した鎮痛・鎮静プロトコールについて HCU 内で勉強会開催し知識を深め、各会議等で医師・看護師向けに説明し使用している。

業務の視点では、今年度はアンギオ業務を外来から HCU に移行した。循環器医師・放射線技師・臨床工学技士の協力のもとアンギオ業務が安全に実践できるようにアンギオラダーを作成し、作成したラダーをもとに実践状況を評価し、アンギオ経験があるスタッフを含む 11 名が自立できた。今後はアンギオがない日の業務について見直す必要がある。

学習の視点では、キャリア開発ラダーレベル III（1 名取得、2 名申請中）・レベル II（1 名申請中）とともに評価会を開催することができた。重症集中治療研修修了者 1 名、各種学会 7 名参加、院外の循環器治療の研修や院内 RRT 勉強会参加するなど HCU 看護の専門性を高めることに努めている。スタッフの採用・異動者も複数いる中、お互いが成長できるような教育体制の見直しと、支えあい認め合う風土を作っていくことが課題である。

5 病棟：石黒 早苗

財務の視点

10 時までにベッドを空けるルールにより、計画的にベットコントロールが行え、入院患者数は昨年を 1950 人上回り受け入れた。稼働率も 87.4%と昨年を上回った。定期的な退院支援カンファレンスを行うことで、加算獲得にも繋がった。一方で、急性期と慢性期が混合し、日々の業務が煩雑化したことで、看護師の時間外勤務時間が増えた。業務を整理し、アウトカム指向型パスを効果的に活用し、時間外勤務の短縮を図ることが今後の課題。

顧客の視点

患者の療養環境を整える一貫とし、患者の手が触れる環境の清掃を実施した。耐性菌の病棟内感染拡大がない現状はその成果と実感している。年々、手術を受ける患者の高齢化が進む中、高

高齢者の BPSD を最小限に、身体・生活状況を把握し、安全に生活できる環境を整える事に努めた。認知症看護認定看護師をはじめ、新阿武山病院との連携や、認知症ラウンドなどを活用しカンファレンスを行い介入する事で、認知高齢者の夜間の転倒転落によるレベル 3 b 以上の事例は発生しなかった。

業務プロセスの視点

本年度は、病床稼働率・一日平均入院患者数共に昨年を上回ったが、回転数・在院日数は延長した。病棟編成により、認知・高齢者の多い DM や高齢者や安静期間の長い整形外科が加わり、介護度の高い患者が増え、同時に従来通りの検査や短期手術があることで、日々の業務が煩雑になり前半は様々な混乱を生じた。看護師病棟内 WG が主体となり一つ一つの問題を解決した事で、後半は大きな混乱やインシデント・アクシデントもなく業務遂行できた。

学習と成長の視点

診療科医師と連携を行い、疾患と看護の勉強会を行った。異動者・新人を対象に行う勉強会と、知識レベルを UP する勉強会を行ったことで、スタッフの研修ニーズと学習ニーズがマッチした勉強会となった。

日々の看護ではペア制を行い「相談しやすい」環境ができ、声を掛け合い助け合う事が行えた。協力し相談しながらケアに当たる事で、デイリーダーに全て任せる姿勢から、自分たちで考え解決する姿勢へ変化しつつある。

ラダー取得は後半に集中したものの、レベルⅠ：4 名 レベルⅡ：1 名、レベルⅢ：1 名が取得した。

赤十字研修対象者は予定通り研修参加でき、赤十字看護師 2 名が登録できた。

6 病棟：門脇 寛子

6 病棟の病床稼働率 88.2%（昨年度 84.5%）、回転率 2.8（昨年度 3.1）であった。緊急入院患者をスムーズに受け入れることが出来るように、朝のミーティングで特にリカバリーを有効利用するためにベッドコントロールを行ったことで、昨年度より稼働率アップにつながった。5 月に病棟再編成があり形成外科の診療科が増え、病床数が 58 床（59 床）となった。昨年度より回転率は下がったが、手術件数も増え、看護必要度 32.6%アップにつながった。

学習に関しては、赤十字キャリア開発ラダー認定レベルⅠは 2 名、レベルⅡは 2 名取得することができた。

インシデントは転倒・転落のレベル 3 b 0 件であった。高齢者も多く、入退院も激しく、緊急入院が多い環境のため、入院時のパンフレットの活用や、かかとのある靴を持参してもらうように徹底することで転倒・転落のレベル 3 b に至らなかったことも評価できる。

感染防止対策に関しては、手指消毒量は昨年比で増加したが、1 患者 1 日に使用した回数は 6.1 と低いため、5 つのタイミングでの手指消毒を実施することが課題である。

今後も看護実践能力の向上を図り、患者・家族への倫理面を考慮した看護介入、ケアカンファレンスができるようにしていきたい。

7 病棟：南波 広美

財務の視点では、病床稼働率 83.1%と前年度に比べ 8%増えている。クリーンルーム稼働率は 75%以上を目標としていたが、72.1%であった。要因としては、総室クリーンルーム適応患者は ADL が自立していることが前提になっており、患者の ADL が関係している部分がある。非血縁

者間造血幹細胞移植・採取施設認定施設として、骨髄バンクからの採取依頼は2件であった。令和元年度は10件の同種造血幹細胞移植を実施した。（血縁末梢血：2件、血縁骨髄：1件、非血縁臍帯血：7件）そして、移植後フォロー外来の加算件数は前年度より48件増加した。移植後の患者がどのように過ごしているのか病棟と外来との連携を継続し、患者にとってより充実した社会生活が送れるよう働きかけたい。

顧客の視点では、前年度に比べインシデントレベル3aが8件増加し転倒によるものが8件であった。レベル3bは1件で前年度より減っていた。転倒転落カンファレンスは行うが看護記録に反映されておらず評価・修正が乏しい。個人に合わせた生活環境がチームを超えて周知できるよう「見える化」するなど対策を考え、継続看護できるよう評価・修正を強化していきたい。接遇に関して、患者から担当を外してほしいという訴えが2回あり看護師としての品格、専門職としての自覚を問われていると感じた。専門職としてよりよい看護を提供するために看護師の語り合いの場を設けるなどして看護の知が共有できるようにしていきたい。

業務プロセスの視点では、骨髄採取に関するマニュアルが運用され骨髄移植患者、ドナーにとって安全に骨髄採取ができ患者に提供することができた。骨髄採取は、移植コーディネーターから多職種との情報共有・協働が欠かせないため、骨髄採取依頼を受けてからの流れを共有できるものを作成したい。そして、より安全な医療が提供できるよう医師と看護師の連携を意識し、時間外指示など漏れや間違いがないよう協働している。

学習と成長の視点では、キャリア開発ラダーⅠ：2名、Ⅱ：2名の計4名が申請し認定された。4病棟閉鎖にて4人の異動者の配置があり、異動者に合わせた7病棟教育計画を立て個々に合わせて介入を行うことで化学療法や化学療法後のクリーンルーム入室患者を受け持つことができるようになった。既卒者・異動者、新人に分けた教育計画を評価・修正し来年度も運用していく。

8病棟：高田 佳織

5月に病床再編により旧2病棟と4病棟が合併し、産婦人科、整形外科、小児科、眼科のレディース病棟として8病棟が開設された。

財務の視点では病床利用率は80.4%で在院日数は10.2日であった。入退院支援加算は318件、在宅療養指導料は37件であった。介護支援等連携指導料は18件であった。8病棟は高齢者の患者が多いため次年度は何れの加算も今年度を上回るようにしたい。産科は分娩件数減少に伴い、令和2年3月末で一旦休診することになった。分娩件数は34件であった。

顧客の視点の医療安全に関する取り組みでは、整形OP後の転倒によるレベルⅢbが2件発生した。整形外科は高齢患者、認知症患者も多いことから、転倒・転落防止カンファレンスや認知症患者のケアカンファレンスを効果的に行い、安全で快適な入院生活が送れるよう支援していく必要がある。

業務の視点ではTKA（人工膝関節置換術）パスについて、アウトカム志向型パスのモデルパスとして整備した。地域連携パスの大腿骨頸部骨折パス、圧迫骨折パスがあるが、退院調整に時間がかかることがあり、他職種と連携しパスを効果的に活用しながら、スムーズな退院調整を目指したい。

5月の病床再編後、多数の診療科が混在する中で、業務整理や作業スペースの環境整備が効果的にできなかった。次年度はスタッフの意見を結集し業務整理や作業スペースの整備を行い業務改善していく。

成長の視点では、新人対象の勉強会については、概ね予定通り実施できた。病棟内教育については、当該診療科の変更を考慮しながら、次年度早急に整備して実施していきたい。

9病棟：西 ひろみ

看護部の BSC に基づいて病棟活動を行った。急性期病院の役割を意識しつつも、患者の超高齢化を踏まえ、入院が長期化しやすい患者や複雑な治療を受ける患者に対し、多職種との連携を強化し看護実践を行った。財務の視点では病床稼働率 84.7%、平均在院日数 14.1 日、病態の理解と患者の ADL に合わせた療養環境に注目し看護を展開し入院時より退院を意識した支援を行い在院日数は減少することが出来た。

顧客・業務プロセスの視点においては朝礼の後、一斉に環境整備に行くことが定着した。この事によりベッドサイドの安全や感染に関心が向けられ転倒防止や感染防止につながった。また看護部のリソースナースと共にカンファレンスを開催、円滑な退院調整や患者、家族の意思決定の場面など生活者としての視点からディスカッションを行うことが出来た。

退院調整の困難な事例には事例数は少ないが、IC に医事課、MSW が同席するなどして、他職種にも協力を得ることができたことはチーム医療としても成果があったと考える。

今後も看護実践能力の向上を図り、患者・家族への倫理面を考慮した看護介入、ケアカンファレンスが出来るようにしていきたい。

MRSA のアウトブレイクが 2 年連続で発生してしまった。ICN のラウンドの強化やマニュアルの再確認、手順の確認、物品の補充、お互いがお互いに出来ていること、出来ていないことを声に出し、院内感染を防ぐためには一部の人間のみが頑張るのではなく、全ての職員が感染制御に対して高い意識を持ち続けていける。他職種に関しても感染防止対策についての正しい実施を声に出しあえる環境となった。

学習と成長の視点では、特に院内研修に事例を提供し RRT との協働により急変が起こる前兆にいかにも早く気づき行動を起こす事が大切であると学んだ。新入職者支援を通じ、教育サポート体制の見直しや修正、エルダーの成長支援を行った。エルダーが新人の精神的サポートを行い、実地指導者が新人の知識や技術面のサポートを行う体制ができ、各々の成長に繋がっている。専門職として長期研修などのキャリアビジョンと、結婚、出産、子育て、介護等、ライフイベントとの狭間で生じる困難を乗り越えながら、仕事との両立が出来るよう、職場全体で互いを支援する風土が醸成された一年であったといえる。

緩和ケア病棟：岸 恵美

1. 財務の視点

- ・平成 30 年度診療報酬改訂を踏まえた緩和ケアのビジョン、病棟運営の基本方針を共通認識し、看護実践に活かせる体制を整える事を目標に学習会を持った。(医療情勢の動向、緩和ケア病棟のあり方、当院緩和ケア病棟の役割)：多職種との協働
- ・入院受け入れに關しての業務の標準化・効率化をはかる。(特に緊急入院に対してはスタッフ間で協力して受け入れた。)

2. 顧客の視点

- ・医療安全研修開催時の参加を促した。勤務の都合上どうしても参加できない時は参加者から研修内容を共有した。
- ・療養生活上の問題は、個別性を活かすことで問題解決に取り組む事ができた。
- ・鎮静カンファレンスは必要時コーディネーターがリーダーシップをとって開催し倫理的な視点を養う事が出来た。

3. 業務の視点

- ・ICT リンクナースと係りが推進者となり手指消毒剤、防護用具使用量の把握と掲示した。防護用具装着の学習会を行いスタンダードプリコーションの徹底を図った。
- ・感染対策の観点から業務改善に一つ取り組んだ。

4. 学習と成長の視点

- ・ラダーへの取り組みは各々の目標管理やキャリアビジョンに合わせて行った。
- ・看護師のケアカンファレンスを開催して情報共有や知恵を出し合って看護の力をより発揮できるような自由な意見の出る話し合いの場をもった。

手術室・中央材料室：奥田 唱子

緊急手術受け入れ体制の強化や麻酔科医師と連携を行ない、手術件数の増加に取り組んだが、件数 2601 件（2019 年度 2199 件）・診療報酬点数前年度より 7 百万点弱減と共に昨年度を下回る結果となった。

電子カルテについては、問題なく更新が行えた。記録時間短縮、物品データ・機器データなど新システムで管理できる機能を活用し正確かつ効率のよい運用を確立が今後の課題である。

看護の質については、4 チーム（体位・体温・麻酔・術前～術後訪問）にわかれ手術室看護学会の業務基準や手術医学会のガイドラインに立ち返り、手順の見直しを行った。3 か年計画とし今年度は学習を主体とし院内、外において各チームが数回の学習会を開催できた。次年度は知識を当院の現状に生かせる取り組みを行う予定である。

学習に関しては、赤十字キャリア開発ラダー認定レベルⅠは 1 名、レベルⅡは 2 名取得することができた。今後ラダー未取得者を含め、全員がレベルⅢを取得できるよう計画的に働き掛けていく。

外来：松浦 昭子 原田 香織

外来では慢性疾患看護専門看護師、認知症看護認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、がん放射線治療看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、また、禁煙認定指導者、糖尿病療養指導士、リウマチケア看護師が勤務しそれぞれに専門性を発揮し活動している。

看護専門外来は、看護師主体の外来でその療育で認定されている看護師が医師の指示のもとで、患者の自己管理能力の向上や、家族を含めた患者の QOL の支援に努めている。

看護専門外来での療養指導料の算定などは病院経営に貢献している。

外来における診療報酬算定件数

- ・禁煙外来：初回 20 件 2-4 回 54 件 5 回目 18 件
- ・糖尿病合併管理：55 件
- ・糖尿病透析予防指導管理：52 件
- ・在宅自己腹膜還流指導管理：58 件
- ・在宅療養指導：5,994 件
- ・移植後患者指導管理：296 件
- ・在宅自己注射指導管理（月 27 回以下）：1,305 件
- ・在宅自己注射指導管理（月 28 回以上）：2,622 件

- ・がん患者指導管理イ：7 件
- ・がん患者指導管理ロ：139 件
- ・がん患者指導管理ハ：423 件

看護記録・監査委員会：西 ひろみ

看護記録・監査委員会は 3 つの柱で活動を行った。

1 つは「看護過程監査」の推進であった。看護実践の記録は、看護職者の思考と行動を示すものであり、その基本的な概念枠組みとなるのは「看護過程」である。質監査を実施する目的は看護過程の質の担保および向上のために行っているが、臨床の中で進まない状況から「看護過程監査」の実施状況のアンケートを行った。実施できていない理由の多くに業務の忙しさが前面にでている。内容については抽象的な表現により評価が難しい項目が多く、また時間がかかるという点においては簡素化の必要性が分かった。監査項目の内容を見直していく中で、看護過程監査表は本来看護の質の向上を目的としてもものに対し、実際は看護計画を元にした看護展開ではなく、結果、看護処置を中心とした記録となっており、看護過程を踏まえた記録ができないと監査にいきつかない現状みえた。この問題点を解決すべく次年度からも委員会活動を継続したい。

2 つは「新電子カルテに適応した看護記録記載手順」の作成であった。新カルテの入力手順について全体の内容や言語表現の統一などの見直しを行い文字だけの手順だけでなく、スクリーニングショットで図を用いて入力手順の作成ができ、看護部内での承認が得られイントラにアップすることができた。

3 つめは「看護記録の質に関する知識の向上」の活動を行った。委員会内で日本看護協会「看護記録に関する指針」読み合わせを行った。10 月院内研修を実施し 13 名の参加があった。看護過程における正しい記録に関して事例検討をグループワークで行い、実践における看護記録についての意見が活発に交換できた研修であった。委員も企画から研修に携わり、事例を選び、看護展開する中で多くの学びがあった。大阪府看護協会主催の「ケア・看護が見える看護記録」に 6 名が参加した。委員が委員会の活動を通じて「看護記録」という視点で、委員自らが計画し勉強会や伝達講習という形で実施することができた。

看護継続教育委員会：高橋 晶子

令和元年度は、各病棟の勉強会の予定を公開し、委員が中心となり声を掛け誰もが自部署以外でも興味のある勉強会に自由に参加することができた。また、多職種の専門性や診療報酬、根拠に基づいた看護実践、臨床倫理の感性を高める研修、認知症高齢者の理解とアセスメント力を高める取り組み、後輩育成の風土の醸成に向けた研修などを企画し、年間概ね計画通り研修が実施できた。研修で得た知識や技術を看護実践に活かすことができているのか今後の課題となる。

看護職者が常に継続学習による能力開発の維持・開発に努め、看護の質を向上させるための研修方法の一つとして、委員会内でナーシングスキルの動画講義について検討した。また、研修時間についても日勤終了後の 90 分の研修は、疲労した中で受講者の集中力が低下している状態であったため研修時間を見直した。研修を効果的なものにしていくために次年度はナーシングスキル動画講義を事前課題で活用し、集合研修を 60 分に短縮し研修を有意義なものにできるよう企画していこうと考える。

新入職看護職者支援委員会：有持 由江

新入職看護職員（新入職者）を支援する体制を強化する実行力を考えて行動してきた。新入職者の“居場所づくり”にちからを注ぐため、日々の新人看護師とのコミュニケーションをはかり、新人を支える実地指導者とともに委員中心にサポートした。

各看護単位の新入職者の状況を常に把握し、委員会で共有し、話し合いを重ね、解決策を見出すようにし、研修や研修後の現場での関りに役立てることができた。そして研修での学びを委員が中心に病棟内に情報提供を行い、OJT と OFF-JT がつながる仕組みをつくる努力を常に行ってきた。

今年度は研修企画、新人の様子の情報共有や解決策を中心に委員会を開催したこともあり、新入職者を支援するための教育内容・方法など、最新の知見を共有することが実施することができず、次年度の課題とした。

『2019 年度新人看護職員教育計画』を実行し、研修準備は昨年度の研修企画を土台に、新人の傾向を踏まえ、企画を行った。研修企画に時間外が増加し、研修企画の時間を決め、限られた時間で集中して企画していくこと、時間外拡大がないような考慮し、進めていった。また演習室の効果的な運用を行い、新人研修が現場に近い状況づくりを行うことで、研修と現場が乖離しないような工夫を行った。

研修後には、早期に研修の振り返りを行い、研修評価も研修に参加していなくても、写真やグラフを挿入することで、わかりやすく伝わる研修評価を意識し、作成していった。

今後、キャリア開発ラダーレベルⅠの取得に向けて呼びかけ、取得を2年目の終わりではなく早期に行えるように働きかけていく。

看護研究委員会：高田 佳織

看護職者の看護研究に関する知識・技術を高めるために、外部講師を招き看護研究研修を実施した。看護研究に関する知識を高めるための集合研修を2回/年計28名、看護研究に取り組むことを前提にシリーズで計5回/年実施し、14名（10組）が受講し好評であった。シリーズ研修の受講生は次年度看護研究に取り組む予定である。

委員自身の看護研究に関する知識を高めるために学会や研修参加の伝達を行い学びの共有を行った。看護研究に関する動機づけの活動については、文献検索を行い共有した。しかし、部署独自で看護研究につながりそうな取り組みをしている部署もあったが、委員会として具体的取り組みまでは至らなかったのが次年度の課題としたい。

患者サービス向上委員会：原田 香織

「サービス提供者の資質向上」と「働きやすい職場環境の整備」を目標に活動を実施した。

サービス提供者の資質向上としては、院内基準に沿った身だしなみチェックを実施した。結果を各部署へ返し、サービス提供者として身だしなみを整えることの必要性について、再度考える機会となった。また、身だしなみの基準を、わかりやすいように写真で示し、曖昧になっていた部分を明確化し、身だしなみが統一してできるようにした。

働きやすい療養環境の整備としては、各部署への5S活動の実施を啓蒙した。現状として、5S活動を実施している部署は4割ほどであった。委員が5S活動について伝達し、全部署で5S活動週間をもうけ実施した。実施後に、各部署で管理者とともにそれぞれの問題点を抽出し、各部署の課題について、再度、5S活動に取り組むことで、職場環境の整理整頓と患者の療養環境の改善にむけた意識づけとなり、今後の更なる改善につなぐことができた。

臨地実習指導者委員会：石黒 早苗

本年度は、初めて臨地実習指導を担当する委員が多く、前期は「実習指導者の基礎を学び、委員自身が実習指導についての基礎知識を得ることができる」

後期は「実習指導者のスキルアップを図るとともに、スタッフへの啓蒙活動を行うことができる」を目標に活動した。臨地実習指導経験が豊富な委員による伝達講習を行い、委員自身の基礎知識を深める事が出来た。

実際の指導場面は「実習状況報告用情報交換シート」を活用し事例を共有した。他病棟の事例を振り返る事で、委員が疑似体験し学びに繋がり、また、同じ悩みを共有することで、安心感や、困った場面等に応じて具体的な介入方法を見出すきっかけとなった。初めて基礎の学生を受ける病棟もあったが、委員会全体で支援する事ができ、無事に実習を終了する事が出来た。しかし、委員会での学びを病棟スタッフへ啓蒙するには至らなかった。今後は、臨地実習の場で関わる看護師を対象に、基礎知識の伝達を行い、学生との関わり事例を共有できる場を設け、実習現場の知識と意識の底上げを狙う。

看護基準・手順整備委員会：門脇 寛子

ナースングスキルの活用の啓蒙を行った。インターネットを利用し、「スタンダードプリコーション」の看護手順、チェックリスト、映像、テストを課題として看護師長も含めて看護師全員を対象とした。インターネット使用 1463 件（昨年：1127 件）と昨年より使用率が上がった。インターネットの環境が HCU や看護部、図書室だけのため、家でインターネットやスマートフォンでの実施が多かった。また、新入職者のログイン ID がなかったり、人事異動により病棟変更など不備があった。新入職の看護職員（特に中途採用者）や人事異動で職場変更をタイムリーにできるシステムの権限の明確化をしていく。テストなど管理者が閲覧できるように管理者への見方も含め、今後広めたりする必要がある。

看護基準に関しては「食事」を委員会で基準について共有を行った。スタッフレベルでの看護基準の知識の共有や改定は 5 か月かかった。時間も含めて管理者レベルでの基準の改定や構成も含めて、看護部（管理者）看護基準の作成・改訂を提案していく。

医療社会事業部

社会課

「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります」という日本赤十字社の Mission statementのもと日々業務をおこなっており、赤十字運動の担い手として、人道の実現のために利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動しています。

<令和元年度スタッフ>

濱田 健司（社会課長）

綱嶋 準（社会係長）

■令和元年度実績（令和2年3月31日現在）

令和元年度日本赤十字社大阪府支部救護員（救護班要員）

救護班要員 44 名 医師 5 名、看護師長 5 名、看護師 10 名、助産師 1 名、
こころのケア 6 名、薬剤師 5 名、主事 10 名、補助 2 名

	第1班	第2班	第3班	第4班	第5班
医 師	岡本 文雄	平野 玄起	李 剛至	後藤 健一	吉見 宏平
看 護 師 長	伊藤 勝也	秋山 由衣	門脇 寛子	有持 由江	高橋 晶子
看 護 師	友安 直美	村嶋 涼子	川口 直美	田中 智美	田中 彩子
	岩村 宏美	東崎 菜穂子	小松 渉未	松山 寛子	原田 奈々
主 事	川崎 清司	迫田 博史	佐橋 克哉	西村 大樹	中村 義隆
	濱田 敦	大川 健	吉田 桂	今井 翔太郎	吉岡 健太郎
薬 剤 師	小西 史子	濱武 清範	奥村 優介	酒井 ちひろ	宮西 将之
補 助	濱田 健司・綱嶋 準				
こころのケア要員	阿部 哲子・高田 佳織・川崎 知子・門脇 寛子・村嶋 涼子・井上 尚代				
助 産 師	白根 志保				

- ◆ 日赤災害医療コーディネーター
岡本 文雄、後藤 健一、平野 玄起

日赤災害医療コーディネートスタッフ
岸 恵美、濱田 健司、橋本 龍

- ◆ 国際活動 国際救援・開発協力要員の登録状況
原田 香織

◆ こころのケア指導者

阿部 哲子、高田 佳織、川崎 知子、門脇 寛子、村嶋 涼子、井上 尚代

◆ 赤十字救急法指導員

高田 佳織、石黒 早苗、仲 砂千代、前田 敦子、南波 広美、村上 美穂子、
平田 俊介、佐橋 克哉、山崎 孝子、和田 香織、吉川 三保、松岡 郷子、
田淵 美世、濱田 健司、亀岡 さつき、村嶋 涼子、友安 直美、有持 由江
(新任研修未受講)

◆ 第2級陸上特殊無線技師

迫田 博史、篠田 隆史、佐橋 克哉、阪本 達矢、西村 大樹、山崎 孝子、
吉田 桂、河野 博文、吉岡健太郎、濱田 健司、綱嶋 準

●令和元年度災害等救護員派遣

月 日	災害名 / 派遣場所	派遣者	人数
8月3日	高槻まつり	医 師 後藤 健一 李 剛至 鈴木 悠介 杉島 涼音 看護 師 長 福場久美子 看護 師 辻 佳恵子 甲斐三保子 薬剤 師 酒井ちひろ 主 事 佐橋 克哉 濱田 健司	10

●令和元年度災害対策訓練研修会等

【救護員研修会】

月 日	研修会名	参加者	人数
4月9日	平成31年度第1回日本赤十字社大阪府支部 救護員指導者協議会	救 急 部 長 岡本 文雄 看護副部長 岸 恵美 社 会 課 長 濱田 健司	3
4月22日	2019年淀川水防・大阪府地域防災総合演習 事前会議	社 会 課 長 濱田 健司	1
4月25日	第25回日本赤十字社第4ブロック救護員 指導者協議会（第3回）	救 急 部 長 岡本 文雄 薬剤 部 長 小島 一晃 看護副部長 岸 恵美 看護 師 長 高田 佳織 社 会 課 長 濱田 健司	5

5月19日	令和元年度日本赤十字社大阪府支部救護員 基礎研修会	看護師長 伊藤 勝也 看護師 下井 優華 福場久美子 中本やよい 中山つかさ 永田 奈月 的場 加奈 友安 直美 松山 寛子 東崎菜穂子 薬剤師 濱武 清範 主 事 澤田 真実 中尾 功一 松宮 源朗 仁志出裕介 河田希実子 松井 里佳 スタッフ 濱田 健司 網嶋 準	19
5月23日	2019年淀川水防・大阪府地域防災総合演習 事前車輛テスト	社会課長 濱田 健司	1
7月2日	大規模津波防災総合訓練 第1回部会	救急部長 岡本 文雄 社会係長 網嶋 準	2
7月30日	大規模津波防災総合訓練 第2回部会	社会課長 濱田 健司	1
8月24日～ 8月26日	第2回全国赤十字救護班研修	スタッフ 岡本 文雄	1
8月26日	大阪府・豊能地域3市2町合同防災訓練全体会議 (第1回)	社会課長 濱田 健司 社会係長 網嶋 準	2
8月30日	大規模津波防災総合訓練 第3回部会	社会課長 濱田 健司	1
9月9日	令和元年度第2回日本赤十字社大阪府支部救護員 指導者協議会	救急部長 岡本 文雄 薬剤部長 小島 一晃 看護副部長 岸 恵美 社会課長 濱田 健司 社会係長 網嶋 準	5
9月10日	第25回日本赤十字社第4ブロック合同救護訓練に かかる第4ブロック救護員指導者協議会(第4回)	救急部長 岡本 文雄 医師 李 剛至 薬剤部長 小島 一晃 看護副部長 岸 恵美 看護師長 高田 佳織 社会課長 濱田 健司 社会係長 網嶋 準	7

9月12日	大阪国際空港緊急計画連絡協議会 第1回訓練担当者会議	社会課長 濱田 健司 社会係長 綱嶋 準	2
9月18日	令和元年度 第1回日本赤十字社大阪府支部 こころのケア研修会	看護師 村上美穂子 勝沼 純子 勝部 絵里 長瀬美和子 理学療法士 不破賢太郎 主 事 松宮 源朗 中尾 功一 松井 里佳 河田希実子 講師【看護師長】 高田 佳織	10
9月29日	大阪府災害医療コーディネート研修	社会課長 濱田 健司	1
10月4日	大規模津波防災総合訓練第2回実行委員会	社会課長 濱田 健司	1
10月17日	大規模津波防災総合訓練事前車輛訓練	社会課長 濱田 健司 社会係長 綱嶋 準	2
10月19日	令和元年度日本赤十字社大阪府支部ステップアップ・ dERU 研修会	看護師長 高橋 晶子 看護師 永田 奈月 薬剤師 小西 史子 主 事 阪本 達矢 仁志出裕介 松宮 源朗 中尾 功一 松井 里佳 澤田 真実 河田希実子 スタッフ 濱田 健司 綱嶋 準	12
10月20日	高槻日赤フェスタ	ボランティア 理学療法係長 新地 史章 スタッフ 社会課長 濱田 健司 社会係長 綱嶋 準	3
10月28日	大阪府・豊能地域3市2町合同防災訓練全体会議 (第3回)	社会課長 濱田 健司 社会係長 綱嶋 準	2
11月6日	令和元年度 第2回日本赤十字社大阪府支部 こころのケア研修会	看護師 下井 優華 奥村 晃代 金岡 裕美 中本やよい 藤原ゆかり 森田さゆり 的場 加奈 上野美沙子 奥川 聡子 薬剤師 宮西 將之 講師【看護師長】 村嶋 涼子	11

11月23日	大阪府災害医療コーディネート研修	呼吸器科副部長	後藤 健一	1
11月23日	MCLS 標準コース	消化器外科部長 看護 師 放射線係長	恒松 一郎 中本やよい 中村 義隆	3
12月7日～ 8日	日赤災害医療コーディネート研修会	医 師	李 剛至	1
12月11日	第26回日本赤十字社第4ブロック合同救護訓練にかかる第4ブロック救護員指導者協議会（第1回）	薬 剤 部 長 看護副部長 社 会 課 長 社 会 係 長	小島 一晃 岸 恵美 濱田 健司 網嶋 準	4
2月12日	第26回日本赤十字社第4ブロック合同救護訓練にかかる第4ブロック救護員指導者協議会（第2回）	薬 剤 部 長 看護 師 長 社 会 課 長 社 会 係 長	小島 一晃 高田 佳織 濱田 健司 網嶋 準	4

【災害救護訓練】

月 日	訓練名	派遣先	参加者	人数
5月25日	淀川水防・大阪府地域 防災総合演習	淀川左岸河川敷 (豊里大橋下流)	医 師 岡本 文雄 平野 玄起 研 修 医 衣斐 菜々 看護 師 長 伊藤 勝也 看護 師 友安 直美 岩村 宏美 主 事 吉田 桂 濱田 敦 川崎 清司 濱田 健司 網嶋 準	11
6月15日	第25回日本赤十字社 第4ブロック合同 災害救護訓練	竜王総合運動公園	医 師 李 剛至 研 修 医 衣斐 菜々 看護 師 長 秋山 由衣 看護 師 村嶋 涼子 東崎菜穂子 薬 剤 師 酒井ちひろ 主 事 迫田 博史 大川 健 ス タ ッ プ 岡本 文雄 小島 一晃 岸 恵美 高田 佳織 濱田 健司 網嶋 準	14
8月10日	第14回高槻市 総合防災訓練	堤運動公園	社 会 課 長 濱田 健司 社 会 係 長 網嶋 準	2

9月14日	高槻市医師会災害医療訓練	高槻市五領小学校	救急部長 医師 看護師長 看護師 主事	岡本 文雄 平野 玄起 矢倉 伊織 門脇 寛子 亀岡さつき 小松 歩未 仁志出裕介 中村 仁美 濱田 健司	9
1月26日	高槻日赤フェスタ	災害救護倉庫	看護係長 看護師 理学療法係長 研修・厚生係長 総務係長 広報係主事 社会課長 社会係長	松下めぐみ 佐賀 昭子 新地 史章 山崎 雅樹 迫田 博史 五百井栄実 濱田 健司 綱嶋 準	8
10月31日	院内消防訓練	高槻赤十字病院	全職員対象		
11月2日	大規模防災総合訓練 (近畿地方整備局堺市 合同総合防災訓練)	堺泉北港堺2区基幹的 広域防災拠点	医師 看護師長 看護師 主事	岡本 文雄 有持 由江 田中 智美 松山 寛子 今井翔太郎 西村 大樹 濱田 健司 綱嶋 準	8
11月7日	新名神消防連絡協議会訓練 (茨木市消防新名神訓練)	高槻 IC 内管理ヤード	医師 研修医 看護師 主事	岡本 文雄 李 剛至 佐田 昭匡 伊藤 勝也 中村 義隆	5
11月14日～ 11月24日	病院 ERU 実証展開	高槻赤十字病院 グラウンド			
11月15日	大阪府・豊能地区3市2町 合同防災訓練	能勢町宮名月 グラウンド	医師 看護師長 看護師 主事	岡本 文雄 木澤 隼 高橋 晶子 田中 彩子 原田 奈々 中村ゆかり 濱田 健司 綱嶋 準	8

11月17日	防災フェア IN たかつき	高槻市生涯学習センター 1 階展示ホール	社会課長 社会係長	濱田 健司 綱嶋 準	2
11月30日	近畿地方 DMAT ブロック 訓練	東近江地域	日本語医療コーディネーター 医師 看護師長 看護師 主事	岡本 文雄 平野 玄起 石黒 早苗 森下かおり 吉田 一真 小西 史子 濱田 健司 綱嶋 準	8
12月1日	近畿地方 DMAT ブロック 訓練事後検証会	琵琶湖ホテル	日本語医療コーディネーター	岡本 文雄	1
12月5日	2019 年度大阪空港航空機 事故対策部分訓練	大阪国際空港	医師 看護師長 看護師 主事	岡本 文雄 平野 玄起 原田 香織 藤原ゆかり 吉川 三保 東條 文子 濱田 健司	7

赤十字救急法指導員（職員）研修会（大阪府支部にて開催）

5月16日	令和元年度赤十字救急法指導員指導実績未達成研修	看護師	和田 香織	1
5月16日 5月28日	令和元年度赤十字救急法指導員研修	看護師長 看護係長 看護師 作業療法士 人事課長 人事係長 社会課長	石黒 早苗 高田 佳織 前田 敦子 村嶋 涼子 田渕 美世 清田 絢子 松岡 郷子 村上美穂子 仲 砂千代 南波 広美 吉川 三保 和田 香織 亀岡さつき 友安 直美 山崎 孝子 平田 俊介 佐橋 克哉 濱田 健司	18
5月25日	令和元年度 健康生活支援講習・幼児安全法指導員研修	看護師	豊留ひとみ 末廣 悦子 仲 砂千代 工藤ゆかり	4
1月8日～ 1月12日まで 計6日	赤十字健康生活支援講習指導員養成講習	看護係長	橋本 龍	1

1月10日～ 2月9日まで 計7日	赤十字救急法指導員養成講習	看護係長 有持 由江	1
-------------------------	---------------	------------	---

●令和元年度赤十字救急法救急員基礎養成講習会（高槻赤十字病院開催）※☆は指導員リーダー

月 日	受講生	人数
6月29日 7月6日 7月7日 指導員	上田 靖子、中野志津子（救急員養成のみ）三宅 光代、三明 葵、東條 文子、 宮井久美子、川崎 清司 6/29 ☆濱田 健司、山崎 孝子、友安 直美 7/6 ☆仲 砂千代、村上美穂子、村嶋 涼子、濱田 健司 7/7 ☆濱田 健司、高田 佳織、亀岡さつき	17
10月26日 11月16日 11月17日 指導員	大坂 昇子、岡田 郁子、塚崎 久美、福谷 健也、鷺尾 愛、松平 紗季、武内 綾香、 栗林 愛美、西川亜紀子、末廣 悦子、工藤ゆかり、岩見 知樹 （救急員養成のみ） 10/26 ☆前田 敦子、村上美穂子、吉川 三保、友安 直美、濱田 健司 11/16 ☆平田 俊介、南波 広美、和田 香織、岩見 早苗 11/17 ☆前田 敦子、高田 佳織、亀岡さつき、岩見 早苗	25

赤十字救急法救急員指導員派遣（支部にて開催）※養成1→養成1日目、養成2→養成2日目

月 日	参加者
8月27日（基礎）	村嶋 涼子、山崎 孝子、佐橋 克哉
8月28日（養成1）	高田 佳織、濱田 健司
2月 4日（基礎）	南波 広美、山崎 孝子
2月25日（基礎）	開催中止（派遣予定者：石黒 早苗、亀岡さつき）
2月26日（養成1）	開催中止（派遣予定者：和田 香織、吉川 三保、田淵 美世）
2月27日（養成2）	開催中止（派遣予定者：平田 俊介、濱田 健司）
3月17日（基礎）	開催中止（派遣予定者：友安 直美、山崎 孝子）
3月18日（養成1）	開催中止（派遣予定者：濱田 健司）

幼児安全法講習指導員派遣

月 日	参加者
7月25日・26日	亀岡さつき
9月19日（短期）	濱田 健司
10月29日・30日	濱田 健司
12月7日・ 8日	濱田 恵
12月10日午前（短期）	濱田 健司、亀岡さつき
12月10日午後（短期）	濱田 健司、亀岡さつき

健康生活支援講習 講師派遣

7月 5 日 (第1回)	濱田 恵
7月12日 (第1回)	豊留ひとみ
7月19日 (第1回)	仲 砂千代
7月26日 (第1回)	工藤ゆかり
8月 2 日 (第1回)	末廣 悦子
10月10日 (第2回)	開催中止 (派遣予定者：該当者なし)
10月17日 (第2回)	開催中止 (派遣予定者：工藤ゆかり)
10月24日 (第2回)	開催中止 (派遣予定者：濱田 恵)
10月31日 (第2回)	開催中止 (派遣予定者：豊留ひとみ)
11月 7 日 (第2回)	開催中止 (派遣予定者：仲 砂千代)
1月22日 (第3回)	濱田 恵
1月29日 (第3回)	工藤ゆかり
2月 5 日 (第3回)	豊留ひとみ
2月12日 (第3回)	末廣 悦子
2月19日 (第3回)	仲 砂千代

令和元年度ボランティア受入れ・参加

月 日	訓練名	人数
4月14日29日	天理教ひのきしん	511
4月29日	移動採血車来院	29
5月18日	移動採血車来院	15
5月29日	ANA グループ客室乗務員による「すずらんのお見舞い」	5
6月26日	高槻市立阿武山小学校3年生児童、災害救護倉庫等見学	38
7月2日	アンサンブル「サフラン」患者慰問コンサート	34
6月3日	クラリネット、歌、ピアノ演奏	43
9月3日	高槻 TIE' S 慰問演奏会	15
9月7日	DUO TAKASE	9
10月17日	移動採血車来院	20
11月17日	令和元年度秋季「高槻市環境美化推進デー」清掃ボランティア活動参加	4
11月18日	クラリネット、歌、フルート、ピアノ演奏	44
12月18日	アンサンブル「サフラン」患者慰問コンサート	55

中学生実習職業体験受入

月 日	項 目	人数
令和元年 10月24日、25日	高槻市立阿武山中学校 第2学年生 職業体験学習	2
令和元年 11月26日、27日	高槻市立第九中学校 第2学年生 職業体験学習	2

その他 () 内前年度

令和元年度 赤十字社員増強運動実績	428 人	279,000 円 (375 人 225,000 円)
赤十字の活動資金 (募金箱分)		155,849 円 (102,120 円)
令和元年度 NHK海外たすけあい義援金実績		5,082 円 (9,771 円)

(令和元年度糖尿病教室)

月 日	テーマ	講 師	参加者
4月9日	糖尿病との付き合い方 糖尿病合併症について 食事療法 1 (ミニ健康講座) 糖尿病と運動	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 金子至寿佳 糖尿病療養指導士 角屋 麻由 管理栄養士 西岡 美穂 理学療法士 倉繁 浩一	17
5月14日	糖尿病とくすり 糖尿病の検査について 食事療法 2 (ミニ健康講座) 糖尿病と救急医療	薬剤師 小西 史子 検査技師 森内 沙紀 管理栄養士 西岡 美穂 糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 金子至寿佳	17
6月11日	患者体験談意見交換会 糖尿病について 食事療法 3 (ミニ健康講座) 糖尿病と循環器疾患	参加者全員 管理栄養士 西岡 美穂 循環器科医師 土居 裕幸	16
7月9日	糖尿病との付き合い方 糖尿病について 食事療法 1 (ミニ健康講座) 日赤の活動	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 金子至寿佳 糖尿病療養指導士 富久真由美 管理栄養士 藤本 智子 社会課 濱田 健司	21
8月13日	糖尿病とくすり 糖尿病の検査について 食事療法 2 (ミニ健康講座) 糖尿病に対する運動療法	薬剤師 森川 智子 管理栄養士 藤本 智子 理学療法士 岸田 尚子	13
9月10日	患者体験談 糖尿病について 食事療法 3 (ミニ健康講座) 糖尿病と呼吸器疾患	参加者全員 糖尿病療養指導士 長野 友美 管理栄養士 藤本 智子 呼吸器科医師 中村 保清	16
10月8日	糖尿病との付き合い方 糖尿病について 食事療法 I (ミニ健康講座)	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 金子至寿佳 糖尿病療養指導士 戸川 綾女 管理栄養士 廣田 眞希	16
11月12日	糖尿病とくすり 糖尿病の検査について 食事療法 2 (ミニ健康講座) 糖尿病と運動	薬剤師 小西 史子 臨床検査技師 土居美都子 管理栄養士 平野なつみ 理学療法士 倉繁 浩一	20

12月11日	患者意見交換 糖尿病について 食事療法3 (ミニ健康講座) 糖尿病と足病変	参加者全員 糖尿病療養指導士 小松 歩未 管理栄養士 廣田 眞希 皮膚科医師 古川 福実	13
1月14日	糖尿病との付き合い方 糖尿病について 食事療法1 (ミニ健康講座)	糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 金子至寿佳 糖尿病療養指導士 勝沼 純子 管理栄養士 南 美保子	19
2月4日	糖尿病とくすり 糖尿病の検査について 食事療法2 (ミニ健康講座) 糖尿病と運動	薬剤師 森川 智子 検査技師 岡田 悠 管理栄養士 南 美保子 理学療法士 倉繁 浩一	13
3月10日	COVID-19 感染対策のため中止 患者意見交換 糖尿病について 食事療法3 (ミニ健康講座) 糖尿病について	参加者全員 糖尿病療養指導士 枸杞 千春 管理栄養士 南 美保子 糖尿病・内分泌・生活習慣病科部長 金子至寿佳	-

(令和元年度市民公開講座)

月 日	テーマ	講 師	参加者
10月12日	台風で延期 しっかり学ぼう！関節リウマチ (クロスパル高槻) 1. 感染症を予防するには？ 2. 運動の効果とは？ 3. 早く見つけて早く治そう！ その関節リウマチ	リウマチケア看護師 野口 郁代 作業療法係長 八木 紀子 整形外科部長 小田 幸作	
3月1日	COVID-19 感染対策のため中止 しっかり学ぼう！関節リウマチ (クロスパル高槻) 1. 感染症を予防するには？ 2. 運動の効果とは？ 3. 早く見つけて早く治そう！ その関節リウマチ	リウマチケア看護師 野口 郁代 作業療法係長 八木 紀子 整形外科部長 小田 幸作	

患者支援センター

玉田 尚 （副院長兼患者支援センター長）
原田 かおる （看護副部長兼患者支援副センター長）

地域医療連携課

<スタッフ>

渡部 悟 （地域医療連携課長）
（地域医療連携係）
遠藤 美智子（地域医療連携係長）
大迫 明子（主事）
永阪 彩加（主事）
宮前 弥生（嘱託主事）
川崎 清司（主事）
（地域医療連携推進係）
仁志出 裕介（地域医療連携推進係長）
（入退院支援係）
山本 裕恵（入退院支援係長）
河津 絵里（パート主事）
小石原 好江（主事）
（入退院支援看護師）
山本 裕恵看護師（兼任）
澄川 幸恵看護師
田村 華奈看護師（看護部付）
安倉 有沙看護師（看護部付）→ 9/1 末廣 悦子へ
川崎 知子看護師長（看護部付） 病床管理担当
福谷 裕美看護師長（看護部付）R2.1.14～
松永 富美代薬剤師係長（薬剤部付）

<令和元年度活動実績>

- （地域医療連携係）
- ・紹介件数の目標を585件／月と決め、令和元年度は年間目標数（7020件）としましたが、6947件と目標達成に至らず。（年度末の新型コロナの影響）
 - ・断診リストの作成・報告
 - ・断診の根絶を目指し、入院依頼及び他病院からの転医時、お断りされた場合、各科部長へ直接副センター長及び課長が交渉を継続しました。
 - ・紹介先への返書作成を徹底する為、毎月返書未作成リストを病院連絡会議へ提出
 - ・登録医からの外来受診時は5分以内での応需を徹底
 - ・係内ミーティングの定期開催
 - ・電話対応時間延長（19時→19時半）と、土曜日電話対応実現の為、派遣職員を採用・教育しましたが、業務内容が重要な上、複雑で、派遣職員が続かず全員退職となった。

(地域医療推進係)

- ・近隣病院・登録医への年2回の定期訪問(7～8月、11～12月に各40病院、登録医30件訪問)の継続。年末には一部診療科部長の同行訪問営業を実施
- ・消防隊員向け勉強会の実施(年1回)
- ・未登録医への訪問(登録医増加対策)を実施
- ・出前講座の実施(高槻市・茨木市の両社会福祉協議会を通じて、両市の自治会や施設の会合に参加。
(老健施設2回、地域自治会館2回で開催)
- ・山手台、日吉台、安岡寺方面への営業強化
- ・卓上カレンダー・ボールペンの作成・配布(全登録医への訪問)を予定していましたが、予算執行されず未実施。
- ・タクシー送迎のPR強化

(入退院支援係)

- ・入退院支援業務の体制強化(患者支援センター新体制構築)
- ・入退院支援看護師4名配置
- ・患者支援センターレイアウト変更(ブースを7つ設置)
- ・入退院支援看護師の退院カンファレンス参加
- ・10月から退院支援加算1の算定。

(課全体の実施項目)

- ・入退院支援業務体制強化
- ・営業強化
- ・緩和ケア研修会の開催(2年に1度開催)
- ・地域医療支援病院の定期報告、大阪府がん診療連携拠点病院の現況報告
- ・市民公開講座の開催

令和元年度は紹介件数、逆紹介件数ともに前年度を下回りました。

◆共同診療は、合計63回実施されました。(昨年度57回)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4回	11回	4回	9回	7回	6回	3回	3回	6回	6回	2回	2回

令和元年度研修会等開催実績

日時	研修名	参加人数
令和元年7月13日	市民公開講座「～広がる明日への医療～」	33名

<令和元年度活動目標>

I、地域の人々に安全・安心な医療提供のために継続的に地域医療・院内の連携に努める

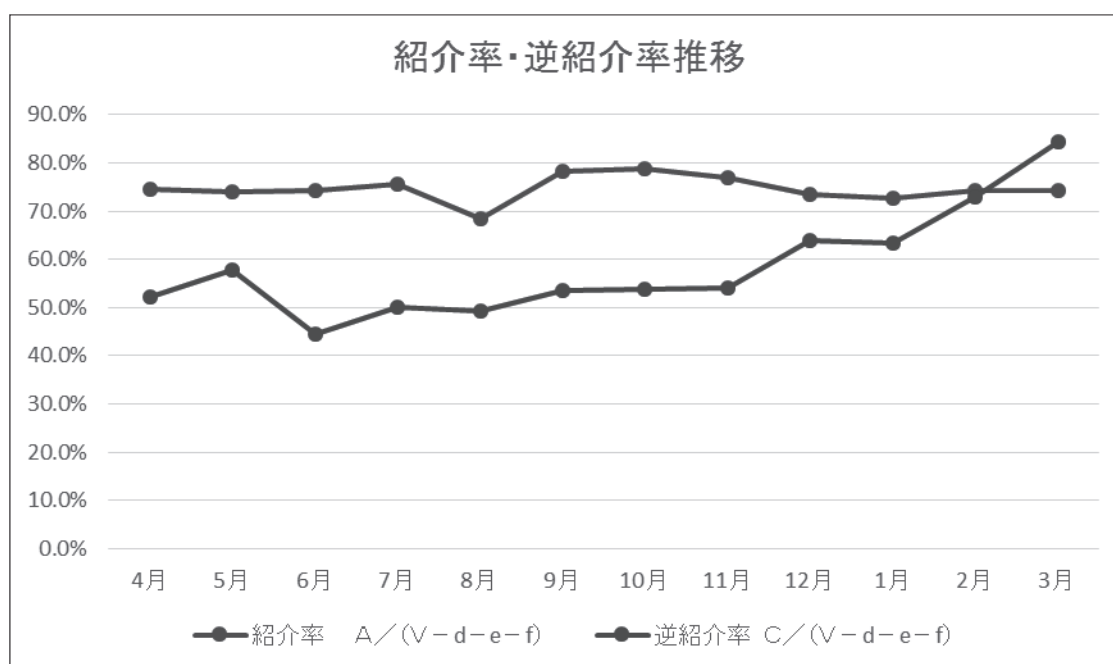
財務に関する事項	地域医療支援病院の継続	①紹介率 65%以上・逆紹介率 40%以上 ②地域支援病院に関する研修の実施
	登録医訪問の強化	①紹介患者の増加 ②当院の担当医師と共に訪問活動を強化
	がん診療拠点病院の獲得	①承認事項の実施 ②がん患者・家族に沿って支援強化
	紹介率のアップ	①未登録医への訪問 ②オープン検査項目の増加 ③タクシー送迎の PR 強化 ④近隣病院・登録医への年 2 回定期訪問
	がん連携パスの増加	①大阪府がん診療連携パス （肺・胃・肝・乳・大腸）の増加 ②がん疼痛緩和ケア地域連携パス運用に関する支援強化
顧客に関する事項	紹介された患者さんの受入態勢の迅速化	①予約依頼から 5 分以内返答の徹底
	登録医の期待に応える	① 100%返書を返す
内部プロセスに関する事項	登録医からの紹介患者を断らない	①当日緊急依頼については、全て受け入れる ②オープン検査結果等の返書は 100%返す ③月間紹介件数の目標を立て、紹介状況の把握を行う
	地域医療連携業務の強化	①共同診療件数の前年度比 20%上昇 ②開放病床利用率の上昇

II、個々の専門性を活かした質の高い情報の提供と自己研鑽を行う

戦略に関する事項	個々の専門性を発揮し医療連携、患者支援の質の向上を図る	①院内院外への研修に積極的参加 ②患者支援サービスについて内容検討 ③課内の情報共有強化の実施
----------	-----------------------------	---

Ⅲ、令和元年度の紹介率と逆紹介率

年間 紹介率	74.6%
逆紹介率	57.5%



地域医療連携課 医療福祉相談係

<スタッフ>

志水 陽子（医療福祉相談係長・社会福祉士）
 信本 愛（医療社会事業司・社会福祉士）
 大島由起子（医療社会事業司・社会福祉士）
 中野 慶子（医療社会事業司・社会福祉士）
 三好 里沙（医療社会事業司・社会福祉士）

<特 色>

医療福祉相談係では、ソーシャルワークを担当しており、厚生労働省の業務指針に基づき、①療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助、②退院援助、③社会復帰援助、④受診・受療援助、⑤経済的問題の解決・調整援助、⑥地域活動を行っている。

また、当院は府指定のがん診療拠点病院に指定されており、がん相談支援センターでの業務も、医療ソーシャルワーカーが、がん看護専門看護師や緩和ケア認定看護師とともに、がん相談支援センター相談員を兼務することで継続した。

医療ソーシャルワーカーは5名配置されており、入退院支援加算1取得に向けて、各自2病棟ずつ担当するようにしていたが、2019年度前半は、2名が体調不良により病欠や調整の期間があり、変則的に1名が3病棟分受け持つ等、実質的には3名で協力しながら2名の復帰準備を行った。9月ごろより5名で業務を行えるようになり、病棟ごとのケースの受け持ち分担も再開となったため、病院として入退院支援加算1を取得した。以降、入退院支援看護師や退院調整看護師と

ともに担当の病棟カンファレンスに参加し、支援の必要なケースを早期に抽出していくことが可能となった。

また、地域との連携や自己研鑽のため、三島圏域リハビリテーション連絡会や、大阪医療ソーシャルワーカー協会、三島圏域ソーシャルワーカー連絡会、全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会等に所属し、研修活動などに参加した。2020年1月以降は、新型コロナウイルス感染症の感染予防の対策のため、こういった活動が軒並み中止となったが、書面やオンラインにて継続するようにしている。

< 2019年度の活動実績 >

「全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会」の日報・月報様式を使用し、活動実績を集計した。

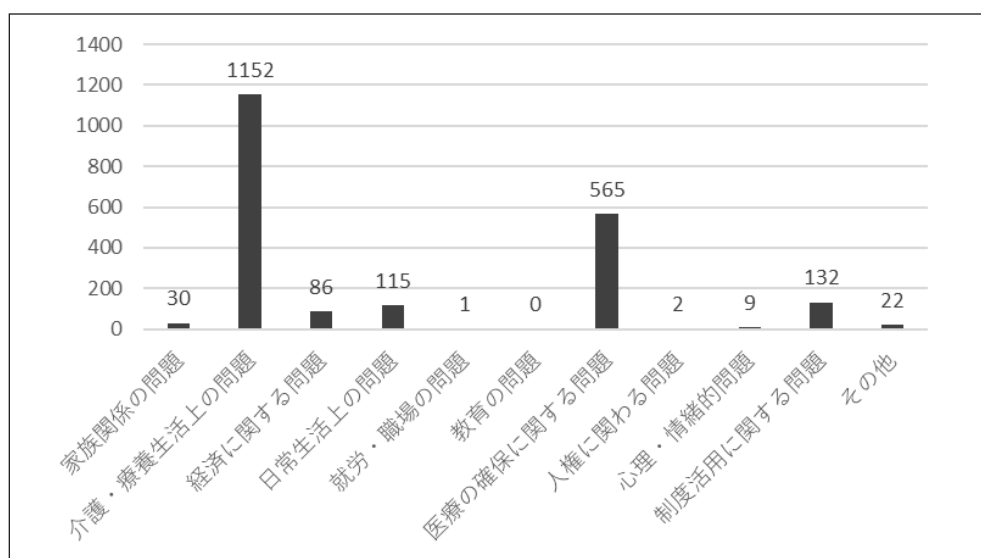
◇年度実人数・・・計 1,632 名

◇対応した問題件数（1 問題 1 ケースとしてカウントしたため延べ相談件数となる）

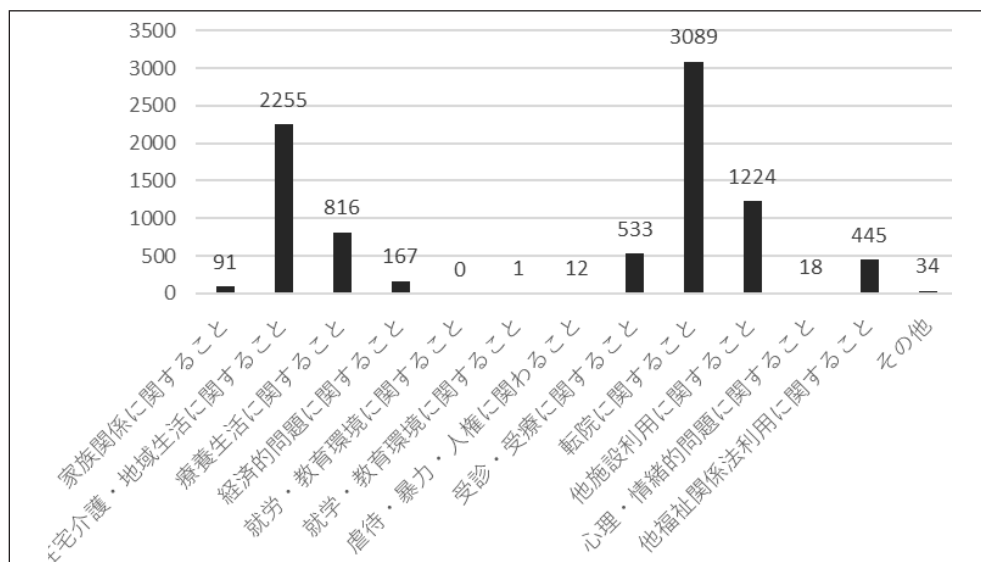
計 7,597 件

以下に、①問題件数、②相談援助内容、③援助方法、④新ケースの紹介経路をグラフに示す。

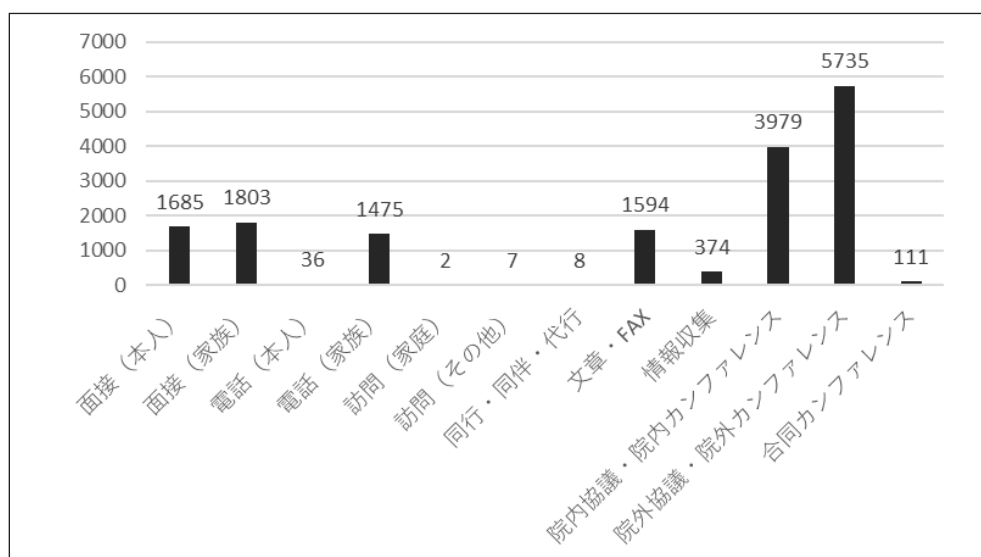
①問題件数（実件数として計上 単位：件 n = 2,114 件）



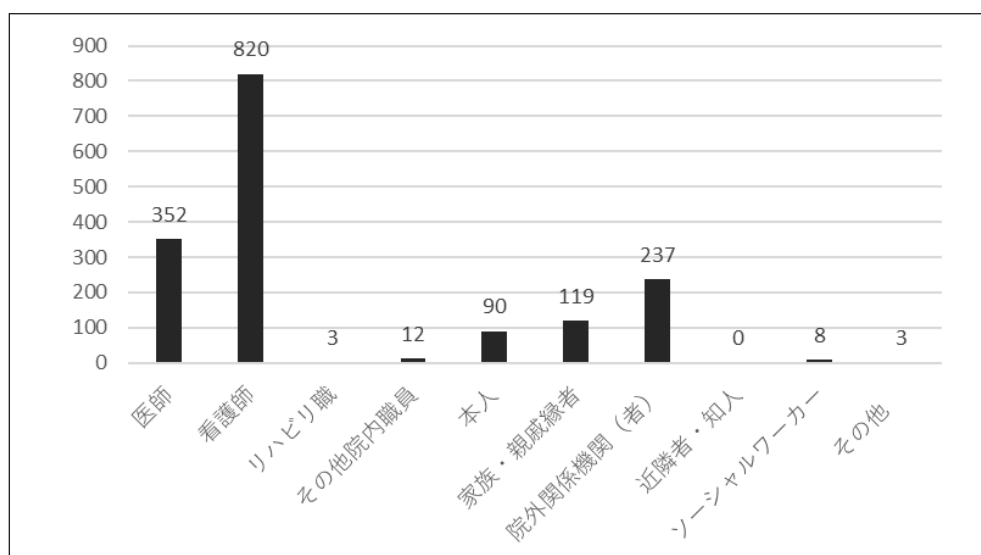
②相談援助内容（延件数・複数カウント 単位：件 n = 8,685 件）



③援助方法（複数カウント 単位：件 n = 16,809 件）



④新ケースの紹介経路（単位：件 n = 1,644 件）



上記件数は、個別ケースとして取り扱った件数である。そのケースに費やされた時間が反映されていないため、数値だけで業務内容をあらわすことは難しい。対応した問題としては、介護・療養生活上の問題が約 5 割強を占めている。相談援助内容では、転院調整援助と他施設利用援助とで約 5 割、在宅介護・地域生活に関する相談援助が 3 割弱を占めている。このことは、医療ソーシャルワーカーの業務のうち退院支援にかかる業務の特徴や必然性を示している。援助方法の内訳からみてわかるように、患者本人・家族との直接的な面接や院内外の連絡調整が多くを占めている。合同カンファレンス開催の割合は援助方法全体からすると 1 割にも満たないが、かかりつけ医や訪問看護師、ケアマネジャーなど地域を支える社会資源と患者家族を橋渡しする場として重要な場であった。家庭訪問や同行ケースの件数は年々減少しているが、これまで医療ソーシャルワーカーが担ってきた役割を、ケアマネジャーをはじめとした院外の関係機関を連携し、引き継ぐことで分担している。必要時においては、家庭訪問や公的機関への同行は継続していく。

個別ケース以外に、ルーチンワークとして介護保険主治医意見書や身体障がい者診断書等、書類の管理や整備なども担当した。医療ソーシャルワーカーが、書類等の相談をきっかけとして患者の生活背景や家族の状況をアセスメントし、ニーズの把握につなげ、新たに問題解決のため調整するという機能は担えるが、社会資源の説明や書類管理に費やす時間も多く占めている。事務作業が他の事務担当者等に移行することによりカンファレンスやアセスメントに費やす時間がより確保できるため、引き続き他部署との役割分担を検討していきたい。

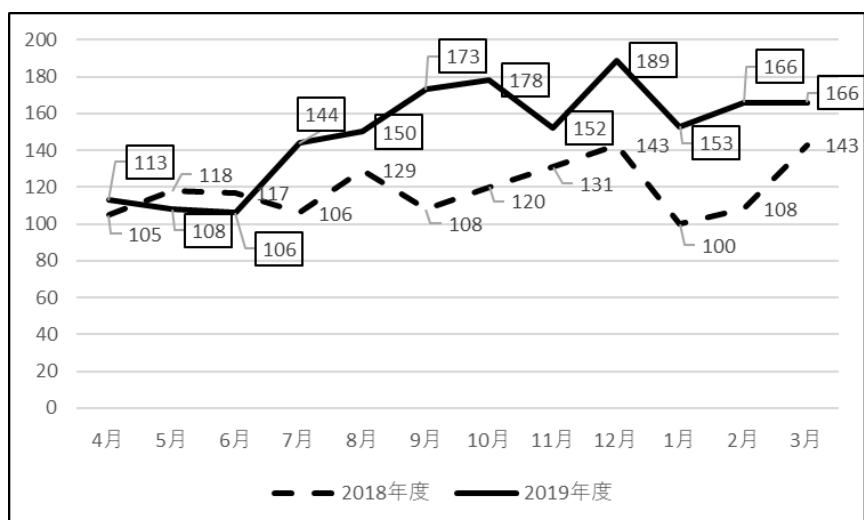
退院調整には院内外の関係者によるチームでのかわりが不可欠であり、当院の中でも定着してきている。医療ソーシャルワーカーは地域連携の窓口という役割も果たしており、患者・家族と社会資源だけでなく、院内外の関係職種の連携そのものを橋渡ししているといえる。

2019年7月より、病棟の看護師・退院調整看護師・入退院支援看護師・医療ソーシャルワーカーが共同して入院後7日以内にカンファレンスを実施できるよう、週2回ずつ各担当病棟にて退院調整計画カンファレンスを行った。こうした準備期間を経て、当院は入退院支援加算1の申請を届け出、11月より適用されるようになった。連携にともない、退院支援計画書や介護連携指導記録、退院時共同指導記録の作成を行った。(表⑤⑥) 退院支援計画書は、病棟での退院調整計画カンファレンスが定着したこともあって、前年度よりも算定件数が増加した。

介護連携指導記録は、病院を訪問したケアマネジャー等に情報提供を行うことで算定できるが、これについては昨年度の件数よりも減少した。これは、ケアマネジャーが来院しても、利用者に直接面会し、医療ソーシャルワーカーや病棟看護師など医療機関の職員から情報収集することなしに帰ってしまうパターンが多いことに起因していると考えられるが、退院前カンファレンスで、ケアマネジャー・かかりつけ医・訪問看護師等3人以上が参加した場合は、退院時共同指導料2が加算できるが、同時に介護連携等指導料は算定できないためその件数が入っていないということも数値が伸びていない理由である。ちなみに2019年度の退院時共同指導料算定件数は、件あり、前年度の件より増えているため、地域の社会資源との退院支援に対する連携は広がってきていると考える。

入退院支援加算1の施設基準として、当院が連携医療機関または介護サービス事業所等の職員と退院支援、地域連携職員が、20か所以上の医療機関・介護事業所と年3回以上の頻度で面会し、転院・退院体制について情報の共有等を行う必要がある。この要件に関して、2019年度は28か所の医療機関・介護事業所と3回以上の面会による連携を行った。(表⑦⑧)

⑤退院支援加算算定件数（2018年度・2019年度の比較 単位：件）



総件数 2018年度：1428件 2019年度：1,798件

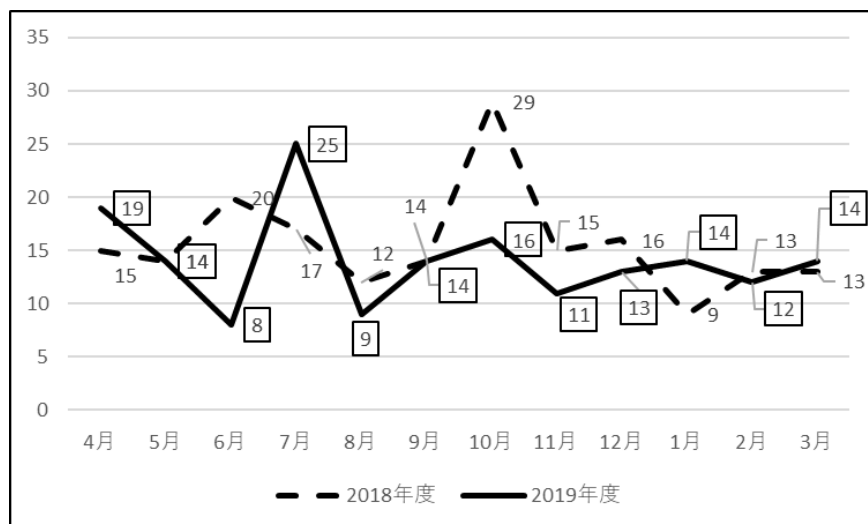
点数 2018年度：271,320点

2019年度：680,280点

（4月～10月 190点×972件＝184,680点）

（11月～3月 600点×826件＝495,600点）

⑥2018年度・2019年度の比較 単位：件



総件数 2018年度：187件 2019年度：169件

点数 2018年度：74,800点 2019年度：67,600点

⑦連携機関との面談

種別	件数	回数
居宅介護支援事業所・地域包括支援センター	76 か所	147 回
訪問看護ステーション	30 か所	57 回
施設	26 か所	38 回
かかりつけ医	18 か所	36 回
病院	4 か所	28 回
その他	3 か所	3 回
	157 か所	309 回

⑧年 3 回以上面会した連携先

連携先	種別	回数
北大阪ほうせんか病院	病院	25
高槻赤十字訪問看護ステーション	訪問看護	17
阿武山地域包括支援センター	ケアマネ	10
高槻荘居宅介護支援事業所	ケアマネ	8
アイルすまいるクリニック	かかりつけ医	7
みどりヶ丘ケアプランセンターつかはら	ケアマネ	7
エルダーケアプランセンター	ケアマネ	5
大阪医科大学訪問看護ステーション	訪問看護	5
ケアプランセンターまつゆき草	ケアマネ	5
いなだ訪問クリニック	かかりつけ医	4
茨木市地域包括支援センター天兆園	ケアマネ	4
ケアプランセンターあき	ケアマネ	4
ケアプランセンター万寿	ケアマネ	4
たちばなクリニック	かかりつけ医	4
つどいの家はむろ	ケアマネ	4
宮田診療所	かかりつけ医	4
アピスケアプランセンターあい	ケアマネ	3
茨木市農業協同組合介護支援センター	ケアマネ	3
茨木療護園	施設	3
ケアプランセンターケーアイ	ケアマネ	3
ここちりハビリ訪問ステーション高槻	訪問看護	3
清水地域包括支援センター	ケアマネ	3
スーパーコート茨木彩都	施設	3
テイク・ケア居宅介護支援事業所	ケアマネ	3
特別養護老人ホーム黄金の里	施設	3
富田地域包括支援センター	ケアマネ	3
北摂総合病院ケアプランセンター	ケアマネ	3
みどりヶ丘訪問看護ステーション	訪問看護	3

また、当院は平成 29 年度より認知症ケア加算 1 の施設基準を取得しており、医療ソーシャルワーカーも 2 名、専任として認知症ケアサポートチームに所属し、週 1 回のカンファレンスに参加した。その他、整形外科病棟のカンファレンスや心臓リハビリテーションカンファレンスにもチームの一員として参加した。

上記件数以外にがん相談支援センターの相談業務も兼務で行っているが、それについては「がん相談支援センター」の項目で活動報告を行う。

< 2020 年度の活動目標 >

新型コロナウイルス感染症感染対策を行いつつ、地域との連携も社会の情勢に鑑みて行っていく。

1. 社会資源の整備と開拓
 - 1) 社会資源（転院・入所先も含む）の新規開拓をし、患者・家族の選択肢を広げる。
 - 2) 変化し続ける制度の情報収集に努め、なるべく簡素に可視化し、関係者・患者・家族への周知に努める。
2. 地域や院外関係機関との連携を強化する。地域の会議や活動についてはリモートでの参加も考慮していく。
 - 1) 地域の社会資源（かかりつけ医・ケアマネジャー・訪問看護師・ヘルパーなど）と常に連携をはかり、患者・家族と保健・医療・福祉の橋渡しとしての機能を果たす。職能団体の活動に参加・協力する。
 - 2) 地域関係機関の活動や会議に出席し、情報収集に努める。
 - 3) 近隣の関係施設や医療機関への訪問を随時行い、連携強化をはかる。
 - 4) その他、地域の活動に参加・協力をし、連携をはかっていく。
3. 院内の連携を強化する
 - 1) 院内他部門との連携をよりいっそうはかり、役割分担を明確にしていく。
 - 2) 退院調整看護師・入院支援の看護師と協力・連携し、各病棟における退院調整計画カンファレンスを継続していく。また個別ケースについても情報共有・役割分担を行いながらチームで支援していく。
 - 3) 認知症ケアサポートチームの一員として、対象患者のアセスメントや当該病棟へのコンサルテーションを行う。
 - 4) 地域医療連携係と地域住民の前方支援・後方支援について情報共有・役割分担を行いながら協力・連携に努める。
4. 業務の整理を行う
 - 1) 記録の整備に努める。
 - 2) 業務統計の整備に努める。
5. 個人情報保護法に基づいた相談援助活動の方法を検討していく。
 - 1) 院外関係機関との情報交換
 - 2) 記録・書類の管理におけるセキュリティ

6. 教育・養成活動

- 1) 医療ソーシャルワーカー志望の実習生（社会福祉学系大学生）の受け入れ・教育・指導に努める。
- 2) 医療ソーシャルワーカーの現任研修の一環としての見学実習を受け入れる。

7. がん相談支援センター業務の一環を担う。

- 1) 緩和ケア病棟入院相談の窓口担当
- 2) がん相談支援センターの相談業務を協力して担当していく。

8. 医療ソーシャルワーカーとしての資質向上・研鑽に努める。

大阪医療ソーシャルワーカー協会などの職能団体に所属し、会員との交流を図り研修等に参加する。

【医療福祉相談係長 志水陽子】

地域医療連携課 がん相談支援センター

<スタッフ>

楠岡 京（がん看護専門看護師）2020年1月まで

藤原 和子（緩和ケア認定看護師）

志水 陽子（医療ソーシャルワーカー 社会福祉士）

信本 愛（医療ソーシャルワーカー 社会福祉士）

大島由起子（医療ソーシャルワーカー 社会福祉士）

中野 慶子（医療ソーシャルワーカー 社会福祉士）

三好 里沙（医療ソーシャルワーカー 社会福祉士）

小島 一晃（薬剤部長 がん専門薬剤師）

<特 色>

当院は大阪府指定のがん診療拠点病院に指定されている。がん相談支援センターの業務として、がんに関する一般的な情報提供、がん患者の療養上の相談、患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援などがある。当院では、がん相談の対象を院内外のがん患者・家族とし、いつでも気軽に相談できるように面談は予約なしで受けられる体制を整えている。相談内容に応じて、がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師および医療ソーシャルワーカーがそれぞれ兼務で対応し、必要時には院内外の職種とも連携している。当院は緩和ケア病棟を有するため、緩和ケアおよび緩和ケア病棟に関する相談が多く、緩和ケア病棟入院相談（緩和ケア病棟担当医が行う外来の予約を含む）については医療ソーシャルワーカーが担当している。また、三島医療圏のがん診療拠点病院で院外の患者・家族も対象としたがん患者サロンを開催しているのは当院のみであり、院外のがん患者・家族への支援の場にもなっている。

<2019年度の活動実績>

1. 相談活動

- 1) がん相談支援センターでは、ホームページ等で以下のように案内し、相談支援を行った。

・対象

がん患者・家族（他院通院中の方も可、匿名可）

- ・相談にかかる費用
無料 セカンドオピニオンについては有料
- ・受付日時
毎週 月曜日～金曜日 9時～16時
※予約不要であるが予め電話等で予約していただければ確実に対応できるとご案内している。
- ・相談員
がん相談支援センター相談員基礎研修（１）～（３）を修了しているがん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師・医療ソーシャルワーカー

２）相談総件数（2019年４月～2020年３月）：計1056件（月平均88件）

平成30年1月より厚生労働省科学研究「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」が作成した相談記入シートに合わせて相談内容や対応内容の入力項目を追加している。

[月別件数]

年月	2019年									2020年			計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
相談件数	132	109	75	77	77	76	75	86	102	84	75	88	1,056

相談内容は一つの相談で複数の内容があるが、最も比重の大きいものは上位から順に「ホスピス・緩和ケア」が345件（32%）、「介護・看護・養育」が196件（18%）、「不安・精神的苦痛」が124件（12%）であった。

対応内容としては「傾聴・語りの促進・支援的な対応」が250件（24%）、「情報提供」が244件（23%）、自施設受診の説明が239件（23%）、「助言・提案」が181件（17%）であった。相談対象者の病名は肺がんが290名（27%）で最も多く、以下、胃がんが92名（9%）、乳がん90名（9%）、膵がん87名（8%）、肝・胆がん79名（7%）、大腸がん76名（7%）、血液・リンパがん71名（7%）と続く。

相談にかかった時間は20分が一番多く（393件 37%）、次いで30分（220件 21%）、10分（151件 14%）であった。一方で、60分以上費やした件数も111件（11%）あった。

相談件数は昨年度に比べるとかなり減っているが（昨年度：1609件）、医療ソーシャルワーカーのうち2名が年度の前半、体調不良でがん相談支援センターの業務から外れていたことや、がん看護専門看護師が年度途中で退職したという事情が一因となっている。また、2020年1月以降は新型コロナウイルス感染症の影響もあって相談に来られる患者家族も減少した。さらに、院内の電子カルテが2019年4月より更新され、テンプレートより入力し、IDのある患者については統計業務が効率的にできるようになったが、院外などIDのない患者の相談記録は従来通りのエクセルデータにより別建てで入力するしかない。データ入力が抜け落ちることもあり、がん相談支援センターの活動データの処理の方法についても問題があり次年度の課題にもなっている。

2. がん患者サロン

前年度に引き続き、毎月1回、院内外のがん患者および家族を対象に「がん患者サロン」を開催した。

ミニ講座の講師にスタッフだけでなく院内の管理栄養士や臨床心理士、薬剤師にも担当を依頼することができ、参加者により幅広い情報提供を行うことができた。毎年1月2月はインフルエンザの流行等で感染予防対策のため中止とすることが多かったため、2019年度は1月2月を当初から休止としていたが、新型コロナウイルス感染症感染予防対策のため、3月も休止とした。

がん患者サロンの参加者数・ミニ講座の実施日・テーマ・講師は以下のとおりである。

[実施日・ミニ講座のテーマ・講師・参加者数]

日程	参加者数	ミニ講座のテーマ	講師
2019年 4月17日(水)	3名	がん治療中の食事の工夫	管理栄養士 廣田 真希
5月15日(水)	4名	放射線治療について	がん放射線療法看護認定看護師 角田 恵美子
6月19日(水)	4名	外見のケア	がん看護専門看護師 楠岡 京
7月17日(水)	5名	治療と仕事の両立について	医療ソーシャルワーカー 志水 陽子
8月21日(水)	8名	がんと向き合うこころのケア	外来がん治療認定薬剤師 濱武 清範
9月18日(水)	5名	薬物療法について	外来がん治療認定薬剤師 濱武 清範
10月16日(水)	3名	がんと診断されたときからの緩和ケア	緩和ケア認定看護師 藤原 和子
11月20日(水)	6名	療養場所について	緩和ケア認定看護師 藤原 和子
12月18日(水)	6名	お金と生活の支援	医療ソーシャルワーカー 志水 陽子
2020年	1月2月は当初より休止、3月は新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止		

サロン終了後に参加者にアンケートを実施し、参加者のニーズ把握と意見反映に努めている。アンケートの回収率は96.2%であった。

参加者(2019年4月～2019年12月):延べ44名(患者35名、家族9名)

院内外の内訳は院内37名(84%)、院外7名(16%)であった。月平均4.8名の参加である。

新規参加者は12名(27%)、2回以上参加のリピーターは32名(73%)であった。

対 象:がん患者とその家族(他院通院中の方も参加可)

開催日時:毎月第3水曜日 13時～15時(出入り自由、申し込み不要)

13:00～13:30 ミニ講座 13:30～15:00 フリー座談会

3. 在宅緩和ケアサロン

毎年3回程度地域の在宅療養支援スタッフ間の情報交換の場を提供し、地域での緩和ケアを継続的に発展させることを目的に、地域の在宅療養支援スタッフを対象とした「在宅緩和ケアサロン」を開催していたが、2019年度は1回開催するにとどまった開催予定日に台風で延期になったり、新型コロナウイルス感染症対策のため休止になったことが原因である。地域包括ケアシステムに関連した研修が増加しており在宅を支える医療職と介護職が集う機会も得られている中でサロンの意味も変化しつつある。新型コロナウイルス感染症の収束がなかなかつかず、中心となって運営してきた担当者の異動や退職も踏まえ、開催方法や内容など検討が必要となっている。

[開催日・テーマおよび参加者数]

会場：やすらぎホール

開催年月日	参加者数	テーマ	内容
2019年 11月30日(土)	14名	講義：がん薬物療法について 講師：諏訪亜希子がん化学療法看護 CN トピックス：ゲノム・免疫療法など 進行：藤原和子緩和ケア認定看護師	勉強会 ディスカッション

4. 患者図書コーナー

2010年9月より1階フロアに開設している。開館時間は9時～15時であり、管理は診療情報管理課が行った。がん相談支援センターからは、がんに関する研修会のチラシや患者会発行の機関誌が提供された際に配架を依頼した。こちらも2019年2月以降、新型コロナウイルス感染症感染予防対策のため閉鎖している。

5. 広報活動

- ・がん相談支援センターホームページを更新した。
- ・がん相談支援センターのリーフレットを関連部署に配架した。

< 2020年度の活動目標 >

1. がん相談支援センターの体制の充実をよりいっそうはかる

新型コロナウイルス感染症感染予防対策を行い、安心して患者・家族が利用できるよう努める。室内の換気を行い、手指消毒、マスク着用を徹底したうえで相談業務を行う。電話相談も積極的に行っていく。

- 1) 最新の情報を収集・準備し、患者・家族が活用できるようにする。
- 2) 患者サロンの継続
 - ・ミニ講座の講師について多職種（栄養士、臨床心理士、薬剤師、がん放射線療法認定看護師）の協力を得る
 - ・新型コロナウイルス感染症感染予防対策に鑑み、開催については感染予防を最優先に慎重に検討していく。
- 3) 相談対応の質の担保
 - ・国立がんセンター開催の相談支援センター相談員に関する研修会へ参加する
 - ・その他、院内外の研修会に参加する

- ・特に就労支援、がん治療と妊孕性温存、ゲノム医療、自殺予防に関する学習を深める
- ・相談困難事例などについて検討する
- 4) 府下のがん相談支援センターと情報交換・連携を図る
- ・相談支援センター部会に参加し、情報交換・連携を図る
- 5) 相談状況の可視化
- ・厚生労働省科学研究「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」が作成した相談記入シートに合わせて相談内容や対応内容の入力を確実にを行う。
- 適宜集計し、現状や課題を明確にする

2. 患者・家族および医療者に対するがん相談支援センターの周知

- ・ホームページの更新を行う
- ・院内（病棟・外来）にリーフレットを配架する
- ・年1回以上院内職員に対して周知を行い、主治医等からがん患者及びその家族に対し、周知が図られる体制を整備する
- ・地域の医療者に向けて周知を行う

【医療ソーシャルワーカー 志水 陽子】

訪問看護ステーション

<スタッフ>

看護師：原田かおる（管理者）、鈴木かおる、今村利恵、豊田典子、吉野咲絵、小森万里子
森 彩子

理学療法士：行本鉄平 事務：本間幸美

※人事変更

4月 今村・吉野 常勤嘱託→正職員 7月 豊田典子 非常勤→正職員
11月 森 非常勤新規雇用 2月 小森 常勤嘱託→パート

<特 色>

高槻赤十字病院は「大阪府がん診療拠点病院」「地域医療支援病院」であり、強いバックアップのもと緩和ケア病棟や緩和サポートチーム等と連携し、エンド・オブ・ライフ・ケアに取り組んでいる。専門看護師、認定看護師等と協働しながら、療養支援に取り組んでいる。

各種指定：[医療保険] 24時間対応体制加算、特別管理加算、ターミナルケア加算
機能強化型訪問看護管理療養費3（R2年3月）**

[介護保険] 指定訪問看護事業（H26年4月～H32年3月）
指定予防介護訪問看護事業（H30年4月～H36年3月）
緊急時訪問看護加算、特別管理加算、ターミナルケア加算、
サービス提供体制加算 **新規申請

公費負担制度：原爆医療、労災（H7 年 9 月～）

生活保護医療（H26 年 7 月～ H32 年 3 月）

難病指定医療（H27 年 1 月～ H32 年 12 月）

指定小児慢性特定疾病医療（H27 年 1 月～ H32 年 12 月）

指定自立支援医療（H27 年 8 月～）

< R 元年度の活動実績 >

1. 利用者数統計 （ ）内前年度

(1) 営業日数 242 日（前年度 243 日）

(2) 利用者実数 938 人（895 人）

	医療	介護	合計
延べ訪問件数	1,322 (1,470)	3,656 (3,513)	4,978 (4,983)
リハビリ（再掲）	296 (284)	810 (769)	1,106 (1,053)

介護保険・予防給付内訳

介護保険	予防給付	介護給付	合計
30 分未満	396 (374)	379 (352)	775 27% (26%)
60 分未満	448 (253)	1,129 (1,208)	1,577 55% (53%)
90 分未満	15 (42)	487 (21)	502 18% (20%)
合計	859 (669)	1,995 (1,577)	2,854 100%

(3) 新利用者数・終了者数

	医療	介護	合計
新利用者数	28 (22)	37 (37)	65 (64)
終了者数	22 (28)	31 (31)	53 (59)

(4) 終了者内訳

	医療	介護	合計
軽快	0 (4)	10 (10)	10 (14)
医療機関入院	1 (2)	4 (3)	5 (5)
施設等入所	2 (1)	8 (4)	10 (5)
死亡	19 (20)	9 (12)	28 (32)
その他	0 (1)	0 (2)	0 (3)

2. 24 時間体制利用

利用患者数	86 (84)
利用延べ回数	175 (127)
訪問回数	56 (63)

3. 地域との連携

(1) 連携している医師の所属先

- ・地域の開業医 29 施設 ・他病院 7 施設 ・当院医師 43 名

(2) 連携している居宅介護支援事業所

- ・36 事業所

(3) 他の病院 MSW、保健所等から 2 名 (3%)

4. 経営健全化・看護の質の向上のための業務改善

1) 利用者数の安定化（増加）への体制整備

- ・ステーション運営の整備：新規依頼の即応需、効率的な訪問スケジュール調整、業務改善推進

2) 院内・地域との連携強化

- ・当ステーションの PR：地域への営業活動、院内周知、掲示の工夫、車の洗車
- ・地域連携の促進：主治医、ケアマネジャーとの連携促進、
- ・院内連携の促進：リハビリとの連携、緩和・心不全カンファレンス参加

3) 看護・リハビリの実践力の向上

- ・スタッフ全員で実践力向上に向けて取り組む：勉強会開催 1 回 / 月、朝のミーティングでの検討
- ・自己研鑽に努める：院内外の研修参加、参加後の伝達

5. 後進の育成、訪問看護普及のための実習生等の受け入れ

- ・大阪医科大学看護学部 在宅看護実習 2 週間 3 クール 6 名
- ・大阪赤十字専門学校 在宅看護実習 2 週間 2 クール 4 名
- ・兵庫県立大学大学院 看護学研究科 老人看護 CNS コース 1 名

6. 地域との連携、対外的な活動

- ・高槻市障がい福祉課 第 2 審査部会委員 会議 9 回参加
- ・担当圏域地域包括ケア会議（阿武山地域、郡家地域）参加
- ・在宅緩和ケアサロン世話人 研修 1 回
- ・在宅の“わ”（高槻市医師会や医療・福祉の専門職による連携会議）主催 世話人
- ・大阪府看護協会府北支部 施設代表者会議参加

7. その他

- ・車両関連：ダイハツムーブ（財団寄付）1 台 故障にて廃車手続き

医療安全推進室

<スタッフ>

室長	玉田 尚 (副院長)
副室長	後藤 公男 (放射線科部長)
医療安全管理者	依藤 里香 (看護師長)
医薬品安全管理責任者	小島 一晃 (薬剤部長)
医療機器安全管理責任者	中田 祐二 (医療技術部課長)
室員	岸 恵美 (看護副部長)
	酒井 美幸 (事務副部長兼総務課長)
	迫田 博史 (総務課総務係長兼医療安全係長)
	三明 葵 (総務課主事)

<令和元年度活動実績>

【活動目標】

1. 誤認ゼロを目指す
2. チーム STEPP 推進を図る。
3. 各分野のリスクマネージャーとともに安全文化の醸成を目指す
4. ヒヤリハットレポートの増加を目指す

【活動内容】

- ・医療における安全文化に関する調査の実施
- ・医療安全研修会 11 回開催
- ・リスクマネジメント部会 8 回開催
- ・ANZEN ニュース毎月発行
- ・安全メール配信 31 回
- ・安全ラウンド 全部署 43 部署実施
- ・酸素流量計の袋ナット付きホース差し 導入
- ・神経麻酔分野 誤接続防止コネクタ 導入及び切り替え
- ・毎月時計、PHS、医療機器などの時刻合わせ活動
- ・「児童虐待マニュアル」作成
- ・「採血・静脈注射時による神経損傷時の対応マニュアル」作成
- ・防犯カメラ増設
- ・医療安全地域連携において下記の医療施設と相互評価を行った。
 - I - I 連携 済生会茨木病院
 - I - I 連携 愛仁会リハビリテーション病院
 - I - II 連携 水無瀬病院

【院内研修会】

実施日	研修名	対象	参加人数
4 月	新採用研修医研修	新入職者	32 名
4 月	World Healing Conference	医療者	48 名
6 ～ 3 月	チーム STEPPS	全職員	156 名
6 月	リスクマネジメントと 2018 ヒヤリ・ハット報告	全職員	165 名
7 月・3 月	麻薬の取扱い	医療職	129 名
8 月・3 月	採血・静脈注射時の注意点	医療職	166 名
8 月	医療ガスについて	全職員	100 名
9 月	除細動・AED の取扱い	医療職	72 名
10 月・3 月	誤認防止	全職員	305 名
11 月	輸血について	全職員	96 名
2 月	人工呼吸器の取扱い	全職員	80 名
3 月	医療放射線被ばく管理について	全職員	202 名
		延合計	1,551 名

【患者相談・意見への対応】

1. 相談対応（医療メディエーション）

・患者側からの相談 6 件 ・医療者側からの相談 4 件

2. 意見・苦情

接遇、職員の対応（説明不足、態度が悪い、不信間等） 28 件
 施設、設備（病室、トイレ、備品、駐車場等） 33 件
 環境（清掃、空調、臭気、騒音等） 4 件
 診療体制（予約方法、待ち時間、逆紹介等） 33 件
 受付体制（受付処理、会計処理、案内等） 25 件
 その他（売店、循環バス等） 10 件
 感謝、激励 4 件

【保安、その他】

1. 暴力事案 6 件 （昨年度 3 件）

発生場所：病棟 4 件、外来 2 件

被害職員：看護師 5 件、医師 1 件

2. 盗難事案 4 件 （昨年度 1 件）

発生場所：病棟 4 件

<令和 2 年度活動目標>

1. 患者誤認防止の取り組み - 誤認ゼロを目指す。
2. チームステップスの推進。
3. 5S、KYT を推進し、作業効率の改善と危険予知能力を高める。
4. グッドジョブ賞の定着により、ヒヤリハット報告の報告件数の増加を図る。

以上

教育研修推進室

<スタッフ>

玉田 尚（副院長兼教育研修推進室長）
河野 龍一（事務部長）
北 英夫（呼吸器科部長）
小島 一晃（薬剤部長）
松井 和世（副院長兼看護部長）
松原 健夫（放射線課長）
阿部 哲子（人事課 研修・厚生担当課長）
山崎 雅樹（人事課 研修厚生係長）

<異 動>

平成 31・令和元年度中の移動なし

<平成 31 年・令和元年度活動実績>

- 1、初期研修医のマッチングはフルマッチし国家試験にも全員合格した。選考者上位 5 名内でフルマッチすることができた。（受験者数 16 名）
- 2、初期研修医獲得も内科に残すことを念頭に置いた選考はしていたが、結果 1 名の専攻医しか獲得できなかった。しかし、外部から 1 名の内科専攻医の応募があったため合計 2 名となった。
- 3、研修運営委員会への研修医の参加は定着した。また、当直翌日の午後からの帰宅はある程度定着した。しかし、上級医が帰られない中での帰宅は初期研修医にとっては「心苦しいものがある。」との事で、この改革は医師の働き方改革をしないと実現はなかなか難しい。上級医の抵抗感が強いように思う。
- 4、初期研修では、大阪医大より 1 名の 2 年目研修医を 2 ヶ月間循環器科で受け入れた。
- 5、初期研修医 1 名の就業態度が悪く、11 月に急遽臨時研修管理委員会を招集し、「研修の中断」を決定した。
- 6、令和 5 年度の改定を見据えて情報収集し、初期研修体制の変革と整備を進める。

<来年度活動目標>

- 1、専攻医確保を視野に入れた「初期研修医確保」（マッチング面接）を行い、昨年同様、上位でのフルマッチを目指す。
- 2、JSEP に沿った改善目標を定め、「卒後臨床研修機能評価」を数年後には受審できる準備を整えていく。（これが監査に代わっていく可能性が高いため）
- 3、EPOC2 を導入し、新初期研修プログラムが順調に機能できるように調整、支援していく。
- 4、各種研修マニュアルを確認し、修正、作成を行なっていく。
- 5、研修管理委員会の 3 回 / 年の開催を行なう。（開催月未定）

事 務 部

<スタッフ> 平成31年4月1日付

事務部長 河野 龍一

事務副部長 酒井 美幸（兼）

課 長 職 8名

人事課長 平田俊介

総務課長 酒井 美幸（兼）

経営企画課長 片岡 幹夫

医事課長 杉山 乙矢（兼）

診療情報管理課長 杉山 乙矢（兼）

用度施設課長 萩原 大介

情報システム課長 日高 利明

診療支援課長 緒方 裕子

研修・厚生担当課長 阿部 哲子（看護師長兼）

係 長 職 13名

<組織・業務>

☐ 人事課（人事係、給与係、研修・厚生係）

職員の人事給与、労務管理、服務及び福利厚生に関すること。

初期研修医の募集、研修の運営と修了に関すること。院内外の研修全般に関すること。

☐ 総務課（管理係、総務係、医療安全係）

文書管理、構内の管理、患者搬送手配、車両管理、個人情報保護に関すること。

医療安全の事務に関すること。感染管理に関すること。

医療紛争に関すること。患者からの意見、相談に関すること。

☐ 経営企画課（経営企画係、広報係、会計係）

病院経営の企画立案、広報に関すること。

予算・決算、収入・支出に関すること。

☐ 医事課（医事係、外来係、入院係）

外来診療の受付、会計処理、入退院患者の医療費請求に関すること。

医事関連等統計に関すること。

☐ 診療情報管理課（診療情報管理係、図書係）

診療情報の管理、統計、DPCの運用、診療録の保管と閲覧に関すること。

☐ 用度施設課（用度係、管理係、施設係）

物品の購入、処分及び器械・器具の修理に関すること。

土地、建物の取得並びに処分、構内設備の管理、工事及び修繕に関すること。

☐ 情報システム課（情報システム係）

病院情報システム、電子カルテの取り扱い及び管理に関すること。

□ 診療支援課（医師事務作業補助係、図書係）【新設】

医師事務作業補助に関すること。

図書の購入、保管、閲覧および貸し出しに関すること。

<令和元年度活動状況>

1. 経営健全化に向けた取り組み
 - 1) 電子カルテ更新を実施
 - 2) 病床再編成によるダウンサイジングを実施（2病棟と4病棟を統合し8病棟レディースフロアとして再編）
 - 3) 駐車場管理を全面委託化
 - 4) 売店契約の見直し（契約店舗の変更）
2. 事務部の組織編成を行い人材の適正配置、生産性の向上を図った。
診療情報管理課から図書係と医師事務作業補助係を分離し新設の診療支援課へ移管
3. 災害被害への対応について
 - 1) 大阪北部地震；正面手術棟支柱の修繕工事完了。他、改修工事を継続中。
 - 2) 台風、停電等；エアコン室外機の修繕完了。受電設備の修繕完了。
4. 新型コロナウイルス感染症対策
 - 1) 帰国者・接触者外来の設置
 - 2) 入院患者受入のための病床確保
 - 3) 感染防護用具の確保

以上

VII 委員会活動

DPC・診療記録管理委員会

目 的

標準的な診断及び治療方法に基づいた適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう。）を行う体制を確保すること、及び、診療情報及び診療記録に関する事項を検討・討議する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和元年 12 月 26 日

- 議 題：① 医療資源病名の選択について
② 入院時併存病名・入院後発症病名について
③ 詳細不明コードについて
④ 診療記録・手術記事の記載について
⑤ その他

第 2 回

開催日：令和 2 年 1 月 7 日

- 議 題：① 複数の病態を有する患者の病名選択について
② 入院時併存病名・入院後発症病名について
③ 詳細不明コードについて
④ 病名の違いについて
⑤ 診療記録の記載について
⑥ その他

第 3 回

開催日：令和 2 年 2 月 20 日

- 議 題：① より詳細なコーディングに向けて、1 型・2 型糖尿病について
② 退院療養計画書について

第 4 回

開催日：令和 2 年 3 月 18 日

- 議 題：① 退院サマリ作成状況報告について
② 機能評価係数Ⅱ・保険診療指数（詳細不明コード）について
③ ワーキンググループの活動報告について
④ その他

HCU運営委員会

目 的

HCU 運営に関する諸問題の協議・調整を行い、HCU の効率的な運営に関し審査する。

委員会開催（令和元年 7 月 30 日、令和 2 年 2 月 26 日）

- ・ HCU 運営委員会規程の確認
 - ・ HCU 入室のフローチャートの確認
 - ・ HCU 稼働状況の共有
 - ・ 鎮痛・鎮静プロトコルについての説明
 - ・ 運営上の問題点の確認、共有
- 上記について話し合いをもった。

ICT委員会

目 的

- 院内分離菌の把握、抗菌薬使用状況の把握など院内感染防止対策の啓蒙活動。
毎週木曜日、約 60 分間の ICT ラウンド（環境）を実施。
今年度目標 ① WHO 手指衛生のガイドライン 5 つのタイミングが周知・遵守できる
② 接触感染予防策が遵守できる

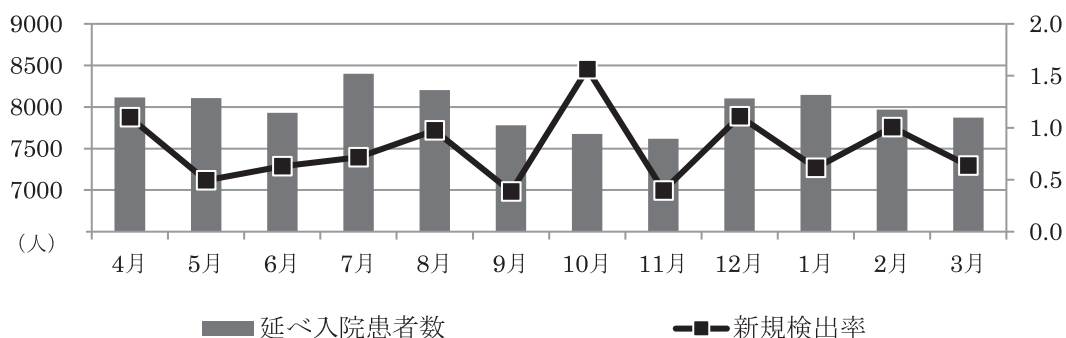
委員会開催

- 定例会議 毎月第 1 木曜日 16 時 00 分～（AST 委員会と合同開催）
議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、環境調査、抗菌薬使用状況、その他

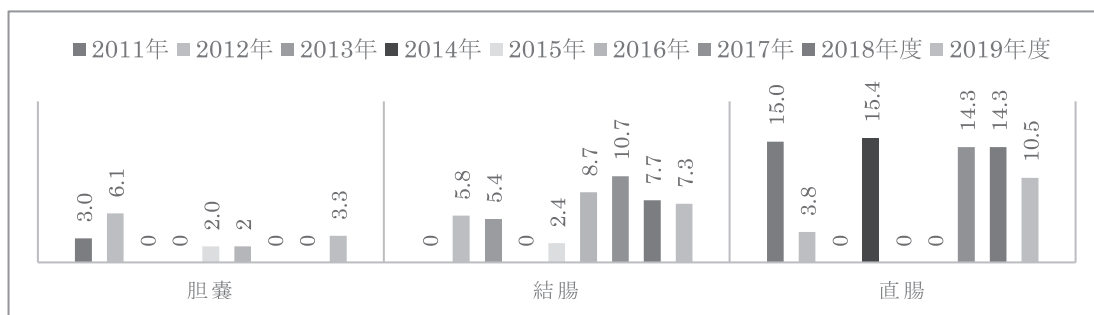
開催日	議 題
平成 31 年 4 月 4 日	・北摂四医師会感染対策ネットワーク世話人会の報告 ・2019 年度院内感染対策研修会のスケジュールについて
令和元年 5 月 9 日	・感染管理室年間計画について ・2019 ICT ラウンドについて
6 月 6 日	・N95 マスクフィットテストについて ・2019 年度院内感染対策研修会のお知らせについて ・2018/2019 シーズンインフルエンザ総括
7 月 4 日	・ウィルス感染症抗体価確認カードについて ・2019/2020 インフルエンザ対策についての検討 ・気管支鏡時の感染対策について
8 月 1 日	・麻疹疑い患者対応フローチャートについて ・保健所立ち入り検査について
9 月 5 日	・職員インフルエンザ発生について ・エボラ出血熱について ・研修会、1-1 連携・1-2 連携カンファレンス予定の確認
10 月 3 日	・インフルエンザ発生状況と対応について ・感染防止対策地域連携加算 1-1 相互評価について ・院内研修会報告
11 月 7 日	・インフルエンザ発生状況と対応について ・感染防止対策地域連携加算 1-1 相互評価について ・保健所監査について ・院内研修会について
12 月 5 日	・インフルエンザ発生状況と対策について ・来院者用の掲示物更新について ・院内研修会と参加状況について
令和 2 年 1 月 9 日	・医薬品、医薬部外品開封後の推奨使用期限（案）について ・インフルエンザ発生状況と対応について ・中国での原因不明肺炎について
2 月 6 日	・インフルエンザ発生状況と対応について ・新型コロナウイルス感染症対応について
3 月 7 日	・インフルエンザ発生状況と対応について ・新型コロナウイルス感染症対応について

◆各種サーベイランスの結果

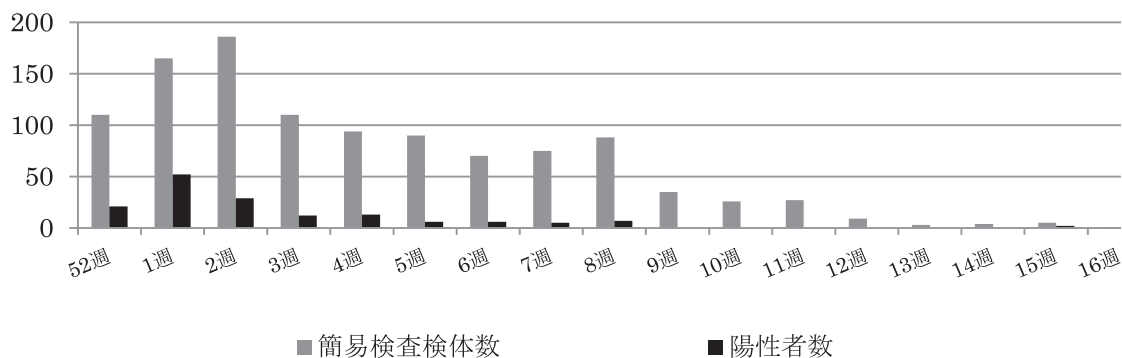
① MRSA 新規検出率（延べ入院患者数と新規検出率の推移）



② SSI（手術部位感染）年次推移
外科 (%)



③ インフルエンザ（2019年12月23日～2020年5月10日）

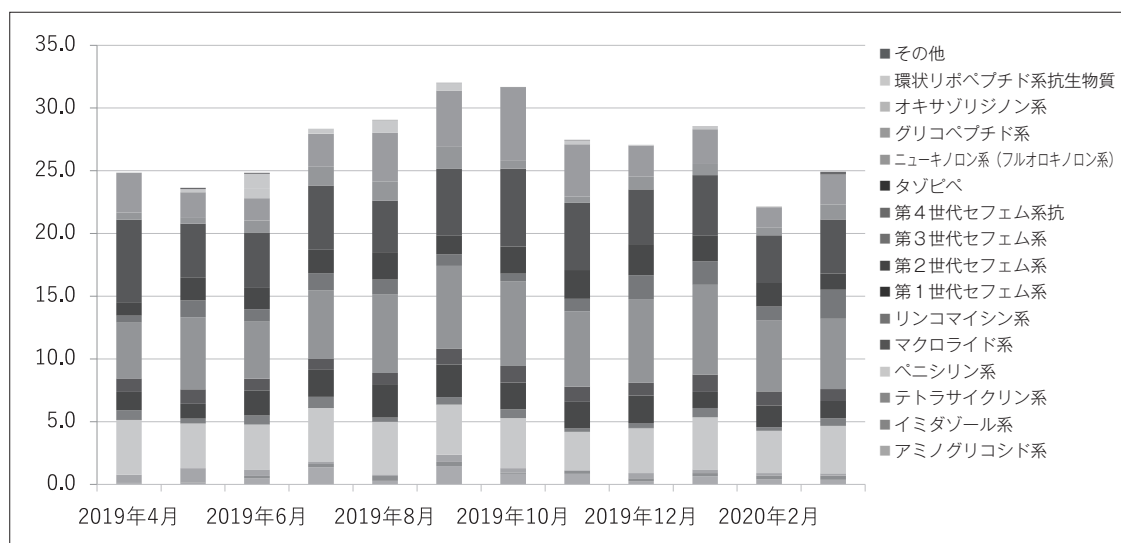


◆抗菌薬適正使用の推進結果

① 抗菌薬使用報告書提出率 (%) 平均：98%



②抗菌薬使用量月別 AUD (DDD / 1000bed-days)



◆感染対策マニュアルの更新 (内容を見直し改訂した)

- ・麻疹
 - ・職員の健康管理
- (院内感染対策マニュアルを院内 HP へ掲載)

◆院内研修会

開催日	テーマ	対象	参加人数
4月5日	新採用者研修会	新採用職員	33名
4月10日	新人看護師研修会	新人看護師	25名
7月4日、 8日～12日	誤嚥性肺炎	全職員	446名
9月19日	職業感染について	全職員	136名
9月3日～5日	N95 マスクフィットテスト	空気感染対策を要する診療に係る職員	194名
11月7日	インフルエンザ対策	全職員	246名
12月5日	抗菌薬と薬剤耐性菌最新トレンド	全職員	233名
1月30日	当院の現状とやるべき感染対策	全職員	286名
2月12日～15日	COVID-19 対策	全職員	348名

◆広報と啓蒙活動

ICT 院内ラウンド	週1回、全病棟と外来、その他の各部門 延べ49回実施
------------	----------------------------

NST 委員会

目 的

医療の質と向上のために、全ての治療の基盤である栄養管理を促進する。

委員会開催

回覧審議 令和元年 5 月 14 日

「院内新規採用栄養補助食品の給食委員会へ提案

新規採用提案 プイ・クレス CP10 ゼリー ルビーオレンジ」

→回答数 15 名中 11 名。(承認する：11 名 承認しない：0 名)

以上の結果で承認された。給食委員会へ提案する。

S P D ・診療材料購入審査委員会

目 的

新規診療材料の採用の可否・S P D 活動（不動在庫削減・診療材料の購入コスト低減・業務の効率化）の推進による病院経営の合理化を目的とする。

委員会開催

第 1 回

開催日：平成 31 年 4 月 3 日（火）15 時 00 分～15 時 15 分

議 題：① 新規材料について

② 新規定数及び定数変更について

③ サンプル品使用について

④ エム・シー・ヘルスケアから

⑤ その他

第 2 回

開催日：令和元年 6 月 4 日（火）16 時 00 分～16 時 30 分

議 題：① 新規材料について

② 新規定数及び定数変更について

③ サンプル品使用について

④ エム・シー・ヘルスケアから

⑤ その他

第 3 回

開催日：令和元年 7 月 2 日（火）16 時 00 分～16 時 30 分

議 題：① 新規材料について

② 新規定数及び定数変更について

③ サンプル品使用について

④ エム・シー・ヘルスケアから

⑤ その他

第4回

開催日：令和元年8月6日（火）16時00分～16時30分

- 議 題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ エム・シー・ヘルスケアから
④ その他

第5回

開催日：令和元年9月3日（火）16時00分～16時30分

- 議 題：① 新規材料について
② 新規定数及び定数変更について
③ サンプル品使用について
④ エム・シー・ヘルスケアから
⑤ その他

第6回

開催日：令和元年10月1日（火）16時00分～16時30分

- 議 題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ エム・シー・ヘルスケアから
④ その他

第7回

開催日：令和元年11月5日（火）16時00分～16時30分

- 議 題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ エム・シー・ヘルスケアから
④ その他

第8回

開催日：令和元年12月4日（火）16時00分～16時30分

- 議 題：① 新規材料について
② サンプル品使用について
③ エム・シー・ヘルスケアから
④ その他

第9回

開催日：令和2年1月7日（火）16時00分～16時30分

- 議 題：① 新規材料について
② 新規定数及び定数変更について
③ サンプル品使用について
④ エム・シー・ヘルスケアから
⑤ その他

第10回

開催日：令和2年2月4日（火）16時00分～16時30分

議 題：① 新規材料について

② SPD 診療材料購入審査委員会規程の改定について

③ エム・シー・ヘルスケアから

④ その他

第11回

開催日：令和2年3月3日（火）16時00分～16時30分

議 題：① 新規材料について

② サンプル品使用について

③ エム・シー・ヘルスケアから

がん診療関連機能充実委員会

目 的

「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に則して、がん診療関連機能の充実を図ることに
ついて討議する。

活動実績

2019年度は計4回開催した。委員会開催日と議題は以下のとおりである。

委員会開催

第1回

開催日：2019年6月6日（木）

議 題：1 苦痛のスクリーニングについて検討

当院の「苦痛のスクリーニング」実施件数が他の連携拠点病院と比較して少ない
ことについての解決策について検討。現時点ではスクリーニングシートの配布が化
学療法初回オリエンテーション時のみであり、病院全体として周知されていないこ
とが要因の一つ。委員会としては実施件数を増やしていくことについては必要性が
あると認識したが、実施部門についてはまだ提案の前段階であり、引き続き検討し
ていく。

2 がん患者指導管理料算定について報告

イ・ロについては特になし。ハについては資料をもとに報告あり。外科・消化器
科がほとんどであり、診療科を拡げていく必要もあるが、有資格の薬剤師が病棟配
属であるため手が回らないのも現状。マンパワーの及ぶ範囲で実施していく。

3 その他

大阪府がん診療連携協議会・二次医療圏がん診療ネットワーク協議会各部会の代
表者・事務担当者の確認を行った。

第2回

開催日：2019年10月1日（火）

議 題： 1 大阪府がん診療連携拠点病院現況報告について

例年通り大阪府より現況報告の提出要請が来ている。提出期限は10月17日。各部署に関連項目の記入・回答が振り分けられており10月4日を回答の期限として協力依頼を行った。渡部地域医療連携課長が取りまとめて大阪府に提出予定。

2 緩和ケア研修会について

今年度は10月27日（日）に開催予定で準備を進めている。参加者は医師24名の予定。

3 苦痛のスクリーニングについて

外来化学療法室や放射線科の看護師が実施することで少しずつ件数は増えている。昨年度は年間で17件であったが、今年度は10月までの7か月間で77件であった。引き続き件数を増やす検討を継続していく。

4 がん診療連携拠点病院各部署の担当表について確認

5 がん患者指導管理料算定について

イ・ロは次回まとめて報告。ハについては6月算定35件・算定外95件、7月算定40件・算定外94件、8月算定39件・算定外84件、9月算定41件・算定外84件で、算定率は30%と伸びてきている。

6 その他

- ・委員会新メンバー…橋本緩和ケア部長、花田看護副部長、諏訪がん化学療法CN
- ・がん相談支援センターより活動報告
- ・大阪府健康医療部より「令和元年度がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン」月間の周知と協力依頼あり、当院でもポスター掲示で協力することとなった。

第3回

開催日：2019年12月24日（火）

議 題： 1 がん相談支援センターより報告

- ・がん患者サロンの報告。10月16日（水）参加者3名、11月20日（水）参加者6名、12月18日（水）参加者6名
- ・在宅緩和ケアサロンを11月30日（土）に開催。参加者17名

2 がん患者指導管理料算定について

イ・ロについては別紙にてここ数年の数値を提示、ハは10月23件（算定外88件）、11月35件（算定外90件）であった。

3 各部署の報告

- ・放射線部会が10月23日（水）に開催された。内容は、がん対策センターホームページの更新、災害時の指針など。

4 その他

- ・三島医療圏がん診療ネットワーク協議会への参加について

令和2年1月30日（木）大阪医科大学にて開催予定。引き続き緩和ケア部会、がん相談支援・地域連携部会、教育・研修部会によるがん研究会が予定されている。

- ・大阪府がん診療連携拠点病院現況報告について

指定要件の A 項目はすべてクリアすることが必須要件であるが、医療安全に関する研修が未受講という点だけクリアできていない。大阪府に確認したところ来年 4 月に受講予定ということであれば OK という回答であった。

- ・がんゲノム・ACP について…勉強会の開催等を検討していく。
- ・放射線科より「転移性脊髄圧迫という疾患を知っていますか？」というポスターの作成と掲示を考案中。

第 4 回

開催日：2020 年 2 月 25 日（火）

- 議 題：
- 1 がん相談支援センターより、次年度のがん患者サロンの日程とミニ講座のスケジュール、講師について提案。計画案どおりすすめていく。
 - 2 がん患者指導管理料算定について
 - イ：12 月 3 件、1 月 1 件、2 月 21 日現在で 1 件。
 - ロ：12 月 16 件、1 月 18 件、2 月 21 日現在で 19 件。
 - ハ：12 月 35 件（指導患者数 116 名）算定率 30%、1 月 42 件（指導患者数 131 名）算定率 32%であった。
 - 3 各部会の報告
 - ・がんゲノムについて、国の動きや大阪府におけるがんゲノム医療体制等について確認した。
 - ・大阪府がん診療連携拠点病院の指定更新について必須要件 A 項目の確認を行った。
 - ・新型コロナの影響で 2 月中旬から 3 月末にかけて予定されていた各部会・研修が中止となっている。
 - 4 その他
 - ・ポスターの院内掲示について内容の確認を行い承認した。
「転移性脊髄圧迫という疾患を知っていますか？」
「がん治療を予定されている方へ（治療開始前に歯科受診をお勧め）」

がん診療連携拠点病院現況報告について

目 的

大阪府指定がん診療拠点病院として、患者に適切ながん診療を提供するためにがん診療連携拠点の体制を整備することを目的とする。

委員会開催

委員会／必要に応じて開催する。

がん診療連携拠点の開催／49 回

がん診療連携拠点病院現況報告について

目 的

がん診療連携拠点を活用し、医療の質の向上、患者満足度の向上、EBM に基づいた標準的医療の実施、資源の効果的使用を実現することを目的として、がん診療連携拠点委員会を設置する。

委員会開催

第1回

開催日：令和元年5月20日

- 議 題：① クリニカルパス委員会の意義
② クリニカルパスとは
③ クリニカルパスの問題点抽出
④ システム課から
⑤ 新規クリニカルパス申請「誤嚥性肺炎」
⑥ その他

第2回

開催日：令和元年6月25日

- 議 題：① クリニカルパス共通フォーマットについて
② Basic Outcome Master（ベーシックアウトカムマスター）導入について
③ 使用していないパスの削除について
④ その他

第3回

開催日：令和元年9月13日

- 議 題：① 施設見学（石巻赤十字病院）について
② パス移行進捗状況について
③ その他

第4回

開催日：令和元年11月12日、18日（2回に分けて開催）

- 議 題：① 石巻日赤での研修結果報告
② アウトカム志向方パス導入の目的・効果・具体的スケジュールの提案
③ その他

第5回

開催日：令和2年3月26日

- 議 題：① アウトカム志向型パスについて
1. パス作成・運用マニュアル
2. モデルパス（大腸ポリペク、乳がん手術、TKA、水晶体手術）
② その他

令和元年度クリニカルパス新規承認パス2件であった。

委員会開催（書面審議）月	No.	令和元年度新規申請パス
平成31年4月	1	オブジーボ・ヤーボイ併用療法入院導入
令和元年5月	2	誤嚥性肺炎入院
合計	2件	

ハラスメント防止委員会

開催実績

なし

業務改善委員会

委員会名：「業務改善委員会」

報告年度：令和元年度

開催回数：1回

会 期：令和2年1月28日

審議内容

1. 委員会規程の見直しについて
2. 高槻赤十字病院医師事務作業補助者業務規程の見直しについて
3. 「医療職種（医師・看護師）にかかる負担軽減の取組計画及び経年評価」について
4. 2020年度診療報酬改定の動向について

医療ガス安全管理委員会

目 的

高槻赤十字病院において使用する医療ガス（診察の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素ガス等をいう。）設備の安全を図り、患者の安全を目的とする。

委員会開催

第1回

開催日：令和元年3月16日（月）16時00分～16時30分

議 題：① 医療ガス安全管理委員会根拠など

② 令和元年度医療ガス保守点検実施報告について

③ 医療ガス安全管理委員会規程の一部変更について

④ その他

医療安全管理委員会

目 的

安全かつ適切な医療ができる体制を確立すること。

委員会開催

第1回：平成31年4月17日（水）

議 題：1. 報告事項

① インシデント・アクシデントレポート（3月）

② 平成30年度 活動まとめ

2. 検討事項

① 医療安全マニュアル「血管外漏出対応」について

② 2019年度 活動計画について

第2回：令和1年5月21日（火）

議 題：1. 報告事項

- ① インシデント・アクシデントレポート（4月）
- ② 2018年度の報告事案総括について
- ③ 2019年度リスクマネジメント部会について
- ④ 2019年度 医療安全研修会について

2. 検討事項

- ① 医療安全マニュアル「血管外漏出対応」について

3. その他

- ① チーム STEPPS 研修会について

第3回：令和1年6月18日（火）

議 題：1. 報告事項

- ① インシデント・アクシデントレポート（5月）

2. その他

- ① キャリア開発システムの概要（研修システム）について
- ② 医療法施行規則改制について

第4回：令和1年7月16日（火）

議 題：1. 報告事項

- ① インシデント・アクシデントレポート（6月）

2. 検討事項

- ① 地域連携相互評価に係る済生会茨木病院への訪問について
- ② ペースメーカー術後の突然死について

第5回：令和1年8月20日（火）

議 題：1. 報告事項

- ① インシデント・アクシデントレポート（7月）

2. 検討事項

- ① 時計合わせについて
- ② 医療安全マニュアル「児童虐待」について
- ③ 医療安全対策連携相互評価結果について

3. その他

- ① 酸素流量計の「袋ナット付ホース差し」を使用した運用方法変更について
- ② 医療安全対策連携相互評価結果について
- ③ 会議・研修予定について
- ④ チーム STEPPS 研修会の受講状況について

第6回：令和1年9月17日（火）

議 題：1. 報告事項

- ① インシデント・アクシデントレポート（8月）
- 2. その他
 - ① 院内の防犯カメラについて
 - ② 院内での録音・撮影について

第7回：令和1年10月15日（火）

議 題：1. 報告事項

- ① インシデント・アクシデントレポート（9月）
- 2. 検討事項
 - ① 他施設で発生の医療事故について
- 3. その他
 - ① 「医療における安全文化に関する調査」について
 - ② 安全ラウンドについて
 - ③ チーム STEPPS 研修会の受講状況について

第8回：令和1年11月19日（火）

議 題：1. 報告事項

- ① インシデント・アクシデントレポート（10月）
- 2. 検討事項
 - ① 結核患者が個室トイレにて CPA で発見された事例の共有について
- 3. その他
 - ① 医療安全研修会受講状況について

第9回：令和1年12月17日（火）

議 題：1. 報告事項

- ① インシデント・アクシデントレポート（11月）
- 2. 検討事項
 - ① 徐脈ペースメーカー、植込み型除細動器装着の患者への休日、夜間の緊急内視鏡止血について
 - ② 患者相談対応マニュアルの改定について

第10回：令和2年1月21日（火）

議 題：1. 報告事項

- ① インシデント・アクシデントレポート（12月）
- 2. 検討事項
 - ① 既読システム導入について
- 3. その他
 - ① 患者からのハラスメント対策について

第11回：令和2年2月18日（火）

議 題：1. 報告事項

① インシデント・アクシデントレポート（1月）

2. 検討事項

① ヒヤリハットの goodjob 表彰について

② 患者確認について

③ 個人情報の取り扱いについて

④ 2階渡り廊下通用口における時間外出入りについて

第12回：令和2年3月17日（火）

議 題：1. 報告事項

① インシデント・アクシデントレポート（2月）

2. 検討事項

① 「医師のためのルール一覧」改訂について

3. その他

① リスクマネジメント部会について

院内感染防止対策委員会

目 的

院内感染の防止対策及び予防活動に関する事案を審議する。実働部隊としてのICTから各サーベイランスの報告を受け、院内感染防止対策の監視と啓発活動を行う。

委員会開催

定例会議 毎月第4木曜日 16時30分～

議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、抗菌薬使用状況について報告と審議

開催日	議 題
平成31年 4月25日	① 北摂四医師会感染対策ネットワーク連携病院について ② 職員の免疫保有状況把握の進捗状況について
令和元年 5月23日	① 職員の免疫保有状況把握の進捗状況について ② 2019年度間瀬年管理室活動計画について ③ 血液内科病棟の環境について
6月27日	① 院内感染対策マニュアル改訂について ② エボラ熱について ③ 結核接触者調査報告
7月25日	① 体験学習・見学者受け入れ時のワクチン接種と抗体価の把握について ② 院内感染防止対策研修会、研修後レポート集計報告 ③ 真空管採血ホルダーの見直しについて ④ 保健所立ち入り検査について ⑤ 抗体価カードについて

開催日	議 題
8 月 22 日	①真空管採血ホルダーの見直しについて ②結核発生に伴う接触者調査報告 ③速乾性手指消毒剤の為の足踏み式ディスペンサーについて
9 月 26 日	① 研修生・実習生における感染症報告書の見直しについて ② 2019/2020 シーズン インフルエンザ対応について ③ デング熱に関する注意喚起 ④ 自動式手指消毒剤ディスペンサーについて
10 月 24 日	① 北摂四医師会感染対策ネットワーク 感染防止対策地域連携 加算相互評価について ② インフルエンザ対策について ③ デング熱の国内感染症例について ④ 研修生・実習生における感染症報告書について
11 月 28 日	① インフルエンザ発生状況と対策について ② 保健所立ち入り検査の報告 ③ 水痘発生と対応について ④ 相互評価について ⑤ 院内感染防止対策研修会について
12 月 26 日	① 新型インフルエンザ対応用の防護具購入について ② インフルエンザ流行状況について
令和 2 年 1 月 23 日	① 病棟における MRSA アウトブレイクについて ② 新型コロナウイルスに関連した肺炎について ③ インフルエンザ発生状況と対策について
2 月 27 日	① MRSA アウトブレイク・インフルエンザについて ② 新型コロナウイルス感染症について
3 月●日	① MRSA アウトブレイク・インフルエンザについて ② COVID-19 について ③ 1-1 相互評価について ④ 来年度ラウンド予定について

化学療法委員会

目 的

安全で効果的ながん化学療法を行うことを目的として、外来のがん化学療法に関する審議・検討を行う。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和 1 年 10 月 10 日

- 議 題：1) 外来化学療法室利用状況・インシデント等の報告
2) 仮登録されたレジメンの報告
3) 新規や変更レジメンの承認と報告
4) その他

第2回

開催日：令和2年3月12日

- 議 題：1) 外来化学療法室利用状況報告
2) 仮登録されたレジメンの報告
3) 新規や変更レジメンの承認と報告
4) 免疫チェックポイント阻害剤の経過観察時間について
5) その他

救急委員会

目 的

救急車搬送増加と、円滑な受入れ体制の強化、断診の防止対策の検討・討議を行う。

委員会開催

12回／年開催

救急委員会実績

- 月々の救急搬送件数や内容など統計データの共有や分析
- 救急診療管理加算データの共有（特に「加算1」算定への取り組み）
- 受入れ困難症例のデータ共有や分析
- 救急隊員向けの勉強会や懇親会の企画・実行

給食委員会

目 的

患者の栄養管理ならびに給食サービスの円滑な運営とその向上を図る。

委員会開催

開催日：令和元年6月13日

- 議 題：1) 嗜好調査
2) ブイクレス CP10 ゼリー ルビーオレンジ採用について
3) 濃厚流動食・栄養補助食品の新規採用および臨時採用について
4) 検食について
5) その他

開催日：令和元年12月5日

- 議 題：1) 嗜好調査結果報告
2) 給与栄養基準一覧表の改定について
3) 濃厚流動食品新規採用について
4) 給食委員会規定について
5) その他

嗜好調査実施

期 間：令和元年 7 月 22 日～ 7 月 26 日

方 法：栄養士による聞き取り

健診事業運用委員会

平成 31 年度

健診事業休止に伴い委員会開催無

研修運営委員会

目 的

「研修管理委員会」の下部委員会として、研修医師の研修内容及び関係部門並びに院外の関連施設との研修に関わる事項や運営について検討する。

委員会開催

開催日：平成 31 年 4 月 10 日（水） 17：05 ～ 17：15

議 題：① 1 年目研修医紹介

- ② 研修進捗状況
- ③ 2 年目研修レポートについて
- ④ 放射線教育訓練（研修）の受講に関して
- ⑤ 研修医の退職に関して
- ⑥ その他

開催日：令和元年 5 月 8 日（水） 16：30 ～ 16：50

議 題：① 研修進捗状況

- ② 2 年目研修レポートについて
- ③ 放射線教育訓練（研修）の受講に関して
- ④ 研修医の処方に関して
- ⑤ その他

開催日：令和元年 6 月 12 日（水） 17：05 ～ 17：17

議 題：① 研修進捗状況

- ② 研修レポートの提出状況について
- ③ 研修医の面談結果について
- ④ 評価表に関して
- ⑤ その他

開催日：令和元年 7 月 10 日（水） 17：05 ～ 17：17

議 題：① 研修進捗状況

- ② 研修レポートの提出状況について
- ③ 初期研修医の受け入れ
- ④ レジナビフェアの結果
- ⑤ その他

開催日：令和元年 9 月 11 日（水） 17：05 ～ 17：17

議 題：① 研修進捗状況

- ② 2 年目研修医のレポートの提出状況
- ③ 夏休の取得状況について
- ④ マッチングの面接結果について
- ⑤ 研修医の本社研修について
- ⑥ 2019 年度「基本的能力評価試験」について

開催日：令和元年 10 月 9 日（水） 17：05 ～ 17：25

議 題：① 研修進捗状況

- ② 2 年目研修医のレポート提出状況について
- ③ 夏休の取得状況について
- ④ 研修医本社研修について
- ⑤ その他

開催日：令和元年 11 月 14 日（木） 17：10 ～ 17：42

議 題：① 研修進捗状況

- ② 2 年目研修医のレポートの提出状況について
- ③ E 研修医に関して
- ④ その他

開催日：令和元年 12 月 11 日（水） 17：03 ～ 17：18

議 題：① 研修進捗状況

- ② 研修レポートについて
- ③ 次年度研修プログラム（案）について
- ④ その他

開催日：令和元年 2 月 12 日（水） 17：15 ～ 17：30

議 題：① 研修進捗状況

- ② 研修レポートについて
- ③ EPOC2 の導入に関して
- ④ 来年度研修プログラムについて

開催日：令和元年 3 月 11 日（水） 17：05 ～ 17：17

議 題：① 研修管理委員会の報告

- ② 1 年目研修レポートについて
- ③ EPOC2 の導入に関して
- ④ 来年度研修プログラムについて
- ⑤ その他

研修管理委員会

目 的

臨床研修指定病院として研修医師の研修内容及び関係部門並びに院外の関連施設との研修に関わる事項や運営について検討する。

委員会開催

開催日：令和元年 11 月 28 日（木）

- 議 題：① 新任研修管理委員の紹介
② 研修医の臨床研修中断について
③ その他

開催日：令和 2 年 3 月 5 日（木）

- 議 案：① 平成 30 年度採用研修医の臨床研修修了について
② 令和 2 年度 臨床研修スケジュール
③ 臨床研修費補助金の分配について
④ 令和 2 年年度採用予定研修医紹介
⑤ 研修管理委員会委員の変更について
⑥ その他

個人情報保護委員会

目 的

日本赤十字社が保有する個人情報の適正な取り扱いに関して必要な基本事項を定めることにより、個人情報の有用性に配慮しつつ、個人の権利利益を保護すること。

委員会開催

開催日：平成 31 年 4 月 16 日

- 議 題：① 電子カルテへの不正ログイン調査について

開催日：令和元年 8 月 6 日

- 議 題：① 個人情報保護法改正に伴うマニュアル改訂について
② 個人情報保護に係る院内掲示物、HP 掲載文について
③ 個人情報管理表の定期的な作成について

広報委員会

目 的

病院の広報に関することを検討する。

主に院内広報誌、院外広報誌、ホームページの掲載内容について検討する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和元年 8 月 15 日

- 議 題：① 院外誌・院内誌の掲載記事について
② ホームページの更新状況、閲覧状況の推移について
③ 今後のホームページの方向性について
④ Facebook の掲載、閲覧状況の推移について
⑤ 年報について
⑥ その他

第2回

開催日：令和元年 11 月 21 日

- 議 題：① 院外誌・院内誌の掲載記事について
② ホームページの更新状況、閲覧状況の推移について
③ Facebook の掲載、閲覧状況の推移について
④ その他

第3回

開催日：令和 2 年 3 月 5 日

- 議 題：① 2020 年度 広報物作成年度スケジュールについて
② 院外誌・院内誌の掲載記事について
③ ホームページの更新状況、閲覧状況の推移について
④ Facebook の掲載、閲覧状況の推移について
⑤ その他

購買委員会

目 的

各部署から提出された医療用機械備品・その他器械備品等（原則、購入予定価格が 160 万円以上の物品）の整備依頼調書に基づき、各部署のヒアリングを行い、購入の是非を検討する。

委員会開催

第1回

開催日：令和元年 9 月 18 日（水）15：30～17：00

議 題：新規購入及び補助金申請物品について

【新規】

- ① 超音波診断装置アプリオベリフィアの新規整備
- ② 診断書作成支援システムの新規整備
- ③ ダイオニクスパワーⅡシェーバーセットの更新
- ④ 脳波計の更新
- ⑤ 【補助金申請】患者監視装置
- ⑥ 【補助金申請】人工呼吸器
- ⑦ 【補助金申請】超音波診断装置・C アーム
- ⑧ 【補助金申請】MRI（保留）
- ⑨ 【補助金申請】CT（保留）
- ⑩ 【補助金申請】被ばく管理システム（保留）

- ⑪ 【補助金申請】 FPD（フラットパネル）
- ⑫ その他

第 2 回

開催日：令和元年 12 月 6 日（木）15：30 ～ 17：00

議 題：新規購入及び補助金申請物品について

- ① AIRVO2 の新規整備
- ② 経皮ガスモニターセンテックデジタルモニターシステムの新規整備
- ③ 経皮的心肺補助装置システムの更新
- ④ 根菜皮むき機の更新
- ⑤ 手術台 メプロ 4 の更新
- ⑥ メラサキュームの新規整備
- ⑦ 腎盂尿管ビデオスコープの追加整備
- ⑧ 乾燥機の更新
- ⑨ サーボクレーブの更新
- ⑩ 耳鼻科用デブリッターの更新
- ⑪ 耳鼻科用スコープカメラヘッドの更新
- ⑫ 麻酔器の更新
- ⑬ 人工呼吸器の更新
- ⑭ ベッドサイドモニタの更新
- ⑮ カプセルワークステーションの更新
- ⑯ 患者監視装置の更新
- ⑰ COOL-TIP RFA ジェネレーターの更新
- ⑱ デジタルスケールベッドの更新
- ⑲ 個人透析装置の更新
- ⑳ インターネット側ファイアーウォール・フロアスイッチの更新
- ㉑ 受電引込高圧ケーブルの更新工事
- ㉒ 自動染色装置の更新
- ㉓ 病理自動固定包埋装置の更新
- ㉔ 病理包埋ブロック作成装置の更新
- ㉕ 心電計（トレッドミル）の更新
- ㉖ 内視鏡処置台の更新

治験審査委員会

目 的

新規治験の実施および進行中の治験の継続について、科学面・安全面・倫理面から適正に審議することが目的。

GCP（医薬品の臨床試験の実施に関する省令）に準拠した委員会であり、構成人員・審議書類・記録方法等が詳細に規定されている。

併せて、GPPS（医薬品の製造販売後の調査および試験の実施の基準に関する省令）に準拠した製造販売後調査・副作用報告に関する審議・報告等も必要に応じ実施している。

委員会開催

第1回

開催日：平成31年4月19日

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 新規治験の実施の可否を審議
 3. 委員会審議（治験の継続を審議）
 4. 安全性情報（治験の継続を審議）
 5. 製造販売後調査の実施の可否を審議

【新規承認試験】

◇ LY3298176（GPGK）第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・生活習慣病科／糖尿病）

第2回

開催日：令和元年5月17日

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 新規治験の実施の可否を審議
 3. 委員会審議（治験の継続を審議）
 4. 安全性情報（治験の継続を審議）

【新規承認試験】

◇ NN9535-4321 第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・生活習慣病科／慢性腎臓病を有する糖尿病）

第3回

開催日：令和元年6月21日

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
 3. 安全性情報（治験の継続を審議）
 4. 製造販売後調査の実施の可否を審議

第4回

開催日：令和元年7月19日

議 題：第1回と同様

【新規承認試験】

◇ EX9924-4473 第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・生活習慣病科／糖尿病の心血管系アウトカム）

◇ LY3298176（GPGI）第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・生活習慣病科／糖尿病）

第5回

開催日：令和元年8月16日

議 題：第3回と同様

第6回

開催日：令和元年9月20日

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）

3. 安全性情報（治験の継続を審議）
4. 製造販売後調査の実施の可否を審議
5. その他（＜医薬品等の製造販売後調査経費の取り扱いについて＞の改訂）

第7回

開催日：令和元年10月11日

議 題：第3回と同様

第8回

開催日：令和元年11月15日

- 議 題：1. 迅速審査・報告
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
 3. 安全性情報（治験の継続を審議）

第9回

開催日：令和元年12月20日

議 題：第8回と同様

第10回

開催日：令和2年1月17日

- 議 題：1. 新規治験の実施の可否を審議
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
 3. 安全性情報（治験の継続を審議）

【新規承認試験】

◇ T4288-306 第Ⅲ相試験（呼吸器内科／市中肺炎）

第11回

開催日：令和2年2月21日

議 題：第3回と同様

第12回

開催日：令和2年3月27日

- 議 題：1. 新規治験の実施の可否を審議
2. 委員会審議（治験の継続を審議）
 3. 安全性情報（治験の継続を審議）
 4. その他（製造販売後調査・副作用報告 実施状況についての報告）

【新規承認試験】

◇ LY3298176（GPGN）第Ⅲ相試験（糖尿病・内分泌・代謝内科／糖尿病）

治験・製造販売後調査等の終了報告

【治験】

BAY86-5321 (19652) 第Ⅲ相試験 眼科
LY900014 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・生活習慣病科
MK-1242 第Ⅲ相試験 循環器科
PXL008-020 第Ⅲ相試験 糖尿病・内分泌・生活習慣病科
BAY1021189 (19334) 第Ⅱ相試験 循環器科

【製造販売後調査】

キイトルーダ点滴静注 呼吸器科
オプスミット錠 10mg 循環器科
トラクリア錠 62.5mg 糖尿病・内分泌・生活習慣病科
モゾビル皮下注 24mg 血液・腫瘍内科
ジメンシー配合錠 消化器科
アノーロ エリプタ 呼吸器科
ニンラーロカプセル 血液・腫瘍内科
レミッチ カプセル 2.5 μ g 消化器科
ルパフィン錠 10mg 耳鼻咽喉科
ソリリス点滴静注 300mg 血液・腫瘍内科
ルパフィン錠 10mg 皮膚科
テセントリク点滴静注 1200mg 呼吸器内科
クレナフィン爪外用液 10% 皮膚科

令和元年度の振り返り

昨年度に引き続き、委員の半数以上が、ここ数年、治験審査委員会に継続して参加していただいているので、継続的に倫理面・科学面で深い審議がされることにより、安全に円滑に被験者の方に治験を受けていただけると感じている。

幹事として、委員の方々や治験事務局員、治験コーディネーター、他のコメディカルから、力を借りながら、委員会を準備、開催し、大きな問題なく治験を進めることができた。

昨年度は、消費税増税があり、治験費用等を見直す機会が増えた。特に、最近では治験期間が3～5年という長期間の試験があり、以前の治験研究費の算出では、1～2年の治験期間に対応するものと思い、治験研究費の算出の改訂を行った。適正な治験研究費を受けることにより、さらなる治験業務の充実を目指したい。

以 上
幹事 美和 孝之

手術室運営委員会

目 的

高槻赤十字病院における手術室運営に関する諸問題の協議・調整を行い、安全かつ適切な手術が行える体制を確立する。

第 1 回	4 月 26 日（金）	1. 統計報告 平成 30 年度手術件数 2601 件（前年比 32 件減） 平成 30 年度診療報酬累計 49097845 点（前年比 57340 点減） 2. 術前診察予約について 3. 日本麻酔科学会開催のお知らせ
第 2 回	6 月 28 日（金）	1. 統計報告 2. 麻酔科面談実施状況報告 3. 防火防災・災害対策委員会からの報告 4. 麻酔科薬剤、器材変更について
第 3 回	9 月 27 日（金）	1. 統計報告 2. 尿道留置カテーテルの製品変更について報告 3. 誤接続防止対策：神経麻酔施行時のシリンジ・針等の変更
第 4 回	10 月 25 日（金）	1. 統計報告 2. インシデント報告 手術時間変更に伴う手術開始遅延 薬剤中止未指示 術前絶食者に対しての食事提供による手術時間の変更 3. 停電を伴う設備点検の実施について
第 5 回	11 月 22 日（金）	1. 統計報告 2. 術前中止薬の運用について
第 6 回	1 月 24 日（金）	1. 統計報告 2. 0.25%ボブスカイン PFS について説明 3. オートクレーブの法定点検についてのお知らせ
第 7 回	2 月 28 日（金）	1. 統計報告 2. 臨床工学義歯の手術室業務について 3. 塩酸モルヒネの定数配置についてのお知らせ 4. HCU への術後管理患者の入室促進のお願い

図書委員会

目 的

図書室の運用及びそれに関する事項について審議する。

委員会開催

第 1 回

開催日：令和元年 10 月 7 日（月）

議 題：①洋雑誌の選定について

②和雑誌の選定について

③文献検索等データベースについて

④文献取り寄せについて

⑤臨時図書購入について

⑥今年度予算外事業について

⑦その他

地域医療支援病院運営委員会

目 的

委員会は、地域における医療の確保・向上のために必要な支援に係る業務に関し、当該業務が適切に行われるために必要な事項を審議することを目的とする。

令和元年度 委員会開催

第 1 回

開催日：令和元年 6 月 19 日

第 2 回

開催日：令和元年 9 月 18 日

第 3 回

開催日：令和元年 11 月 20 日

第 4 回

開催日：令和元年 2 月 19 日

内 容

- ・紹介患者実績、紹介率・逆紹介率、救急搬入件数、セミナーなど、地域医療支援病院承認要件の報告。その後、当院の現状・活動について、今後当院との連携強化にむけて各委員（院外委員）と意見交換を実施

地域医療連携運営委員会

平成 30 年度 委員会開催

第 1 回

開催日：令和元年 4 月 25 日

議 題：令和元年度紹介率・逆紹介率報告、月次報告 など

第 2 回

開催日：令和元年 6 月 27 日

議 題：紹介率・逆紹介率報告、地域連携の会について など

認知症ケアサポート委員会

目 的

認知症ケアサポートチームは、病棟における認知症患者へのケアの実施状況を把握するとともに、専門スタッフが病棟職員、家族・家族等に助言等を行い、拘束患者の早期離脱をすすめ、認知症患者への理解を深めながら療養環境の改善を目的とします。

委員会開催

2 回／年開催（必要時に開催）

活動実績

- ・毎週火曜日にミーティング及び、各病棟のラウンドを行い状況の確認・対応方法の検討と対策を行った。
- ・認知症患者の人数を把握し、各病棟の状況等の把握し、拘束患者の介入を行い拘束からの解放を行っている。
- ・ミーティングなど認知症・せん妄の状況を把握し判定を行い、対応方法など検討を行った。

認知症ケア加算 1：5603 件（令和元年度）

AST 委員会

目 的

院内分離菌の把握、抗菌薬使用状況の把握など抗菌薬適正使用の推進。

毎週火曜日・木曜日、約 30 分間の抗菌薬ラウンド（カルテラウンド）を実施。

今年度目標 ①抗菌薬使用状況の把握

委員会開催

定例会議 毎月第 1 木曜日 16 時 00 分～（ICT 委員会と合同開催）

議 題 MRSA 検出状況、耐性菌出現状況、環境調査、抗菌薬使用状況、その他

◆院内研修会

開催日	テーマ	対象	参加人数
4月5日	新採用者研修会	新採用職員	33名
4月10日	新人看護師研修会	新人看護師	25名
7月4日、 8日～12日	誤嚥性肺炎	全職員	446名
11月7日	インフルエンザ対策	全職員	246名
12月5日	抗菌薬と薬剤耐性菌最新トレンド	全職員	233名

◆抗菌薬適正使用の推進に係る取り組み

抗菌薬ラウンド	週2回 抗菌薬長期使用患者、許可抗菌薬使用患者等のカルテラウンド
---------	----------------------------------

病床管理運営委員会

目 的

急性期医療機関として、効率的かつ円滑な病床運営について検討・提案を行う。

委員会開催

第1回

開催日：平成31年4月10日

- 議 題：① 病床稼働状況（統計報告）について
 ② 8病棟の再稼働について・個室料の設定など
 ③ 病床管理基準の制定について
 ④ その他

第2回

開催日：令和元年5月15日

- 議 題：① 病床稼働状況（統計報告）について
 ② 8病棟の再稼働後の状況速報について
 ③ 退院後入院の経過報告
 ④ 病床管理基準の制定について
 ⑤ 定床数の変更について
 ⑥ その他

第3回

開催日：令和元年6月12日

- 議 題：① 病床稼働状況（統計報告）について
 ② 8病棟の再稼働後の各病棟稼働状況について
 ③ 無菌治療室稼働状況について
 ④ 退院後入院の経過報告

⑤ 病床管理基準のせいていについて

⑥ その他

第4回

開催日：令和元年7月10日

議 題：① 病床稼働状況（統計報告）について

② 退院後入院の経過報告

③ 病床管理（ベッドコントロール）ワーキンググループについて

④ その他

第5回

開催日：令和元年8月14日

議 題：① 病床稼働状況（統計報告）について

② 退院後入院の経過報告

③ 病床管理規程（案）について

④ その他

第6回

開催日：令和元年9月11日

議 題：① 病床稼働状況（統計報告）について

② 退院後入院の経過報告

③ 重症者等療養環境特別加算（重症個室）について

④ 病床管理体制強化：病床の一元管理体制（案）について

④ その他

第7回

開催日：令和元年10月9日

議 題：① 病床稼働状況（統計報告）について

② 退院後入院の経過報告

③ その他

第8回

開催日：令和元年11月13日

議 題：① 病床稼働状況（統計報告）について

② 退院後入院の経過報告

③ その他

第9回

開催日：令和元年12月11日

議 題：① 病床稼働状況（統計報告）について

② 退院後入院の経過報告

③ その他

第10回

開催日：令和2年2月12日

議 題：① 病床稼働状況（統計報告）について

② その他

第 11 回

開催日：令和 2 年 3 月 11 日

議 題：① 病床稼働状況（統計報告）について
② その他

第 12 回

開催日：令和 2 年 4 月 8 日

議 題：① 病床稼働状況（統計報告）について
② 令和 2 年度 科別定床数（案）について
③ その他

保険委員会

目 的

診療報酬請求の査定状況報告、返戻状況・再審査請求状況の報告、医師への情報提供、医事課勉強会の報告等を行い、正確な診療報酬請求に繋げる。

委員会開催

第 1 回

開催日 令和元年 8 月 15 日

議 題 ① 本年の保険委員会開催日程について
② 審査機関による審査結果集計等報告
③ 審査機関による審査結果分析
④ 審査機関からの留意点伝達
⑤ 再審査等対応状況（面談実績、復活率報告、既済対応策等）
⑥ 保険請求に関する方針の決定
⑦ 各診療科への査定情報の公開について
⑧ その他

第 2 回

開催日 令和元年 10 月 24 日

議 題 ① 審査機関による審査結果集計等報告（近隣他病院査定率、自院査定率等）
② 審査機関による審査結果分析
③ 審査機関からの留意点伝達
④ 再審査等対応状況（面談実績、復活率報告、既済対応策等）
⑤ 保険請求に関する方針の決定
⑥ 各診療科への査定情報の公開について
⑦ その他

第 3 回

開催日 令和元年 12 月 26 日

議 題 ① 審査機関による審査結果集計等報告（近隣他病院査定率、自院査定率等）
② 審査機関による審査結果分析

- ③審査機関からの留意点伝達
- ④再審査等対応状況（面談実績、復活率報告、既済対応策等）
- ⑤保険請求に関する方針の決定
- ⑥各診療科への査定情報の公開について
- ⑦その他

放射線安全委員会

目 的

放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保する目的として、当委員会で放射線被ばく等に関する必要な事項を企画、審議する。

委員会開催

開催日：令和元年 5 月 22 日

議題：

- ①「放射線障害予防規程の承認について」
- ②「診療用放射線の安全管理に係る医療法施行規則改定について」

開催日：令和元年 6 月 19 日

議題：

- ①「放射線障害予防規程の更新について」
- ②「医療者自身の放射線防護ポスターについて」

開催日：令和 2 年 3 月 18 日

議題：

- ①「放射線教育訓練の移行について」
- ②「原子力安全技術センターによる定期検査・定期確認について」

防火防災・災害対策委員会

目 的

消防法第 8 条の規定に基づき、自衛消防組織を設置し、病院敷地内における火災を予防すると共に、火災その他の災害時における被害を軽減することを目的とする。

委員会開催

開催日：令和元年 6 月 20 日

- 議 題：① BCP 災害対策 WG 今年度の活動計画について
- ② 消防・災害訓練の計画について
 - ③ 職員の安否確認テストについて

開催日：令和元年 10 月 25 日

- 議 題：① 大型台風 19 号対策について
- ② 今年度の消防・災害訓練について
 - ③ 停電時対応マニュアルの作成について

消防・災害訓練の実施

開催日：平成 31 年 4 月 4 日

内 容：新入職員を対象とした消火・放水訓練、応急救護、避難訓練

開催日：令和元年 10 月 31 日

内 容：消防訓練、避難誘導訓練
大規模地震発生時の対応訓練

薬事委員会

目 的

医薬品や検査試薬等の採用や削除について、医師の依頼に基づいて適正に審議することが目的。
不良在庫の見直しによる採用薬品数の削減も、薬剤部の提案により本委員会で検討される。

後発品への切り替えは、DPC 導入もあり病院経営の観点からも重要である。後発品の品質・供給体制等を考慮し、薬剤部より提案のうえ本委員会にて審議している。

委員会開催

<第 1 回>

開催日 平成 31 年 4 月 5 日

- 議 題
1. 仮採用依頼品目の審議
 2. 院外採用依頼品目の審議
 3. 採用中止候補品目の審議
 4. 仮採用品目の本採用審議
 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
 6. その他の報告・審議・承認依頼事項
 7. 6 ヶ月院内処方がない品目の採用中止報告
 8. 5 ヶ月院内処方がない品目の報告
 9. 後発品切替についての審議

<第 2 回>

開催日 令和元年 5 月 10 日

- 議 題
1. 仮採用依頼品目の審議
 2. 院外採用依頼品目の審議
 3. 採用中止候補品目の審議
 4. 仮採用品目の本採用審議
 5. 特定患者用薬品の使用状況報告
 6. 6 ヶ月院内処方がない品目の採用中止報告
 7. 5 ヶ月院内処方がない品目の報告
 8. 後発品切替についての審議

<第 3 回>

開催日 令和元年 6 月 7 日

議 題 第 1 回と同様

<第4回>

開催日 令和元年7月12日

議 題 第2回と同様

<第5回>

開催日 令和元年8月2日

議 題 1－8 第2回と同様

9. 国内承認薬の適応外使用についての審議〔麻酔科〕

10. タゾピペ配合静注用4.5「明治」(バイアル製剤)の臨時購入について

<第6回>

開催日 令和元年9月6日

議 題 第2回と同様

<第7回>

開催日 令和元年10月4日

議 題 1－8 第2回と同様

9. 国内承認薬の臨床試用薬品の使用申請について

<第8回>

開催日 令和元年12月6日

議 題 1－9 第1回と同様

10. 国内承認薬の適応外使用についての審議〔消化器内科〕

<第9回>

開催日 令和元年1月10日

議 題 1－9 第1回と同様

10. 国内承認薬の適応外使用についての審議〔眼科〕

<第10回>

開催日 令和元年2月7日

議 題 第1回と同様

<第11回>

開催日 令和元年3月6日

議 題 第1回と同様

令和元年度の振り返り

令和元年10月より幹事が変わり、委員長も令和2年1月より北呼吸器内科部長となり、新体制となったが、平成30年度に引き続き委員会を原則毎月開催し、会議時間の短縮と院内のドラッグラグの解消に努めた。

新規作用機序の医薬品が続々と発売される中、各診療科の協力もあり、一増一減を原則とする

ことにより、採用品目数を増やすことなく、在庫抑制につなげることができた。しかし、予想以上に新規作用機序の医薬品が増えているので、治療の選択肢を抑えることなく、一増一減を行うことは難しくなってきた。新たに採用ルールを考え直す時期かもしれない。

後発品への切り替えは引き続き行い、使用量ベースで 85% 以上を維持することにより、後発品使用体制加算 1 の取得も維持できた。引き続き、後発品使用体制加算 1 の取得維持と、医薬品購入額の抑制に努めたい。

誤接続防止のコネクタの国内導入に伴い、このコネクタに合致する「ポプスカイン 0.25% 注シリンジ」の採用依頼の際は、医師への確認や看護師への説明等で対応することにより、スムーズに導入できた。

平成 30 年度に起こった一部メーカーのセファゾリン Na 供給停止が、他の抗生剤の供給にも影響し、令和元年度は確保することに苦渋したが、卸と随時連絡をとることにより、患者へ不利益になる状況は回避できた。現在は、抗生剤の供給は徐々に回復しており、各製薬会社から出荷制限解除の連絡が入っている。しかし、別に、さまざまな理由で、供給停止・出荷制限が行われている医薬品が数種類あり、令和 2 年度も引き続き、卸と交渉し、供給維持、代替薬への切り替え等に対応し、患者への不利益を回避したい。

輸血療法委員会

目 的

適正かつ安全な輸血療法の推進を目的とすること。

委員会開催

第 1 回

開催日：平成 31 年 4 月 3 日

議 題：① 2018 年度 輸血用血液製剤損失額報告

② アルブミン、FFP の使用について

③ 輸血副作用報告件数

④ 輸血マニュアル改訂案

⑤ 遅発性輸血副作用の報告方法

⑥ 輸血用血液製剤のインターネット発注について

第 2 回

開催日：令和 1 年 5 月 1 日

議 題：① アルブミン、FFP の使用について

② 輸血副作用報告件数

③ 新版電子カルテの輸血依頼画面における輸血歴の表示について

④ 輸血開始前と終了時の生理食塩水点滴の依頼について

第 3 回

開催日：令和 1 年 6 月 5 日

議 題：① アルブミン、FFP の使用について

② 輸血副作用報告件数

③ 輸血実施時の生理食塩水点滴の依頼について

第4回

開催日：令和1年7月3日

- 議 題：① アルブミン、FFP の使用について
② 輸血副作用報告件数
③ 「輸血依頼編集」アプリを立ち上げた際の表示期間について
④ 血液センターの輸血製剤受注ミスによる製剤納品の遅延報告

第5回

開催日：令和1年8月7日

- 議 題：① アルブミン、FFP の使用について
② 輸血副作用報告件数

第6回

開催日：令和1年9月4日

- 議 題：① アルブミン、FFP の使用について
② 輸血副作用報告件数

第7回

開催日：令和1年10月2日

- 議 題：① アルブミン、FFP の使用について
② 輸血副作用報告件数
③ 輸血製剤の廃棄報告
④ 輸血勉強会のお知らせ

第8回

開催日：令和1年11月6日

- 議 題：① アルブミン、FFP の使用について
② 輸血副作用報告件数
③ 輸血ニュース更新のお知らせ

第9回

開催日：令和1年12月4日

- 議 題：① アルブミン、FFP の使用について
② 輸血副作用報告件数

第10回

開催日：令和2年1月8日

- 議 題：① アルブミン、FFP の使用について
② 輸血副作用報告件数
③ 自己血貯血前の感染症検査について

第 11 回

開催日：令和 2 年 2 月 5 日

- 議 題：① アルブミン、FFP の使用について
② 輸血副作用報告件数
③ T & S の適用について

第 12 回

開催日：平成 31 年 3 月 4 日

- 議 題：① アルブミン、FFP の使用について
② 輸血副作用報告件数
③ 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う献血協力者の減少について

輸血勉強会の開催

第 1 回

テーマ：輸血について～輸血過誤や輸血副作用～

開催日：2019 年 11 月 18 日（月）

倫理委員会

目 的

当院で行われるヒトを対象とした医学の研究及び臨床応用についての「医の倫理」に関する事項をヘルシンキ宣言（2013 年 WMA フォルタレザ総会修正）の趣旨に添い審議することを目的とする。

委員会開催

第 1 回

開催日：平成 31 年 4 月 23 日

- 議 題：① けいれん性疾患の経過予後についての発症後全例調査（小児科）
② 症候性多発性骨髄腫に対する自家末梢血幹細胞移植後の地固め、維持療法の効果－関西骨髄腫フォーラムのデータベースを用いた後方視的解析－
③ 血小板輸血不応患者における HLA 抗体の検出と臨床的意義
（②～③以上 2 件 血液腫瘍内科）

第 2 回

開催日：令和元年 6 月 17 日

- 議 題：① 視覚障害を有する女性のブラインドメイクの必要性の検討
② テノン嚢下麻酔に起因する眼瞼下垂症に関する研究（①～②以上 2 件 眼科）
③ 肺癌症例レジストリ研究
④ 持続気道陽圧療法中の睡眠時無呼吸患者の肥満に対する遠隔モニタリングシステムを利用した減量指導（③～④以上 2 件 呼吸器内科）
⑤ 京都造血幹細胞移植グループの造血幹細胞移植データを用いた移植成績の解析（血液腫瘍内科）

第3回

開催日：令和元年 8 月 20 日

- 議 題：① 多発性骨髄腫に対する KRD 療法、KD 療法の有効性と安全性の評価：
関西ミエローマフォーラムによる後方視的研究（血液腫瘍内科）
② 胸腺上皮性腫瘍の術前画像三次元解析と予後の関連についての研究
（呼吸器外科）

第4回

開催日：令和 2 年 2 月 14 日

- 議 題：① 急性骨髄性白血病の疾患分類ごとの WT1-miRNA 値の評価および治療経過における推移の解析（血液腫瘍内科）

書類審議

実施日：令和元年 7 月 29 日

- 議 題：① 緩和ケアチームで行なうアロマセラピーマッサージの有効性（承認番号 H29-4 の部分変更）（看護部）
② 突発性肺線維症における白血球テロメア長とバイオマーカーおよび臨床指標の関連についての検討（承認番号 H28-13 の期間延長）（呼吸器内科）

実施日：令和元年 10 月 9 日

- 議 題：① 症候性多発性骨髄腫に対する自家末梢血管細胞移植後の地固め・維持療法の効果：関西骨髄腫フォーラムのデータベースを用いた後方視的解析
（H31-02 の期間延長）（血液腫瘍内科）

実施日：令和元年 10 月 24 日

- 議 題：① 抗がん剤を取り扱う看護師の職業性曝露対策の実態調査（看護部）

実施日：令和元年 12 月 10 日

- 議 題：① 当院におけるインフルエンザ入院診療及び抗インフルエンザ薬の影響
② COPD 患者における 3 成分配合吸入薬の臨床効果および吸入手技の評価
（以上 2 題 呼吸器内科）
③ 外来化学療法室の抗がん剤投与時の職業性曝露対策の認識と取り組みに関する実態
④ 慢性呼吸器疾患患者における在宅酸素療法導入後の再入院に関する検討
（以上 2 題 看護部）
⑤ 日本整形外科学会症例レジストリー（JOANR）構築に関する研究
（整形外科）
⑥ 症候性多発性骨髄腫に対する自家末梢血管細胞移植後の地固め・維持療法の効果：関西骨髄腫フォーラムのデータベースを用いた後方視的解析
（R1-12 の期間延長）（血液腫瘍内科）

実施日：令和 2 年 2 月 19 日

- 議 題：① 当院における高齢者の臍帯血移植に対する低用量 ATG の有用性についての後方視
的検討（血液腫瘍内科）
② ペースメーカー遠隔モニタリングシステムデータによる心不全診療とその関連性の
調査（医療技術部）

実施日：令和 2 年 2 月 27 日

- 議 題：① 75 才以上の高齢者における週 1 回皮下注射投与 GLP1 受容体作動薬の安全性と効
果についての後ろ向き解析（糖尿病・内分泌・生活習慣科）

臨床検査適正化委員会

目 的

臨床検査の適正なる運営を推進すること。

第 207 回

開催日 平成 31 年 4 月 9 日

1. 3 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. 外注検査の院内化について
4. 尿素窒素（BUN、UN）の表記について
5. ゴールデンウィーク中の検査対応について

第 208 回

開催日 令和元年 5 月 14 日

1. 4 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. マグネシウム院内化、FDP、AT Ⅲ検査について
4. 検査過剰による査定を受けた検査項目の対処について
5. NST 検査項目の変更について
6. その他

第 209 回

開催日 令和元年 6 月 11 日

1. 5 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. 検査結果の表示順について
4. アンチトロンビン活性（AT Ⅲ）について
5. 職員定期健康診断について
6. その他

第 210 回

開催日 令和元年 7 月 9 日

1. 6 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. 検査結果の表示順について
4. アンチトロンビン活性（AT Ⅲ）について
5. 外注検査の搬送温度管理
6. その他

第 211 回

開催日 令和元年 8 月 13 日

1. 7 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. アンチトロンビン活性（AT Ⅲ）院内化状況報告
4. 病棟再編後の病棟採血検査
5. その他

第 212 回

開催日 令和元年 9 月 10 日

1. 8 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. 尿中 Ca 基準値設定依頼について
4. 腫瘍マーカーの測定可能上限について
5. 停電による非常時依頼伝票と機器対応一覧表について
6. その他

第 213 回

日 時 令和元年 10 月 8 日

1. 9 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. 大阪府臨床検査サーベイの結果について
4. 腫瘍マーカーの測定可能上限のお知らせについて
5. SRL で使用している分析装置用消耗品不具合による検査測定値の低値化について

第 214 回

開催日 令和元年 11 月 12 日

1. 10 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. 尿沈渣の円柱出現の報告方法について
4. 過剰検査、査定対象検査に対するオーダー確認について
5. その他

第 215 回

開催日 令和元年 12 月 10 日

1. 11 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. ALP（アルカリフォスファターゼ）と LD（LDH）の測定方法変更について
4. 年末年始の検査体制について
5. その他

第 216 回

開催日 令和 2 年 1 月 14 日

1. 12 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. ALP（アルカリフォスファターゼ）と LD（LDH）の変更周知について
4. PGx 検査の運用変更について
5. その他

第 217 回

開催日 令和 2 年 2 月 18 日

1. 1 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. 血液ガス分析装置による乳酸（ラクテート）測定追加について
4. PG x 検査の運用変更について
5. HIV 検査結果の電子カルテ閲覧制限について

第 218 回

開催日 令和 2 年 3 月 10 日

1. 2 月分 院内測定項目 実績件数
2. 外注検査の新規契約について
3. 日本医師会サーベイ結果報告について
4. 新型コロナウイルスの外注検査について
5. アルカリホスファターゼ（ALP）と乳酸脱水素酵素（LD）測定法変更について
6. その他

労働安全衛生委員会

日 時 平成 31 年 4 月 15 日（月）16：00～16：30

- 議 案
1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 2. 新規採用職員の風疹麻疹抗体価対応について
 3. 今年度 6 月開催の職員健診について

日 時 令和元年 5 月 20 日（月）16：00～16：10

- 議 案
1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
 2. 6 月職員健診について

日 時 令和元年 6 月 24 日（月） 16：00 ～：16：20

議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 6 月職員健診について
3. その他

日 時 令和元年 7 月 22 日（月） 16：00 ～：16：15

議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. ストレスチェックについて

日 時 令和元年 8 月 19 日（月） 16：00 ～ 16：10

議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. ストレスチェックについて
3. 日本赤十字社の衛生管理特別指導事業所認定に伴う諸手続きについて
（当院における様々な計画の策定など）

日 時 令和元年 9 月 30 日（月） 15：30 ～ 16：20

議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. ストレスチェックについて
3. 労働安全衛生法に基づく衛生管理特別指導事業場の指定に係る安全衛生改善計画の
実施について
4. インフルエンザワクチン接種について
5. メンタルヘルス上の理由による休業者の有無、人数、休業日数、メンタルヘルス問
題にかかる事業場の実態について
6. 一般健康診断結果について

日 時 令和元年 10 月 21 日（月） 15：30 ～ 16：20

議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 労働安全衛生法に基づく衛生管理特別指導事業場の指定に係る安全衛生改善計画の
実施について
3. ストレスチェックについて
4. インフルエンザワクチン接種について
5. メンタルヘルス上の理由による休業者の有無、人数、休業日数、メンタルヘルス問
題にかかる事業場の実態について
6. 2019 年上半期年休取得状況について

日 時 令和元年 11 月 18 日（月） 16：00 ～ 16：18

議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. インフルエンザワクチン接種報告について
3. ストレスチェックについて
4. その他について

日 時 令和元年12月23日(月) 16:00～16:15

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. メンタルヘルス研修会実施報告について
3. その他について

日 時 令和2年1月20日(月) 16:00～16:12

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 冬の定期健康診断(特定業務従事者対象)について
3. その他

日 時 令和2年2月17日(月) 16:03～16:25

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. 冬の定期健康診断(特定業務従事者対象) 受診者数報告について
3. その他

日 時 令和2年3月16日(月) 16:00～16:20

- 議 案 1. 時間外勤務 45 時間超 職種別人数について
2. メンタルヘルス病欠者について
3. その他

褥瘡委員会

目 的

高槻赤十字病院において褥瘡対策を円滑に推進するため、院内褥瘡対策について討議検討し、その効果的な推進を図ることを目的とする。

委員会

褥瘡対策の実際としては毎週、褥瘡対策チームが回診を行い、ベッドサイドカンファレンスでケアの評価、及び処置を実施・指導している。褥瘡委員会の下部組織として、褥瘡リンクナース会を設置し、各病棟にリンクナースを配置して褥瘡対策に取り組んでいる。

院内発生褥瘡について NPUAP の分類で深達度Ⅱ度以上の褥瘡発生件数は 16 件で推定発生率は 0.4%、褥瘡有病率は 2.2%であった。持ち込み褥瘡は 63 件あり、深達度は NPUAP 分類でⅢ度以上の深い褥瘡が多かった。部位は仙骨部が 1 番多く、次いで踵部が多かった。

褥瘡ハイリスク患者ケア加算は 792 件算定した。

電子カルテ委員会

目 的

電子カルテシステムの運用及び更新等の推進を目的とする。

委員会開催

日 時 2019年5月10日(火) 16:00～17:00

場 所 3F 講義室

- 議 題 1. これまでの状況について
2. 周知が必要と思われる案件一覧について
3. その他案件について

患者サービス向上委員会

目 的

患者サービス向上委員会は医療や患者へのサービスの充実を図り、患者の満足度や職員のモラルを高めることを目的とします。

委員会開催

原則月 1 回、第 4 水曜日 16 時

○第 15 回患者サービス向上委員会（今年度 1 回目）

令和元年 5 月 22 日（水）

職員満足度集計実施

職員満足度調査結果報告（案）を作成

○第 16 回患者サービス向上委員会（2 回目）

令和元年 7 月 31 日（水）

職員満足度調査結果報告完成イントラにアップ

ハラスメント研修会及び接遇研修会の内容検討、日程調整等を実施

○第 17 回患者サービス向上委員会（3 回目）

令和元年 9 月 25 日（水）

ハラスメント研修会準備・運営等検討

○第 18 回患者サービス向上委員会（4 回目）

令和元年 10 月 23 日（水）

ハラスメント研修会ポスター、アンケート作成・当日役割分担実施

○第 19 回患者サービス向上委員会（5 回目）

令和元年 11 月 28 日（木）

ハラスメント研修会のアンケート結果報告

接遇研修会準備・運営等検討

○第 20 回患者サービス向上委員会（6 回目）

令和 2 年 1 月 22 日（水）

接遇研修会のアンケート結果報告

○第 21 回患者サービス向上委員会（7 回目）

令和 2 年 2 月 26 日（水）

今年度の振り返り・まとめ及び来年度の計画について

その他の活動実績

- 令和元年 9 月 4 日 地下 1 階女子トイレリニューアル
- 「職場におけるハラスメントの予防と対策」研修会
大阪府医療勤務環境改善センター 労務アドバイザー 谷口史晃先生
令和元年 10 月 25 日（金）16 時～17 時 やすらぎホール
- 令和元年 11 月 14 日 職員満足度調査報告を院内広報誌（日赤たかつき）に掲載
職員満足度調査実施期間：平成 31 年 3 月 11 日～平成 31 年 3 月 17 日
- 接遇研修会「地域の人々が誇りにする病院であるために」基本編
株式会社ニチイ学館 ブランディングアドバイザー
堂道 貴子先生 〈元全日空輸（ANA）客室乗務員〉
令和元年 12 月 17 日（火）17 時 30 分～18 時 30 分 講義室・第一会議室

血液浄化療法委員会

目 的

血液浄化療法室および病棟等で行われる血液浄化療法の運営と管理に必要な事項を審議する。

委員会開催

第 1 回

開催日 令和元年 7 月 25 日

- 議 題 ①「透析装置洗浄液による下水道管への影響と排除基準及び対策について」周知
②「個人用透析用水作成装置の生物学的汚染の発生、その他対策と対策後の現状」
報告

第 2 回

開催日 令和 2 年 3 月 26 日

- 議 題 ① 血液浄化療法委員会および、透析液安全管理委員会メンバーの変更等について
② 透析液安全管理委員会より報告
③ 透析排水基準および除害施設（中和処理装置）について
④ その他

病院新築移転構想検討委員会

目 的

当院の将来構想に基づき、病院の新築または移転について検討し構想を策定する。

委員会開催

第 1 回

開催日 令和元年 7 月 16 日

- 議 題 ① 今後の方向性について
② 新築・移転に伴う課題につて

VIII 誌上・講演発表

《誌 上》

糖尿病・内分泌・生活習慣病科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Hiroataka Watada Shizuka Kaneko, Mitsuhisa Komatsu, Bue Ross Agner, Tomoyuki Nishida, Mattis Ranthé, Jiro Nakamura	Superior HbA1c control with the fixed-ratio combination of insulin degludec and liraglutide (IDegLira) compared with ≤ 50 units insulin degludec in Japanese subjects with type 2 diabetes in a phase 3, double-blind, randomised trial	Diabetes Obes Metab. 2019 Dec;21(12):2694-2703. doi: 10.1111/dom.13859. Epub 2019 Sep 17.	2019年9月
Shizuka Kaneko Yohei Ueda, Yumiko Tahara	Glycaemic Deterioration, a Clue to Occult Cancer	American Diabetes Association's 78rd Scientific Sessions. (ADA, Jun 2019, San Francisco)	2019年6月
金子 至寿佳	新しい抗糖尿病薬で予後は変わるか『GLP-1 受容体作動薬と腎・眼疾患』	Current Therapy 2020 vol.38 No.4 p48-54、特集 糖尿病の合併症（腎・眼・心血管疾患）	2020年

総説等

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
金子 至寿佳	健康な未来のカギは「今」のあなたが握っています！	給食ニュース No.1791	2020年3月

血液内科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Kiyotaka Izumi Junya Kanda, Momoko Nishikori, Yasuyuki Arai, Takayuki Iahikawa, Satoshi Yoashioka, Yasunori Ueda, Takeshi Maeda, Akihito Yonezawa, Naoyuki Anzai, Toshinori Moriguchi, Kazunori Imada, Takashi Akasaka, Masaharu Nohgawa, Mitsuru Itoh, Akiko Aiba, Hiroko Tsunemine, Mitsumasa Watanabe, Tadakazu Kondo, Akifumi Takaori-Kondo	Outcomes of allogeneic stem cell transplantation for DLBCL: a multi-center study from the Kyoto Stem Cell Transplantation Group	Annals of Hematology 98,2815-2823(2019)	2019年11月

消化器内科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Takuya Yoshioka Akihisa Fukuda, Osamu Araki, Satoshi Ogawa, Yuta Hanyu, Yoshihide Matsumoto, Yuichi Ynmaga, Yuki Nakanishi, Kenji Kawada, Yoshiharu Sakai, Tsutomu Chiba, Hiroshi Seno	Bmil marks gastric stem cells located in the isthmus in mice	The Journal of Pathology 2019 j248:179-190	2019年6月
Takuya Yoshioka Munehiro Ikeda, Noki Kanda	Sequential infection by herpes simplex virus, Candida species, and Cytomegalovirus species in esophagus	Gastrointestinal Endoscopy 2019 j90:307-308	2019年8月

呼吸器内科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
北 英夫 深田 寛子、鳳山 絢乃、 後藤 健一、中村 保清、 菅 理晴	10 歳代に発症した若年肺癌の 1 例	肺癌 Vol59.No5 487-489 2019	2019 年
Tomoko Tajiri Shuji Fujita, Akihiko Sokai, Kenichi Gotoh, Yasukiyo, Nakamura, Hideo Kita, Akio Niimi	Effect of endoscopic sinus surgery for chronic rhinosinusitis on the state of coexisting asthma	Allergology International https://doi.org/10.1016/j.alit.2019.12.001	2019年12月

消化器外科

依頼原稿

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
平松 昌子	理想の男女共同参画を目指して「女性医師の会」についての一考	日本外科学会雑誌 120 (4) : 393-394	2019年7月

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
平松 昌子	女性医師の活躍が外科医の働き方を変える！	京都外科医報 41: 40-43	2020年1月
Jun Arima Masako Hiramatsu, Kohei Taniguchi, Toshihiro Kobayashi, Ichiro Tsunematsu, Shuji Kagota, Junna Sakane, Yusuke Suzuki, Seiichi Hirota	Multiple gastrointestinal stromal tumors caused by a novel germline KIT gene mutation (Asp820Gly): A case report and literature review	Gastric cancer 23(4):760-764	2020年3月

形成外科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
田辺 敦子 平川 結賀、引網 梨奈、 櫛田 哲史、奥野 愛香、 古川 福実	ポリコナゾール長期内服による と考えられる顔面・手部多発性 有棘細胞癌症例の治療経験	日本頭蓋顎顔面外科学会誌 第35巻第4号 117～121	2019年12月

皮膚科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Kanazawa N Hara M, Hara T, Kunimoto K, Mikita N, Furukawa F	CO2 narcosis as a notable cause of premature death in Nakajo-Nishimura syndrome	Mod Rheumatol Case Rep 2019, 3(1): 74-78, doi. org/10.1080/24725625.2018. 1524540	2019年
Kunimoto K Honda-Ozaki F, Saito M, Furukawa F, Kanazawa N	Beneficial effect of methotrexate on a child case of Nakajo-Nishimura syndrome	J Dermatol. 2019; 46: e365-e367. doi: 10.1111/1346-8138.14907.	2019年
Zhang Y Nakamura T, Furukawa F, Muragaki Y	Trps1-deficient transplanted skin gave rise to a substantial amount of hair: Trps1 is unnecessary for hair development	Dermatology Reports 2019;11(1):7853. doi: 10.4081/dr.2019.7853. eCollection 2019 Jan 23	2019年
Hirakawa Y Okuno A, Tanabe A, Okada M, Anzai N, Yamamoto Y, Furukawa F	Discontinuing voriconazole induced no completely regression of multiple cutaneous squamous cell carcinoma in a hematopoietic stem cell transplant patient	Trends Immunother 2018; 2(4): 1079. doi:10.24294/ ti.v2i4.1079 (issued in 2019)	2019年
Furukawa F	CAR-T Therapy Is a Breakthrough for Intractable Autoimmune Disease?	Trends Immunother 2019; 3 (1): doi:10.24294/ti.v3. il.1125	2019年
Kaneda K Yu A, Tanizaki H, Kurokawa T, Yamamoto Y, Furukawa F, Moriwaki S	Ghrelin attenuates imiquimod-induced psoriasiform skin inflammation in mice.	J Cutan Immunol Allergy. https://doi.org/10.1002/ cia2.12086	2019年
Okuno A Kanda Y, Nakano H, Kanazawa N, Furukawa F	Therapeutic effects of cyclosporine on Hailey-Hailey disease	Trends in Immunotherapy 2019; 3(1) doi:10.24294/ ti.v3.il.1140	2019年
Yamamoto H Takayasu T, Ishida Y, Nosaka M, Hata S, Kuninaka Y, Shimada E, Hashizume Y, Ishigami A, Ozaki M, Kawaguchi M, Kimura A, Furukawa F, Kondo T	A case of complex suicide due to acute nicotine intoxication caused by cigarette ingestion.	Int J Legal Med. 2019 Dec 14. doi: 10.1007/s00414- 019-02228-5. [Epub ahead of print]	2019年

単行本編集

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
古川 福実 佐伯 秀久	皮膚疾患最新の治療 2019-2020	南江堂、東京(全 310 ページ)	2019 年

分担執筆

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
古川 福実 佐伯 秀久編	血管炎・血管障害診療ガイドラインの検証、皮膚疾患最新の治療 2019-2020	19-23	2019 年、 南江堂、東京
古川 福実 宮地 良樹、安部 正敏	丘疹紅皮症(太藤)、ジェネラリスト必携 この皮膚疾患のこの発疹	49-50	2019 年、 医学書院、東京

総 説

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
古川 福実	丘疹-紅皮症(太藤)を総括する	マルホ皮膚科セミナー、ラジオ NIKKEI, No.259: 36-40	平成 30 年 12 月 20 日放送

和 文

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
濱本 千晶 古川 福実、神人 正寿、 有本 けい子、石井 文人、 橋本 隆、鶴田 大輔、 金澤 伸雄	線状皮膚炎様臨床像を呈し顆粒状C3皮膚症と診断した表皮下水疱症の1例	日本皮膚科学会雑誌 129: 537-542	2019 年
川上 民裕 有村 義宏、池田 高治、 石黒 直子、石津 明洋、 伊藤 吹夕、猪原 登志子、 沖山 奈緒子、小野 さち子、 鈴木 和男、菅原 弘二、 清島 真理子、小寺 雅也、 田中 麻衣子、長谷川 稔、 古川 福実、山口 由衣、 吉崎 歩	皮膚動脈炎(皮膚型結節性多発動脈炎)の全国アンケート調査結果	日本皮膚科学会雑誌 129:1901-1907	2019 年

雑報 挨拶など

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
古川 福実	平成29年度(2017年4月から2018年3月)病院年報出版にあたり	高槻赤十字病院 平成 29 年度病院年報	2019 年
古川 福実	阿武山便り 2	Annual Report 2018 MOKKO (浜松医科大学皮膚科同門会誌)、 12-14	2019 年
古川 福実	美容皮膚科とりウマチ・膠原病センター	和歌山県立医科大学みらい医療 推進センター 10 周年記念誌	2019 年
古川 福実	ゆとり世代とどう向き合うか	大阪府病院協会 2019 年 4 月 号論説、14-15	2019 年

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
関東 裕美 古川 福実、山本 有紀、 鷺崎 久美子、村上 義孝、 野村 征司	エステティックサービスにおける健康被害の実態把握及び原因の研究	厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業「エステティックの施術の安全対策及び衛生管理手法の構築のための研究」平成 30 年度分担研究報告書、17-23	2019 年
古川 福実	紀州詣で	院長連盟通信 68 (599 号)：68-71	2019 年
古川 福実	私とリウマチ学	分子リウマチ治療 12:168-171	2019 年
キャリア支援委員会 岸部 麻里、伊藤 明子、 飯塚 一、指宿 敦子、 多田 弥生、古川 福実、 市原 麻子、高山 かおる、 峠岡 理沙、東 裕子、 松村 由美、青山 裕美、 秀 道広	第117回日本皮膚科学会総会 キャリア支援委員会企画教育講演 このひとのキャリアを聞きたい！「時空を超えてつなぐボタン」	日本皮膚科学会キャリア支援委員会 News Letter 2019, 51-61	
古川 福実	大阪府病院協会 リレーエッセー 私の神（仏）頼みルーチンシリーズ	大阪府病院協会ニュース 2019 10 月号 16-17	2019 年
古川 福実	2018年今年の漢字は、災でした	和歌山県皮膚科医会会誌 12: 8-11	2019 年
古川 福実	忘れつつあるので2011.3.11のことを記録にとどめておきます	和歌山県皮膚科医会会誌 12: 12-17	2019 年

泌尿器科

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
Kenta Takayasu Kenji Yoshida, Takao Mishima, Masato Watanabe, Tadashi Matuda, Hidefumi Kinosjita	Upper body position analysis of different experience level surgeons during Laparoscopic suturing maneuvers using optical motion capture	Am J Surg.2019Jan;217(1):12-16	2019 年 1 月
Takao Mishima Kenji Yoshida, Kenta Takayasu, Masato Watanabe, Hidefumi Kinoshita, Tadashi Matsuda	Analysis of Gripping Force on a Master Controller During Simulated Robotic Surgery	Journal of Endourology,33(10):802-808	2019 年 10 月

薬剤部

総 説

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
小島 一晃	自施設が被災したら・・・ アクションカード作成のすゝめ	薬事新報 第 3100 号,584-584	2019 年

看護部

原 著

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
工藤 ゆかり 深堀 浩樹、酒井 郁子、 戸村 ひかり、山川 みやえ (編)、他 42 名	一般病棟で行う認知症の人の退 院支援	日本看護協会出版会、 P42-49,P52-53	2019 年 11 月

訪問看護ステーション

著 者

著 者	題 名	誌名・巻(号)：頁	発 行
原田 かおる	地域で行う認知書と共に生きる 人への意思決定支援 しくみづ くりと病院の役割 急性期病院 の管理者の実践 地域との連携 体制構築	看護展望, 44 (7), 38-44.	2019 年 11 月
原田 かおる、工藤 ゆかり 深堀 浩樹、酒井 郁子、 戸村 ひかり、山川 みかえ	Q18 認知症の人の退院支援には どのような情報が必要ですか？ Q19 認知症の人の話だけで状況 が把握できない場合どのように 情報を得ればよいですか？ Q20 病院内外の多職種で認知症 の人の情報を収集するために病 院にどのような仕組みをつくれ ばよいですか？ Q22 認知症が疑われるものの診 断は受けていない人に早期から 退院支援を行うにはどうすれば よいですか？	認知症 Plus 退院支援 一般病棟ナースのための Q&A Q18 42-45 Q19 46-47 Q20 48-49 Q22 52-53	2019 年 11 月
原田 かおる	高齢者のせん妄を防ぐ！ 高齢 者が安心できる療養環境の調整 4 家族や来院者への説明	看護技術, 66 (1), 42-46.	2020 年 1 月

《講 演》

糖尿病・内分泌・生活習慣病科

学会発表

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
本橋 和也 植田 洋平、大杉 友顕、 田原 裕美子、金子 至寿佳	高齢者2型糖尿病および腎機能低下症例におけるDulag Intideの安全性と効果の検討	第92回日本内分泌学会 学術総会	宮城県	2019年 5月11日
江田 哲信 植田 洋平、大杉 友顕、 田原 裕美子、金子 至寿佳	ERAS プロトコルにおける Liraglutide による周術期血 糖管理の有用性に対する無作 為割り付け前向き試験による 検討	第92回日本内分泌学会 学術総会	宮城県	2019年 5月11日
金子 至寿佳	意識障害を伴う重症低血糖を きたした非糖尿病高齢者の 2例	第30回日本老年医学会 近畿地方会及び教育企画	京都	2019年 11月
佐田 昭匡 本橋 和也、徳本 信介、 田原 裕美子、金子 至寿佳	1型糖尿病の意識障害により 硬膜動静脈瘻が見つかった 一例	内科近畿地方会	大阪	2019年 12月21日
金子 至寿佳	メトホルミンの有効性と安全 性、インクレチン薬との併用 意義と適正使用をDr to Drで ご紹介いただく	DiaMond Seminar in 明石	兵庫	2020年 1月
衣斐 菜々 本橋 和也、徳本 信介、 大杉 友顕、田原 裕美子、 金子 至寿佳	初診時から長期観察診断に 至った新規インスリン異常症	第14回糖尿病臨床フォーラム	大阪国際 会議場	2020年 2月5日
金子 至寿佳	東三河地域の医療従事者に糖 尿病薬物治療の適正使用を情 報提供する	Diabetes & Incretin Seminar in 豊橋	愛知	2020年 2月
金子 至寿佳	人生100年時代に求める学校 での健康教育	読売健康講座	大阪	2020年 2月

講 師

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	糖尿病治療に関する講演	京都府北部糖尿病治療 戦略セミナー	京都	2019 年 4 月
金子 至寿佳	sGLT2 阻害薬について	糖尿病領域 社員教育企画	大阪	2019 年 5 月
金子 至寿佳	幼少期からの生活習慣病予防 について	平成31年度（2019年度） 兵庫県学校栄養士協議会 総会及び研修会における講演	兵庫	2019 年 6 月
金子 至寿佳	子どもの生活習慣病予防につ いて	子どもの生活習慣病予防 講演会	兵庫	2019 年 7 月
金子 至寿佳	糖尿病患者さんに自分の主治 医になっていただくために	Web Advanced Diabetes Seminar	大阪	2019 年 7 月

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	糖尿病治療の近未来“さらなる GLP-1RAg の発展”	阿南学術講演会	徳島	2019 年 7 月
金子 至寿佳	糖尿病治療の近未来“さらなる GLP-1RAg の発展”	GLP-1 Analog Expert Meeting	千葉	2019 年 7 月
金子 至寿佳	糖尿病治療の近未来“さらなる GLP-1RAg の発展”	Diabetes Scientific Update Meeting in Himeji	兵庫	2019 年 8 月
金子 至寿佳	Patinet Friendly Basal Bolus 更に患者さんに寄り添う～	第 9 回 Kitakawachi Diabetes Forum	大阪	2019 年 8 月
金子 至寿佳	糖尿病治療に関わる知識向上	第 8 回筆ヶ崎セミナー	大阪	2019 年 10 月
金子 至寿佳	学校の修業で教えてほしい生活習慣病	令和元年度 第 2 回奈良県学校保健会研修会	奈良	2019 年 10 月
金子 至寿佳	糖尿病の最新情報の提供	GLP1-RA Expert Meeting 2019 in Osaka	大阪	2019 年 10 月
金子 至寿佳	インスリン /GLP-1 製剤に関する講演	Changing Diabetes in Fukui	福井	2019 年 10 月
金子 至寿佳	医療現場から皆さんに伝えたいこと ～自分と大切な人を守るために～	食育出前授業	大阪	2019 年 10 月
金子 至寿佳	医療現場から皆さんに伝えたいこと ～自分と大切な人を守るために～	食育出前授業	大阪	2019 年 10 月
金子 至寿佳	糖尿病治療の近未来～基礎から未来への治療の展望～	第 6 回結果にコミットしたチーム医療	大阪	2019 年 11 月
金子 至寿佳	週 1 回 GLP-1RAg 受容体作動薬の使い方～クリニカルイナシーヤにならないために～	Diabetes & Incretin Seminar in 北勢	三重	2019 年 11 月
金子 至寿佳	医療現場から皆さんに伝えたいこと ～自分と大切な人を守るために～	食育出前授業	大阪	2019 年 11 月
金子 至寿佳	インスリン /GLP-1 製剤に関する講演	Changing Diabetes in Shiga	滋賀	2019 年 11 月
金子 至寿佳	Patient Friendly Basal-Bolus ～さらに患者さんに寄り添う～	DM CIRCLE in 宇治	京都	2019 年 11 月
金子 至寿佳	糖尿病の最新情報の提供	Women's Diabetes Conference	兵庫県	2019 年 11 月
金子 至寿佳	医療現場から皆さんに伝えたいこと ～自分と大切な人を守るために～	食育出前授業	大阪	2019 年 11 月
金子 至寿佳	高齢者糖尿病療養指導における療養支援の共有	近畿糖尿病教育フォーラム 第 10 回講演会	京都	2019 年 12 月

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	Patient Friendly Basal-Bolus ～さらに患者さんに寄り添う～	Changing Diabetes Forum in Osaka	大阪	2019 年 12 月
金子 至寿佳	医療現場から皆さんに伝えたいこと ～自分と大切な人を守るために～	食育出前授業	大阪	2019 年 12 月
金子 至寿佳	医療現場から皆さんに伝えたいこと ～自分と大切な人を守るために～	食育出前授業	大阪	2020 年 1 月
金子 至寿佳	医師と一緒にすすめる保健教育について	福島区学校保健協議会 学習会	大阪	2020 年 2 月
金子 至寿佳	糖尿病診療におけるポイント紹介し、日常診療に活かす	糖尿病 WEB セミナー ～地域連携を考える～	大阪	2020 年 3 月
金子 至寿佳	糖尿病教育～子どものころに身に着けたい健康教育～		京都	2020 年 4 月
金子 至寿佳	糖尿病治療の医療連携	Diabetes WEB 講演会	大阪	2020 年 4 月

座 長（一般演題・オープニングリマークス）

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	糖尿病の最新情報の提供	Expert Meeting 2019 in Osaka	大阪	2019 年 4 月
金子 至寿佳 Sorli Christopher, Harris Stewart, Jodar Esteban, Lingvay Ildiko, Chandarana Keval, Langer Jakob, Jaeckel Elmar	IDegLiraはSU薬、GLP-1RAまたは、IGlarでコントロール不良の2型糖尿病患者においてベースライン時HbA1cにかかわらず有効性を示す	第 62 回日本糖尿病学会 年次学術集会	宮城	2019 年 5 月
金子 至寿佳	Diabetes special seminar ～ focus the kidney ～	糖尿病性腎症研究会	大阪	2019 年 7 月
金子 至寿佳	座長:1型糖尿病	第 56 回日本糖尿病学会 近畿地方会 第 55 回日本糖尿病協会近畿地方会	大阪	2019 年 11 月
金子 至寿佳	糖尿病性腎臓病の治療戦略	STOP-DKD ミーティング	大阪	2020 年 1 月
金子 至寿佳	糖尿病周辺知識向上	第14回糖尿病臨床フォーラム	大阪	2020 年 2 月

アドバイザー

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	IDegLiraの適正使用についてディスカッション及びアドバイス	DUAL Japan Advisory Board	東京	2019 年 4 月

勉強会・講師

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	新治験に関する勉強会「慢性腎臓病を有する2型糖尿病患者を対象としたセマグルチド1.0mgの効果」	NN9535-4321 Investigator meeting	東京	2019 年 6 月
金子 至寿佳	心血管系アウトカムに対する効果及び安全性を検討する試験へのアドバイザー	EX9536-4388 Local Investigator Meeting	東京	2019 年 9 月

動画監修と出演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
金子 至寿佳	ゾルトファイ [®] 配合注 動画コンテンツ作成における内容の監修および動画出演	ゾルトファイ [®] 配合注 動画内容の監修および出演	大阪	2019 年 9 月

緩和ケア科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
山畑 ルミ 山畑 ルミ、松山 寛子、 亀井 由美、西川 亜紀子、 西浦 美香、金村 誠哲、 橋本 典夫	高槻赤十字病院緩和ケア病棟における遺族会 「ふたばの会」 16 年のあゆみ	第 24 回日本緩和医療学会	横浜市	2019 年 6 月 21 日
橋本 典夫	全人的苦痛に関する緩和ケア	高槻病院緩和ケア研修会	高槻市	2019 年 9 月 15 日
橋本 典夫	緩和ケア研修会の開催にあたって	高槻赤十字病院緩和ケア研修会	高槻市	2019 年 10 月 27 日
金村 誠哲	全人的苦痛に対する緩和ケア	高槻赤十字病院緩和ケア研修会	高槻市	2019 年 10 月 27 日

血液内科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
坂本 宗一郎 恩田 佳幸、岡田 睦実、 馬止 裕、田嶋 政郎、 安齋 尚之	胸腔穿刺および心嚢穿刺で診断した原発性滲出性リンパ腫類似リンパ腫の 1 例	第 111 回近畿血液地方会	大阪	2019 年 6 月 29 日
岡田 睦実 坂本 宗一郎、安齋 尚之、 馬止 裕、田嶋 政郎	高齢者 Ph 陽性 B-ALL の臍帯血移植後の髄外再発に対して blinatumomab で加療後、2 度目の臍帯血移植を施行できた 1 例	第 14 回 Meet the Hemaokogists	京都	2019 年 7 月 20 日
岡田 睦実 奥野 愛香、恩田 佳幸、 坂本 宗一郎、安齋 尚之、 馬止 裕、古川 福美、 田嶋 政郎	臍帯血移植後のステロイド抵抗性紅皮症に対し免疫グロブリン大量療法が奏効した 1 例	第 81 回日本血液学会術集会	東京	2019 年 10 月 11 日

消化器内科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
池田 宗弘	当院における UC 難治例に対する治療	三島 UC 治験研究会	大阪	2019 年 9 月 21 日
奥野 岳 松村 大志郎、神田 直樹、 吉岡 拓人、吉見 宏平、 池田 宗弘、濱田 達雄、 中森 翔平、矢倉 伊織、 玉田 尚	ニボルマブ投与後の科学療法 が奏功した進行胃癌の 1 例	第 226 回日本内科学会 近畿地方会	大阪	2019 年 12 月 21 日
松村 大志郎	ニボルマブ投与後に同系統薬 剤の再投与で奏功が得られた 胃がんの一例	第 27 回 O.K. 勉強会	大阪	2018 年 11 月 28 日
矢倉 伊織 神田 直樹、吉岡 拓人、 吉見 宏平、池田 宗弘、 濱田 達雄、松村 大志郎、 中森 翔平、矢倉 伊織、 玉田 尚	Paget 現象を伴った肛門粘膜 内腺癌の 1 例	日本消化器病学会近畿支部 第 112 回例会	京都予定 →すべて 誌上発表 に	2020 年 2 月 29 日
松村 大志郎 神田 直樹、池田 宗弘、 奥野 岳	免疫チェックポイント阻害剤 投与後に Haperprogressive disease を来したが、後治療 化学療法で奏効が得られた進 行胃癌の 2 例	日本消化器病学会近畿支部 第 112 回例会	京都	2020 年 2 月 29 日

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
吉岡 拓人 池田 宗弘、濱田 達雄、 神田 直樹	当院における胆管挿管困難例 への膵管ガイドワイヤー補充 下膵管口切開によるプレカッ トの現状	日本消化器病学会近畿支部 第 112 回例会	京都予定 →すべて 誌上発表 に	2020 年 2 月 29 日

呼吸器外科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
菅 理晴 康 あんよん、千葉 渉	部分静脈瘤還流異常を合併し た右上葉肺癌の 1 手術例	第 81 回日本臨床外科学会 総会	高知	2019 年 11 月 14 日 15 日 16 日
康 あんよん	当院で経験した BRAF 陽性 肺癌の 1 例	肺癌セミナー in Umeda	大阪	2019 年 11 月 28 日

呼吸器内科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
鳳山 絢乃 野溝 岳、長谷川 浩一、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清、北 英夫	当院で経験した播種性非結核 性抗酸菌症の 2 例	第 94 回呼吸器学会 第 124 日本呼吸器学会 近畿地方会	大阪	2019 年 11 月 23 日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
野溝 岳 鳳山 絢乃、長谷川 浩一、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清、康 あんよん、 菅 理晴、北 英夫	Crizotinib による薬剤性食道 炎をきたした ROS1 融合遺伝 子陽性肺癌の 1 例	第 94 回呼吸器学会 第 124 日本呼吸器学会 近畿地方会	大阪	2019 年 11 月 23 日
鳳山 絢乃 野溝 岳、長谷川 浩一、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清、北 英夫	COPD に対する新規トリプル 製剤の使用経験	グランビア大阪、 アストラゼネカ	大阪	2019 年 12 月 4 日
野溝 岳 鳳山 絢乃、長谷川 浩一、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清、康 あんよん、 菅 理晴、北 英夫	非小細胞肺癌術後再発症例の 治療で免疫チェックポイント 阻害薬単剤を用いた 17 症例 の検討	第 60 回日本肺がん学会総会	大阪国際 会議場	2019 年 12 月 6 日
衣斐 菜々 長谷川 浩一、鳳山 絢乃、 野溝 岳、後藤 健一、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	エンテロバクター感染を併発 した両側膿性胸水の一例	第 226 回内科学会 近畿地方会	大阪	2019 年 12 月 21 日

ポスターセッション

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
祖開 曉彦 北 英夫、鳳山 絢乃、 長谷川 浩一、後藤 健一、 深田 寛子、中村 保清	当院における特発性肺線維症 に対する抗繊維化薬使用症例 の検討	第 59 回日本呼吸器学会総会	東京国際 フォーラム	2019 年 4 月 12 日
砂留 広伸 松本 久子、東田 有智、 堀口 高彦、北 英夫、 富井 啓介、藤村 政樹、 岩永 賢司、保澤 総一郎、 新実 彰男、金光 禎寛、 長崎 忠雄、森本 千絵、 小熊 毅、田尻 智子、 伊藤 功朗、小野 純也、 太田 昭一郎、出原 賢治、 平井 豊博	喘息患者における、将来的 Omalizumab 導入予測因子 としてのペリオスチンの有用性 の検討	第 59 回日本呼吸器学会総会	東京国際 フォーラム	2019 年 4 月 12 日
田尻 智子 藤田 修治、鳳山 絢乃、 長谷川 浩一、後藤 健一、 深田 寛子、中村 保清、 北 英夫	喘息合併慢性副鼻腔炎に対す る内視鏡下鼻副鼻腔手術が喘 息コントロールに与える影響	第 68 回日本アレルギー学会 総会	東京国際 フォーラム	2019 年 6 月 14 日
田尻 智子 池上 達也、池田 浩己、 藤田 修治、北 英夫、 杉田 孝和	成人重症好酸球性喘息におけ る mepolizumab の有用性に 関する検討	第 68 回日本アレルギー学会 総会	東京国際 フォーラム	2019 年 6 月 14 日
北 英夫 今戸 美奈子、鳳山 絢乃、 長谷川 浩一、野溝 岳、 後藤 健一、深田 寛子、 中村 保清	大阪北部地震時の在宅酸素 療法患者の行動と災害対応の 認識	第 93 回日本呼吸器学会 第 123 回日本呼吸器学会 近畿地方会	京都	2019 年 7 月 6 日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
後藤 健一 鳳山 絢乃、長谷川 浩一、 野溝 岳、深田 寛子、 中村 保清、康 あんよん、 菅 理晴、千葉 渉、北 英夫	当院におけるインフルエンザ 診療及び、抗インフルエンザ 薬の効果	第 93 回日本呼吸器学会 第 123 回日本呼吸器学会 近畿地方会	京都	2019 年 7 月 6 日
砂留 広伸 松本 久子、東田 有智、 堀口 高彦、北 英夫、 富井 啓介、藤村 政樹、 岩永 賢司、保澤 総一郎、 新実 彰男、金光 禎寛、 長崎 忠雄、森本 千絵、 小熊 毅、田尻 智子、 伊藤 功朗、小野 純也、 太田 昭一郎、出原 賢治、 平井 豊博	気道炎症、バイオマーカー、 喘息患者における将来的 Omalizumab 導入予測因子 としてのペリオスチンの有用性 の検討	第 93 回日本呼吸器学会 第 123 回日本呼吸器学会 近畿地方会	京都	2019 年 7 月 6 日
濱武 清範 小西 寛子、酒井 ちひろ、 野間 敏也、宮西 将之、 橋本 浩明、菅 理晴、北 英夫	Minor mutation における EGFR チロシンキナーゼ阻害 剤の有効性と安全性	第 55 回日本赤十字社医学会 総会	広島	2019 年 10 月 17 日
小島 一晃 濱武 清範、小西 史子、 酒井 ちひろ、野間 敏也、 足立 那々緒、後藤 仁美、 宮西 将之、橋本 浩明、 松本 弘誠、中西 輝、仲 忠士、 美和 孝之、菅 理晴、北 英夫	免疫チェックポイント阻害剤 における集約的クリニカルバ ス運用と薬剤師外来の有用性	第 57 回日本癌治療学会学術 集会	福岡	2019 年 10 月 25 日
今戸 美奈子 北 英夫、西川 昭子	大阪北部地震後の在宅酸素 療法患者における災害時の行 動予測と備え	第 29 回呼吸ケア・ リハビリテーション学会総会	名古屋	2019 年 11 月 12 日

消化器外科

一般演題（ポスター・口演）

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
鈴木 悠介 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、河野 恵美子、 有馬 純、坂根 純奈、 今井 義朗	後期研修医の立場からみた、 当院での STEP (single- incisional totally extraperitoneal repair) 手技の有用性	第 17 回日本ヘルニア学会	四日市市	2019 年 5 月 24 日
鈴木 悠介 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、河野 恵美子、 有馬 純、坂根 純奈	食道切除後再建胃管の難治 性通過障害をきたし、治療に 難渋した 1 例	第 73 回日本食道学会	福岡市	2019 年 6 月 6 日
河合 英 李 相雄、田代 圭太郎、 今井 義朗、田中 亮、 平松 昌子、内山 和久	食道癌手術における長期予後 にかかわる因子の検討	第 73 回日本食道学会	福岡市	2019 年 6 月 6 日
有馬 純 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、坂根 純奈、 鈴木 悠介	Exon 9, 11 以外の mutation を示した多発性 GIST 症例の経験	第 5 回北摂外科治療研究会	大阪市	2019 年 7 月 27 日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
駕田 修史	今、君に伝えたい外科医の話	第 12 回きみが外科医になる 日セミナー	大阪市	2019 年 10 月 19 日
駕田 修史 谷口 高平、鈴木 悠介、 坂根 純奈、有馬 純、 恒松 一郎、小林 捻弘、 猪俣 陽介、倉永 祐希、 伊藤 裕子、李 相雄、 平松 昌子、赤尾 幸博、 内山 和久	胃液由来分泌膜小胞の抽出と 機能解析	第 57 回日本癌治療学会	福岡市	2019 年 10 月 24 日

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	Diversity 時代を迎えて、 医師の働き方はどう変わる？ どう変える？	第 112 回日本消化器病学会 四国支部例会	高知市	2019 年 11 月 2 日

基調講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	きみが外科医になる日	第 12 回きみが外科医になる 日セミナー	大阪市	2019 年 10 月 19 日

講 演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	Diversity 時代を生きる、 これからのキャリア・プラン	H31 年度第 3 回日本赤十字 病院臨床研修医研修会	東京都	2019 年 12 月 14 日
平松 昌子	急性腹症。まず何を聴く？ 何を診る？	第 5 回高槻赤十字病院 救急隊員勉強会	高槻市	2020 年 1 月 23 日

座長：一般演題（ポスター）

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	一般病院での診療 1	第 73 回日本食道学会	福岡市	2019 年 6 月 6 日

座長：一般ポスター

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	胃癌 症例報告	第 57 回日本癌治療学会	福岡市	2019 年 10 月 26 日

座長：講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子 演者：竹内 利寿	胃がん予防のために - ビロリ除菌の勧め - 胃がんが見つかったら - 早期胃がんの内視鏡治療 -	第 41 回（1）市民医学講座	高槻市	2019 年 9 月 5 日

座長：特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子 演者：齊藤 光江、天野 篤		第 12 回きみが外科医になる 日セミナー	大阪市	2019 年 10 月 19 日

座長：総会特別企画

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	男女共同参画の現状と将来展望 消化器一般外科	第 81 回日本臨床外科学会	高知市	2019 年 11 月 16 日

ワークショップ：特別発言

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	特別発言	第 74 回日本消化器外科学会 総会	東京都	2019 年 7 月 17 日

研修医セッション

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
佐田 昭匡 平松 昌子、小林 稔弘、 恒松 一郎、駕田 修史、 有馬 純、坂根 純奈	出血を契機とし術前診断が可能であった多発性小腸仮性憩室症の 1 例	第 81 回日本臨床外科学会	高知市	2019 年 11 月 15 日

総会特別企画：基調講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
平松 昌子	消化器一般外科における男女共同参画の現状と将来展望	第 81 回日本臨床外科学会	高知市	2019 年 11 月 16 日

Inovative Technologies

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
七戸 俊明 伊達 洋至、平野 聡、 小林 英司、伊澤 祥光、 白川 靖博、平松 昌子	わが国における Cadaver Surgical Training の現状と将来	第 32 回日本内視鏡外科学会	横浜市	2019 年 12 月 6 日

乳腺外科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
坂根 純奈 小林 稔弘、平松 昌子	乳癌脳転移に対する放射線治療後に発症した脳壊死にペバシズマブを使用した一例	第 27 回日本乳癌学会 学術総会	東京	2019 年 7 月 11 日

形成外科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
田辺 敦子	成人臍ヘルニア症例での工夫	第 61 回 KC 会	大阪	2019 年 6 月 1 日
田辺 敦子 金子 至寿佳、櫛田 哲史	ガス壊疽にて判明した重症糖尿病症例の救済の経験	第 11 回日本創傷外科学会	長崎	2019 年 7 月 4 日

市民講座

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
櫛田 哲史	形成外科ってなんですか？	高槻現代劇場	高槻	2020 年 2 月 29 日

皮膚科

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
古川 福実	皮膚科の薬の使い方	箕面市薬剤師会学術研修会	豊能広域 こども急病 センター	2019 年 4 月 4 日
古川 福実	ループスエリテマトーデスとアトピー性皮膚炎のスキンケア	八幡皮膚疾患フォーラム	北九州市	2019 年 4 月 11 日
古川 福実	アトピー性皮膚炎とルパフィン閉会の辞	第 22 回北摂皮膚科医会	大阪市	2019 年 4 月 13 日
古川 福実	皮膚科医がアホにならないための乾癬三都ものがたり	京都皮膚サマーカンファレンス	京都市	2019 年 7 月 24 日
古川 福実	皮膚ループス 最近の話題	第 7 回 Clinical Immunology Conference	名古屋	2019 年 11 月 27 日

国際学会

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
Y. Murakami S. Azuma, K. Baba, M. Taniguchi, Y. Inaba, F. Furukawa	Application of Citrus jabara fruit peels for atopic dermatitis: (1) in vitro anti-inflammatory evaluation	The 24th World Congress of Dermatology - WCD 2019	Milano, MiCo Milano Congressi, Italy	2019 年 6 月 10 日 ～ 15 日
F. Furukawa Y. Murakami, Y. Inaba, S. Azuma, K. Baba, M. Taniguchi	Application of Citrus jabara fruit peels for atopic dermatitis: (2) Clinical evaluation for usefulness and safety	The 24th World Congress of Dermatology - WCD 2019	Milano, MiCo Milano Congressi, Italy	2019 年 6 月 10 日 ～ 15 日
Elman SA Cara Joyce, Kara Braudis, Benjamin F. Chong, Anthony P. Fernandez, Furukawa F, Hasegawa M, Kim HJ, Li SJ, Lian CG, Szepietowski JC, Werth VP, Merola JF	Validation of Classification Criteria for Discoid Lupus Erythematosus (DLE): An Update	The 24th World Congress of Dermatology - WCD 2019	Milano, MiCo Milano Congressi, Italy	2019 年 6 月 10 日 ～ 15 日

国内学会

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
奥野 愛香 古川 福実、神田 由起、 中野 創、金澤 伸雄	新規変異が同定された Hailey-Hailey 病の 1 例	第 22 回北摂皮膚科医会	大阪市	2019 年 4 月 13 日
古川 福実	和歌山医大におけるハンセン病をテーマとした人権教育について	第 92 回日本ハンセン病学会 総会・学術大会	国立療養所 沖縄愛楽園・沖縄愛楽園 交流会館	2019 年 6 月 1 日
奥野 愛香 古川 福実、神田 由起、 中野 創、金澤 伸雄	新規変異を認め、治療にシクロスポリンが奏功した Hailey-Hailey 病の 1 例	第 70 回日本皮膚科学会 中部支部総会	金沢市	2019 年 10 月 5 日 ～ 6 日

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
久保良美 金澤伸雄、神人正寿、三木田直哉、稲葉豊、吉原重美、福田啓伸、古川福実、Carlos Camargo	小児の喘息予防関連因子に関する疫学研究報告	第 56 回日本小児アレルギー学会学術大会	千葉市幕張メッセ国際会議場	2019 年 11 月 2 日 ～ 3 日
久保 良美 金澤 伸雄、神人 正寿、 三木田 直哉、稲葉 豊、 吉原 重美、福田 啓伸、 古川 福実、 Carlos Camargo	共同研究シンポジウム 乳児期の嘔み与えと生活関連因子による革新的アレルギー予防法の疫学研究	第 49 回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会	横浜パシフィコ	2019 年 11 月 29 日 ～ 12 月 1 日

泌尿器科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
松崎 和炯 木下 秀文、大杉 治之、 滝沢 宗忠、谷口 久哲、 矢西 正明、斉藤 亮一、 渡辺 仁人、杉 素彦、 松田 公志、吉田 健志、 高安 健太	前立腺生検における動画説明ツールの有用性検証	第 69 回日本泌尿科中部総会	名古屋	2019 年 11 月 1 日

小児科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
蘆田 温子 片山 博視、小田中 豊、 尾崎 智康、岸 勘太、芦田 明	先天性門脈下大静脈短絡閉鎖術後の残存肺動脈性肺高血圧に対してマシテンタンが有効であった一例	先天性心疾患に伴う肺高血圧治療懇話会	大阪	2019 年 11 月 9 日
中村 道子 白数 明彦、高野 紘子、 穀内 康人、星屋 牧子、 井上 伶、難波 昂宏、 大場 千鶴、野村 昇平、 井上 敬介、柏木 充、 岡空 佳輔、森脇 真一、 石井 文人、玉井 浩	線状 IgA/IgG 水疱性皮膚症の 1 男児例	第 122 回日本小児科学会学術大会	石川	2019 年 4 月 21 日
蘆田 温子 片山 博視、小田中 豊、 尾崎 智康、岸 勘太、 酒谷 優佳、星賀 正明、 大門 篤史、永易 洋子、 藤田 太輔、芦田 明	妊娠を契機に成人先天性心疾患外来へ移行となった 2 症例	第 22 回日本成人先天性心疾患学会	東京	2020 年 1 月 17 日

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
片山 博視 宇津野 秀夫	肺高血圧症の診断 ～侵襲的診断から非侵襲への挑戦～	第 24 回関西大学 KUMP シンポジウム	大阪	2020 年 1 月 24 日

リハビリテーション科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
石塚 威	外傷性橈尺骨癒合症の術後療法難治例について	第 55 回日本赤十字社医学会総会	広島	2019 年 10 月 18 日

救急部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
吉見 宏平 岡本 文雄	肝内胆管癌による肺腫瘍血栓性微血管症の 1 例	第 47 回救急医学会総会 学術集会	東京	2019 年 10 月 2 日
吉見 宏平 岡本 文雄	気管憩室気道緊急を伴う傍気管膿瘍に至った感染性気管憩室の一例	第 47 回救急医学会総会 学術集会	東京	2019 年 10 月 2 日
日比 泰広 濱野 浩一、森野 一真、 高階 謙一郎、岡本 文雄	京都府における鍼灸師・あま指師による災害医療・福祉支援体制鍼灸集団の災害体制と研修事業の一例として	第 25 回日本災害医学会 総会・学術集会	神戸国際 会議場	2020 年 2 月 21 日

臨床工学技士課

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
吉村 忠	ME 新体制と業務紹介	第 10 回日本赤十字社臨床工学技士会近畿ブロック研修会	姫路	2019 年 10 月 27 日
野々村 美紅 金子 至寿佳、依藤 里香、 角屋 麻由、中田 祐二、 伊藤 伶芳	当院での糖尿病への放射線及び高周波デバイスへの対応	第 62 回日本糖尿病学術集会	仙台	2019 年 5 月 23 日～ 5 月 25 日
伊藤 伶芳 金子 至寿佳、依藤 里香、 角屋 麻由、中田 祐二、 野々村 美紅	当院の臨床工学技士による糖尿病デバイス支援の試み	第 62 回日本糖尿病学術集会	仙台	2019 年 5 月 23 日～ 5 月 25 日

薬剤部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
濱武 清範 小西 史子、酒井 ちひろ、 野間 敏也、宮西 将之、 橋本 浩明、松本 弘誠、 中西 輝、仲 忠士、美和 孝之、 小島 一晃、菅 理晴、北 英夫	Minor mutationにおけるEGFRチロシンキナーゼ阻害剤の有効性と安全性	第 55 回 日本赤十字社 医学会総会	広島	2019.10
濱武 清範 小西史子、酒井ちひろ、 野間 敏也、後藤 仁美、 宮西 将之、松本 弘誠、 中西 輝、仲 忠士、 美和 孝之、小島 一晃、 神田 直樹、恒松 一郎	大腸がん治療における左右差の有効性と安全性	第 29 回医療薬学会年会	福岡	2019.11

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
小島 一晃 松永 富美代、山村 裕佳子、 森川 智子、林 愛華、 濱武 清範、野間 敏也、 酒井 ちひろ、松本 弘誠、 中西 輝、小西 史子、 仲 忠士、美和 孝之	院外処方箋の検査値印字で疑義照会はどう変化したか？	第 29 回医療薬学会年会	福岡	2019.11
安田 真理 小西 史子、奥村 有香、 福井 美礼、中西 輝、 松本 弘誠、仲 忠士、 美和 孝之、小島 一晃、 大中 玄彦	非弁膜症性心房細動患者における DOAC の使用動向調査	第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会	神戸	2020.2
小西史子 濱武 清範、山村 裕佳子、 森川 智子、林 愛華、 松本 弘誠、中西 輝、仲 忠士、 美和 孝之、小島 一晃	当院におけるシステム導入前後の調剤インシデント対策の取り組みと効果	第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会	神戸	2020.2
小西 史子 濱武 清範、酒井 ちひろ、 野間 敏也、美和 孝之、 小島 一晃	当院における多発性骨髄腫のレナリドミド併用時の抗血栓療法と深部静脈血栓症のリスク因子の調査	日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2020	WEB	2020.3

要望演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
小島 一晃 濱武 清範、小西 史子、 酒井 ちひろ、野間 敏也、 足立 那々緒、後藤 仁美、 宮西 将之、橋本 浩明、 松本 弘誠、中西 輝、仲 忠士、 美和 孝之、菅 理晴、北 英夫	免疫チェックポイント阻害剤における集約的クリニカルパス運用と薬剤師外来の有用性	第 57 回日本癌治療学会学術集会	福岡	2019.10

特別講演

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
小島 一晃	免疫チェックポイント阻害剤における集約的クリニカルパスと薬剤師外来	第 19 回三島圏域がん研究会	高槻	2019.5.23
小島 一晃	ネットワーク治験事業への取り組み	北摂薬剤師セミナー	千里中央	2019.10.30

検査部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
奥洞 智太 扇田 裕允、平岩 理雅、 恒松 一郎、千葉 渉	血液培養及びカテーテル培養から検出された Candida 属に関する検討	第 55 回日本赤十字社医学会総会	広島	2019 年 10 月 18 日

看護部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
亀井 由美 佐藤 幹子、北村 弥生	一般病棟入院中のがん患者に行うアロマトリートメントの有効性	日本アロマセラピー学会 第 22 回学術総会	福岡	2019 年 11 月 4 日
山田 ルミ 松山 寛子、亀井 由美、 西川 亜紀子、西浦 美香、 金村 誠哲、橋本 典夫	高槻赤十字病院 緩和ケア病棟における遺族会「ふたばの会」16 年のあゆみ	第 24 回日本緩和医療学会 学術大会	横浜	2019 年 6 月 21 日
松山 寛子 西川 亜紀子	緩和ケア病棟での笑いヨガの提供	第 43 回日本死の臨床研究会 年次大会	神戸	2019 年 11 月 4 日

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
篠崎 千浪 角屋 麻由	入退院を繰り返す糖尿病患者の多職種連携支援を振り返る	近畿糖尿病教育フォーラム 第 10 回講演会	京都	2019 年 12 月 7 日

放射線科

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
中村 仁美	2 年目のステップアップ	北大阪画像情報研究会	三島救命 救急セン ター	2019 年 7 月 19 日
原 祥太郎 木戸口 堯史、松原 健夫	放射線がペースメーカーに及ぼす影響	第 28 回日本赤十字社 診療放射線技師会 近畿ブロック研修会	ホテル北 野プラザ 六甲荘	2020 年 2 月 1 日

座 長

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
松原 健夫	会員研究発表Ⅲ	日本赤十字社診療放射線 技師会学術総会	東京国際 フォーラ ム D-5	2019 年 6 月 1 日

検査部

一般演題

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
廣田 眞希 桑田 由起江、藤本 智子、 南 美保子、西岡 美穂、 中村 やすこ、平野 なつみ、 川端 彩加	血液培養及びカテーテル培養から検出された Candida 属に関する検討	第 55 回日本赤十字社 医学会総会	広島	2019 年 10 月 18 日

訪問看護ステーション

シンポジウム

氏 名	演 題	発表場所	開催地	月 日
原田 かおる	「高齢者支援における多職種連携の意義」	第 31 回日本老年看護学会 総会	仙台	2019 年 6 月 6 日

令和元年度 病院年報

発行日 令和3年4月

発行者 **高槻赤十字病院**

院長 古川 福実

〒569-1096

高槻市阿武野一丁目1番1号

☎ (072) 696-0571

編集者 企画情報課

印刷所 株式会社 一心社

